

令和4年度 病院年報



厚生労働省臨床研修指定病院 地域がん診療連携拠点病院
日本医療機能評価機構認定病院 救急告示病院 地域医療支援病院
国際規格 ISO15189 認定 がんゲノム医療連携病院

市立長浜病院

理 念

地域住民の健康を守るため、「人中心の医療」を発展させ、地域完結型の医療を推進します。

基 本 方 針

1. 患者の権利、尊厳を重視した医療を実践します。
2. 地域の医療関係者との連携を深め、地域医療の発展のためにつくします。
3. 高度で良質な医療水準を確保し、安全で信頼される医療を進めます。
4. 快適な療養環境の整備と、質の高いケアに努めます。
5. 医学研究活動を推進し、優れた医療人を育成します。
6. 職員が互いに尊重、協力してチーム医療を実現します。
7. 職員が元気で働きがいのある職場づくりに努めます。

目 次

I	はじめに	1
II	病院の沿革	2
III	病院の概要	
1	施設概要	
(1)	概要	7
(2)	職員状況と組織機構	13
IV	活動状況	
1	主要事業の概要	
(1)	COVID-19 への対応について	15
(2)	国際規格 ISO15189 の認定について	17
(3)	病院機能評価の認定更新について	18
2	各科の活動状況	
	腎臓代謝内科	19
	人工透析センター	20
	神経内科	21
	消化器内科	22
	呼吸器内科	23
	循環器内科	24
	リウマチ膠原病内科	27
	総合診療内科	28
	緩和ケア外来	30
	睡眠時無呼吸症候群外来	30
	小児科	31
	外科	32
	呼吸器外科	33
	整形外科	34
	形成外科	35
	脳神経外科	35
	心臓血管外科	37
	皮膚科	38
	泌尿器科	39
	産婦人科	40
	眼科	41
	耳鼻咽喉科	42
	麻酔科	43
	ICU・CCUセンター	44

放射線科（治療部門）	45
放射線科（診断部門）	46
病理診断科	47
歯科・歯科口腔外科	48
感染制御部	49
救急センター	50
外来化学療法センター	51
ヘルスケア研究センター	52
療養病棟 2 階	54
開放型病棟／開放型病床	54
臨床研修医	55
中央材料室	56
中央手術室	57
薬剤局	58
医療技術局	59
栄養科	60
臨床工学技術科	61
放射線技術科	62
リハビリテーション科／リハビリテーション技術科	64
中央検査技術科	67
歯科・眼科技術室	69
看護局	70
訪問看護ステーション	75
事務局	76
総務課	76
経営企画課	77
医事課	79
患者総合支援センター／地域医療連携室	82
がん対策推進室	84
医療安全管理室	85
3 著書発表記録	88
4 論文発表記録	90
5 学会・研究発表記録	95
6 講習会／研修会への取り組み	
(1) 患者さん・市民を対象にしたもの	113
(2) 医療従事者・地域開業医を対象にした研修	115
7 委員会の状況	117

V 経営状況

令和 4 年度決算状況

(1) 経営収支比較	153
(2) 貸借対照表	154

(3) 経営状況①、②	155
(4) 資本的収入及び支出	156

VI 各種統計資料

1 患者状況

(1) 一般病棟科別入院患者数	157
(2) 療養病棟科別入院患者数	157
(3) 科別外来患者数	158
(4) 入院外来患者数の年次推移（一般病棟）	159
(5) 入院地域別患者数	160
(6) 入院年代別患者数	164
(7) 外来地域別患者数	168
(8) 外来年代別患者数	169
(9) 科別月別入院退院患者数	170
(10) 科別月別入院患者数	171
(11) 科別月別外来患者数	172
(12) 救急患者数	173
(13) 救急車利用状況	173
2 ICU・CCU業務状況	174
3 手術室業務状況	176
4 ヘルスケア研究センター利用状況	177
5 中央材料室業務状況	180
6 薬剤科業務状況	181
7 栄養科業務状況	182
8 放射線科／放射線技術科業務状況	184
9 中央検査技術科業務状況	189
10 リハビリテーション科／リハビリテーション技術科業務状況	191
11 訪問看護ステーション業務状況	192
12 疾病分類別・転帰別退院患者数	193
13 書類取扱件数	194
14 院内がん登録 2022 年症例	195
15 医療機器等購入状況	196
16 死亡者数	197
17 剖検症例	198
18 院内保育所「あすなろ園」利用状況	199

I はじめに

令和 4 年度の歩み

長浜市病院事業管理者・市立長浜病院院長 高 折 恭 一



猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は、全般に軽症化し、現在では5類感染症へと移行されました。令和4年度は、そのような流れの中で、パンデミック最後の年度であったと位置づけられるかもしれません。当院では、新型コロナウイルス感染症患者の診療に多くの医療スタッフを割り当てながら、高度急性期医療・急性期医療にもしっかりと注力してきました。このような難しい移行期に、それぞれの職務に励んでいただいた職員に、まずは心から感謝したいと思います。

長浜市・米原市では、約9割の患者さんが、圏域内で高度急性期医療・急性期医療を受け、地域内で治療を完結されています。このような湖北圏域で唯一となる「地域がん診療連携拠点病院」である市立長浜病院は、最高水準のがん治療を提供することが求められます。近年進歩が著しいがんゲノム医療をしっかりと実施することは、特に重要な課題でした。そこで、がんゲノム医療に必須とされる高品質の臨床検査を行う能力を認証する国際規格 ISO15189 取得のため、関係者が尽力してきました。おかげさまで、令和5年3月3日に、市立長浜病院中央検査室・病理診断科において ISO15189 の認定を得ることができました。これまでも、呼吸器内科、呼吸器外科、脳神経外科、外科、消化器内科、耳鼻咽喉科、泌尿器科などにおいて、遺伝子パネル検査や分子標的療法などを実施してきましたが、さらに充実したがんゲノム医療の体制を整えているところです。

当院では、SCU（脳卒中集中治療室）を滋賀県内で最初に設置しており、24時間体制で専門医による集中治療を行なっています。循環器内科では、心臓血管外科とタッグを組んで、虚血性心疾患・末梢動脈疾患・不整脈に対するカテーテル治療を年間約900例実施しており、滋賀県では最も多くの症例の治療を担当しています。市立長浜病院は、滋賀県における脳卒中・循環器疾患診療において、非常に重要な役割を担っているといえるでしょう。

令和4年度から導入した新しい試みとしてはERASがあります。ERASは、術後回復促進 Enhanced Recovery After Surgery の頭文字を取ったもので、術前術後のリハビリテーションや栄養療法、術中のマネジメントを含めた多くの要素で構成される、多職種が連携するチーム医療を軸とした集学的な周術期管理プログラムで、国際的に普及しつつあります。日本でも多くの病院が、スウェーデンに本部がある ERAS® Society から出版されているガイドラインを参考にしていますが、必ずしもガイドライン通りに周術期管理が行なわれているわけではありませんでした。そこで当院では、わが国で初めて ERAS® Society から直接指導を受け、多職種からなる ERAS® チームを組織し、令和4年10月7日に ERAS® 実装プログラムの第1回セミナーを実施しました。同年12月6日には第2回セミナーを実施し、ERAS® ガイドラインに沿って周術期管理を行う体制が整いました。実際の診療をモニタリングし、そのデータを元にした解析で、さらに周術期管理を改善していく ERAS® Interactive Audit System という監査方法を利用し、Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）というプロセスを繰り返す PDCA サイクルを、当院で回していくことになります。今後、市立長浜病院の ERAS® チームは、エビデンスに基づいたチーム医療をさらに推進し、日本初の Center of Excellence となって積極的に活動していくことを目標としています。

このように、市立長浜病院は、湖北地域、滋賀県、そして日本におけるナンバーワンの病院となることを目指しています。一方で、湖北圏域では地域医療構想に沿った病院再編への動きが進んでいます。病院再編にはいろいろな課題がありますが、ナンバーワンの病院を目指すという志をもって、関係者と協力し、湖北の医療体制をさらに充実させるように努力していきたいと存じます。引き続き、皆さまのご指導とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

II 病院の沿革

沿革

明治 19 年 4 月	(1886) 公立大津病院を県立大津病院に改称され、長浜に出張所が設置される
明治 20 年 8 月	(1887) 北船町（現在の公園町）に県立長浜避病院が設置される
明治 22 年 4 月	(1889) 町立長浜病院が設立（西本町）
明治 26 年 11 月	(1893) 北船町（現在の朝日町）に町立長浜病院を新築移転
明治 30 年 4 月	(1897) 町立長浜病院が私立長浜病院となる
昭和 19 年 5 月	(1944) 私立長浜病院を買収。市立病院として同年 6 月開院 診療科：内科、外科、耳鼻科
昭和 21 年 3 月	(1946) 市立長浜病院東分院設置（東上坂町字小田 976 - 7） 診療科：内科、小児科（医師 3 人、薬剤師 1 人、看護婦 5 人、その他 5 人）
昭和 22 年 7 月	(1947) 市立長浜病院神田診療所設置（加田町字坂村 2356） 診療科：内科、小児科
昭和 33 年 3 月	(1958) 病院移転新築工事着工（八幡東町 631）
昭和 34 年 4 月	(1959) 鉄筋コンクリート 3 階建開院 一般病棟 167 床、結核病棟 39 床、癌治療施設、看護婦寄宿舍完成
昭和 34 年 8 月	(1959) 伝染病棟（15 床）増設
昭和 37 年 11 月	(1962) 一般病棟 50 床増設
昭和 38 年 1 月	(1963) 一般病棟 29 床増設、病床総数 300 床
昭和 41 年 9 月	(1965) 救急病院の告示
昭和 42 年 1 月	(1967) 機能回復訓練室、病床 15 床増設、伝染病棟 15 床を一般病棟へ切り替え
昭和 50 年 7 月	(1975) 結核病棟 39 床を廃止し、一般病棟へ切り替え、病床総数 315 床
昭和 55 年 4 月	(1980) 53 年度から 2 ヶ年計画で病棟（西棟）及び放射線部門を増設。 併せて院内保育園新設、病床総数 365 床
昭和 61 年 4 月	(1986) 58 年度から 3 ヶ年計画で中央棟（開放型病室 32 床含む）の増築 整備をはかり、病床総数 415 床
平成 4 年 6 月	(1992) 病院移転新築基本構想策定
平成 6 年 3 月	(1994) 病院新築工事契約の締結
平成 6 年 5 月	(1994) 移転新築工事起工（長浜市大戌亥町 313）
平成 8 年 5 月 1 日	(1996) 新病院開院（入院患者の移送） 病床総数 520 床（開放型 50 床）、外来診療開始（5 月 7 日） 診療科：20 科（平成 9 年 1 月 1 日 診療科 21 科）
平成 9 年 12 月 5 日	(1997) 財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価受審
平成 10 年 3 月 16 日	(1998) 病院機能評価における認定証の受理 （平成 10 年 2 月 9 日付け一般病床種別 B 認定第 26 号） （認定期間 平成 10 年 2 月 9 日～平成 15 年 2 月 8 日）
平成 11 年 1 月 8 日	(1999) 河野良一名誉院長（昭和 57 年 4 月 1 日就任）が死去
平成 11 年 3 月	(1999) 療養型病床群病棟建設設計予算議決
平成 11 年 4 月	(1999) 企画情報課に療養型病床群病棟開設準備担当設置
平成 11 年 8 月	(1999) 療養型病床群病棟建設設計本部設置
平成 13 年 1 月	(2001) 療養型病床群病棟建設工事請負契約の締結
平成 13 年 1 月	(2001) 療養型病床群病棟建設工事起工

平成 13 年 2 月	(2001) トータルオーダーリングシステム等基本計画策定
平成 13 年 3 月	(2001) 秋山泰高院長（平成 2 年 4 月 1 日就任）が退職
平成 13 年 3 月	(2001) 臨床研修病院の指定を受ける
平成 13 年 4 月	(2001) 琴浦良彦院長就任
平成 13 年 4 月 15 日	(2001) 西川博文副院長（平成 8 年 5 月 1 日就任）が死去
平成 14 年 3 月 1 日	(2002) 療養病棟の開設（156 床増床）
平成 14 年 5 月	(2002) トータルオーダーリングシステム更新
平成 15 年 2 月 6 日	(2003) 全国自治体病院協議会管理者研修実施
平成 15 年 2 月 26 日～28 日	(2003) 財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価受審（ver.4）
平成 15 年 4 月 15 日	(2003) アウグスブルク市長病院視察
平成 16 年 1 月 26 日	(2004) 財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価認定証受理 (認定期間 平成 15 年 2 月 9 日～平成 20 年 2 月 8 日)
平成 16 年 4 月 1 日	(2004) 市立長浜病院組織機構改革
平成 16 年 4 月 1 日	(2004) 湖北地域における小児救急支援事業の開始
平成 16 年 5 月 1 日	(2004) 臨床研修医制度による研修医の受け入れ開始
平成 17 年 1 月 17 日	(2005) 地域がん診療拠点病院の指定を受ける
平成 17 年 12 月	(2005) 長浜市と京都大学大学院医学研究科との間で「長浜市 0 次予防健康づくり推進事業」の計画策定に関する覚書を締結。今後 1 万人規模の疫学調査に積極的に参加協力。
平成 18 年 2 月 6 日	(2006) 人間ドック・健診施設機能評価機構による訪問審査
平成 18 年 2 月 13 日	(2006) 長浜市・浅井町・びわ町 1 市 2 町合併
平成 18 年 3 月 25 日	(2006) 社団法人日本病院会、日本人間ドック学会による人間ドック・健診施設機能評価認定証受理 (認定期間 平成 18 年 3 月 25 日～平成 23 年 8 月 31 日)
平成 18 年 3 月	(2006) 平成 16 年 6 月の創立 60 周年を機に、市立長浜病院創立 60 周年記念誌を発刊
平成 18 年 11 月	(2006) 最新鋭の 64 マルチスライス CT の運用開始
平成 19 年 4 月	(2007) 高精度治療に対応した最新の放射線治療装置（リニアック）の導入に向けたプロジェクトチームを設置
平成 19 年 6 月	(2007) がん相談支援センターの設置
平成 20 年 2 月	(2008) 財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価（Ver.5）の認定更新 (認定期間 平成 20 年 2 月 9 日～平成 25 年 2 月 8 日)
平成 20 年 2 月	(2008) 地域がん診療連携拠点病院認定更新
平成 20 年 3 月	(2008) 琴浦良彦院長（平成 13 年 4 月 1 日就任）が退職
平成 20 年 4 月	(2008) 野田秀樹院長就任
平成 20 年 4 月	(2008) 最新の放射線治療装置（リニアック）の稼働
平成 20 年 4 月	(2008) PACS（画像ファイリングシステム）運用開始
平成 20 年 6 月	(2008) 医薬分業の視点から薬品の院外処方箋を発行
平成 20 年 7 月	(2008) 厚生労働省から DPC 対象病院に指定
平成 21 年 3 月	(2009) 市立長浜病院改革プラン策定
平成 21 年 4 月	(2009) 一般病棟入院基本料看護基準 7 対 1 の施設基準を取得

平成 21 年 4 月	(2009)	長浜病院訪問看護ステーションの設置
平成 22 年 1 月 1 日	(2010)	長浜市・虎姫町・湖北町・高月町・木之本町・余呉町・西浅井町の 1 市 6 町合併
平成 22 年 1 月	(2010)	トータルオーダーリングシステム更新
平成 22 年 4 月	(2010)	地方公営企業法全部適用へ移行
平成 22 年 4 月	(2010)	野田秀樹院長が病院事業管理者に就任（院長兼務）
平成 22 年 4 月 1 日	(2010)	標榜科 22 科（呼吸器外科を新たに届出）
平成 23 年 3 月 31 日	(2011)	療養病棟 2 階介護保険 52 床を廃止で変更届 総病床数（624 床） 一般病棟（520 床） 療養病棟（104 床）うち医療保険 52 床、介護保険 52 床
平成 23 年 4 月	(2011)	社団法人日本病院会 日本人間ドック学会による人間ドック・健診施設機能評価認定更新 認定期間平成 23 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
平成 23 年 7 月 20 日	(2011)	療養病棟 2 階を医療保険適応病床 52 床に変更届
平成 24 年 3 月	(2012)	長浜市病院事業基本計画（中期）及び長浜市病院事業改革プラン【改訂版】を策定
平成 24 年 4 月	(2012)	野田秀樹院長が病院事業管理者を専任及び医療政策監に就任
平成 24 年 4 月	(2012)	多賀俊明院長就任
平成 24 年 4 月	(2012)	経営企画課に診療支援棟建設準備室を設置
平成 24 年 4 月 23 日	(2012)	療養病棟 1 階人工透析室 40 床開設
平成 24 年 5 月 31 日	(2012)	療養病棟 3 階介護保険 52 床を廃止で変更届
平成 24 年 6 月 1 日	(2012)	療養病棟 3 階を医療保険 52 床で届出 総病床数（624 床） 一般病棟（520 床） 療養病棟（104 床）うち医療保険 104 床
平成 24 年 9 月	(2012)	診療支援棟建設設計補正予算議決
平成 24 年 10 月 1 日～3 日	(2012)	財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価受審（Ver.6）
平成 24 年 11 月	(2012)	3.0 テスラ MRI 装置の導入
平成 25 年 1 月	(2013)	トータルオーダーリングシステム等の電子カルテ化
平成 25 年 2 月	(2013)	公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価（Ver.6）の認定更新（認定期間 平成 25 年 2 月 9 日～平成 30 年 2 月 8 日）
平成 25 年 3 月	(2013)	外来化学療法センター開設（移転増床）
平成 25 年 3 月 1 日	(2013)	療養病棟 3 階医療保険 52 床再開
平成 25 年 6 月 1 日	(2013)	回復期リハビリテーション病棟（療養病棟）の運用を開始
平成 25 年 8 月 1 日	(2013)	脳卒中ケアユニット入院医療管理料の運用を開始
平成 26 年 3 月	(2014)	診療支援棟整備工事設計業務完了
平成 26 年 4 月	(2014)	野田秀樹病院事業管理者が再任
平成 26 年 6 月	(2014)	診療支援棟整備工事着工
平成 26 年 10 月 2 日	(2014)	標榜科 23 科（病理診断科を新たに届出）
平成 27 年 1 月 1 日	(2015)	地域包括ケア病棟の運用を開始
平成 27 年 3 月	(2015)	長浜市病院事業改革プラン【改訂版】を策定

平成 27 年 4 月 1 日	(2015)	開設許可病床（一般病棟）8 床削減 総病床数（616 床） 一般病棟（512 床） 療養病棟（104 床）うち医療保険 104 床
平成 27 年 10 月 4 日	(2015)	診療支援棟 竣工式
平成 28 年 3 月	(2016)	多賀俊明院長（平成 24 年 4 月 1 日就任）が退職
平成 28 年 4 月	(2016)	神田雄史院長就任
平成 29 年 3 月	(2017)	長浜市病院事業中期経営計画（新改革プラン）を策定
平成 29 年 4 月 1 日	(2017)	開設許可病床（一般病棟）16 床削減 総病床数（600 床） 一般病棟（496 床） 療養病棟（104 床）うち医療保険 104 床
平成 29 年 4 月	(2017)	患者総合支援センター開設 リウマチセンター開設
平成29年10月26～27日	(2017)	公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価受審（3rdG）
平成 30 年 3 月 27 日	(2018)	地域医療支援病院の承認
平成 30 年 4 月	(2018)	野田秀樹病院事業管理者が再任
平成 30 年 4 月	(2018)	公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価（3rdG） の認定更新（認定期間 2018 年 2 月 9 日～2023 年 2 月 8 日）
平成 31 年 1 月 1 日	(2019)	電子カルテシステム更新
平成 31 年 4 月	(2019)	ヘルスケア研究センター設置
平成 31 年 4 月	(2019)	市立長浜病院組織機構改革
平成 31 年 4 月	(2019)	市立長浜病院大規模改修工事着工
令和 2 年 2 月	(2020)	国土交通省航空局所管 「航空身体検査指定機関」の指定
令和 2 年 4 月	(2020)	開設許可病床（一般病棟）13 床削減 総病床数（587 床） 一般病棟（483 床） 療養病棟（104 床）うち医療保険 104 床
令和 3 年 3 月	(2021)	長浜市病院事業中期経営計画（新改革プラン）一部改定
令和 3 年 3 月	(2021)	神田雄史院長（平成 28 年 4 月 1 日就任）が退職
令和 3 年 4 月	(2021)	高折恭一院長就任
令和 3 年 4 月	(2021)	開設許可病床（一般病棟）21 床削減 総病床数（566 床） 一般病棟（462 床） 療養病棟（104 床）うち医療保険 104 床
令和 3 年 5 月	(2021)	内視鏡センター開設
令和 3 年 7 月	(2021)	市立長浜病院大規模改修工事完了
令和 3 年 10 月	(2021)	開設許可病床（一般病棟）1 床削減 総病床数（565 床） 一般病棟（461 床）

療養病棟（104 床）うち医療保険 104 床

令和 4 年 3 月	(2022) 野田秀樹病院事業管理者が退職
令和 4 年 3 月	(2022) 長浜市病院事業中期経営計画 2022-2025（新改革プラン）を策定
令和 4 年 4 月	(2022) 高折恭一病院事業管理者就任（院長兼務）
令和 4 年 4 月	(2022) 産前産後ケアステーション「にじいろ」開設
令和4年9月20日～21日	(2022) 公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価受審 (3rdG Ver2.0)
令和 4 年 12 月	(2022) 公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価（3rdG Ver2.0） の認定更新（認定機関 2023 年 2 月 9 日～2028 年 2 月 8 日
令和 5 年 3 月	(2023) 国際規格 ISO15189 認定（国際基準にもとづく臨床検査室の運営）
令和 5 年 4 月	(2023) 放射線治療装置（リニアック）更新着手 （クラウドファンディング活用事業） 放射線治療用診察室増築工事着工

Ⅲ 病院の概要

Ⅲ－１ 施設概要

1. 概要

(1) 施設概要

所在地 滋賀県長浜市大戌亥町 313 番地
施設名 市立長浜病院
開設者 長浜市長 浅見宣義
長浜市病院事業管理者 高折恭一
管理者 院長 高折恭一

敷地面積 73,838.23㎡
建物 本館 鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄筋コンクリート造地上 7 階
高さ 37.5 m
延床面積 32,836.9㎡
別館 鉄筋コンクリート造地上 3 階
延床面積 8,212.5㎡
付属棟 保育園、車庫、医療ガス庫、駐輪場、キャノピー
延床面積 1,078.8㎡
診療支援棟 鉄骨造 4 階
延床面積 5,333.6㎡

(2) 外来

診療科（標榜科 23 科）

内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科、病理診断科

診療科（院内標榜）

心療内科、腎臓代謝内科、血液内科、リウマチ・膠原病内科

(3) 病棟（令和 5 年 4 月 1 日現在）

病床数 565 床（一般 461 床、療養 104 床）
病棟 3 階東病棟（29 床） 3 階西病棟（29 床）
3 階南病棟（44 床） ICU CCU（8 床） SCU（6 床）
4 階東病棟（39 床） 4 階西病棟（26 床）
5 階東病棟（51 床） 5 階西病棟（46 床）
6 階東病棟（46 床） 6 階西病棟（46 床）
7 階東病棟（46 床） 7 階西病棟（45 床）
療養 2 階病棟（52 床） 医療保険対応
回復期リハビリテーション病棟（52 床） 医療保険対応

(4) 施設認定等（令和 5 年 8 月現在）

保険医療機関	指定小児慢性特定疾患医療機関
救急告示病院	短期入院協力施設
労災保険指定医療機関	難病診療分野別拠点病院
母体保護法指定医	地域がん診療連携拠点病院
介護保険指定居宅サービス事業者	臨床研修指定病院
生活保護法指定医療機関	地域医療支援病院
身体障害者福祉法指定医配置医療機関	紹介受診重点医療機関
指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療） （整形外科に関する医療、心臓血管外科に関する医療、 腎臓に関する医療）	航空身体検査指定機関
結核指定医療機関	一次脳卒中センター (PSC) 認定施設
母体保護法指定養育医療機関	一次脳卒中センター (PSC) コア認定施設
原子爆弾被爆者一般疾病指定医療機関	滋賀県肝疾患専門医療機関
戦傷病者医療指定医療機関	滋賀県原子力災害医療協力機関
難病医療費助成指定医療機関	

(5) 認定施設基準一覧（令和 5 年 11 月現在）

○基本診療料

初診・再診料

地域歯科診療支援病院歯科初診料

歯科外来診療環境体制加算 2

歯科診療特別対応連携加算

入院基本料等

一般病棟 7:1 入院基本料

療養病棟入院基本料 1

入院基本料加算

救急医療管理加算

超急性期脳卒中加算

診療録管理体制加算 1

医師事務作業補助体制加算 2

急性期看護補助体制加算

看護職員夜間配置加算

療養環境加算

重症者等療養環境特別加算

療養病棟療養環境加算 1

無菌治療室管理加算 2

栄養サポートチーム加算

医療安全対策加算 1

医療安全対策地域連携加算 1

感染対策向上加算 1

患者サポート体制充実加算

褥瘡ハイリスク患者ケア加算

呼吸ケアチーム加算

術後疼痛管理チーム加算

後発医薬品使用体制加算 1

病棟薬剤業務実施加算 1・2

データ提出加算 2

入退院支援加算 1・2 及び総合機能評価加算

認知症ケア加算 2
せん妄ハイリスク患者ケア加算
排尿自立支援加算
地域医療体制確保加算
地域歯科診療支援病院入院加算

特定入院料

特定集中治療室管理料 3
特定集中治療室管理料 3 の「注 4」に掲げる早期離床・リハビリテーション加算
特定集中治療室管理料の「注 5」に掲げる早期栄養介入管理加算
脳卒中ケアユニット入院医療管理料
小児入院医療管理料 5
回復期リハビリテーション病棟入院料 3
地域包括ケア病棟入院料 2
看護職員処遇改善評価料 61

○特掲診療料

外来栄養食事指導料
遠隔モニタリング加算
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料イ・ロ・ハ・ニ
糖尿病透析予防指導管理料
乳腺炎重症化予防・ケア指導料
婦人科特定疾患治療管理料
二次性骨折予防継続管理料 1・2・3
下肢創傷処置管理料
院内トリアージ実施料
救急搬送看護体制加算
外来放射線照射診療料
外来腫瘍化学療法診療料 1
連携充実加算（外来腫瘍化学療法診療料）
ニコチン依存症管理料
相談支援加算（療養・就労両立支援指導料）
開放型病院共同指導料
がん治療連携計画策定料
外来排尿自立指導料
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
検査・画像情報提供加算
医療機器安全管理料 1
医療機器安全管理料 2
歯科疾患管理料の注 1 に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
在宅患者訪問看護・指導料
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
持続血糖測定器加算（連動する）（連動しない）
皮下連続式グルコース測定
遺伝学的検査
BRCA1/2 遺伝子検査
HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
検体検査管理加算（Ⅳ）

国際標準検査管理加算
遺伝カウンセリング加算
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
時間内歩行試験
ヘッドアップティルト試験
長期継続頭蓋内脳波検査
神経学的検査
ロービジョン検査判断料
小児食物アレルギー負荷検査
内服・点滴誘発試験
センチネルリンパ節生検（片側）
画像診断管理加算 2
C T 撮影及びMR I 撮影
冠動脈C T 撮影加算
心臓MR I 撮影加算
乳房MR I 撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算 1
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料（I）
脳血管疾患等リハビリテーション料（I）
運動器リハビリテーション料（I）
呼吸器リハビリテーション料（I）
がん患者リハビリテーション料
歯科口腔リハビリテーション料 2
静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）
エタノールの局所注入（甲状腺）
エタノールの局所注入（副甲状腺）
人工腎臓
導入期加算 2
腎代替療法実績加算
下肢末梢動脈疾患指導管理加算
有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算
組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）
緊急整復固定加算及び緊急挿入加算
脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
癒着性脊髄くも膜炎手術（脊髄くも膜剥離操作を行うもの）
緑内障手術（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
上顎骨形成術、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。）
乳腺悪性腫瘍手術（乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及び乳がんセンチネルリンパ節加算 2 を算定する場合に限る）
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）
食道縫合術、内視鏡下胃十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術、小腸瘻閉鎖術、結腸瘻閉鎖術、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術、尿管腸瘻閉鎖術、膀胱腸瘻閉鎖術、腔腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）

胸腔鏡下弁形成術
 胸腔鏡下弁置換術
 不整脈手術（左心耳閉鎖術（胸腔鏡下によるもの）に限る。）
 経皮的の中隔心筋焼灼術
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）
 植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極抜去術
 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
 大動脈バルーンパンピング法（IABP 法）
 経皮的の下肢動脈形成術
 腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）
 体外衝撃波胆石破碎術
 腹腔鏡下肝切除術
 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
 内視鏡的小腸ポリープ切除術
 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 16 に掲げる手術
 胃瘻造設術（内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）
 輸血管管理料Ⅰ
 輸血適正使用加算
 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
 歯周組織再生誘導手術
 手術時歯根面レーザー応用加算
 レーザー機器加算
 麻酔管理料（Ⅰ）
 放射線治療専任加算
 外来放射線治療加算
 高エネルギー放射線治療
 1 回線量増加加算（乳房）（前立腺）
 強度変調放射線治療（IMRT）
 画像誘導放射線治療加算（IGRT）
 体外照射呼吸性移動対策加算
 定位放射線治療
 定位放射線治療呼吸移動対策加算
 病理診断管理加算 1
 悪性腫瘍病理組織標本加算
 クラウン・ブリッジ維持管理料
 歯科矯正診断料

○入院時食事療養等の基準

入院時食事療養Ⅰ
 特別の療養環境の提供
 病院（200 床以上）の初診・再診
 入院期間が 180 日を超える入院

(6) 学会等の教育病院指定一覧 令和 5 年 4 月現在

施 設 名	施 設 名
日本内科学会認定医制度教育病院	日本脳神経外科学会専門医連携施設
日本血液学会認定専門研修教育施設	日本脳卒中学会専門医認定制度認定研修教育病院
日本老年医学会認定施設	日本脳卒中学会一次脳卒中センター
日本高血圧学会専門医認定施設	心臓血管外科専門医認定機構認定基幹施設
日本リウマチ学会教育施設	胸部ステントグラフト実施施設
日本糖尿病学会教育関連施設	腹部ステントグラフト実施施設
日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ	血管内治療実施施設
日本腎臓学会研修施設	下肢静脈瘤血管内焼灼術実施基準実施施設
日本腎臓学会認定教育施設	日本整形外科学会専門医研修施設
日本腎代替療法医療専門職推進協会腎代替療法専門指導士	日本皮膚科学会認定専門医研修施設(京都大学医学部附属病院)
日本透析医学会教育関連施設(滋賀医科大学医学部附属病院)	日本泌尿器科学会専門医教育施設(拠点)
透折バスキュラーアクセスインターベンション治療医学会教育研修施設	日本周産期・新生児医学会暫定研修施設(母体・胎児・補完認定施設)
日本呼吸器学会認定施設	日本周産期・新生児医学会暫定研修施設(新生児・補完施設)
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設	日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本呼吸器外科学会専門医制度認定施設	日本眼科学会専門医制度研修施設
日本呼吸器外科学会指導医制度認定施設	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
呼吸器外科専門医合同委員会専門研修連携施設(京都大学医学部附属病院)	日本口腔外科学会専門医制度認定准研修施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設	日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本消化器内視鏡学会指導施設	日本放射線腫瘍学会認定施設
日本消化器外科学会専門医修練施設	日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関(全部門)
日本胆道学会指導施設	画像診断管理認証施設
日本膵臓学会認定指導施設	日本病理学会研修認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設	日本臨床細胞学会施設認定
日本内分泌学会認定教育施設	精度保証施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設	精度認定施設(心臓領域：A評価、血管領域：A評価)
日本外科学会専門医制度修練施設(指定)	人間ドック健診専門医
日本臨床腫瘍学会特別連携施設	人間ドック健診専門医研修施設
日本乳癌学会関連施設(京都大学医学部附属病院)	日本緩和医療学会認定研修施設
マンモグラフィ検診施設・画像認定	地域包括医療・ケア認定施設
がん医療ネットワーク・シニアセンター認定見学施設	NST(栄養サポートチーム)稼働施設認定
日本がん治療認定医機構認定研修施設	がん診療連携拠点病院指定
日本肝臓学会特別連携施設(滋賀医科大学医学部附属病院)	
下肢静脈瘤に対する血管内治療実施基準による実施施設	

(7) 病院配置図

本館	病棟	7 F	手術室	
	病棟	6 F		
	病棟	5 F		
	病棟	4 F		
	病棟	病棟	3 F	
外来 中央検査科	看護局・診療情報管理室他 看護学生室・総務課 経営企画課	2 F	中央材料室 機器センター	電気室
外来 放射線科 リハビリテーション科 内視鏡センター	栄養科・医事課 患者総合支援センター	1 F	薬剤科	コンビニ
別館	病棟	3 F		
	病棟	2 F		
		ヘルスケア研究センター 人工透析センター	1 F	がん対策推進室 医療安全管理室
支援棟	3 F 手術室、ICU・CCU		血管撮影室	
	2 F		医局・当直室	
	1 F 救急センター		放射線科	

2. 職員状況と組織機構

(1) 職員状況

(単位：人)

	令和2年4月 (2.4.1 現在)	令和3年4月 (3.4.1 現在)	令和4年4月 (4.4.1 現在)
医 師	95	98	102
歯 科 医 師	4	4	3
薬 剤 師	17	18	19
看 護 師	493	505	517
看 護 助 手	44	44	40
助 産 師	17	10	10
栄 養 士	10	11	10
放 射 線 技 師	24	24	24
検 査 技 師	28	29	30
臨床工学技士	11	12	13
理 学 療 法 士	27	27	29
作 業 療 法 士	12	12	12
視 能 訓 練 士	4	4	4
歯 科 衛 生 士	5	5	4
歯 科 技 工 士	1	1	1
言 語 聴 覚 士	5	5	5
事 務 職	63	59	60
介 護 士	24	23	22
そ の 他	127	129	157
合 計	1,011	1,020	1,062

令和4年4月1日現在



IV 活動状況

IV－1 主要事業の概要

1. COVID-19 への対応について

以下は、令和4年度のCOVID-19への対応に関する主な記事です。

COVID-19 陽性患者に対応する病床は、滋賀県から確保要請のあった26床まで増床し、延患者数3,920名（退院患者含む）に対応しました。

【経過】

4月

- ・「新型コロナウイルス院内感染防止対策」について、職員へ改めて周知。(8日)
- ・3月末から院内においてクラスターが発生。
- ・COVID-19 既感染患者の検査の考え方について議論。現時点でのエビデンスや他国での対応状況を参考に、当院での対応方針を検討。
- ・COVID-19 病棟から急性期病棟への転棟について、当院として一定の基準を作成。
- ・一般病棟対応時の个人防护具使用基準を強化（N95マスクの積極的な使用）。(26日)
- ・HER-SYS への発生届入力を開始。

5月

- ・4回目ワクチン接種事業に関する協議を開始。
- ・院内においてクラスターが発生。

6月

- ・エアロゾル発生手技における感染対策について、当院の方針を検討。手術室でのエアロゾル発生手技に対する対応を強化。
- ・入院患者への面会制限について協議を開始。

7月

- ・滋賀県の要請に応じ、患者受け入れ病床を7月1日以降26床から20床へ減床。
- ・入院患者への面会制限について、予約制による面会を開始するなど一部緩和。(1日)
- ・家族が「濃厚接触者」「濃厚接触者の疑い」になった場合の対応について、職員へ再周知。(15日)
- ・緊急フェーズへの移行に伴い、滋賀県の要請に応じ、患者受け入れ病床を7月22日以降20床から26床へ増床。

8月

- ・新型コロナウイルス感染症罹患後の職場復帰時の産業医、産業カウンセラーによる面談について変更を協議。

9月

- ・新型コロナウイルス感染症罹患後の職場復帰時の産業医、産業カウンセラーによる面談を希望者のみに変更。(1日)
- ・院内においてクラスターが発生。
- ・新型コロナウイルス発症者の療養期間短縮に伴い、院内運用を変更。

- ・「With コロナの新たな段階への移行に向けた全数届出の見直し」に準じ、COVID-19 陽性者の届出等の運用を変更。

10 月

- ・滋賀県の要請に応じ、患者受け入れ病床を 10 月 1 日以降 26 床から 20 床へ減床。
- ・一般患者対応時及び濃厚接触者対応時の个人防护具使用基準を一部緩和。(5 日)

11 月

- ・滋賀県の要請に応じ、患者受け入れ病床を 11 月 1 日以降 20 床から 18 床へ減床。
- ・年末年始の地域外来・検査センターの運用について検討を開始。

12 月

- ・「新型コロナウイルス院内感染防止対策」について、職員へ改めて周知。(1 日)
- ・滋賀県の要請に応じ、患者受け入れ病床を 12 月 5 日以降 18 床から 26 床へ増床。
- ・新型コロナウイルス陽性となった職員の療養期間の短縮について協議を開始
- ・「新型コロナウイルス陽性となった職員の療養期間について（8 日目復帰について）」の周知文発行。(20 日)
- ・年末年始の新型コロナウイルス感染症・職員対応について周知文発行。(27 日)

1 月

- ・濃厚接触者のまま退院される患者への説明文の作成・配布。(30 日)
- ・新型コロナウイルス陽性となった職員の復帰後感染対策について協議を開始。

2 月

- ・新型コロナウイルス感染症陽性 8 日目復帰者用 N95 マスクの使用について周知文発行。(6 日)

3 月

- ・滋賀県の要請に応じ、患者受け入れ病床を 3 月 1 日以降 26 床から 20 床へ減床。
- ・新型コロナウイルス感染症対策の緩和について協議を開始。
- ・「新型コロナウイルス感染症対策の見直しについて（その 1）」発行。(16 日)
職員の健康管理に関すること。个人防护具の使用基準について。
- ・「新型コロナウイルス感染症対策の見直しについて（その 2）」発行。(29 日)
関係事業者の健康管理に関すること。
- ・滋賀県の方針変更に基づき、「新型コロナウイルス感染症陽性と診断された方へ～療養・支援のご案内～」を変更。
自宅療養中の滋賀県相談窓口の変更に伴うもの。

2. ISO15189 の取得

中央検査技術科・病理診断科は2023年3月3日に国際規格ISO15189認定を取得しました。このISO15189は臨床検査室に特化した（公財）日本適合性認定協会（JAB）による認定で、生化学的検査、血液学的検査、一般検査、微生物学的検査、病理学的検査、生理学的検査など技術能力を証明する手段の一つです。日々、品質マネジメントシステム（QMS）活動を実施し、毎年JABによるサーベイランスを受審することにより、QMS活動の維持を確認し続ける認定です。

2019年秋に新川前技師長からの提案で、検査室の質の向上と臨床検査の信頼性の確保を目的に、認定取得に向けた取組みが始まりました。まずISO15189とは何か？の職員教育から始め、科内一致団結してQMS活動に必要な約250の標準作業手順書及び機器・設備などの操作手順書、約200の記録やリスト、それらを体系づける品質マニュアルなどの上位文書や記録様式を作成し運用しています。また施設や作業環境についても整備を行い更新も進めています。

当初は2021年度中の認定取得を目指していましたが、しかし2020年初めからの新型コロナウイルス蔓延により、当科でも新たに新型コロナウイルス検査を開始し院内外からの依頼へ対応、また職員や家族の感染による業務逼迫も加わり、認定申請が1年遅れることになってしまいました。今回は2012年版規格での認定ですが、2023年に改訂される2022年版規格への対応が課題です。

これからもISO15189を活用し課題もクリアしながら、より正確な臨床検査結果の提供に努めてまいります。



Medical LAB
RML02980



3. 病院機能評価の認定更新 (機能種別版評価項目 3rdG : Ver2.0)

令和4年12月2日付けで、公益財団法人 日本医療機能評価機構から病院機能評価（機能種別版評価項目 3rd G : Ver.2.0）の認定証（更新）の交付を受けました。

■病院機能評価

病院機能評価は、(財)日本医療機能評価機構が実施している医療機関を対象とした第三者評価のことで、『患者中心の医療の推進（第1領域）』、『良質な医療の実践1・2（第2、3領域）』、『理念達成に向けた組織運営（第4領域）』で構成され、医療機関の質を高めるために必要な病院機能の「現況調査」、自己評価調査による「書面審査」及びサーベイヤ（評価調査者）が第三者の立場で、それぞれの専門的見地から各領域を評価する2日間の「訪問審査」により詳細な審査が行われました。

各評価項目が認定基準に達していると判断された場合は、認定され、病院機能評価認定証を受けることができます。

■当院の認定

当院は、平成10年に県内で初めて認定を受けて以来、5年毎に認定更新審査を受けてきました。

今回は、主機能（一般病院2）と副機能（慢性期病院・リハビリテーション病院）における病院機能評価（機能種別版評価項目 3rd G : Ver.2.0）を受審し、認定されました。

認定期間は、令和5年（2023年）2月9日から令和10年（2028年）2月8日までの5年間です。

1 訪問審査までの主な経過

- | | |
|----------------|--------------------------|
| ・令和3年 9月29日 | 病院機能評価受審準備会発足 |
| ・令和3年11月19日 | 病院医療機能評価受審フォーラム受講（Web研修） |
| ・令和3年11月24日 | 第1回病院機能評価受審準備会開催 |
| ・令和4年 2月 3日 | 病院機能評価オンライン受審相談会参加 |
| ・令和4年 6月 1日 | 第2回病院機能評価受審準備会開催 |
| ・令和4年 7月11日 | 病棟概要確認模擬サーベイ実施 |
| ・令和4年 8月 2日 | ケアプロセス調査模擬サーベイ実施 |
| ・令和4年 8月 9日 | ケアプロセス調査模擬サーベイ実施 |
| ・令和4年 8月29日 | 第3回病院機能評価受審準備会開催 |
| ・令和4年 9月20・21日 | 病院機能評価 訪問審査 |
| ・令和4年12月 | 病院機能評価 認定更新 |

2 訪問審査

- | | |
|---------------|--|
| 1日目：令和4年9月20日 | 病院概要説明、書類確認、面接調査、病棟概要確認、
ケアプロセス調査、外来訪問、部署訪問 |
| 2日目：令和4年9月21日 | 部署訪問、講評および意見交換 |

IV－2 各科の活動状況

腎臓代謝内科

勤務医師

森田 善方	責任部長 兼 診療局長補佐	日本内科学会（認定内科医・総合内科専門医・指導医） 日本透析医学会（透析専門医） 日本糖尿病学会（糖尿病専門医・指導医） 日本腎臓学会（腎臓専門医・指導医） 日本医師会認定産業医 内分泌代謝・糖尿病内科領域 専門研修指導医 腎代替療法専門指導士
潮 正輝	部長	日本内科学会（認定内科医） 日本糖尿病学会（糖尿病専門医） 内分泌代謝・糖尿病内科領域 専門研修指導医
上田 久巳	部長	日本内科学会（認定内科医・総合内科専門医・指導医） 日本腎臓学会（腎臓専門医） 日本透析医学会（透析専門医） 日本循環器学会（循環器専門医） 日本透析医学会（透析専門医・VA 血管内治療認定医） 透析バスキュラーアクセスインターベンション治療医学会（VAIVT 認定専門医、VAIVT 血管内治療医）
島本 綾子	部長	日本内科学会（認定内科医） 日本腎臓学会（腎臓専門医）
杉本 陽		
丹波 佑斗		
中山 秀樹		

今年度のトピックス

腎臓代謝内科は腎臓内科と糖尿病内科、内分泌内科の複数の分野を 1 つの科で担当しています。腎臓内科の視点、糖尿病診療の視点を併せ持つことで深く広く患者さんの治療をすすめる事ができます。

腎臓内科としては透析を防ぐ事が最も大切な目的の一つです。

慢性腎炎に対しては経皮的腎生検により腎疾患を診断し、きめ細やかな治療をすすめてまいります。特に軽度の尿潜血しか症状が無い IgA 腎症は最も患者数が多い腎炎であるとともに、経皮的腎生検を行えば診断が容易、かつ日本の標準治療たる扁桃摘出術 + ステロイド治療 1 年間で多くが完全寛解に至る疾患です。軽度の尿潜血でも迷われることなくぜひともご紹介いただくと幸いです。IgA 腎症を診断、そして治療して完全寛解に導くことが透析導入を適切に減らす最適解の一つだと思います。

腎硬化症・糖尿病性腎症など慢性腎臓病（CKD）に対しては慢性腎不全教育入院、地域かかりつけ医との CKD パスによる連携診療ができます。腎臓専門医として腎障害の悪化を食い止めることに尽力するためには慢性腎不全教育入院がお役に立てます。そして身近で診療していただくかかりつけ医、専門的な診療を行う我々がパスで並診することで患者さんにより優しい CKD 診療を提供できると信じています。

末期腎不全に至る事が避けがたい患者様には透析室ナースによる腎代替療法選択外来を行うことで透析医療そして移植医療を詳しく知っていただけます。超高齢化社会を迎えるにあたって透析を導入することなく天寿を全うしたい患者様にも、本当にその方針で良いのかを何度も確認・話し合いをした上で尿毒症に対する緩和的治療を提供する事も我々の役割です。

糖尿病診療においては目の前の患者様の合併症（神経障害、網膜症→失明のリスク、腎症→透析の最大リスク）を予防する治療を提供することが最大の使命です。食事・運動療法など治療の根幹となる生活習慣の是正をはじめとして各種の薬剤治療も適切に進めます。FreeStyle リブレなど最新の血糖評価デバイスも診療に活かして、満足度の高い治療を提供したいと思います。1型糖尿病に対するインスリンポンプも多くの使用経験を有しており、患者様にも満足度の高い治療を目指します。

当科のみで対応できない事でも病院内の頼もしい仲間に相談することで必ず診療を前に進めます。お困り事があれば何でもご紹介ください。

カンファレンス

診療カンファレンス：毎週木曜日

透析カンファレンス：毎週水曜日



人工透析センター

勤務医師

森田 善方 センター長
兼 診療局長補佐

日本内科学会（認定内科医・総合内科専門医・指導医）
日本透析医学会（透析専門医）
日本糖尿病学会（糖尿病専門医・指導医）
日本腎臓学会（腎臓専門医・指導医）
日本医師会認定産業医
内分泌代謝・糖尿病内科領域 専門研修指導医
腎代替療法専門指導士

末期腎不全に対して血液透析、腹膜透析など腎代替療法を適切に提供する事を目指しています。

末期腎不全に至る事が避けがたい患者様には透析室ナースによる腎代替療法選択外来を行うことで透析医療そして移植医療を詳しく知っていただけます。

質の高い透析療法を目指して医師をはじめ看護師、臨床工学技士、医療事務などスタッフ一同、誠心誠意とりくんでまいります。



神経内科

勤務医師

小川 雅文 責任部長 平成25年4月～ 日本内科学会認定医
日本神経学会神経内科専門医

非常勤（外来のみ担当）

澤村 正典、戸嶋 麻耶、上田 潤、三橋 賢大、寺田 祐太、平藤 哲也

今年度のトピックス

昨年度に続きコロナ感染症に大きく影響された一年だった。

体制は特にかかわらず常勤1名に非常勤6名で平日の外来診療を担当し常勤医にて病棟、救急外来のSCU対応の一部を担当した。他に認知症ケアチームの一員として入院患者のせん妄等の対策にあたった。対象疾患は神経内科疾患全般にわたり、脳血管障害は脳梗塞の一部を担当しほかに認知症、てんかん性疾患、頭痛、パーキンソン病といった比較的頻度の高いものから多発性硬化症、慢性炎症性脱髄性多発根神経炎、多系統萎縮症といった頻度の低い疾患、さらにはミトコンドリア病やプリオン病などさらに希な疾患にまで多岐にわたっている。

常勤1名のため十分な診療は提供できないが可能な範囲で対応している。今後も同様の形態が継続すると思われる。



消化器内科

勤務医師

高橋 憲一郎	責任部長	令和4年5月～	日本内科学会（総合内科専門医） 日本消化器病学会（専門医・指導医） 日本消化器内視鏡学会（専門医） 日本肝臓学会（専門医）
今枝 広丞	内視鏡センター責任部長	平成30年10月～	
野田 恵加	部長	平成18年4月～	日本内科学会（総合内科専門医） 日本消化器病学会（専門医） 日本消化器内視鏡学会（専門医） 日本医師会認定産業医
平山 尚史	部長	令和4年4月～	日本内科学会（認定内科医） 日本消化器病学会（専門医） 日本消化器内視鏡学会（専門医）
茶谷 元晴		令和4年10月～	日本内科学会（認定内科医） 日本消化器病学会（専門医） 日本消化器内視鏡学会（専門医） 日本肝臓学会（専門医） 日本化学療法学会（抗菌化学療法認定医）
大脇 悠司		令和2年4月～	日本内科学会（内科専門医）
酒井 奎太郎		令和2年4月～	日本内科学会（内科専門医）
斉藤 聖弘		令和4年4月～	

非常勤医師（外来、内視鏡）

安藤 朗、村上 善基、富樫 弘一、西田 淳史、内海 貴裕、藤本 剛英、益田 朋典

今年度のトピックス

8名の常勤医体制で外来や救急および入院での消化器疾患診療を行っている。2021年9月には消化器内視鏡センターが更新され、通常の上下部消化管内視鏡検査や胆膵内視鏡のみならず、超音波内視鏡、小腸内視鏡などあらゆる内視鏡検査・治療に対応している。チーム医療を推進し、カンファレンスを通じて科内で情報を共有し、全ての患者さんに等しく最良の医療を提供できるよう努めている。また、外科や放射線科など他科とも連携し、湖北地域の消化器疾患の患者さんの要望に的確に対応し、患者さん中心の質の高い医療を目標として日々の診療に当たっている。貴重な症例については積極的に学会発表を行うようにしている。

診療実績

入院主病名	2022年 (1月～12月)	2021年 (1月～12月)
胃がん	87	133
大腸がん	66	81
膵臓がん	72	72
胆管・胆のうがん	40	46
肝がん	42	41
食道がん	29	15

※2021年1月～2022年12月の期間で、がんによる入院の件数を集計しています。

内視鏡検査及び治療	2022年 (1月～12月)	2021年 (1月～12月)	2020年 (1月～12月)
上部内視鏡検査	4,796	4,036	3,214
下部内視鏡検査	1,775	1,588	1,283
大腸内視鏡治療（EMR、ESD など）	328	316	222
膵胆道系検査 / 治療	335	216	227
上部内視鏡治療 (EMR、ESD、EVL、PEG 造設など)	155	207	130
小腸内視鏡検査	41	21	22

※2020年1月～2022年12月の期間に行われた検査及び治療件数で、入院・外来を含みます。

カンファレンス等

Cancer Board 1 回 / 週
 消化器内科・外科合同症例検討会 1 回 / 週
 消化器内科 症例検討会 1 回 / 週
 消化器内科 内視鏡症例検討会 1 回 / 2 週
 消化器内科 抄読会 1 回 / 2 週
 消化器内科 内視鏡カンファレンス 1 回 / 2 週



呼吸器内科

勤務医師

野口 哲男	責任部長	平成9年4月～	日本内科学会指導医・総合内科専門医 日本呼吸器学会指導医・専門医 日本人間ドック学会指導医・専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本医師会認定産業医
高木 順平	部長	平成22年4月～	日本内科学会認定医、日本呼吸器学会専門医 日本人間ドック学会専門医
中川 雅登	部長	平成25年4月～	日本内科学会認定医、日本呼吸器学会専門医
上林 憲司		平成25年4月～	

今年度のトピックス

呼吸器内科は、肺がんをはじめ、間質性肺炎、COPD、喘息、肺炎、非結核性抗酸菌症、気胸、胸水など、湖北地方唯一の呼吸器内科としてさまざまな呼吸器疾患を診療しています。

一般内科の先生方にも肺炎の治療など助けていただいております、大変感謝しています。

新型コロナウイルス感染の入院診療も呼吸器内科・呼吸器外科メインで行っており、一時は相当疲弊しましたが、何とか波が落ち着き、令和5年5月からは2類感染症から5類感染症に変更となり、数ある感染症の1つという位置づけになります。

変更になったからといって病原性が変わるわけではないので、今後とも流行状況に応じた診療体制の変更は機動的にしていく必要があると思います。

諸先生方には、今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

カンファレンス等

毎週水曜日に呼吸器内科・呼吸器外科・放射線治療科合同カンファレンス実施

循環器内科

勤務医師

高島 弘行 責任部長 兼 副院長

日本内科学会認定内科医・指導医

日本循環器学会認定専門医

日本心血管インターベンション治療学会

代議員・指導医・認定医

浅大腿動脈動脈ステントグラフト実施医

植込み型除細動器（ICD）・ペーシングによる心不全治療（CRT）研修修了証取得

着用型自動除細動器（WCD）処方医

リードレスペースメーカー植込み医

臨床研修医指導者講習会受講済み

臨床研修プログラム責任者講習会受講済み

浅大腿動脈動脈ステントグラフト実施医

日本内科学会総合内科専門医・認定内科医

日本循環器学会認定専門医

日本心血管インターベンション治療学会認定医

浅大腿動脈動脈ステントグラフト実施医

植込み型除細動器（ICD）・ペーシングによる心不全治療（CRT）研修修了証取得

着用型自動除細動器（WCD）処方医

リードレスペースメーカー植込み医

ICD 制度協議会認定インフェクションコントロールドクター

日本医師会認定産業医

國友 健生 部長

山科 聡 部長

児玉 浩志	部 長	日本内科学会総合内科専門医・認定内科医 日本循環器学会認定専門医 日本心血管インターベンション治療学会認定医 浅大腿動脈動脈ステントグラフト実施医
小林 勇介	部 長	日本内科学会認定内科医 日本循環器学会認定専門医 日本心血管インターベンション治療学会認定医 浅大腿動脈動脈ステントグラフト実施医
東谷 典史	部 長	日本内科学会認定内科医 日本循環器学会認定専門医
綿貫 正人	非常勤医師 (アブレーション外来・治療)	日本内科学会総合内科専門医・認定内科医 日本循環器学会認定専門医 日本不整脈心電学会評議員・不整脈専門医 植込み型除細動器 (ICD)・ペーシングによる心不全 治療 (CRT) 研修修了証取得 着用型自動除細動器 (WCD) 処方医
小澤 友哉	非常勤医師 (ICD・CRT 外来・治療) 滋賀医科大学循環器内科 講師	日本医師会認定産業医 日本内科学会認定内科医・指導医 日本循環器学会専門医 日本不整脈心電学会評議員・不整脈専門医 植込み型除細動器 (ICD)・ペーシングによる心不全 治療 (CRT) 研修修了証取得 着用型自動除細動器 (WCD) 処方医 小児慢性特定疾病指定医
野里 佳孝	非常勤医師 (ペースメーカー外来)	日本内科学会認定内科医 日本循環器学会専門医

活動状況・実績

循環器内科は、湖北唯一の心臓血管外科をパートナーとして、この地域で最高水準の循環器医療を提供できる様にと少しずつ体制を整え、実績を積んで参りました。従来からの心血管疾患のカテーテル治療や不整脈についてのアブレーション治療に続き、難治性心室細動に対する植え込み型除細動器治療 (ICD)、重症心不全に対する両室ペースメーカーによる心臓再同期療法 (CRT) も開始して、高水準の総合循環器内科へ生まれ変わっています。

心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患に対するカテーテル治療なら当院にお任せ下さい。近年、冠動脈に対する PCI は年間 500 例前後と近畿圏でも有数の症例数を誇っています。他院では治療が困難とされる複雑病変へのカテーテル治療経験も豊富です。日常から血栓性病変に対応するエキシマレーザーや、超高度石灰化病変に対応するダイヤモンドバック、ロータブレードといった、施設基準の必要な強力な専用デバイスを駆使して PCI を行っており、既に全国区の症例数を積み重ねています。

下肢動脈や鎖骨下動脈、腎動脈などの末梢動脈血管の狭窄や閉塞を起こす閉塞性動脈硬化症についてのカテーテル手術 (EVT) も年々増加して年間 200 例とこちらも全国区の症例数となっています。最近の特徴としては、特に腸骨動脈や浅大腿動脈の長区域完全閉塞病変や、下肢の壊

疽に陥って激しい疼痛や冷感を訴える重症例が急増しています。末梢の血管性状が悪く、バイパス手術不能例も多いです。下肢を切断すると癌より予後は悪いことは知られていますが、そもそも下肢の血流が良くないと創傷の治癒は得られません。このような難治症例の患者様は超高齢、フレイルであることも多いのですが、整形外科や形成外科とタイアップしながら極力救肢出来るように積極的な EVT による介入を行っています。

不整脈についてはこの分野で黎明期から活躍されている綿貫正人医師を迎えて 2019 年からカテーテルアブレーションを開始、年間 160 例の手術実績を積んでいます。難治性の心不全を伴った慢性心房細動も多く含まれていますが術後経過も良好です。最初は動悸を訴えるだけの心房細動も、いつかは慢性化して心不全へと至ります。平均寿命が 90 歳になるうかという現在、超高齢者になったときに心不全で悩まされない様にするためにも、更に早期からの適切な管理が必要と考えています。

新しいトピックスが、難治性心室細動に対する植え込み型除細動器（ICD）による治療、また ICD 植え込み前の待機時に装着する着用型自動除細動器（WCD）治療です。同時に重症心不全に対して行われる両室ペースメーカーによる心臓再同期療法（CRT）も含め、新たに治療を開始しています。これまで湖北では認定施設がなく、はるばる大学病院まで移送しなければならず、患者様にご迷惑をおかけしていましたが、今後は当院でこれらの難治性不整脈や心不全治療を行い、手術後は当院の ICD・CRT 専門外来で管理させていただきます。

この他、超高齢者・フレイルの心不全の原因疾患として大動脈弁狭窄症に対する治療も悩ましい問題です。開心術にはとても耐えられそうにない、しかし経カテーテル大動脈弁置換術も勧めにくいといった患者さんには、積極的に経皮的な大動脈弁拡張術を行って、数多くの実績をあげています。

今後も我々は、侵襲的な治療から心不全、高血圧などの管理に難渋する薬物療法に至るまで、総合的な循環器内科として、循環器領域疾患の全般に対応できる様に心がけて参ります。お困りの際は是非とも当科までご相談ください。

施設認定

日本循環器学会認定専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
ロータブレーター実施認定施設
ダイヤモンドバック実施認定施設
胸部大動脈ステントグラフト内挿術実施認定施設
腹部大動脈ステントグラフト内挿術実施認定施設
浅大腿動脈ステントグラフト実施認定施設
植え込み型除細動器（ICD）移植術実施認定施設
着用型自動除細動器（WCD）処方医在籍施設
ペーシングによる心不全治療（CRT）移植術実施認定施設
心大血管疾患リハビリテーション実施認定施設

カンファレンス等

症例検討会及びカンファレンス 毎週木曜日

リウマチ膠原病内科

勤務医師

新川 雄高	責任部長 兼 リウマチセンター長	日本内科学会（認定内科医・総合内科専門医） 日本リウマチ学会（リウマチ専門医） 臨床研修担当監
梅原 久範	嘱託医	日本内科学会（認定内科医） 日本リウマチ学会（リウマチ専門医・指導医） 日本シェーグレン症候群学会（理事） 中部リウマチ学会（理事）
中村 拓路	嘱託医	日本内科学会（認定内科医・総合内科専門医） 日本リウマチ学会（リウマチ専門医・指導医） 日本血液学会（認定血液専門医・指導医）
田中 真生	非常勤	日本内科学会（認定内科医・総合内科専門医・指導医） 日本リウマチ学会（リウマチ専門医・指導医）
谷口 雅司	非常勤	日本内科学会（認定内科医） 日本リウマチ学会（リウマチ専門医）
森 将人	非常勤	日本内科学会（認定内科医） 日本リウマチ学会（リウマチ専門医）
内藤 遼太	非常勤	日本内科学会（認定内科医） 日本リウマチ学会（リウマチ専門医）
中島 友也	非常勤	日本内科学会（認定医師） 日本リウマチ学会（リウマチ専攻医）
佐藤 智美	非常勤	日本内科学会（認定内科医・総合内科専門医・指導医）

病院の概要

滋賀県唯一のリウマチ膠原病診療拠点を確立した。特に、専門医の少ない湖北においては、リウマチ膠原病診療の中核病院として、近隣の病院診療所と連携を取り、湖北の診療レベルの向上に尽くしている。また福井県南部、京都府北部地域からの紹介患者も受け入れ、広くリウマチ膠原病の診療サポートを行っている。

活動状況・実績

1) 外来：以前から通院中の約 1000 名を超えるリウマチ膠原病患者の診療に加え、平均 12 - 20 名 / 月のペースで新規の紹介患者を受け入れている。2) 入院：重症の膠原病患者、新規のバイオ製剤導入患者を受け入れ入院治療している。現在、平均 6 - 12 名 / 月の入院数である。3) 血液疾患患者のうち、当院でフォロー可能な患者の入院治療を担当する。現在、6 - 10 名 / 月ほどである。4) 京大病院での KURAMA コホートと連結し、当院でも「ながはまりウマチコホート」を実施している。現在 900 名を超える外来通院中患者が登録されている。ドクターアシスタント、看護師、医事課の協力を得て、順調に進行している。

2022 年には YouTube にて第 5 回「市民公開講座」を開催した。当院梅原久範リウマチセンター長と京都大学医学部附属病院 リウマチセンター 特定准教授 田中真生先生が講演し好評であった。

常勤医 1 名、嘱託医 2 名、非常勤医 6 名、専攻医 1 名体制で専門外来 2 診体制で診療中である。外来担当医師との連携を深め、安全で密度の濃い診療に努めている。2) 常勤医 1 名と嘱託医 2 名が協力し重症入院患者の診療にあたっている。3) 中村医師が血液疾患の入院患者を担当し、血液外来担当非常勤医と連携をとり診療にあたっている。白血病など移植を必要とする患者については、滋賀医科大学、京都大学と連携をとっている。4) リウマチコホートに関して、看護部、医事課と協力し 10 - 20 人/月の登録を行う。最終的には 1000-1500 名程度の登録と予想する。

評 価

リウマチ膠原病診療の充実とともに、実質的な患者数増加と収益の増加が期待される。さらに、ながはまりウマチコホートを介して、専門診療の充実を市民にアピールすることにより、当院の臨床的学術的秀逸性が周知されてきた。

総合診療内科

勤務医師

小泉 俊三 非常勤 平成24年6月～ 米国外科認定機構専門医、日本外科学会認定医

今年度のトピックス

高齢社会が現実のこととなり、多疾患併存患者が増え続ける中で、わが国の医療システムの中における総合診療部門の必要性はますます高まっています。総合診療内科外来は、地域住民のニーズに応えるとともに臨床研修医の外来研修を支援することを目的として、平成 24 年 6 月から月 1 回のペースで、平成 25 年 5 月からは月 2 回のペースで開設されてきました。総合診療内科外来では、主として専門診療科が明確に定まらない初診患者さんや病診連携システムを通じて紹介されてきた患者さんを対象に臨床研修医とともに外来診療を行ってきました。

令和 4 年度も、3 年目に入った新型コロナウイルス感染症のパンデミックのなかで、発熱患者に対する診療体制が別途に稼働していたことや救急外来を担う常勤専門医の着任に伴って救急外来での診療や研修医教育が充実し始めたこともあり、令和 3 年度と同様、受診患者数の減少傾向が続きました。

そのような環境下でも、少数例ながら以下に示すような教訓的な症例に遭遇し、臨床研修医を交えた振り返りを通じて貴重な体験を共有し、臨床研修医の学びに寄与することが出来ました。

【教訓的症例】

- ・ Tietze 症候群による慢性の限局性右肋骨痛に対して、数か月間、診療を継続した 50 歳台男性症例
- ・ 食物アレルギーに起因するアナフィラキシーの再発予防に「エピペン®」を処方した 60 歳台男性症例
- ・ 新型コロナウイルス感染症で保健所の指示により自宅療養中に摂食不能・嘔吐が遷延、医療機関を受診できないまま低ナトリウム血症に陥り、輸液により救命しえた 60 歳台日系ブラジル人女性症例
- ・ 定期健診項目に組み込まれた腫瘍マーカー（SLX）の軽度高値を理由に高価な画像診断を勧められ、相談目的で受診した 40 歳台姉妹に“無駄かもしれない医療”についての考え方を共有できた例

- ・関節リウマチに対して投与中のメトトレキサート®に起因するリンパ増殖性疾患が臨床的に疑われ、専門診療各科と連携して診断・治療に結びつけることができた 60 歳台女性症例

勤務実績

令和 4 年度は、計 23 回、総合診療内科外来を開設しました。上述の如く、受診患者数が前年と同様に少なかったものの、交替で総合診療内科外来を担当した臨床研修医とは、担当した症例から学んだこと以外にも、総合診療の意義や医師として進路に関して幅広い充実した討論が出来ました。

評 価

臨床研修医の一般外来研修を充実させるためには、一定の外来受診患者数があることが望ましく、そのためにも、総合診療内科外来で、より積極的に内科系の救急患者や予約なしに受診する患者の診療にかかわることが可能な診療体制の検討が今後の課題であると考えられます。但し、現状においても、研修医が臨床現場の実例を通じて、より深く学ぶことができるように、総合診療内科外来の開設日に受診した救急外来患者の診療録を参照しつつ、教育的意義のある事象を研修医とのカンファレンスにおける話題として取り上げたり、New England Journal of Medicine 誌に連載中の「今週の症例」記事を取り上げるなどの工夫を通じて討論の活性化を図り、臨床教育の実を挙げることができました。

カンファレンス等

総合診療内科外来開設日の午後 2 時から研修医のための症例振り返りと臨床に直結したテーマについてのミニレクチャーを実施することを基本としていますが、各診療科における業務（研修）との兼ね合いで臨床研修医がカンファレンスに参加できないことが少なからずありました。今後、カンファレンスの時間帯も含めて検討を要すると思われます。



緩和ケア外来ところ

勤務医師

森田 幸代 非常勤 平成21年4月～ 滋賀医科大学附属病院 腫瘍センター
日本臨床精神神経薬理学会指導医・専門医
日本精神神経学会専門医・指導医
精神保健指定医、日本医師会認定産業医
日本総合病院精神医学会 暫定指導医
日本ヨーガ療法学会認定ヨーガ療法士

診療：隔週火曜日（午後）

カンファレンス等

緩和ケアチーム回診 隔週火曜午後（診療終了後）



睡眠時無呼吸症候群外来

勤務医師

上津 昌広 部長 高齢者医療研修会 ワークショップ形式修了
高齢者医療研修会 座学形式修了
日本人間ドック学会人間ドック専門医
角谷 寛 非常勤 日本睡眠学会認定医

診療内容

睡眠 1 時間あたり 30 回以上無呼吸や低呼吸を繰り返す重症の睡眠時無呼吸症候群を治療せずに放置すると、脳梗塞や心筋梗塞の危険が高くなります。

当院では、CPAP（持続陽圧換気療法）やマウスピース（OA）による治療を行っています。いびきや睡眠中の無呼吸が気になる場合は受診して、脳梗塞や心筋梗塞を予防しましょう。毎週火曜日・木曜日午後に完全予約制で診療中です。



小児科

勤務医師

多賀 俊明 嘱託医

平成28年4月～ 日本専門医機構（小児科専門医）
日本小児神経学会（小児神経専門医）
子どものこころ専門医機構（子どものこころ専門医）
日本小児心身医学会（認定医）
日本小児科医会（子どもの心相談医）

岩瀬 亜紀子	非常勤	平成31年9月～	日本専門医機構（小児科専門医）
岡田 裕希	非常勤	令和3年10月～令和4年6月	
河瀬 彩希	非常勤	令和4年4月～令和4年9月	
山内 知貴	非常勤	令和4年4月～令和4年9月	
中村 尚司	非常勤	令和4年4月～令和4年9月	
小林 桜子	非常勤	令和4年10月～令和5年3月	
水野 朋紀	非常勤	令和4年10月～令和5年3月	
松浦 馨	公認心理師 非常勤		
水谷 ゆかり	公認心理師 非常勤		

今年度のトピックス

令和4年3月をもって、池田優小児科部長が転勤のため当院を退職されました。しかしながら小児科医の補充はなく、一般病棟の縮小に伴って小児科病床も大幅な削減に陥り、現状ではほぼ外来診療のみとなっています。地域医療に寄与するべく新型コロナウイルスワクチンの予防接種の受け入れも行っています。発達検査や性格検査など種々の手法を用いて、また患児のみの面談、母親など家族だけの面談や学校の先生との面談など十分な時間を掛けて面談・カウンセリングを行っています。医療面と少しの心理面を医師が、心理面は公認心理師が担当しています。カウンセリングや発達検査の必要な患児の増加を受け、令和4年4月からは公認心理師を2名に増やして対応しています。

業務実績

不登校やゲーム嗜癖、起立性調節障害、過敏腸症候群など、また身体表現性障害および自閉症スペクトラムや注意欠陥多動障害など多くの心理的問題や軽度の発達障害を抱えた子供さんをご紹介いただいております。発達検査や性格検査など種々の手法を用いて、また患児のみの面談、母親など家族だけの面談や学校の先生との面談など十分な時間を掛けて面談・カウンセリングを行っています。

評価

常勤の小児科医が不在の中全ての分野に対応できないが、子どもの心に特化した診療を継続しており、米原、彦根地域からも紹介患者をいただき、またHPの専門医のいる病院として受診された患者さんもおられ、地域に根ざし始めることができていると自負しています。

カンファレンス

科内の医師同士のカンファレンスはないが、外来の多職種（医師、非常勤で来ていただいている小児科医師、外来看護師、公認心理師、リハビリ療法士、病児保育の保育士など）とのカンファレンスを必要に応じて実施している。

外科

勤務医師

上田 修吾	責任部長	日本外科学会（専門医・指導医）、日本消化器外科学会（専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医）、日本食道学会（食道科認定医・食道外科専門医）、日本がん治療認定医機構（がん治療認定医）、近畿外科学会評議員
野田 秀樹	部長 兼 名誉院長	日本外科学会指導医・専門医認定登録医、日本消化器外科学会指導医・専門医認定登録医・消化器がん外科治療認定医、日本乳癌学会認定医、日本消化器病学会指導医・専門医、日本がん治療認定医機構暫定教育医、ICD 制度協議会認定 ICD、日本医師会認定産業医
高折 恭一	部長 兼 事業管理者 兼 院長	日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医、日本肝胆膵外科学会高度技術指導医、日本膵臓学会指導医、日本消化器病学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医（消化器・一般外科）
笠井 洋祐	部長 令和4年6月まで	日本肝臓学会専門医、日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医・消化器がん外科治療認定医
横山 大受	部長	日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器がん外科治療・認定医
大島 侑 林 雪	部長 部長	日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会専門医 日本外科学会外科専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本乳癌学会乳腺専門医、乳腺認定医、日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィ読影認定医師
神田 雄史	嘱託医	日本外科学会専門医・認定医、日本消化器外科学会認定医・消化器がん外科治療認定医、日本乳癌学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本がん治療認定医機構暫定教育医・がん治療認定医、厚生労働省死体解剖資格認定医
西川 忠男	嘱託医	日本医師会認定産業医、日本外科学会認定医・専門医、日本胸部外科学会認定医、日本呼吸器学会専門医、日本消化器病学会専門医
東出 俊一	嘱託医	日本外科学会専門医・認定医、日本消化器外科学会認定医・消化器がん外科治療認定医、日本乳癌学会認定医、日本乳がん検診制度管理中央機構検診マンモグラフィ読影認定医師、日本消化器病学会指導医・専門医、日本がん治療認定医機構がん治療

岡部 あさみ 嘱託医

認定医、日本スポーツ協会公認スポーツドクター、京都大学臨床教授、日本脾臓学会指導医、日本医師会認定健康スポーツ医
日本外科学会外科専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器がん外科治療認定医

業務実績：2022 年 1 月～ 2022 年 12 月の入院の手術件数

胃癌手術	20 件（鏡視下手術 18 件）
大腸癌手術	66 件（鏡視下手術 62 件）
脾臓手術	12 件（鏡視下手術 3 件）
肝臓手術	14 件（鏡視下手術 5 件）
胆嚢摘出手術	83 件（鏡視下手術 78 件）
ヘルニア手術	82 件（鏡視下手術 56 件）

カンファレンス等

毎週月曜日に病理、放射線診断、放射線治療、消化器内科、泌尿器科等と合同で Cancer Board を開いています。

毎週金曜日、病棟回診及び化学療法カンファレンス、次週の術前カンファレンスを行っています。



呼吸器外科

勤務医師

田久保 康隆 責任部長 兼 診療局長	呼吸器外科専門医認定機構呼吸器外科専門医、 平成23年4月～ 日本胸部外科認定医、日本外科学会専門医
奥野 翔子	平成30年4月～ 日本外科学会専門医
三由 僚	令和2年4月～ 呼吸器外科専門医、日本外科学会専門医

今年度のトピックス

当院呼吸器外科スタッフの変動はなく、3 人で診療に従事しています。

業務実績

令和 4 年 1 月から令和 4 年 12 月までの 1 年間で年間全身麻酔下手術件数は 115 例であり、そのうち原発性肺がんは、70 例であった。

評 価

引き続き湖北での呼吸器診療の中心機関としての任務を果たしていきたいと考えている。



整形外科

勤務医師

廣瀬 伸次 責任部長

日本整形外科学会専門医、認定リウマチ医

日本リウマチ学会専門医

江藤 謹司 部長

日本整形外科学会専門医、認定リウマチ医

運動器リハビリテーション医

日本リハビリテーション医学会認定臨床医

尾田 和広 部長

日本整形外科学会専門医

櫻木 淳史 部長

日本整形外科学会専門医

田中 淳 部長

日本整形外科学会専門医、日本骨粗鬆症学会認定医

辻本 和之 部長

日本整形外科学会専門医

高田 健

米田 義崇

滝口 陽介

杉本 正幸

日本整形外科学会専門医、脊椎脊髄病医

運動器リハビリテーション医、

日本リハビリテーション医学会認定臨床医

日本がん治療認定医機構暫定教育医、日本骨粗鬆症学会認定医

日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医、義肢装具適合判定医

中部日本整形災害外科評議員

琴浦 良彦 非常勤

日本整形外科学会専門医、日本がん治療認定医機構暫定教育医

後藤 公志 非常勤

日本整形外科学会専門医、運動器リハビリテーション医
京都大学整形外科准教授

今年度のトピックス

年間手術件数は999件であり、コロナ禍前と比べて減少しているが、新型コロナウイルスの影響で落ち込んだ手術件数は徐々に改善してきている。人工膝関節置換術は138件、人工股関節置換術は102件行っており、コロナ前の水準に改善してきた。人工股関節については、術中透視を用いてカップの設置角度や脚延長を評価するシステムを使用した。術後のレントゲン評価とは相関しており有用性が確認できた。脊椎手術については、頸椎28件、胸腰椎107件行っており、そのうち30件は鏡視下に低侵襲手術が行われていた。

外来は、選定医療費の導入にあたり、当日受付の新患者数の減少があり、1日平均外来患者数は2年ほど減少している。一方で地域よりの紹介患者数は、2020年が1,146人、2021年が1,231人、2022年が1,367人と徐々に増加しており、昨年より1日平均外来患者数は増加していた。

業務実績

整形外科年間手術件数 999 例（人工股関節 102 例、人工膝関節 138 例、脊椎 138 例）

1 日平均入院患者数 59 人

1 日平均外来患者数 106 人

カンファレンス等

ミニカンファレンス	月曜日 朝
手術カンファレンス	火曜日 夕
部長総回診	木曜日 午前
手術	毎日

形成外科

勤務医師

仲野 孝史	木曜日担当	日本形成外科学会専門医・指導医、日本創傷外科学会専門医、日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会責任医師、日本バイオマテリアル学会会員、日本再生医療学会会員
山下 輝世	月曜日担当	

今年度のトピックス

現行の2人体制となり、滋賀医科大学などとも連携をとっております。一年間、市立長浜病院での診療に従事してきました。日帰り手術を毎週行っており、皮膚腫瘍や瘢痕拘縮などの手術を行いました。次年度も引き続き長浜市民の皆さまのお役に立てるよう努めてまいります。

脳神経外科

勤務医師

堀口 聡士	責任部長	令和1年7月～	日本脳神経外科学会専門医・指導医 日本脳神経外科学会近畿支部学術評議員 日本脳卒中学会専門医・指導医 日本脳神経血管内治療学会専門医 日本脳卒中の外科学会技術認定医 日本神経内視鏡学会技術認定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本医師会認定産業医 京都大学医学部非常勤講師
小室 太郎	副院長	平成23年4月～	日本脳神経外科学会専門医・指導医 日本脳卒中学会専門医・指導医 日本脳神経血管内治療学会専門医 日本脳卒中の外科学会技術指導医 京都大学医学部臨床教授

佐藤 岳史	部 長	平成24年8月 ～令和5年3月	日本脳神経外科学会専門医・指導医 日本脳卒中学会専門医・指導医 日本脳神経血管内治療学会専門医 日本神経内視鏡学会技術認定医 日本定位機能神経外科学会技術認定医 日本リハビリテーション医学会臨床認定医
光野 優人	部 長	令和4年4月～	日本脳神経外科学会専門医 脳血栓回収療法実施医
小林 映	顧 問	平成6年4月～	日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医

今年度のトピックス

光野優人医師が令和4年4月に着任しました。佐藤岳史医師が令和5年3月に退任しました。
日本脳卒中学会により一次脳卒中センター (PSC) に認定され、急性期脳梗塞に対する t-PA 静注血栓溶解療法、血管内治療による急性期血栓回収療法が可能です。神経内科と共同で脳卒中ケアユニット (SCU) 6 床を運営しています。脳卒中診療に限らず、提供できる医療を確実にを行い、地域医療に貢献できるよう努力しています。急性期診療以外にも、不随意運動症、疼痛、てんかんなどを電気刺激で制御する機能脳神経外科、リハビリテーション科・地域包括ケア病棟・脳神経外科外来との協力の下で慢性期維持リハビリテーション入院や、脳血管障害後の自立のために自動車運転機能の短期入院評価も行っています。

業務実績（令和4年1月～12月）

年間手術数：141 件
脳腫瘍開頭手術：10 件、経蝶形骨洞手術：5 件
脳動脈瘤クリッピング術：5 件、脳動脈瘤コイル塞栓術：13 件
急性期血栓回収療法：23 件、頸動脈ステント留置術：4 件
t-PA 静注血栓溶解療法：10 件
年間入院数：515 件

評 価

入院患者数は減少しましたが、手術件数は増加しています。特に脳塞栓症に対する急性期血栓回収療法が23件となりました。破裂脳動脈瘤に対しては、脳血管内治療によるコイル塞栓術を選択する例が多くなっています。動脈瘤の部位、形状、および病状などに応じて脳動脈瘤頸部クリッピング術を含めて適切な治療を検討しています。また、頸部内頸動脈狭窄症に対しては頸動脈ステント留置術を選択しています。

カンファレンス等

医師と看護師による、脳神経外科症例カンファレンスを毎週火曜日に開催。
医師、看護師、リハビリテーション技師、薬剤師、退院支援部門による、脳神経外科症例多職種カンファレンスを毎週金曜日に開催。



心臓血管外科

勤務医師

植山 浩二	責任部長	平成31年4月～	心臓血管外科専門医認定機構専門医・修練指導医 日本胸部外科学会指導医・認定医 日本外科学会指導医・専門医・認定医 日本循環器学会専門医 腹部ステントグラフト実施医 下肢静脈瘤血管内焼灼術実施医 京都大学医学博士 日本血管外科近畿地方会世話人 京滋心臓血管外科研究会代表世話人
長門 久雄	部長	令和3年4月～	心臓血管外科専門医認定機構専門医・修練指導医 日本胸部外科学会指導医・認定医 日本外科学会指導医・専門医・認定医 下肢静脈瘤血管内焼灼術実施医・指導医
洞井 和彦	部長	平成19年5月～	心臓血管外科専門医認定機構専門医・修練指導医 日本胸部外科学会認定医 日本外科学会指導医・専門医・認定医 腹部ステントグラフト実施医 下肢静脈瘤血管内焼灼術実施医・指導医 京都大学医学博士
古根川 靖	部長	令和4年10月～	日本外科学会専門医
吉良 浩勝	部長	平成27年1月～	心臓血管外科専門医認定機構専門医 外科専門医 腹部ステントグラフト実施医・指導医 胸部ステントグラフト実施医・指導医

今年度のトピックス

胸腹部大動脈瘤に対する一期的根治術の導入（京都大学心臓血管外科教授指導の許）

- 取り組み方針
1. 患者第一、誠心誠意
 2. 地域に信頼される病院づくり
 3. 地域完結型の医療体系構築

業務実績

総手術件数	230 例
心臓・胸部大動脈手術	42 例（ステントグラフト手術 4 例）
腹部大動脈手術	35 例（ステントグラフト手術 18 例）
末梢血管手術	149 例

評 価

地域に第一優先で選択していただける病院とならねばなりません。
チームとして医療サービスの質の向上に努める必要があります。

カンファレンス等

毎朝 08:30 ～：全入院患者カンファレンス
水曜 15:30 ～：総回診
金曜 15:00 ～：術前カンファレンス



皮膚科

勤務医師

井階 幸一	責任部長	平成26年4月	
		～令和4年12月	日本皮膚科学会皮膚科専門医
	非常勤	令和5年1月～	
澤井 孝之	非常勤	平成26年4月～	

今年度のトピックス

2014 年以来責任部長を勤めた井階幸一医師が令和 4 年 12 月末で退職し、令和 5 年 1 月から非常勤勤務となりました。月曜日に澤井孝之医師が、水曜日に井階幸一医師が診療に従事しています。

業務実績

皮膚科では、外来診療を中心とし、「日本皮膚科学会の診療ガイドライン」に準拠した皮膚疾患の標準的な診断、治療を行っています。

評 価

患者さんの大半が高齢者であり、褥瘡、老人性湿疹、足病変、などの高齢者特有の皮膚トラブルが多いです。湖北地域では、日本の将来を先取りする超高齢化社会が到達しつつあります。高齢者の増加に伴い、褥瘡や陰部の皮膚トラブル、足の病変の患者さんが急増しています。院内では褥瘡対策委員会などで適切に処理されていますが、さらに、形成外科、「皮膚・排泄ケア認定看護師（いわゆる WOC ナース）」と共同して、高齢者の皮膚トラブル、スキンケアに対応していきたいと思っています。現在のところ、皮膚科で入院患者をとる事は困難ですが、内科などの科で入院されたときには、主治医と協力して皮膚疾患、皮膚トラブルの処理に当たりたいと考えています。今後、地域の医療機関、スタッフの方々と協力して、高齢者のスキンケア、皮膚のトラブルの処理に当たりたいと思っています。

カンファレンス等

年 1 回、長浜バイオ大学において「医療安全管理学演習」の講義を受け持っております。
年 1 回、近畿高等看護専門学校において「疾病と治療Ⅳ 皮膚科疾患の病態及び検査、治療について」の講義を受け持っております。

毎月、行っておりました長浜赤十字病院皮膚科との臨床カンファレンスが、再び、2 か月に一回のペースで復活しています。



泌尿器科

勤務医師

村井 亮介	責任部長	令和3年4月～	日本泌尿器科学会専門医、指導医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会 泌尿器腹腔鏡技術認定
城 文泰	非常勤	令和3年4月～	日本泌尿器科学会専門医
村元 暁文	非常勤	令和4年4月～	日本泌尿器科学会専門医
曾我 弘樹	非常勤	令和4年4月 ～令和5年3月	日本泌尿器科学会専門医

今年度のトピックス

令和4年4月より非常勤医師の拡充があり、入院および手術、緊急処置等への対応範囲が広がりました。時間外救急対応、入院診療、泌尿器科的手術を行い、外来患者数および手術症例数は増加傾向です。今年度の手術件数は158例となりました。

業務実績

主な手術および検査件数

腹腔鏡下腎・副腎手術 7 件、経尿道的膀胱腫瘍切除術 40 件、経尿道的尿路結石手術 55 件、経尿道的前立腺手術 12 件、腹膜透析関連手術 17 件、根治的膀胱全摘除術 2 件、

その他手術 25 件

体外衝撃波結石破砕術 5 件（新規患者数）

前立腺針生検 51 件

評価

令和2年度の入院・手術診療休止後、令和3年度から通常診療を再開し、令和4年度は症例数の増加傾向が続いています。スタッフの拡充により今後もアクティビティの向上が期待されます。他科および関連医療機関のご協力を得ながら、今後も湖北地域における泌尿器科診療の質の向上を図ります。

カンファレンス等

カンサーボード：毎週月曜日

病棟カンファレンス：毎週火曜日

手術室カンファレンス：毎週金曜日



産婦人科

勤務医師

林 嘉彦	特任部長	平成19年2月～	日本産科婦人科学会専門医・指導医 母体保護法指定医
久田 純江	嘱託医	令和3年4月～	日本産科婦人科学会専門医
上村 真央	非常勤	平成29年4月～	日本産科婦人科学会専門医

今年度のトピックス

引き続き分娩・産婦人科手術は休止中であり、外来診療のみ行っています。現在の人員では出来ることは限られますが、多くの患者様の治療が継続して行えるよう努めております。

また関連病院との連携を強化して、手術治療が必要な患者様を迅速に紹介出来るように努めております。将来、医師派遣が再開され、本院にて分娩・産婦人科手術治療が再開されることを願っています。

業務実績

年間外来患者数 5,773 名（1月～12月）

評価

診療ガイドラインに沿って外来診療を行っている。医師派遣が再開され、将来の分娩・産婦人科手術治療が再開されることを願っている。



眼 科

勤務医師

額田 正之	令和3年4月～	日本眼科学会専門医、京都大学医学博士、 臨床研修指導医、難病指定医 令和3年度視覚障害者用補装具適合判定医師研修会修了
西村 宗作	平成23年4月～	日本眼科学会専門医、難病指定医
堤 啓志郎	令和4年4月～	

今年度のトピックス

令和4年度もコロナの影響はありましたが、白内障手術、硝子体手術は前年度の件数を上回りました。

業務実績

総手術件数	1,350 件
主な手術件数	
白内障手術	523 件（単独および他の手術との併用含む）
緑内障手術	13 件（白内障手術併用含む）
硝子体手術	50 件（白内障手術併用含む）
経強膜網膜復位術	0 件
その他	29 件
硝子体内薬物注射	577 件
レーザー虹彩切開術	7 件
Yag 後囊切開術	60 件
網膜光凝固術	95 件

評 価

湖北地域の中核病院としての機能は維持できていると考えております。手術件数も上昇傾向で、今後も地域の皆様と連携し湖北の医療を支えていきたいと思っております。

カンファレンス等

術前・術後カンファレンス	毎週月・水曜日
斜視・弱視カンファレンス	毎週金曜日



耳鼻咽喉科

勤務医師

糟谷 憲邦	責任部長	平成20年10月～	日本耳鼻咽喉科学会専門医・指導医
原 思織		令和元年5月～	日本耳鼻咽喉科学会専門医
西口 達治			
松山 記子		令和4年11月～	

今年度のトピックス

11月より西口達治先生が大学院での研究に専念するため滋賀医科大学に帰りました。
11月に松山記子先生が滋賀医科大学より当院に就任しました。

業務実績

鼓室形成術：14 例
内視鏡下鼻副鼻腔手術：26 例
鼻中隔矯正術 4 例
下鼻甲介骨切除術：2 例
口蓋扁桃摘出術：60 例
甲状腺腫瘍手術：15 例
副甲状腺腫瘍手術：2 例
耳下腺腫瘍手術：1 例
頸部郭清術：1 例
気管切開術：8 例
頸部リンパ節生検術：14 例

評 価

コロナ渦ではありますが、1年間の手術症例数は124症例で昨年度と比べ増加しています。鼓室形成術、口蓋扁桃摘出術が特に増加しています。

このような環境であっても、十分な安全対策・感染管理のもと、外来での紹介患者、入院・手術症例を増やし、効率よく手術枠を活用していきたいと考えております。

カンファレンス等

症例検討会（外来・手術症例）・術前カンファレンス：毎週火曜日、第1、3、5金曜日



麻酔科

勤務医師

木田 英樹	責任部長	令和2年4月～	日本専門医機構麻酔科専門医 日本麻酔科学会認定医・認定指導医 厚生労働省認定麻酔科標榜医
柳田 豊伸	部長	令和3年4月～	日本専門医機構麻酔科専門医 日本麻酔科学会認定医 厚生労働省認定麻酔科標榜医
竹内 慎弥		令和4年4月～	日本麻酔科学会認定医 厚生労働省認定麻酔科標榜医
森山 凌		令和4年4月 ～令和5年3月	日本麻酔科学会所属

今年度の人事とトピックス

- ・4月に竹内、森山が赴任した。3月末で森山が異動した。前年度同様に常勤医4名＋非常勤医1名体制が維持された。また麻酔科志望の桂が研修医2年目の殆どを麻酔科で研修した。
- ・7月から ERAS®学会の施設認定取得のための活動が始まり、木田がコアチームメンバーとなった。
- ・1月に滋賀医大麻酔科より専門医が派遣されペインクリニック外来が開設された。

業務実績

- ・麻酔科管理件数は1,674件で前年の1,556件より118件（7.6ポイント）増加した。内訳は全身麻酔件数は1,325件で前年度1,352件とほぼ同数であるが、それ以外の麻酔法は349件で前年度204件を大きく上回った。
- ・麻酔科外来：麻酔前コンサルトは35件で、ペインクリニック外来は26件であった。
- ・救命救急士の挿管実習を1名受け入れた。

評価

- ・麻酔科管理件数は前年度より増加し、コロナ禍前の状態に回復しつつある。
- ・全身麻酔以外の麻酔件数が増加した原因の一つは下肢手術の麻酔で全身麻酔以外の麻酔が134件増加したことが大きい。
- ・ペインクリニック外来は、実質2ヶ月で26件もあり、次年度が期待できる。
- ・救急救命士の実習受け入れは、前年度は2名であったが今年度は1名に留まった。

カンファレンス等

- ・毎朝のカンファレンスで前日の麻酔症例と当日の麻酔症例の検討をおこなった。
- ・毎週金曜日には朝のカンファレンス前に勉強会の時間を設け各自テーマを選び発表した。

ICU CCU センター

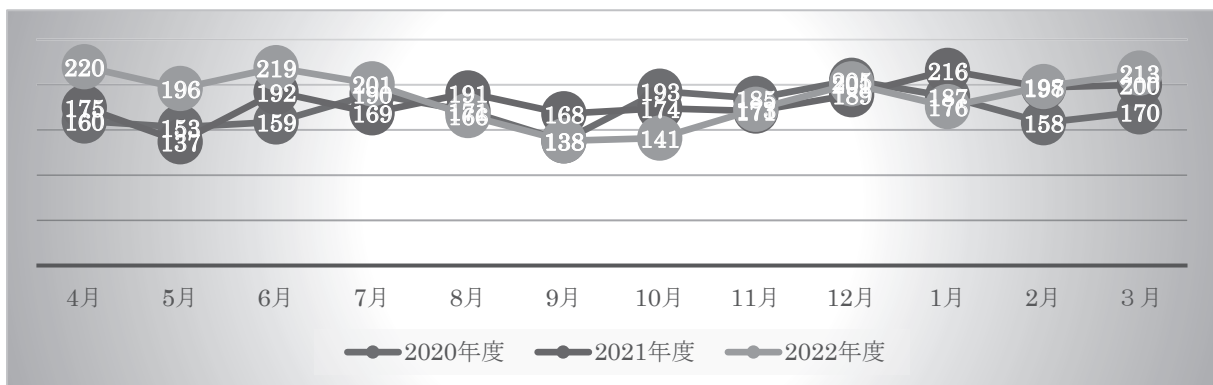
木田 英樹 センター長
清水 満子 係長

今年度のトピックス

- ①早期栄養介入管理加算の算定開始
- ②COVID-19陽性患者の受け入れ3件

業務実績

延稼働床数



年間の延稼働床は昨年度より3%増加し、加算についても増加しています。しかし、12月よりアブレーション患者がICU加算対象外となっており、加算外入室患者数も増加しているため、今後も加算内退室となるよう医師と協働していきます。平均在室日数は4.3日と昨年度に比較し1日伸びてしまっていますが、占床率も考慮し、患者数が少ない月は患者状態に応じ、術後患者様の入室期間を延ばすなど工夫を行うことで占床率は昨年度より2%増加できています。

科別内訳（入室数：延患者数）は心臓血管外科例（16.3%・29.3%）、循環器内科例（33.1%・30.0%）、脳神経外科例（11.3%・13.1%）、外科例（20.4%・12.4%）となりました。

特定集中治療室の重症度医療看護必要度は今年度9月から必要度Ⅱで取得しており、2022年度は80.3%と基準の60%以上を満たしています。

ICUでの特殊治療は延稼働日数としてCHDF:292日、血漿交換:6日、吸着:6日、IABP:59日、PCPS:11日でした。人工呼吸器関連に関しては昨年度と同程度の稼働日数となっています。

評価

延稼働床数は、ほぼ昨年度と変化無く経過できていますが、外科患者受け入れが順調に増加しており、心臓血管外科・循環器内科患者数は年度最終で最高値となりました。今後ERAS患者の受け入れもあり、外科患者の増加は見込まれます。

今年度初めてCOVID陽性患者の受け入れを行いました。予めシミュレーションをしており、ゾーニングも行っていたことからスムーズに受け入れ体制をとることができました。また、各診療科にも協力を得られ、少ない病床数で運営を行うことができました。しかし昨年度と比較してもICU受け入れ困難時間が格段と増加しており、4～5月にかけて入院数が多かったこと、COVID受け入れや患者状態から退室できる患者が少なかったことも要因であると考えますが、後方病棟との患者受け入れと患者情報共有を密に行い、受け入れていただける環境作りを行いた

いと思います。

そして管理料算定のためには重症医療看護必要度Ⅱが60%以上でないとならないため、必要度取得率も合わせて加算に関して考えていきます。入室日数が長期になった患者数も今年度は多かったため、加算人数も含めてベッドコントロールしていきたいと考えます。

2021年度から早期離床リハビリテーション加算の取得が可能となり、今年度から早期栄養介入管理加算の算定開始も行いました。ICUにおける経営管理も今後強化していく必要性があると考えます。

カンファレンス等

平日毎朝 心臓血管外科症例カンファレンス&ウォーキングカンファレンス

火曜日 心臓血管外科回診 RST 回診

金曜日 心臓血管外科術前カンファレンス

適宜 主治医と看護師、必要に応じて他コメディカルとともにカンファレンス開催

放射線科（治療部門）

勤務医師

小坂 恭弘 責任部長 平成31年4月～ 日本医学放射線学会放射線治療専門医
日本医学放射線学会指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医指導責任者

安永 敏美 特任部長 令和3年4月～ 日本医師会認定産業医

平岡 伸也 非常勤 令和4年8月～令和4年11月
日本医学放射線学会放射線治療専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

岩井 貴寛 非常勤 令和4年8月～令和4年11月
日本医学放射線学会放射線治療専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

今年度のトピックス

リニアック（放射線治療機器）の更新を令和5年7月に予定しており、それに向けて準備をすすめています。

業務実績

令和4年度実績 原発部位別照射新患数（転移の治療も原発部位で分類、再診除く）

原発部位	脳	頭頸部	食道	肺縦隔	乳腺	肝胆膵	消化管 (食道除く)	女性生殖器	泌尿器	血液	皮膚 骨軟部	良性	合計
照射件数	1	4	3	47	24	4	4	2	20	10	1	0	120

脳定位照射数 3 件 体幹部定位照射数 24 件

IMRT 32 件

実績はリニアック更新工事開始前の令和 4 年 4 月～ 11 月の分です

評 価

湖北地域では高精度治療である強度変調放射線治療 (IMRT) と脳・体幹部定位放射線治療 (SRS・SRT、SBRT) を含む放射線治療を実践している唯一の施設となっています。常勤医 2 名体制となつてからは IMRT の適応範囲を従来の脳、頭頸部、前立腺だけではなくあらゆる部位に広げ、より多くの疾患で有害事象が少なく効果的な治療が実践できるようにしています。一度照射した部位に対する再照射も積極的に行っています。

治療法の選択においてはエビデンスや患者さんの背景・希望をふまえ、他の診療科や他施設とも相談の上、放射線治療に限らず最適な治療選択肢を提示できるように心がけております。

カンファレンス等

放射線治療科ミニミーティング 平日毎朝

放射線治療科 QA 会議 火曜日

放射線治療科画像カンファレンス 火曜日

呼吸器がんサワーボード 水曜日

腹部・骨盤がんサワーボード 月曜日



放射線科（診断部門）

勤務医師

若宮 誠	責任部長	平成22年4月～	日本医学放射線学会放射線診断専門医 日本 IVR 学会 IVR 専門医 腹部ステントグラフト指導医 胸部ステントグラフト指導医 検診マンモグラフィー読影認定医 (A) 日本医学放射線学会研修指導者
宮川 善浩	部 長	平成24年4月～	日本医学放射線学会放射線診断専門医 検診マンモグラフィー読影認定医 (B) 日本医学放射線学会研修指導者
石本 聡史	専攻医	令和3年4月～	

業務実績

読影については至急読影の依頼に対応しつつ、各科にできるだけ早く所見を返しています。他院からの紹介患者についても至急読影を行っており、患者および開業医のニーズに対応しています。IVR は腫瘍に関連した IVR のほか、外傷や出血などに対する緊急 IVR にも対応しています。心臓血管外科の大動脈ステントグラフト内挿術にも参加しています。

時間外には依頼に応じて JOIN システムを用いて診断しています。

診断件数 CT：21,506 MRI：7,245 RI：470 胸部単純写真：584 消化管造影：33
IVR 186(血管系：171 非血管系：15) うち緊急 IVR：10
JOIN 件数 160

評 価

CT2 台(支援棟含め 3 台)、MRI2 台(1.5T と 3T 各 1 台)に対して常勤医 2 人(診断専門医 2 人)は少なく、非常勤の先生方に助けられながら朝から夕方まで間断なく業務をこなしています。画像診断管理加算 2 を維持しながら標準レベル以上の診断を保っていると考えています。

カンファレンス等

カンサーボード 毎週月曜日



病理診断科

勤務医師

黒澤 学 責任部長 平成25年4月～ 日本病理学会認定病理専門医
病理専門医研修指導医
日本臨床細胞学会細胞診専門医
死体解剖資格認定医

今年度のトピックス

標本作製の機械化に取り組み、医療安全の向上に努めた。

業務実績

組織診断：約 4,000 件 / 年、細胞診断：約 5,000 件 / 年、病理解剖：3 件 / 年

評 価

稀な症例や興味深い症例が散見された。今後は学会発表、論文執筆などに取り組みたい。

カンファレンス等

カンサーボード 毎週月曜日
細胞診カンファレンス 2 回 / 週
病院 CPC 3 回 / 年



歯科・歯科口腔外科

勤務医師

近藤 定彦	責任部長	平成30年10月～	日本口腔外科学会専門医・指導医、厚労省歯科研修指導医
山田 理浩		令和5年1月～	日本口腔科学会指導医・認定医、日本小児口腔外科学会認定医、日本外傷歯学会指導医・認定医
杉藤 雅孝		平成29年4月～	日本口腔外科学会認定医、日本外傷歯学会認定医
田代 千紘		令和3年4月～	
飯塚 忠彦	非常勤	火曜日のみ	日本口腔外科学会認定口腔外科専門医・指導医

今年度のトピックス

市立長浜病院に歯科が新設されたのは、1957年11月で、歯科口腔外科は1997年1月に新設されました。発足当初は、歯科医師一名体制でしたが、現在は歯科医師四名で診療を行っています。これまで多くの先生方やスタッフの皆さんに支えられ、湖北地域の歯科・歯科口腔外科医療の基幹病院の一つとして診療を行ってまいりました。これからも地域の患者さまや先生方のご期待に添えるようにスタッフ一同、精進してまいります。

今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

市立長浜病院歯科・歯科口腔外科の主な外来

歯科口腔外科外来：初診（火曜日以外の平日）すべての歯科口腔外科疾患（顎口腔領域の炎症・腫瘍・外傷・粘膜疾患・顎関節疾患・顎変形症など）

口腔腫瘍専門外来：毎週火曜日

障害者歯科専門外来：毎月第1、3水曜日の14：30～16：30

嚥下機能の評価および訓練：初診（火曜日以外の平日）、VF、VE検査（毎週月曜日、水曜日）

閉塞性睡眠時無呼吸の口腔内装置の作製：初診（火曜日以外の平日）

周術期口腔機能管理（口腔ケアセンター）：初診（月曜日～金曜日）

市立長浜病院における歯科口腔外科に関連した主な施設基準

日本口腔外科学会認定准研修施設・がん診療連携拠点病院加算・歯科外来診療環境体制加算・歯科外来診療環境体制加算歯科診療特別対応連携加算・地域歯科診療支援病院入院加算・歯科治療総合医療管理料・歯科口腔リハビリテーション料2・上顎骨形成術、下顎骨形成術（歯科診療によるもの）・歯周組織再生誘導手術・歯科矯正診断料・歯科技工加算 など



感染制御部

勤務医師

大野 暢宏 責任部長

日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医
ICD制度協議会インфекションコントロールドクター
日本呼吸器外科学会指導医
日本医師会認定産業医
日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
日本呼吸器学会専門医
日本人間ドック学会人間ドック健診専門医・指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本医師会認定産業医

高木 順平 部長

今年度のトピックス

当院での感染防止対策は、感染制御チーム (ICT) および抗菌薬適正使用支援チーム (AST) が担ってきた。令和3年6月から、独立したより円滑な感染防止対策の実施を目的として感染制御部が新たに設置された。今年度は新型コロナ感染症対策も前年度より引き続いて行われた。年度末で大野責任部長が定年となられたが、来年度以降も日常的に感染防止対策を行っていく。

主な活動内容

1. 病棟ラウンド
2. 薬剤耐性菌サーベイランス
3. 医療関連感染症サーベイランス
4. 感染対策の指導
5. 抗菌薬適正使用の支援および推進
6. 針刺し・血液体液曝露時の対応および対策
7. 職員安全衛生管理
8. 医療従事者に対する感染対策教育
9. 地域医療機関との感染対策連携
10. 新型コロナウイルス感染症関連対策



救急センター

陌間 大輔 センター長
堀口 聡士 副センター長
潮 正輝 副センター長

今年度のトピックス

- ①救急ミニ講座の定期開催
- ② ICLS コースの定期開催（年 2 回） 令和 4 年 6 月 12 日、令和 4 年 12 月 17 日
ICLS 指導者養成ワークショップ 令和 4 年 6 月 11 日

研修 救急ミニ講座の開催

期日	テーマ	講師	参加者
8 月 1・12・17・25 日 9 月 2・5・13・22・30 日 10 月 3・11・19・27 日 11 月 4・7・15・24・30 日 (計 18 日 44 回開催)	心肺蘇生法	救急センター職員	585 人

業務実績

	令和 3 年度	令和 4 年度	前年対比
救急受診患者総数	9,570	10,039	23
救急車搬送数	2,581	2,996	299
入院患者数	2,642	2,579	180
救急車入院数	1,307	1,363	56

(単位：人)

外来化学療法センター

野田 恵加 センター長

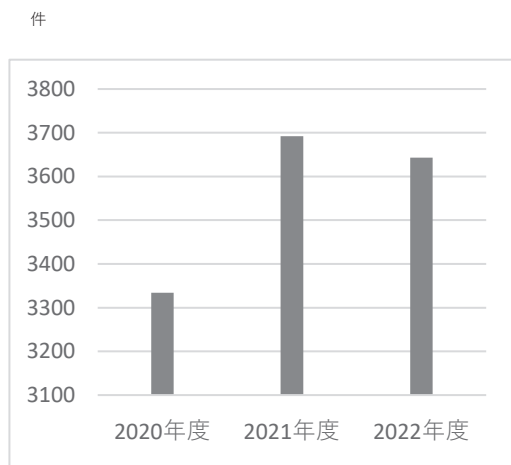
今年度のトピックス

- ①令和2年より連携充実加算の算定を開始し、薬剤局と院外薬局の連携を図っています。また、外来栄養食事指導料と周術期等口腔機能管理料の算定の対象となる症例を積極的にピックアップし、指導・受診につなげています。
- ②令和4年度より、診療報酬改正に伴い、外来腫瘍化学療法診療料1、2の算定しています
- ②専門研修を受講したセンター看護師によるアピアランスケア（治療による脱毛や爪等の外見変化へのケア）をがん相談支援センターと連携を図りながら行っています。
- ③センター内でのCOVID-19対策の検討を行い、感染対策を強化しています。
- ④センター内でがん患者指導管理料（イ）（ロ）（ハ）を積極的に算定しています。
- ⑤センター専任医師や主治医、看護師、薬剤師等との多職種カンファレンスを継続しています。

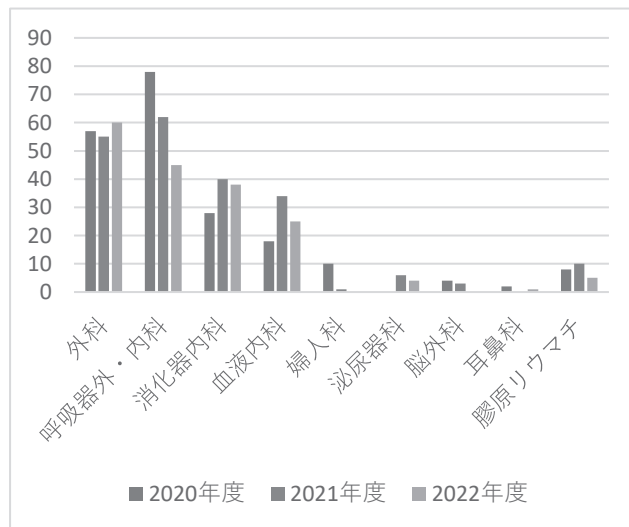
業務実績

平成25年3月～外来化学療法センター13床で開設

■年間実施延べ件数推移



■科別予約件数（2022年）



評価

- ・年間実施延べ件数は、昨年度と比較し増加しています。
- ・センター内でのCOVID-19対策の検討をICN等に相談し、入室時の健康チェック表の導入や環境整備等の感染対策を強化しました。
- ・多職種と連携し、副作用対策や心理支援、患者指導を強化する体制を整えたことで、連携充実加算、外来栄養食事指導料、周術期等口腔機能管理料の算定数増加に貢献できました。
- ・多職種カンファレンスと勉強会が定着化し、以前と同様に今後も安全にがん薬物療法を行えるように努力していきます。



ヘルスケア研究センター

石田 均	センター長
野口 哲男	健診部長兼呼吸器内科責任部長
潮 正輝	研究部長兼腎臓代謝内科部長
杉本 正幸	副センター長兼経営改善・医事担当監兼整形外科嘱託医
林 嘉彦	副センター長兼産婦人科特任部長
東出 俊一	副センター長兼外科特任部長
小林 映	特任部長兼地域連携担当顧問兼脳神経外科嘱託医
伏木 雅人	特任部長兼がん対策担当監
大野 暢宏	嘱託医兼リハビリテーション科嘱託医
林 優	非常勤医師
柴田 博文	渉外部長
村上 義和	専門員
北村 美幸	係 長

今年度のトピックス

「ヘルスケア研究センター」は、「次世代型の予防医療を取り入れた新たな健診や人間ドックの提供」を目的に、院長直轄の部署として運営しています。

従来からの「糖尿病や高血圧などの生活習慣病の予防」に加え、新たに「加齢への対応」を、健診やドックの重要な要素として位置づけています。

さらには、国指定の検査機関としてパイロットや航空学校入学を目指す人や、無人航空機（ドローン等）操縦者を対象とする県内唯一の「航空身体検査」も実施しています。

また、国指定の検査機関として長浜市と京都大学とが共同で実施しています「0次予防健康づくり推進事業」につきまして、令和5年2月・3月にはパイロット事業として、24日間・89人の受診者を迎え入れました。この経験を活かし10月からは本格的な受け入れを行い、市民の皆さんの健康づくりに貢献して参ります。

さて、令和4年度の健診実績は、前年度比の件数ベースで約13.5%、金額ベースで約12.5%の伸びとなりました。

健診の内容を金額ベースでの伸び率から見ますと、一般健診は15.0%、企業健診は70.0%の増収となりました。また、個別の検査においては、近年需要が多くなっていますアレルギー検査や鎮静下での胃カメラ検査などが特徴の一つとなっています。

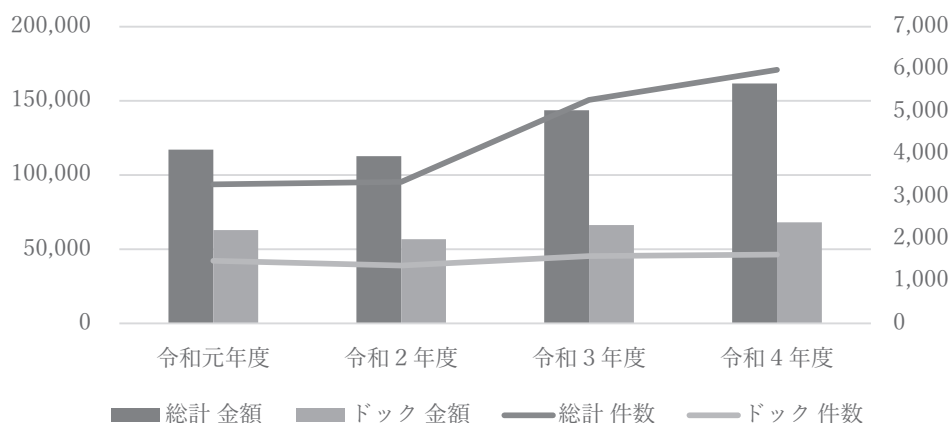
そのほか、「びょういんの参観日」におけるセンターでの健診体験をはじめ、長浜市健康推進課との協働により「出前講座」や「センター見学会」などにおいて健診の重要性はもとより、センターの広報周知に努めました。

また、センターでご利用いただける「人間ドッククーポン券」を「長浜市ふるさと納税返礼品」に登録しました。ふるさと納税寄付者が受診はもとより、ふるさと長浜にお住まいの方へプレゼントとしてもご利用いただけます。

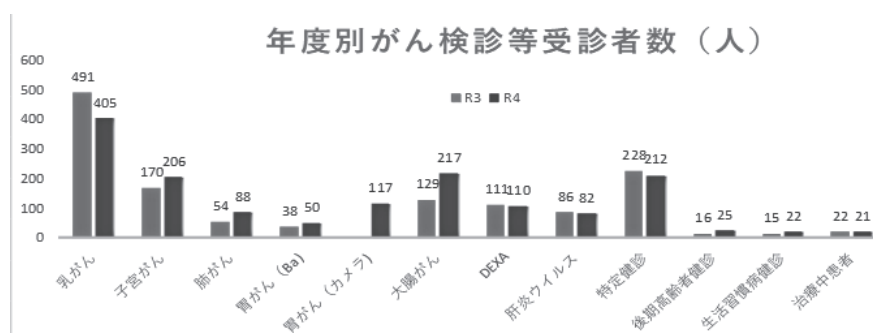
1) 業務実績 近年の実績（金額：千円）

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
総計	金額	117,133	112,694	143,674	161,701
	件数	3,280	3,339	5,271	5,982
ドック	金額	62,859	56,795	66,279	68,106
	件数	1,477	1,365	1,587	1,623

ヘルスケア研究センター 実績



年度別がん検診等受診者数												
	乳がん	子宮がん	肺がん	胃がん (Ba)	胃がん (カメラ)	大腸がん	DEXA	肝炎ウイルス	特定健診	後期高齢者健診	生活習慣病健診	治療中患者
R3	491	170	54	38		129	111	86	228	16	15	22
R4	405	206	88	50	117	217	110	82	212	25	22	21



2) ながはま 0 次予防コホート事業

パイロット健診 2/1 (水) ～ 2/17 (金) (13 日間) 51 人
 3/1 (水) ～ 3/15 (水) (11 日間) 38 人 計 89 人
 収入 1,994,470 円

開放型病床生涯教育研修会 1/12 (木)

松田文彦 京都大学大学院医学研究科附属ゲノム医学センター長
 「ヒト生物学研究における大規模ゲノムコホートの果たす役割」

3) びょういんの参観日

開催日 : 令和 4 年 11 月 19 日 (土)

取組内容: 「家族で 3 番勝負」

ミニミニドック健診体験 (握力、立ち上がりテスト、InBody)

参加者 : 18 組・54 人

4) センター見学会

期 日: 11/8 (火)・11 (金)・15 (火)・18 (金)・22 (火)・25 (金)

参加者: 各回 7 ～ 3 人 計 34 人

内 容: センター内見学、センター長講義、検査体験 (InBody、立ち上がりテスト)

5) 出前講座

期日	地域	講座内容	講師	参加者
R 4.7.14	びわ地区	予防と早期発見の大切さ（生活習慣病 がん）	石田センター長	54 人
R 4.7.27	北郷里地区	がんの原因・症状・予防について日常生活での注意点	伏木特任部長	26 人
R 4.9.29	北郷里地区	睡眠の大切さについて学ぼう	伏木特任部長	16 人
R 4.11.24	長浜地区	フレイル予防 お口から全身に及ぼす影響とは ムセを防ぐ 嚥下体操	杉藤医師 藤田言語聴覚士	33 人

6) 地域交流事業

六荘地域づくり協議会との交流

10/29（土）午後 1 時 30 分～ 文化祭週間に合わせて健康講演会 43 人

石田センター長 「病気の早期発見と健康寿命の延伸のために」

中村管理栄養士 「今夜からできる ゆるふわ 食事療法」

7) ふるさと納税返礼品に人間ドッククーポン券

ポータルサイト：ふるさとチョイス、さとふる、楽天ふるさと納税

対象ドック：日帰りドック、1 泊ドック、脳ドック、脳ドック + 1 泊ドック
航空身体検査

寄付額：10,000 円～ 100,000 円（6 種）

クーポン券額：3,000 円～ 30,000 円（6 種）

療養病棟 2 階

勤務医師

大野 暢宏 責任部長 平成18年2月～ インфекションコントロールドクター（ICD）
日本医師会認定産業医
日本呼吸器外科学会指導医
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医

開放型病棟 / 開放型病床

業務実績

令和 4 年度の業務実績は、延べ入院患者数は 87 人、開放病床利用率は 0.5%となりました。
開放病床は院内の病棟で 50 床を確保しています。

評価

共同指導は開放型入院の基本ですが、現状では在院日数の減少やびわ湖あさがおネットの普及による情報共有、退院支援の推進による登録医の先生方との情報交換が進むことで共同指導の機会の減少に繋がっています。

地域包括ケアシステムの推進の中でも登録医の先生方に少しでも共同診療に来院していただけるような開放病床の運営やシステムの構築が課題と考えています。

臨床研修医

研修医師

市原 豪	令和4年4月～
中田 啓哉	令和4年4月～
初村 拓毅	令和4年4月～
深野 毅雄	令和4年4月～
山崎 一輝	令和4年4月～
渡邊 重之	令和4年4月～
佐々木 暁香	令和4年4月～令和5年3月
井上 遥香	令和3年4月～令和5年3月
マクラケン佳世	令和3年4月～令和5年3月
伊原 俊之	令和3年4月～令和5年3月
桂 東吾	令和3年4月～令和5年3月

令和4年度 市立長浜病院 臨床研修医 診療科ローテーション表

氏 名	1～4週	5～8週	9～12週	13～16週	17～20週	21～24週	25～28週	29～32週	33～36週	37～40週	41～44週	45～48週	49～52週
	4/1金～5/1日	5/2月～5/29日	5/30月～6/26日	6/27月～7/24日	7/25月～8/21日	8/22月～8/28日 8/29月～9/18日	9/19月～10/28日 10/29月～10/18日	10/17月～11/13日	11/14月～12/11日	12/12月～1/8日	1/9月～2/5日	2/6月～3/5日	3/6月～3/31金
市原 豪	泌尿器科	呼吸器内科	リウマチ・膠原病内科	精神科（セフィロト）	腎臓代謝内科	消化器内科	・有給休暇 ・放射線科（診断）	脳神経外科	循環器内科	循環器内科	麻酔科	産婦人科（長浜日赤）	産婦人科（滋賀医科大学）
中田 啓哉	呼吸器内科	放射線科（診断）	消化器内科	腎臓代謝内科	小児科（彦根市立）	腎臓代謝内科	産婦人科（近江/八幡）	麻酔科	精神科（セフィロト）	循環器内科	循環器内科	呼吸器外科（3/1～休）	循環器内科（3/19休）
初村 拓毅	消化器内科	脳神経外科	放射線科（診断）	腎臓代謝内科	腎臓代謝内科	・有給休暇 ・リウマチ・膠原病内科	産婦人科（長浜日赤）	小児科（長浜日赤）	麻酔科	呼吸器内科	精神科（セフィロト）	循環器内科	循環器内科
深野 毅雄	放射線科（診断）	リウマチ・膠原病内科	呼吸器外科	リウマチ・膠原病内科	消化器内科	呼吸器内科	呼吸器内科	循環器内科	精神科（セフィロト）	麻酔科	休	産婦人科（滋賀医科大学）	小児科（長浜日赤）
山崎 一輝	消化器内科	麻酔科	呼吸器内科	小児科（彦根市立）	産婦人科（近江/八幡）	精神科（セフィロト）	外科（9/19～10/10） 脳神経外科（10/7～10/16）	放射線科（診断）	腎臓代謝内科	腎臓代謝内科	脳神経外科	脳神経外科	脳神経外科
渡邊 重之	リウマチ・膠原病内科	消化器内科	麻酔科	精神科（セフィロト）	脳神経外科	放射線科（診断）	泌尿器科	循環器内科	小児科（長浜日赤）	腎臓代謝内科	腎臓代謝内科	呼吸器内科	産婦人科（長浜日赤）
佐々木 暁香 【たすき氏】	循環器内科	リウマチ・膠原病内科	小児科（彦根市立）	眼科	呼吸器外科	消化器内科	精神科（セフィロト）	腎臓代謝内科	救急科（長浜日赤）	救急科（長浜日赤）	呼吸器内科	麻酔科	消化器内科

氏 名	1～4週	5～8週	9～12週	13～16週	17～20週	21～24週	25～28週	29～32週	33～36週	37～40週	41～44週	45～48週	49～52週
	4/1金～5/1日	5/2月～5/29日	5/30月～6/26日	6/27月～7/24日	7/25月～8/14日 8/15月～8/21日	8/22月～9/11日 9/12月～9/18日	9/19月～10/16日	10/17月～11/13日	11/14月～12/11日	12/12月～1/8日	1/9月～2/5日	2/6月～3/5日	3/6月～3/31金
井上 遥香	麻酔科	脳神経内科（滋賀医大）（5/9から）	脳神経内科（滋賀医大）	消化器内科	・消化器内科 ・地域医療（いぶき）	・地域医療（いぶき） ・有給休暇	腎臓代謝内科	腎臓代謝内科	脳神経外科	脳神経外科	脳外科	血液内科（滋賀医大）	有給
マクラケン佳世	リウマチ・膠原病内科	腎臓代謝内科	地域医療（いぶき）	呼吸器外科	有給休暇	地域医療（浅井東）	消化器内科	脳神経内科（滋賀医大）	皮膚科（滋賀医大）	整形外科	整形外科	循環器内科	リウマチ・膠原病内科
伊原 俊之	泌尿器科	泌尿器科	腎臓代謝内科	泌尿器科（滋賀医大）	地域医療（いぶき）	麻酔科	麻酔科	泌尿器科	皮膚科（長浜日赤）	泌尿器科	泌尿器科	泌尿器科	泌尿器科
桂 東吾	地域医療（いぶき）（4/4から）	麻酔科（滋賀医大）（5/9から）	麻酔科（滋賀医大）（5/10から）	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	消化器内科	麻酔科	麻酔科（滋賀医大）	有給

当院臨床研修について

1年目は基本研修科目として、内科（6ヶ月）、救急（3ヶ月）、選択必修（3ヶ月）の研修を行います。

2年目は、湖北医療圏域の診療所を中心に研修先を選択する地域医療（1ヶ月）の他、残り11ヶ月を選択期間にしており、研修医の自主性と志向に応じた自由度の高いプログラム設定をしています。

また、週1回程度の宿日直研修を通して、プライマリケアの習得に十分配慮しており、基礎的研修項目は、厚生労働省の指針に準拠して設定した行動目標および経験目標に沿って、一般臨床医としての基本を研修し、指導医から評価を受けることとなります。



中央材料室

尾田 和広 室 長
野村耕一郎 看護係長

今年度のトピックス

1. 働きやすい職場作り

1) リリーフ体制の構築

手術終了後の器材点検は、中央材料室スタッフが手術室へ行き、一時洗浄と確認作業を行いました。手術室からは、スタッフを限定して午前中の定期リリーフ体制を整備しました。緊急手術にて手術室からの定期リリーフが困難な場合は、スポットリリーフの業務調整を行いました。

2) 手術室と業務調整ができる

手術室 / 中央材料室連絡会議を年度早々に開催して、業務改善方法を協議しました。診療科と手術申込の際の調整を行ったり、使用器材の調整を行いました。

3) 個々が活気ある職場作りに貢献することができる

職場風土を改善できるようにアサーティブコミュニケーションを心がけることを推進し、ストレスから自分を守るセルフケア動画視聴を行いました。

2. 安全な器材を提供する

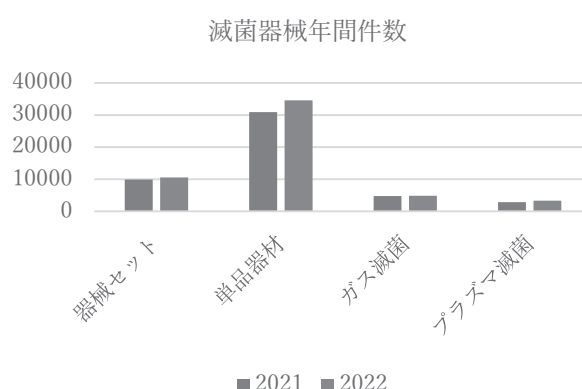
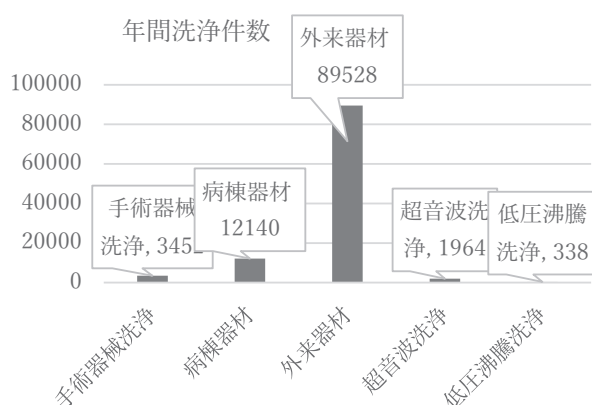
1) 洗浄手順を追加・修正し、掲示することで正しい器械洗浄を行うことができました。

また、洗浄業務のマニュアルを基に実践形式での指導を行い、理解できているかを適宜スタッフに確認しながら現場教育を行うことで、洗浄方法の精度向上につながりました。

2) 器械セットができるスタッフの育成できる

各器械セットごとに合格基準を作り、器械セットができるスタッフ3名を育成することができました。

業務実績



評価

手術室からのリリーフ者を限定することで、業務の理解・習得が早く効果的であったと考えます。また、中央材料室から手術室へのリリーフ方法として、手術室にて共に器械カウントする事で器械紛失の減少にも繋がりました。また、洗浄部門と器械セット部門に分けて業務を行うことで、業務の効率化が実施できました。今後は、技術チェックリストを作成して、更に精度の向上を図ります。

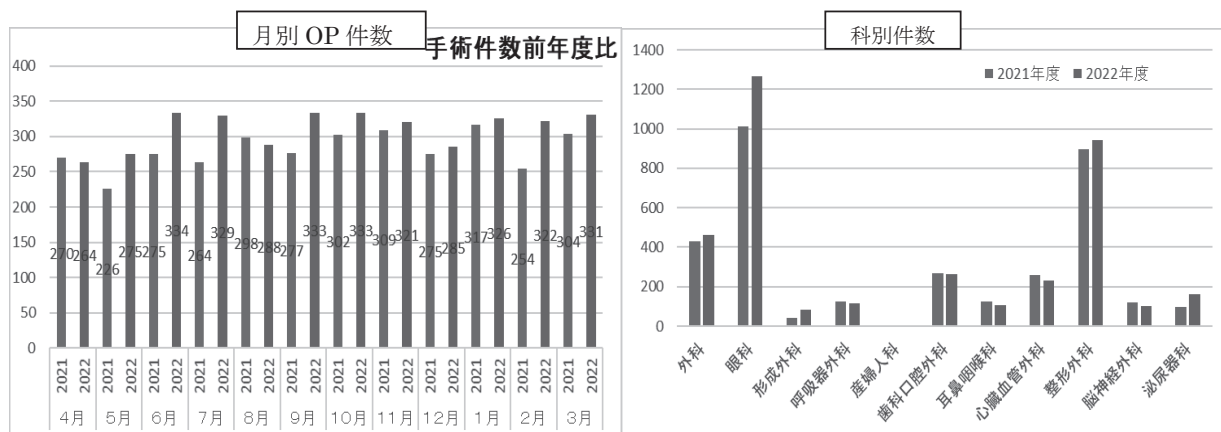
中央手術室

上田 修吾 室 長
野村耕一郎 看護師長

今年度のトピックス

- ①コロナ対応の手術に関しては、緊急手術もできる体制が整いました。
- ②術後疼痛管理チームの発足、2月から活動開始。薬剤科と協働して術後疼痛管理を実施。今後は加算対象症例の回診を増やして術後の痛みを軽減する活動を拡大します。
- ③当院での臓器提供実現に向けて、マニュアルの整備、シュミレーションなどの準備を行いました。
- ④中央材料室との業務協力にて、リリース体制構築を行い全面委託への検討を実施しました。
- ⑤患者総合支援センターでの手術室看護師による術前外来および説明動画を作成して、患者さんにわかりやすい説明の強化を図りました。
- ⑥材料管理専門の委託業者による診療材料管理体制を維持し、業務分担専門化に努めています。

業務実績



評 価

昨年度に引き続き、COVID-19により手術件数に影響が出ましたが、徐々に件数も回復しています。全体では11%の手術件数増加となっています。形成外科、泌尿器科、眼科が大きく増加しました。月曜日と金曜日の稼働率が悪く手術枠の変更を手術室運営委員会にて検討しましたが、変更できる診療科が少なく一部修正を行いました。稼働率の上昇には至りませんでした。月・金曜日の稼働率を上げるために日曜日の入院や金曜日の術後回診など病院を上げての取り組みが必要と考えます。

中央材料室とリリース体制を構築することで器械がスムーズに流れるように調整を行いました。また、手術室看護補助者が中材へリリースすることで業務支援を安定的に行えました。さらに、リリース体制構築により業務協力・機器に対する知識の向上に繋げることができました。夜間の手術であっても翌日に医療器材を迅速に提供できるためには、手術室看護師も滅菌業務を行うことが必要であり、来年度は看護師が滅菌技術を習得できるように教育を行う予定です。



薬剤局

小室 太郎 薬剤局長兼副院長
野淵 孝二 副薬剤長

今年度のトピックス

- ・がん薬物療法 ・継続した人材育成 ・病院経営への積極的な関与
- ・医薬品安全管理 ・保険薬局との連携

業務実績

◆がん薬物療法◆

今年度も病棟担当薬剤師・がん薬物療法認定薬剤師・外来がん治療認定薬剤師・緩和薬物療法認定薬剤師が連携し、外来～終末期の緩和治療まで薬剤師が切れ目なく関われる体制を整え、チームとしてがん患者さんに関わりました。

◆継続した人材育成◆

地域がん診療連携拠点病院として、がん薬物療法に精通した薬剤師の育成を進め、次世代のがん治療に関わる認定薬剤師を育成しています。各専門分野の学術大会・研究会への参加を推奨しており、3 演題を発表しました。認定資格の取得や専門知識をさらに向上させるために薬剤師全員が e- ラーニングを受講し、自己研鑽しました。

◆病院経営への積極的な関与◆

2022 年病院経営戦略セミナーに参加し、薬剤管理指導件数向上に取り組みました。その結果で令和 3 年度の実績より 1.5 倍上昇しました。薬剤管理指導は病院経営だけでなく、患者満足度・タスクシフト・医療安全に寄与する業務であり積極的に算定していきます。

◆医薬品安全管理◆

- ・院内研修会を年 2 回開催しました。
- テーマ「注射用カリウム製剤について」「抗凝固薬の中和剤について」

◆保険薬局との連携◆

外来がん薬物療法における地域保険薬局との連携を強化するため、連携充実加算を取得しています。保険薬局薬剤師を対象に化学療法レジメン研修会を実施しました。保険薬局薬剤師との連携を通じて、患者さんに切れ目のない医療を提供しました。

まとめ

依然として薬剤師不足は続いており、限られた人員で業務を効率的に行うことに注力しました。今後は薬剤業務を充実するために、各大学への働きかけや病院 HP を充実して優秀な人材を確保していきたいと考えています。

医療技術局

古山 忠宏 局 長

医療技術局は、栄養科、中央検査技術科、放射線技術科、リハビリテーション技術科、臨床工学技術科、歯科・眼科技術室の5科1室の組織となっています。病気等の診断に必要な検査をはじめ治療、栄養管理、そして、日常生活への復帰に至るまでの診療をサポートする様々な国家資格を有した専門職の所属です。各科、室において専門の知識と技術を有したスタッフが、院内各局と連携し専門性を活かして業務を遂行し、幅広く診療のサポートを行っています。令和4年度は、正規職員は3名が退職し、新たに8名の仲間を迎え入れました。また、パートを含む会計年度任用職員は、4名が退職し、5名の仲間を迎え入れました。

令和元年12月に中国武漢で端を発した新型コロナウイルス感染症は、令和4年度も第7波、第8波と大きなうねりを繰り返し、引き続き感染者への対応、感染防止対策等に追われた1年となりました。しかし、令和5年5月8日からの5類移行を見据え、年度末からは、緩やかではありますが、withコロナへの動きが感じられました。

令和4年度の医療技術局としての大きなトピックスは、まず中央検査技術科で国際規格ISO15189の認定を取得することができたことです。これにより、中央検査技術科の精度向上に加え、当院としてがんゲノム医療への取組みが大きく進展するものと思われます。次に、スウェーデンに本部を置くERAS® SocietyのERAS（enhanced recovery after surgery）術後回復促進プログラム実装について、日本で初めて当院で実施することになり、ERAS®チームとして、栄養科、リハビリテーション技術科を中心に積極的に関わることができました。また、念願でありました放射線治療装置（リニアック）の更新、放射線治療センター診察室等の増築工事が令和5年夏頃の稼働を目指してスタートしました。これまでも湖北、湖東医療圏域で唯一高精度放射線治療が可能な施設として、また、市立病院、地域がん診療連携拠点病院としての役割を果たしてきましたが、最新の放射線治療装置に更新することにより、さらに精度の高い安全、安心な放射線治療が可能となります。

コロナ禍において、医療技術局としての活動も引き続き3密を避けるため、絆プロジェクトや医療技術局全体の研修会の開催は断念せざるを得ませんでした。しかし、毎月技師長会議を開催し、院内、医療技術局内の情報を共有し連携を深めました。また、院内設置の自衛消防組織の存在を再認識するため、医療技術局内で緊急連絡体制の確認と連絡訓練を実施しました。あつてはならないことですが、有事の際は迅速に行動できるよう取り組みました。

また、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士では、令和3年度の法改正による業務拡大に伴う告示研修が開催されています。令和4年度も、法改正に対応すべく告示研修受講に向け、各科で積極的取り組みました。

令和4年度も医療技術局の運営に対し、各科・室技師長をはじめ局内全ての職員、そして、院内各局のご支援、ご協力を賜りありがとうございました。新型コロナウイルス感染症につて、今後はwithコロナを見据えて取り組む時期にきていと考えられます。今後も、医療技術局と院内各局との連携を図り、そして、医療技術局内においても、さらに各科・室の連携を強化し、安全・安心・信頼の医療が提供できる医療技術局として尽力して参ります。引き続きご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

なお、各科・室の詳細については、各科・室の報告をご参照ください。



栄養科

中川 太郎 科 長
赤尾真樹子 次 長

栄養科基本方針

安心、安全でおいしい食事の提供を目指します。
思いやりの心のかよう栄養管理に努めます。

組織（令和 4 年 4 月 1 日現在）

管理栄養士 9 名、調理師 17 名、炊事員（調理補助）1 名、事務職員 1 名
炊事員（食器洗浄パート職員）7 名
合計 35 名

今年度のトピックス

- ・病院機能評価 3rdG の受審
- ・滋賀県立大学実習生 1 名（管理栄養士課程）、滋賀短期大学実習生 1 名（栄養士課程）の受け入れ
- ・入院栄養食事指導増加の取り組み
- ・早期栄養介入管理加算算定開始の取り組み
- ・ERAS®（術後早期回復プログラム）開始に伴う取り組み
- ・O次予防開始に伴う取り組み
- ・アクアファン MD100（エネルギー補給飲料）の新規採用
- ・ガス立体自動炊飯器 2 台の更新
- ・下膳カート 12 台の更新
- ・夕食の献立効率化の取り組み
- ・備蓄食品の更新

業務実績（令和 4 年度）詳細は各種統計資料参照

給食業務状況（患者給食延べ数） 305,300 食 / 年（278 食 / 1 回平均）
栄養指導件数（個別指導） 1,882 件 / 年

評 価

今年度は、上記トピックスのとおり積極的に業務改善に取り組んだ年度でした。今後も課題解決に向けて努力いたします。



臨床工学技術科

辻 克信 技師長
草野 信悟 次 長
藤田 忠夫 専門員

今年度のトピックス

令和4年度4月に臨床工学技士1名が増員され計13名となりました。当科は通常の日常業務と急性血液浄化業務、心臓カテーテル治療、心臓血管手術などの緊急業務に対応しつつ、新たな業務にも対応できる柔軟性が必要なため今回の増員は今後も拡大していく業務に対応するための長期計画の一端として大きな進歩となりました。また、植込み型心臓電気デバイス装着患者数増加に追従するための対応として他部署との連携や管理システムの導入に向けた活動を実施してまいりました。これからは既存業務を充実させ、新たな業務の拡大に努め地域医療の発展に貢献してまいります。

業務実績

①臨床技術提供業務（カッコ内は症例数）

血液浄化

- ・持続的血液濾過透析 226回（40）
- ・エンドトキシン吸着 3回（1）
- ・血漿交換 6回（1）
- ・血漿吸着 1回（1）
- ・顆粒球除去療法 10回（1）

手術室

- ・人工心肺装置使用手術 35症例

循環器

- ・経皮的冠動脈インターベンション 498回
- ・末梢血管治療 151回
- ・ペースメーカー植込み 40回
- ・ペースメーカー交換 23回
- ・カテーテルアブレーション治療 139回
- ・心臓植込みデバイス遠隔モニタリング管理患者数 133名

その他

- ・経皮的心肺補助装置使用(PCPS) 3症例
- ・大動脈内バルーンパンピング(IABP) 21症例
- ・腹水濾過濃縮 28件
- ・カテーテルアブレーション 139症例

②医療機器点検業務

院内定期点検

- | | | | |
|------------|------|--------------|------|
| ・輸液ポンプ定期点検 | 186件 | ・シリンジポンプ定期点検 | 112件 |
| ・除細動器定期点検 | 19件 | ・電気メス定期点検 | 26件 |

貸出回数

- | | | | |
|----------------|--------|--------------|--------|
| ・輸液ポンプ | 2,646回 | ・シリンジポンプ | 1,117回 |
| ・挿管用人工呼吸器 | 41回 | ・NPPV(V60) | 189回 |
| ・NHF | 78回 | ・離床センサー | 214回 |
| ・酸素濃縮器 | 32回 | ・経皮的血液ガス分析装置 | 14回 |
| ・逐次型空気圧式マッサージ器 | 257回 | ・経腸栄養ポンプ | 61回 |

③教育研修

・人工呼吸器研修	3 回	参加人数	38 人
・透析、血液浄化研修	1 回	参加人数	5 人
・手術室新人研修	3 回	参加人数	3 人
・感染対策研修	1 回	参加人数	11 人
・循環器業務研修	6 回	参加人数	23 人
・令和 4 年度医療機器安全基礎講習会		参加人数	3 人
・令和 4 年度医療機器安全管理研修会（e ラーニング受講形式） 「マスクフィッティングの方法・マスク換気（V60）の適切使用」受講者 312 人			

放射線技術科

古山 忠宏 主任部長

富田 聡 技師長

田邊 啓太 参 事

宮川 孝史 次 長 佃 義則 次 長 西村 正明 次 長

今年度のトピックス

令和 4 年度の放射線技術科は、退職者 1 名の欠員補充と、増員 1 名で合計 2 名の新たな仲間が加わり、診療放射線技師 23 名（湖北病院人事交流技師 1 名、医学物理士 1 名）、受付 3 名、助手 3 名の合計 29 名での体制となりました。

令和 2 年度からのコロナ禍も 3 年目となり、第 8 波では感染者数が過去最多を記録するなどしましたが、玄関での健康チェック対応、一般市民へのワクチン接種対応の当科への応援要請などは無くなり、少し落ち着きを取り戻しましたが、引き続き感染対策に追われる一年となりました。

「医師の働き方改革」により法令の改正があり、勤務医の時間外労働に上限が設けられることとなり、医師の負担を軽減しつつメディカルスタッフがより専門性を生かせるように業務の移管や協働化が進められ、診療放射線技師の業務範囲も拡大されることとなりました。これにともなう告示研修が令和 3 年度から始まり、当院においても、令和 4 年度末時点で 8 名が受講済で、今後も早期の全員受講を目指し計画的に進めていく必要があると考えています。また、当院でのタスクシフト・シェアの一環として、放射線検査について、診療放射線技師が検査オーダーを医師の要請があれば、代行入力する事としました。医療安全面を考慮し、患者さんが撮影室または、撮影装置の前におられる時に限りという条件での対応になりますが、少しでも医療の質を保つため協力できればと考えております。

令和 4 年度は、医療機器の新規導入、更新等はありませんでしたが、MRI 装置においては、撮像時間の短縮が可能になるアプリケーションソフト、圧縮センシング（CS）技術を用いた撮像法を 1.5T-MRI 装置に導入しました。この手法を用いることにより、検査時間が頭部や関節などで数分程度、腹部などの検査時間の長い場合には 10 分近く短縮されました。これにより検査効率が上がり、患者の検査時間に対する負担も減少しました。今後は、MRI 装置の稼働率を上げるため、予約検査枠を増やす方向で考えています。また、血管造影装置 1 台を更新予定であり、令和 5 年度中の稼働を目指し、現在、機種選定等を進めているところです。

放射線治療装置についても、現在稼働している装置 CLINAC iX（VARIAN 社製）は、平成 20 年から 14 年経ち更新時期を迎えています。令和 4 年 12 月 1 日から治療休止となり設置工事が開始さ

れました。約 6 ヶ月の治療停止期間を経て令和 5 年度初頭には新装置 TrueBeam (VARIAN 社製) で放射線治療を再開する予定です。ただし、世界的な半導体不足等により装置搬入の時期が 1 ヶ月程遅れていることもあり、治療再開時期にも影響を及ぼしています。

高精度放射線治療に関しては当院が湖北唯一の実施可能な施設であることから、患者さんを始め関係者の皆様には大変ご迷惑をおかけしていますが、新装置への期待も大きくなっています。

また、放射線治療装置更新と併せて診察室や治療計画室の増築工事が令和 5 年 3 月から開始し、年末頃から使用できる予定です。完成の暁には放射線治療センターとしてさらに充実した施設となります。

業務実績

放射線診断部門の検査件数は、入院外来患者数がほぼ横ばいとなる中、RI と ESWL を除き、全ての検査が増加する結果となりました。CT、ポータブル撮影については、コロナ第 7 波、8 波と感染者数が増加した時期に、当院においても、コロナ患者受け入れ数、コロナ入院患者数が増加し、また、重症化する患者も多く、その事が影響していると思われます。MR については、救急外来からの MR 緊急検査依頼が増えたことに加え、年度後半に導入した CS アプリにより検査時間が短縮され、緊急検査依頼に応じやすくなった事も要因と思われます。また、働いておられる方でも無理なく受診できるための日曜日乳癌検診は、4 回実施し合計 42 名の検診を行いました。

放射線治療部門の検査件数は、装置更新の影響で総患者件数は前年度の 219 件から今年度は 135 件と減少しています。その内高精度放射線治療としては、IMRT が 35 件、定位放射線治療が 31 件となっています。総患者件数に対するこれら高精度放射線治療の割合は、前年度 53.4% から今年度 48.9% と減少しています。

各検査件数等は、別掲の放射線科 / 放射線技術科業務状況をご参照ください。

当科担当の委員会では、放射線安全委員会、医療放射線安全管理委員会、放射線治療品質保証委員会があり、職員の被ばく防止・低減、健康管理、放射線治療における品質管理・安全管理について協議、検討を行いました。医療放射線安全管理委員会では、令和 4 年 12 月 13 日に「診療放射線の安全利用について」をテーマに、医療放射線安全管理責任者の若宮誠先生を講師に研修会を行いました。また、放射線安全委員会では、令和 4 年 6 月 14 日に「放射線の基礎知識と放射線科検査、治療の注意点」「放射線療法における有害事象」「造影剤の話」の 3 テーマで研修会を行いました。

各委員会の活動報告については、別掲委員会活動報告をご参照ください。

評価

「見える診療放射線技師」を目的に取り組みを始めた「Radiation Information」も令和 4 年度で 10 年目を迎え、年間 2 回発行し、放射線技術科の情報発信を図ることができました。

令和 4 年度の目標の一つとして、業務効率改善に向けて 5S 活動を推進するとし、各個人が毎月テーマを決め 5S 活動を実施しました。清掃活動をテーマにしたスタッフも多く、コロナ禍でもあり、感染予防対策を図ることができました。

学術研究発表では、日本放射線腫瘍学会学術大会、滋賀県診療放射線技師会の学術研究発表会、各種研究会などで合計 4 演題の発表を行いました。また、各学術大会、研修会等へ参加し自己研鑽に励みました。

「医師の働き方改革」により今後さらに業務の移管や共同化が進む中、診療放射線技師として業務の効率化を図り、よりよい質の医療の提供に貢献していきたいと考えています。



リハビリテーション科

江藤 謹司 部長 平成13年6月～ 日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
日本整形外科学会認定リウマチ医
日本リハビリテーション医学会認定臨床医
日本骨粗鬆症学会認定医
日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士

業務実績

回復期リハビリテーション病棟入院患者数 190 人
リハビリテーション対診患者 432 件

カンファレンス等

回復期リハビリテーション病棟回診 週 1 回／木曜日
リハビリテーション対診患者回診 月 1 回



リハビリテーション技術科

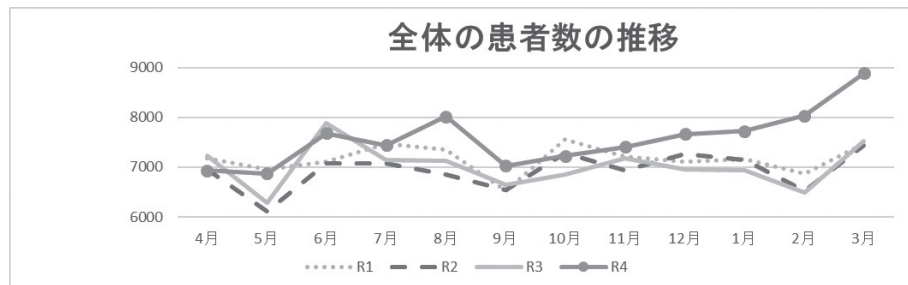
北村 淳 技師長
三浦 富子 参 事
田中 宏明 次 長 藤井三和子 次 長 田中 優子 次 長 杉江加代子 次 長

今年度のトピックス

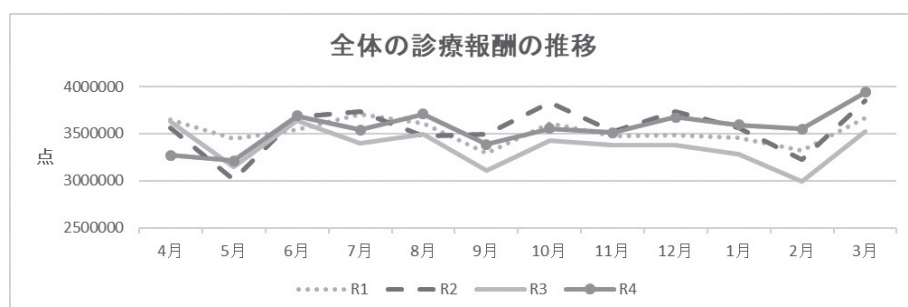
令和 4 年度には技師 2 名の補充と 9 月に 1 名、12 月に 2 名の休業者が復職し技師 45 名全員がそろいました。今年度は診療報酬の改定が行われ、回復期リハビリテーション分野では対象疾患の改定で、「急性心筋梗塞、狭心症発作その他急性発症した心大血管疾患又は手術後の状態」という新たな疾患区分が出来ました。回復期リハビリテーション病棟での年間の心臓リハビリテーション件数は 281 件でした。当科での心臓リハビリテーションの需要が多くなっています。9 月に病院機能評価で①一般病院②慢性期③回復期リハビリの 3 部門受審しました。受審に向けカルテの質の向上や運用マニュアルの整備を各々が役割を持って進めました。当科では他職種にも共有しやすい質の高いカルテを目標に取り組み、科独自のチェックシートを用いてのカルテ完成度は 94.4%と高い値で達しました。また、リハビリテーションの質向上に向けて自主トレーニングと病棟リハビリについて取り組み、指導総数 917 名で目標の 2 倍以上と大きく達成しました。科独自に行っている患者満足度調査にてリハビリに対する患者の満足度は 96%と高い評価を得ました。これらの取り組みの結果 3 部門共に高い評価を頂きました。11 月には 3 年ぶりのびょういんの参観日にて OT（作業療法士）体験として革細工とリハビリ紹介を行いました。多くの方に参加や質問して頂き大盛況で終えることが出来ました。3 月には対面での適時調査があり、疾患別リハビリでの専従者の役割について指導を頂きました。次年度から体制を整える準備を行っています。今年度は男性育児休業制度の取得促進が義務化されました。科内では初めて

男性育児休業制度の取得と部分休業制度を取得した復職もありました。科内スタッフで助け合い誰もが働きやすい職場環境を作って行きたいと考えています。

主な業務実績

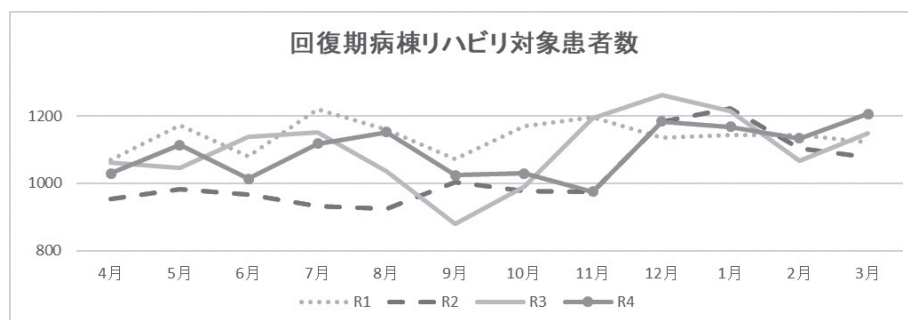


患者数前年度比は、令和3年度101%、令和4年度で106%でした。年間の患者数は過去最高となりました。



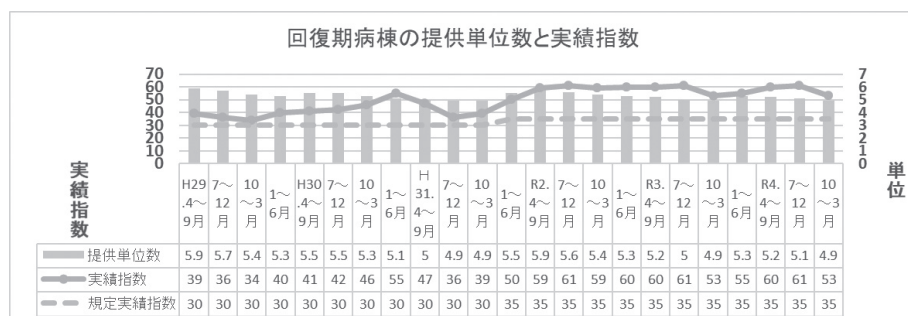
患者数の推移に比例して、診療報酬が推移しました。

11月からは患者数、診療報酬共にコロナ前の令和1年度を超える値となりました。



回復期病棟1ヶ月あたりの入院患者数は年間平均36.3人でした。

12月には急性期病棟患者増加に伴い、急性期病棟から回復期病棟への転棟が多くあり、1月には月平均40.5床に増加しました。



回復期病棟の年間平均提供単数は5.06単位

実績指数の年間平均は58と規定実績指数の35を大きく超えています。

【病棟回診への参加】

- ・回復期病棟部長回診（1回／週）
- ・廃用症候群回診（1回／月）
- ・心臓血管外科回診（1回／週）
- ・呼吸器内科回診（1回／週）
- ・嚥下回診（2回／週）
- ・NST回診（1回／週）
- ・RST回診（1回／週）

【定期カンファレンスへの参加】

- ・整形外科レントゲンカンファレンス（1回／週）
- ・脳外科カンファレンス（1回／週）

- ・ICU・CCU ミーティング（毎日） ・心臓血管外科術前カンファレンス（1回／週）
- ・ハートケアチームカンファレンス（1回／週） ・骨粗鬆症リエゾンチームカンファレンス（1回／月）
- ・緩和ケアチームカンファレンス（1回／週） ・ICU・リハビリテーションカンファレンス（毎日）

【臨床実習受け入れ】

8名 （理学療法：5名 作業療法：3名）

【資格・認定修得状況】

- ・がんリハビリテーション研修会修了者 29名 ・3学会合同呼吸療法認定士 11名
- ・心不全療法指導士 1名
- ・心臓リハビリテーション指導士 4名 ・認定心理士 1名
- ・日本糖尿病療養指導士 2名
- ・認定理学療法士（運動器）4名（脳卒中）2名（循環）1名（代謝）1名（呼吸器）1名
- ・介護支援専門員 2名 ・福祉用具プランナー 6名
- ・住環境コーディネーター2級 10名
- ・日本救急医学会認定 ICLS コースアシスタントインストラクター 2名
インストラクター 1名 コース修了 12名
- ・日本救急医学会認定 ISLS コース修了 1名 ・国際側弯シュロスセラピスト 1名
- ・終末期ケア専門士 1名
- ・ゴルフフィジオトレーナー・セラピスト 1名 ・入谷式足底板上級編コース修了 1名
- ・骨粗鬆症マネージャー 4名 ・認知症ライフパートナー1級 3名
- ・バランスボールインストラクター 1名
- ・生活向上マネージメント基礎研修修了 2名
- ・生活向上マネージメント実践者研修終了 2名 ・AMPS 認定評価者 2名
- ・地域リハビリテーション人材育成研修修了 2名
- ・臨床実習指導者研修修了（理学療法士）10名（作業療法士）2名

評 価

今年度はコロナにて減っていた患者数が増加し、過去最高となりました。反してコロナ関連の技師の休みが年間に247日、育児休業等の技師数の減少がありました。このような状況でも柔軟に対応した為、診療報酬、提供単位数において概ねコロナ前と同等の水準に導くことが出来ました。病院機能評価への取り組みの中でマニュアルの整備を行い、限られた時間の中での質の向上への取り組みを行い成果を上げることが出来ました。コロナ対策を取りながらも患者サービスを低下させないよう科内一丸となって努力しました。これらの経験を活かし、これからも皆さんに求められるリハビリテーションを提供できるよう邁進していきます。



中央検査技術科

宮元 伸篤 技師長

岡本 明子 次 長

橋本 里美 次 長

今年度のトピックス

生化・免疫検査部門

- ・今年度中央検査技術科はISO15189を取得しました。ISO取得にあたり、生化・免疫部門は精度保証の根幹を担う部門であることから、重点的に技術的な審査を受けました。ISOを受審し技術的な指摘事項を改善することにより、今まで以上に精密で正確な検査結果を提供出来るようになりました。

輸血検査部門

- ・ISO15189を取得しました。来年以降当院では日本輸血・細胞治療学会が認定する、輸血機能評価認定（I&A）の取得を目指すことを輸血療法委員会で承認していただきました。認定取得に向けて、今年度より輸血検査部門をはじめ看護局や診療局と連携し準備を進めています。
- ・輸血管理料Iおよび適正使用加算を今年度も取得しました。
- ・血液製剤の廃棄金額率は1.19%（昨年度0.84%）。

血液検査部門

- ・採血専門看護師を1名採用し、2階採血室と中央処置室の患者振り分け割合7：3を継続しています。患者さんの採血待ち時間は変わらず長くなっていますが、大きな苦情はなく、丁寧な対応を心がけています。
- ・ISO15189を取得しました。検体到着から検査結果報告までの時間（TAT）も監視し、迅速な報告を行っています。今後も、試薬や機材管理を徹底し、迅速で正確な検査結果報告に繋がっていきます。

一般検査部門

- ・ISO15189を取得しました。準備・審査・是正処置とISO取得に迫られた一年となりましたが、すべての業務を文書化し、記録を残すようにしたことで、業務の標準化と精度の向上を実現することができました。これからはISOを継続し、都度、指摘事項を改善することにより、今まで以上に精密で正確な検査結果を提供出来るよう努力してまいります。

細菌検査室部門

- ・前年度より、新型コロナウイルスの核酸増幅検査であるTRC法を実施しました。唾液によるTRC法の検査がほとんどで、医師による検体採取の負担も軽減されました。
- ・例年に引き続き、薬剤感受性スペクトラム表、病棟別・材料別菌検出数、厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業（JANIS）の還元情報を院内メールやネットフォルダに掲載し閲覧できるようにしました。また、感染対策向上加算におけるカンファレンスや感染管理委員会、感染対策担当者会議などに耐性菌等の集計データを提出し報告するほか、感染対策チーム（ICT）・抗菌薬適性使用支援チーム（AST）に所属し、毎週のカンファレンスや院内のラウンドに参加しています。

- ・ ISO15189 を取得し、医師などへの報告も記録し管理しています。また作業手順書にて技師間で手順を共有しています。

病理・細胞診検査部門

- ・ バイオマーカー検査 PD-L1 (SP263) を院内検査で実施するようになりました。
- ・ 認定病理検査技師を 1 名取得（計 3 名）しました。
- ・ ゲノム病理標準化講習会を 1 名受講しました。

生理検査部門

- ・ 今年度、全国で 2 番目に日本超音波検査学会認定の超音波検査室の精度認定を循環器領域および血管領域で取得しました。
- ・ 循環器内科の要望によりイベント心電図の検査を開始しました。ホルター心電図ではとらえきれなかった不整脈や虚血の検出に優れており、検査数も月に 4 件で 2 ヶ月先まで予約が埋まっています。

評 価

- ・ 臨床検査の国際規格である ISO15189 取得について、2023 年 3 月 3 日に認定されました。
- ・ (一社) 日本臨床衛生検査技師会が実施する品質保証施設認証制度において、その基準を満たしていることが認められ、品質保証施設に認証されました。
- ・ (一社) 日本超音波検査学会認定の超音波検査室の精度認定（循環器領域・血管領域）を取得しました。
- ・ 新型コロナウイルス対応について、術・検査前検査で唾液材料による TRC（Transcription Reverse-transcription Concerted reaction）法を実施しました。抗原定量検査は、主に院内緊急検査、地域外来・検査センター（PCR センター）検査で使用し、職員出勤前検査などでも、各科と連携して検査を実施しました。
- ・ 収入について、昨年度より件数は増加していますが、点数はやや減少しています。しかし、判断料や管理加算はやや増加しています。
- ・ 産育休者が常時複数人数ありますが、他部門からの応援態勢を整え全職員が協力しルーチン業務を行いつつ、ISO15189 受審に向けた QMS 活動の推進や審査後の是正処置にも取り組みました。採血専門看護師 1 名を増員しましたが、年度末にはヘルスケア研究センター所属の臨床検査技師 2 名の退職があり、その応援も必要となり業務が逼迫した状況が続きます。
- ・ オンライン中心になった研修会には積極的に参加し、各職員が技量を上げる努力を行いました。認定病理検査技師や緊急臨床検査士も各 1 名取得し、タスク・シフト / シェアに関する厚生労働大臣指定講習は 4 名修了しました。

歯科・眼科技術室

近藤 昭仁 技師長

新田 朋美 次 長

澤田 園 次 長

長谷川 博美 次 長

組織

歯科衛生士 4 名 歯科技工士 1 名 歯科助手 1 名 視能訓練士 5 名

今年度のトピックス

0 次健診事業における歯科検診、眼科検査業務について、ヘルスケア研究センターおよび関連部署とともに協議を行い、実施体制の検討を重ねながらパイロット事業に参画しました。

業務実績

周術期口腔機能管理料算定件数 1,757 件

気管内挿管時の歯列保護用口腔内装置製作数 225 装置

ロービジョンケア対応患者数 79 名

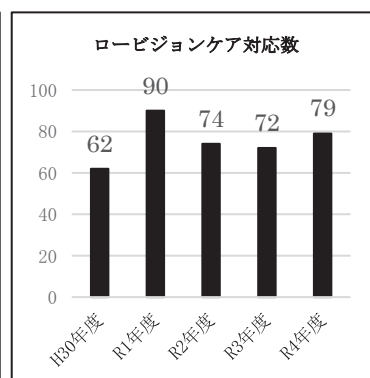
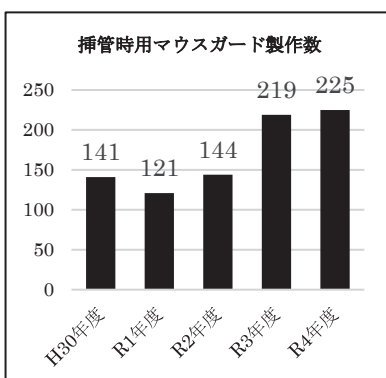
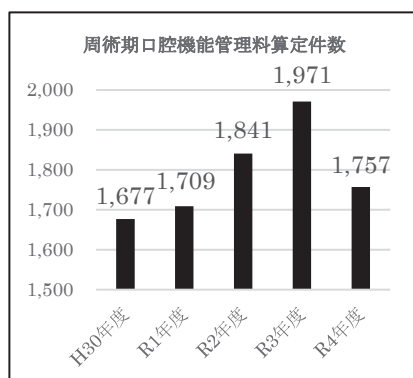
自動車運転に関わる眼科適性評価実施件数 17 件

航空身体検査実施件数 7 件

評 価

歯科衛生士と歯科技工士は、昨年度と同様に周術期口腔機能管理料の算定や挿管時マウスガードの製作に努めました。特に周術期の口腔ケアでは、さらに多くの手術症例に対応できるように、院内での連携を図ることが出来ました。また、歯科医療関連の感染対策については定期的に学習の場を設けて知識向上を図り、歯科助手も協働して感染防止対策を実施しました。視能訓練士は、ロービジョン患者の就労や就学に関する支援を強化するために、滋賀県立盲学校へ訪問して情報を収集するとともに、今後の連携について意見を交換しました。大学病院と情報交換を行うなどして、連携した支援を実施することもできたため、今後も他施設と積極的に協働することで、更に質の高いロービジョンケアを提供できるように研鑽を積んでいきたいと思ひます。

部署の年間取り組みとしては、医療安全対策室内会議の定期開催を継続することができました。さらに歯科外来では 5S 活動による安全で効率的な業務を目指す取り組みを展開し、眼科では視覚障害のある方へのサポートガイドを作成するため、定例の学習会を実施しながら準備を進めました。0 次健診事業における歯科検診、眼科検査業務については、今後も医師とともに実施体制などを検討していきたいと考えます。



看護局

弓削 悦子 局 長

吉川 敬子 理 事

草野 美樹 科 長

宮部 照美 科 長

岸本 尚子 科 長

山田 みか 係 長（教育）

1. トピックス

<令和4年度看護局目標>

目標 1

成果目標

「地域包括ケアを意識した看護実践ができる」

成果指標

- 1) 意思決定支援や地域調整困難事例からつながりを意識した事例検討会の実践
- 2) 院内外の訪問看護師と患者の自宅への同行訪問の実施
- 3) リソースナースの介入や相談できた事例数・入院前からの多職種連携事例検討数など、部署毎に具体的なアクションプランを立て実践。

当院の、2人の専門看護師、10領域15人の認定看護師、6人の特定行為研修修了者（認定含む）は、リソースナースとし、20人中12人は外来部門へ配置している。リソースナースは、特定の看護分野における熟達した看護技術及び知識を用いて看護を実践し、看護師への指導やコンサルテーションを実践し、在宅療養支援における多職種カンファレンスの参加や訪問看護師と共に患者宅への同行訪問を実施するなど地域への活動を拡大している。2022年度診療報酬改定の基本的視点と具体的な方向性の中で「外来機能の明確化」「連携強化」「重症化予防への取り組みの推進」など、これからの外来における専門性の発揮と責任や役割の明確化の必要性が示されたことや、外来から患者の在宅療養に関する相談や調整の依頼が増加していることもあり、外来看護師と協働し、患者の在宅療養生活を支援することを目的として、患者総合支援センターに在宅療養支援看護師を配置した。外来で在宅療養支援生活を支援していくことを目的に慢性疾患看護専門看護師を配置した。その体制の中で、各々の部署で事例検討を実施し、地域包括ケアシステムにおける当院の看護師の役割を意識し、退院支援や意思決定支援を展開することが出来た。特にがん患者支援においては、がんIC同席PHSの運用に合わせリソースの活用を積極的に行い患者家族に寄り添った看護提供を行った。また個々に応じた退院支援のスキル向上を目的とし、診療所や、訪問看護の協力を得て、地域への同行訪問を実践し、住み慣れた地域で、自分らしい生活ができるために必要な支援は何かを学ぶ機会とすることが出来た。

目標 2

成果目標

「心理的安全性のある職場作りができる」

成果指標

- 1) スタッフが自部署の職場風土をカイゼンするために、PDCA展開し実践

職場の難易度が増し、円滑なコミュニケーションを前提とした「支え合う組織風土」は重要であり、心理的安全性のある職場作りを目指し、各部署でのカイゼン活動を実施した。アサーティブコミュニケーション、Iメッセージ、サンクスカードなど互いに高め合える言葉を見える化し、還元する取り組みを9部署で実践された。モチベーション向上につながり、これがきっかけとな

り、報連相しやすい職場風土につながったとの声も多く、今後も引き続き活動を継続していきたい。

添付資料：令和4年看護局目標管理まとめ（BSCシート）

II. 看護局の組織体制

組織体制強化のため、看護科長1名、看護科長補佐4名、看護係長2名、看護主幹2名、看護主査6名が昇格した。改訂マネジメントラダーを活用し管理を実践し、月間管理要約で管理事例の振り返りを行い管理実践力向上に努めた。

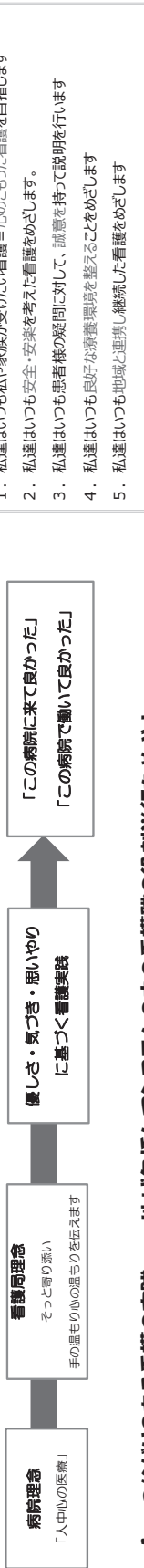
新採用職員は41名（既卒者3名、新人38名）入職した。看護学生時代のほとんどを、コロナ禍の影響を受けているため、新人教育として、入職初期の職場体験型研修の継続（看護師の仕事の実際を客観的に体験し、職業・職場の理解につなげる。）夜勤研修期間の変更（夜勤研修導入前の夜勤帯勤務見学、夜勤研修6月から導入～年末合格目標）早期のローテーション他部署見学実習（職場理解の促進、新人の特性に合った配置を思考する機会）の支援体制を整えた。チーム全体が指導者という意識で関わることが出来、結果として退職者 離職者ゼロであった。

III. 全体評価

今年度は、病院機能評価を受審するに当たり、課題の改善に向けてのマネジメント研修や、事例検討を重ね、事例シミュレーションや巡回を実践し、訪問審査を終えることができた。最終評価の感想の中で、高評価は得られたが、病院として努力が必要と自覚していた、意思決定支援、倫理課題の取り組みについて協議を重ね、事例検討を重ね、質向上につなげることが出来た。

全体で支えるCOVID病棟のあり方を検討し、平時と緊急時の効果的人材活用のため、基本体制に、一般病棟からの出向スタッフを配置し病棟運営を行った。また人材育成のための感染教育体制を整えたことで、今後を想定した柔軟に対応できる体制とすることが出来た。一般急性期病床も縮小され、2020・2021年度のコロナ禍で病床活用は低下したが、新たな病棟の開設と、病院組織の目標に向かって、各部署・委員会が取り組みを行ったことで、回復に向け結果を出すことが出来た。今後も新たな発想での改革を行い、患者、職員から選ばれる病院作りを目指して取り組んでいきたい。

令和4年度市立長浜病院看護局目標管理



2. 患者、職員から選ばれる病院作リモチベーションマネジメント

	成果目標	成果指標	目標値	目標値	目 標 値	評 価 ラ ン ク	考 察
財 務	・苦情件数が減る ・離職が減る	苦情件数 離職率	苦情件数減少 離職率低下	各部署 毎月実績数把握 毎月の管理要約			ご意見箱・苦情件数33件(前年比+9件)、感謝の手紙10件(前年比+1件)を 面会禁止が続く中、家族の思いに対しての確認不足や対応遅れが苦情につながっている。 離職率は78%(前年比-4%) 新人離職率は0%であった。
職 員 客	・自己、他者からの承認を受けることで満足 度が上昇する	患者満足度調査 職員満足度調査	目標管理アンケート(職場作りの貢献度):後 期60%以上できているが、70%以上 目標管理アンケート(職場環境の満足度): 後期60%以上が70%以上	病院の組織文化、患者満足度調査・9月頃実施・1月頃結果評 価 目標管理アンケート・初期(7月)最終(12月)実施、評価 人事評価:期首で動機づけ、中間で確認、最終面接で評価	B	目標管理アンケート結果で、職場環境(働きやすさ)の満足度は58%であった。心理的安全性のある職場作りにそれぞれが貢献しているが、日常業務の煩雑さで余裕が失われ精神的な不安定の低下が原因と考える。外因的(超過勤務時間の短縮・休職の活用)、内因的要素(承認・動機づけ・人間関係・コミュニケーション)ともに職場環境の改善を継続していく。	
業務プロセス	・心理的安全性のある職場作りができる	各部署カイゼン活動 PDCAサイクル実施 数 一人の行動にもつなげる	カイゼンできた事例 1事例以上/各部署 ※カイゼンとは、現場重視の考え方で現場スタッフが問題とらえていることをあげて、業務の内容やプロセスを見直すこと、解決策を考えるだけでなく改善案につなげること	各部署内の課題決定、現場の人間が問題の改善を図るために様々な知識を出し合い考えていく カイゼンに取り組む実施 PDCAの順に実施 参考:顧客の価値観やニーズを理解し、どうすれば高い満足感が得られるかを顧客とは患者であったりスタッフであったり を考える。また実施中でもすべてを可視化(数値やデータ、評価など)することで現場の具体的なカイゼン活動が伝わり、モチベーションが高まる	B	各部署事に心理的安全性のある職場作りを目指して、カイゼン活動を実施した。管理者目標は、スタッフが自部署の職場風土をよりよくするために自分自身も、まず、自己満足や自己利益を追求しないこと。目標管理は、心理的安全性のある職場、自部署の課題を理解しカイゼンにむけて取り組んでいます。この間に、77%以上の人が取り組めると考えている。日々の多岐にわたる業務の中心に、心理的安全性のある職場環境により、働き続けられるしくみとなりスタッフの満足感や達成感に繋がると考えられ、今後も引き続き活動を継続していく	
業務プロセス	・相互リリーフの基盤作り	・リリーフ計画数 ・リリーフ指針改訂、および周知	勤務計画作成時リリーフ計画毎月提出 100% 全看護職員周知 100% 7月中	勤務表作成時に計画のリリーフ表(可能日と要請日)を提出する。 リリーフ指針の改訂をし、各現場で周知する リリーフの正しい理解と実施させるための認識へ移行させる ※計画的なリリーフの場合には受け手側はスタッフを半日休ませるや時間外が少ない、などの反応を把握する	A	相互リリーフの基盤づくりができた。業務量・マンパワーを考慮しながらリリーフを実施した。	
学習と成長	優々が活気ある職場作りに貢献することができる	職場風土に関する学習会 (接遇やコミュニケーション、心理的安全性のある職場など)	学習会参加率100%(全看護職員)	看護師定着確保委員会が主体となり、職場作りに関する学習会を実施する (コミュニケーション・接遇……)	A	看護師定着確保委員会中心に、各部署事に職場風土に関する学習会を実施した	
学習と成長		職場作りの貢献度	期末評価で行動評価 5「職場作りがB以上100% 期末評価で行動評価 2「説明責任」がB以上が100%	相互の承認行動ができるための取り組みを組み入れる ・行動評価5「職場づくり」: 元気な挨拶や密な報告、相談、互いに感謝。承認をすることで、活気があり働きがいのある職場作り ・行動評価2「説明責任」: 相手(患者や職員)の立場や心情に理解を示し、誠意をもって納得感のある説明をしている ・師長、主任及びメンバー間からの支援や承認がある 人事評価育成面接後、教育面接・機会教育面接	B	目標管理アンケートにおいて、相互の承認や感謝の言葉を表し、活気ある職場作りに貢献できているかの問いに対して、60%以上できていると答えた者が83%であり、前半期よりも13%増加している。職場風土に関する学習会の実施や心理的安全性を意図したカイゼン活動により、貢献度が高まったと考える。個々の承認に関しては、人事評価育成面接時に実施した。 人事評価「説明責任」は96.5%「職場づくり」は96.4%という結果であり目標達成はできた	
学習と成長	・リリーフ(ローテ)をいかに、他部署を経験することを知となり、自部署で生かせることができる	目標管理アンケート結果 ・レベルⅢ以上 ・1日以上	目標管理アンケート(計画的リリーフ)により学習につながった評価が60%以上が70%以上	スタッフのローテ希望、または人事評価育成面接での動機づけを行い、リリーフ計画を立てる ・リリーフを業務とした人選とし、レベルⅢ以上とする ※ローテ希望者は各所属単位で計画することとする (レベルⅠ、Ⅱを含む)	C	58%の部署がB評価以上目標達成としている。目標管理アンケートにおいて、リリーフでの体験を自己学習や研修還元率に80%以上つなげられたと答えている者が49%と低い。リリーフに対する動機づけ、リリーフ後の学びの確認などを管理者が積極的に行うことにより、スタッフの意識も高まり、病棟を越えてリリーフ体制の構築に繋がると考える	

2022年4月



訪問看護ステーション

河野 智一 所 長 看護主幹

- ・訪問看護ステーションは看護師 11 名（常勤 7 名、非常勤 4 名）（常勤換算 10 人）と理学療法士 2 名（常勤 1 名、非常勤 1 名）、作業療法士 1 名（非常勤 1 名）、事務員 2 名が病院内と連携できる特性を活かし、医療依存度の高い中重度者のケア、在宅緩和ケア、在宅看取りの療養者の受け皿として事業を継続しています。

今年度の業務実績・トピックス

- ・今年度の利用状況は、延べ訪問件数 9,740 件（介護保険：7,294 件 医療保険 2,446 件）前年度に比し、557 件の減少でした。介護保険は 182 件減、医療保険は 375 件減でした。前期の事務員不足、看護師欠員の結果、昨年度と比較して訪問件数が減少したと考えます。認定、特定看護師が配置されており、医療的ケアが必要な利用者への看護実績から専門管理加算の算定が可能となりました。
- ・在宅看取り率は 44.0%でした（前年度 52.8%）。がん、心不全、神経難病や老衰など幅広い利用者に対して、最期まで住み慣れた場所で過ごしたいとの希望を叶えるために在宅医師と密に連携をとり、在宅緩和ケアを実践することができました。
- ・困難ケースは、地域で開催されるカンファレンスに参加し多職種と連携を深め、1 カ所の訪問看護ステーションだけでは解決できないケースへ 2 カ所目の訪問看護ステーションとして支援を継続しています。また病院併設の特徴を活かし、院内の専門、認定看護師に相談を行いながら訪問看護師が主体的に解決できるように取り組んでいます。医療依存度が高い利用者の医療処置や通院負担による生活の困難感に対して、看護師特定行為を積極的に用いることで困難感を改善できる事例が増えています。
- ・理学療法士、作業療法士の配置により、対象者の疾患特性や生活状況に応じた専門的なりハビリテーション（がん、呼吸、心臓など）を実施する事ができました。
- ・地域の在宅看護実習の受け皿としての機能を果たすため、看護学生の実習指導や院内看護師の同行訪問依頼に対応しました。
- ・コロナ禍による業務への影響に対応することや効率化を目的に、訪問看護業務へスマートデバイスを導入し、運用することができました。



事務局

藤居 敏	事務局長
嶋 吉夫	事務局理事
森 靖	総務課長
伊藤 仁文	医事課長
三原 了導	経営企画課長
三田 久容	医事課診療情報管理室長
雨森 之彦	総務課課長代理

総務課

(1) 人事・総務係

1. 医師の働き方の改革の取り組みの推進について

医師の働き方改革を推進するため、医師によるワーキンググループでタスクシフトや時間外勤務縮減の方法等の検討を行い、医師の負担軽減を図りました。また、労働基準監督署へ宿日直許可申請を行い、内科・外科・SCU 当直・ICU 当直の各体制で許可を受けました。

令和 4 年度から 5 年度までの医師の勤務時間短縮計画を策定し、引き続き医師が働きやすい勤務環境づくりを推進しました。

2. 診療体制強化に向けた医師の採用について

医師数が不足する診療科の医師確保が喫緊の課題となるなか、大学医局への派遣依頼等により診療体制の充実に努めました。

3. 臨床研修医（初期研修）の採用について

臨床研修医の採用については、病院合同説明会への参加、医学部の学外臨床実習生や病院見学の受け入れ、ホームページや電子メールによる情報発信に取り組みました。その結果、令和 5 年 4 月採用の臨床研修医採用試験には 14 人の受験があり、6 人の採用決定を行いました。

今後も指導体制の整備、症例研究に対する積極的な支援、やりたいことができる研修環境等に配慮しながら、初期研修から後期研修まで継続して当院に勤務いただける魅力ある病院づくりを目指してまいります。

4. 看護師の確保について

看護師の採用は、看護配置基準 7 対 1 を維持するため、定期採用試験 2 回の実施により、35 名を採用しました。また、確保対策としては、看護大学や専門学校の訪問、病院見学やインターンシップの受け入れ、採用内定者を対象とした国家試験対策講座の開講等を実施しました。新人看護師の養成では、院内教育や院外教育により、公務員・専門職としての自覚と責任を育むとともに、安全な看護業務を提供できるよう、教育体制やメンタルサポート体制を整え支援してきました。

また、看護師の離職率は、看護配置基準 7 対 1 の維持による看護師 1 人あたりの受持ち患者数の減や、負担軽減対策の実施により 6.3%に留めることができました。

今後においても看護師の確保と養成については、ワークライフバランスの推進や当院独自の創意工夫を重ねながら、職場環境の整備に向けて継続的に取り組んでまいります。

(2) 総務課経理係

予算編成や決算調整、試算表の作成、議会や監査の対応等、主に病院事業の財政面において、適正な予算執行や経営改善に向けての取組を推進しました。

また、病院事業に係る出納業務を行うなかで、医療費の収入や給与費、材料費等の支出が適正に行われているかについて管理するとともに、機器購入、工事費の支出、それに伴う企業債の借入や償還にあたっても、キャッシュ・フローの側面から、特に精密な予測と管理を行いました。

本年度は、令和5年度リニアック更新整備事業に向け、当院初となるクラウドファンディングを実施し、多くの企業・団体・個人様から多大なご支援をいただくことができました。いただきましたご厚意につきましては同事業の貴重な財源として活用します。

経営企画課

(1) 企画係

令和4年度は、新公立病院改革ガイドラインや滋賀県地域医療構想を踏まえ新たに策定した「長浜市病院事業 中期経営計画」（令和4年度から令和7年度まで）の1年目として、設定した事業目標の進捗管理を行い、地域住民の健康保持に必要な医療の提供に取り組みしました。

当院の病院医療情報システムは、平成31年1月から稼働した新システムの運用・保守フェーズとして、IT推進会議を3回開催し、開発当初のワーキンググループメンバーと事業者を交え、定期的な状況確認、協議を行い、安定稼働に努めました。

広報業務の一貫として、コメディカル連絡会議を中心に令和4年11月19日に「びょういんの参観日」を3年ぶりに開催しました。病院の紹介や様々な体験を通じて、病院を身近に感じてもらい、未来の医療関係者を育むことを目的としたもので、新型コロナウイルス感染症対策のため、規模を縮小しての実施となりましたが、延べ250人ほどの方にお越しいただきました。

また、病院ホームページでは、当院の医療提供体制の紹介や公開講座・研修会開催の案内のほか、広報ながはま「お元気ですか」への寄稿などにより病院の医療機能情報について発信してきました。

病院機能評価は、令和4年9月20日～21日に訪問審査を受審し、機能種別「一般病院2」及び副機能種別「リハビリテーション病院」と「慢性期病院」について認定（3rdG Ver.2.0）を受けました。

その他、倫理委員会、治験審査委員会等の所管委員会事務、施設基準等の管理及び届出事務等、医療監視等の受審（保健所による立入検査）など、企画係が一丸となって病院の企画運営に取り組みしました。

(2) 用度係

医薬品の購入に関しては、年2回の単価契約の更改にあたって、薬剤局と協調しながら、価格交渉を粘り強く実施し、経費の削減を図りました。

医療材料に関しては、新規診療材料委員会を立ち上げ、必要性和採算性を踏まえた採用申請品に関する審議や、令和元年度から参加している共同購入事業制度を活用した選定品への切換え業務を本格的に実施し、病院運営の健全化を図りました。また、メーカーや卸売業者とは、

随時、納入価格の交渉を行いました。

医療機器に関しては、高額な機器の更新を計画的に進めるため整備計画を策定し、老朽化した機器の更新や、新型コロナウイルス感染症に対応すべく、超音波診断装置や透析装置等の整備を図りました。また、高度な医療を提供するため手術顕微鏡の更新や放射線関連の検査時間の短縮を図るべく解析ソフトの更新を行いました。

湖北病院との物品調達にかかる契約事務の連携については、スケールメリットを意識した効率的な購入を進める中、具体的には、PPC 用紙の一括入札を実施した他、酸素濃縮器の賃貸借業務を両院一括にて契約しました。

そのほか、医療コスト適正化事業として、コンサル業者と連携し、交渉を重ね、委託費や医療材料費の削減を図りました。

(3) 施設管理係

施設管理係は、患者さんや付き添いの方などが当院を安全・安心かつ便利に利用していただけるように、施設や設備の点検や修繕、警備や清掃、売店の設置など、院内の環境整備に関する業務を担っています。

昨年度から老朽化した別館の空調設備の更新に着手し、寒暖の差による負担が少ない、過ごしやすい環境を整えました。

(4) 経営戦略室

【重点取り組み事項】

①放射線治療装置（リニアック）更新事業

1. 事業目的

地元にながら治療を続けられる「地域完結型の医療」を推進するため、放射線治療装置をより高精度なものに更新し、合わせて快適な受診環境のための診察室の増築に取り組んでいます。

2. 事業概要

放射線治療装置（リニアック）更新及び治療室等の改修

診察室（放射線治療センター）の増築（約 130㎡）

本事業は、クラウドファンディングを通じた暖かいご支援をいただき、進めてまいります。

②診療支援棟血管撮影（アンギオ）室増床事業

1. 事業目的

高度医療の提供と医師の負担軽減を図るため、血管撮影（アンギオ）にかかる機器及び検査・治療室を、診療支援棟 4 階に設置します。

2. 事業概要

血管撮影装置（アンギオグラフィー）の更新

アンギオ室の設置（約 220㎡）

医事課

(1) 診療報酬係

1 診療報酬に関する事務

- ・令和4年度は診療報酬改定の年度であったため、新規施設基準等の情報提供と関連部署への働きかけを積極的に推進しました。前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時的な取扱いについては、早期の情報収集と関連部署との連携を図りながら、漏れない請求に努めました。
- ・保険審査委員会を毎月実施し、査定状況や再審査状況等の共有と適正な診療報酬の請求強化に取り組みました。また、診療報酬担当医師を中心に各科医師へ直接働きかけることにより、運用面での見直しや再審査件数の増加につなげることができました。
- ・厚生労働省臨床研修指定病院として、全職種の職員を対象とした「保険診療に関する講習会」を2回開催しました。(第1回:「施設基準取得分析報告」「機能評価係数II実績要件分析」、第2回:「保険診療と診療報酬について」「保険診療確認事項リストの活用について」)

2 選定療養費改定

診療報酬改定により、令和4年10月から初診時・再診時選定療養費を改定しました(初診時選定療養費 5,500 円→7,700 円税込、再診時選定療養費 2,750 円→3,300 円税込)。改定までの経過として、長浜市病院事業の設置等に関する条例の一部改正を行うとともに、病院ホームページや長浜市・米原市広報を利用した患者様への案内を行いました。

3 統計・調査に関する事務

病床機能報告、外来機能報告をはじめ、各種統計・調査に関するデータの抽出、資料等の作成を行いました。抽出ツールの設計を理解し、精度の高いデータの作成に努めました。

(2) 医事業務係

1 公費申請等に関する事務

各科外来や患者総合支援センターと連携を図り、指定難病や小児慢性特定疾患、更生医療等の公費申請の手続きについて患者さんに説明を行い、患者サービスの向上に努めました。

2 ワクチン集団接種に関する業務

前年から引き続き、新型コロナワクチン予防接種会場を設け、成人及び小児対象のワクチン接種を実施しました(一般接種:21回、0歳~17歳:18回)。また、冬季シーズンにはインフルエンザワクチンの予防接種230件を実施しました。

3 個人情報の開示

個人情報の開示(カルテ開示)については、令和4年度の実績として50件の開示を行いました。

4 未収金対策

当院では平成21年より回収困難な案件を弁護士法人へ委託しています。

令和4年度も未収発生から4ヵ月後の早い段階における委託を継続しました。弁護士法人から

の支払要求通知等による催告を実施し、確実な未収金の回収に努めました。また、未収金の回収とあわせて、マイナンバーカードによる自己負担限度額の確認や社会保障制度及び公費申請の周知案内に力を入れ、患者さんの自己負担額を減らし未収金を発生させない取組みにも力を入れました。

5 窓口収納業務

令和4年度より総務課から業務移管となった自動精算機の管理・運営をマニュアル化し、人員体制の整備と業務の見直しを推進しました。また、自動精算機でのクレジットカード払いを導入し、患者様の利便性の向上を図ることができました。

(3) 医事課診療情報管理室

【人員構成】

診療情報管理室長兼医事課参事	1名
診療情報管理士	6名
事務職（診療情報管理係）	4名
事務職（医師支援係）	25名
派遣職員 ※11月より	24名

1 診療情報管理係

(1) 診療録管理

診療記録の保管・管理を行っています。診療録管理担当は、入院診療録の量的、質的点検業務を行い、「説明と同意」に関する同意文書、入院診療計画書及び退院時要約等の完成状況を把握し、診療録の迅速な完成の促進、精度向上に取り組んでいます。

(2) 診療情報管理

電子カルテ情報及び診療情報管理システムを効率よく活用し、各種検索に対応したデータ抽出をすることで、医療の質の向上と医療従事者の研究に寄与できるよう取り組んでいます。

また、DPC データに基づいたクリニカルパスの作成、システム上の編集及びバリエーション入力への支援等を行うことで、業務効率の向上と医療の質の向上に取り組んでいます。

(3) DPC 業務

診療記録に基づいて傷病名と診療行為の整合性の確認を行い、主治医に確認、相談をしながらDPC コーディングのチェック作業及び様式1作成のためのデータ入力を行っています。

(4) スキャンセンター業務

診療記録として、発生した文書のスキャナーでの電子カルテ内取り込み、原本の保管・管理を行っています。また、スキャン前後ではすべての文書を確認し、診療録の真正性・見読性を保つ役割を担っています。

(5) 図書業務

医療者向け書籍、医学雑誌の購入、電子ジャーナル管理及び文献に関する対応等、医療従事者の要望と実情に沿った図書が提供できるよう取り組んでいます。

2 医師支援係

医師支援係では、医師事務作業補助業務、診断書窓口業務、医局秘書業務を行っています。

(1) 医師事務作業補助業務

令和3年4月時点で、医師事務作業補助体制加算1 25対1

令和3年10月より医師事務作業補助体制加算1 20対1

令和4年11月より医師事務作業補助体制加算2 15対1を取得しました。

派遣職員の増員により各診療科への医師事務作業補助者の配置を見直し、カルテ代行入力業務、診断書作成支援業務及びデータ入力業務等で医師への支援を行っています。

【令和4年NCD・JND登録件数】

症例登録項目	件数
外科（手術症例登録）	451
心臓血管外科（血管外科・JCVSD）	338
呼吸器外科（手術症例登録）	116
循環器内科（PCI・EVT）	656
泌尿器科（手術症例登録）	152
脳神経外科（JND）	503

【令和4年学会関連症例登録件数】

胃癌（2015年症例）	31
食道癌（2016年症例）	11
胆道癌（2021年症例）	18
肝癌・肝硬変（2021年症例）	49
肝癌（2020年・2021年症例）	28

【令和4年学会関連追跡調査登録】

膵癌	30
胆道癌	34
肝癌	24
胃癌	56
乳腺	121
十二指腸癌	1

(2) 診断書窓口業務

患者さんからの診断書作成依頼を受け、医師や医師事務作業補助者等との連絡調整を行い、迅速な交付の事務に努めています。

令和4年度の実績として9,103枚の交付を行いました。

(3) 医局秘書業務

医局内での医師の総合的なサポート業務を行っています。

- ・医師のアポイント
- ・診療局会議の準備・議事録の作成
- ・救急配置計画 等

患者総合支援センター

森田 善方	センター長
徳田 敏子	副センター長兼地域医療連携室長
藤本 永照	副センター長兼地域医療連携室参事
松田 和子	地域医療連携室担当監

◆地域医療連携室

地域医療連携室は、病院理念の「地域完結型医療」の推進に向け、患者相談、病院内外の医療連携、チーム連携など、医療・保健・福祉を含めた包括的なサービスを提供しています。

令和4年度も地域の医療・福祉機関との連携を密にすることを主眼に置き、当院の診療科の情報を掲載した「診療のご案内 2022」を発行し、地域の医療機関等に配布しました。また、院内の各部局からのトピックスや院内の最新の情報をタイムリーに関係機関へ周知するため、「地域医療連携だより」を毎月約390カ所に配布しました。

湖北医師会会員の医療機関からの地域外来・検査センター（以下「PCR検査センター」という。）の運用は継続し、年末年始にも臨時的に実施しました。

なお、開放型病床生涯教育研修会はコロナ感染症の状況に合わせ、会場とWEBのハイブリッドで9回実施しました。

1. 病診連携グループ

医療機関からの患者さんの紹介件数は、令和3年度よりCOVID-19感染拡大の影響も徐々に改善し、令和4年度は7,573件で前年度比で1,040件増加しました。

PCR検査センターの受け入れはコロナ感染の第7波、8波に合わせて紹介件数も増え、当日の締め切り時間間際の依頼も積極的に受け入れ、令和4年度のPCR検査センターの紹介数は800件でした。

2. 入院支援グループ

入院支援では、安心して手術・検査が受けられるよう、入院前の早期から外来、薬剤師、手術室、医事課など多職種で連携し、入院病棟や退院支援担当者と情報を共有しました。また、入院前から地域や入院予定病棟への連携を深められるよう入院前療養支援計画書を作成し、入院時支援加算を算定も開始しました。

3. 退院支援グループ

退院支援では、今年度は1,191名の患者に介入し、患者・家族の思いを大切に在宅や施設等の身体的・社会的事情に応じた療養場所への退院を支援しました。退院を支援する中で、独居・老老介護・生活困窮など様々な問題を抱えた患者さんが多く、そのような困難な問題と向き合い、患者・家族に寄り添いながら、住み慣れた地域での療養や生活が継続出来るよう、かかりつけ医や施設・各事業所と連携を深めながら支援に務めました。

4. 総合医療相談グループ

令和4年度から総合医療相談として、患者相談窓口の運営と在宅療養支援を行いました。患

者相談件数は5,745件と毎月400件前後の相談に対応しています。内訳としては受診相談が80%と最も多く、次いで案内や看護相談、医療費についての相談となっています。

相談業務では、新型コロナ感染の第7波では通常の2倍の相談に対応しました。外来や医事課、退院支援などの専門的な内容については、院内の専門部門と連携し、それぞれの専門職員が対応を行いました。

在宅療養支援では、外来通院中の患者に対して、院内外から相談に対して、院外関係部署との連携やかかりつけ医や訪問看護ステーションの調整などに患者家族の支援を行いました。

また、患者支援に関わる職員で定期的にカンファレンスを実施し、相談対応の質の向上と充実に努めました。

◆産前産後ケアステーション「にじいろ」

令和4年4月より産前産後ケアステーション「にじいろ」を立ち上げ、安心して妊娠、出産、育児ができるまちづくりを目指し、産後ケア事業と地域活動を開始しました。

産後ケア事業では、宿泊型の利用者は33名、延べ利用日数49日の利用があり、利用目的は育児不安、休息、授乳指導、離乳食指導、メンタル支援等が主なものであり、多くの利用者が繰り返し利用され地域と連携を行いケアを実施しました。また、デイサービス型は21名、アウトリーチ型は7名の利用がありました。アウトリーチ型の利用者は、全体的に少ない状況ではありますが、今後必要とされる母子にはタイムリーに受け入れを行っていきます。

地域活動の「父親のための両親教室」では、第2・3・4土曜日に六荘まちづくりセンターにおいて妊娠初期編、出産産後編、育児編を実施しました。101組202名の参加があり、出産・産後編と育児編はキャンセル待ちが出るほどの状態でありました。

思春期教室は長浜市内の保育施設から希望を募り6園で開催しました。各園3回コースで、延べ432名の園児に性教育を実施しました。市幼児課や各園においては、性教育の重要性は理解できていても、実施することが難しいことや、助産師という専門職の話を聞くことで園児の捉え方も違うことや保護者においても同様の思いがあることがわかりました。

各種相談事業は母乳相談や育児相談、復職相談等多岐にわたる相談がありましたが、利用者は10名と少なかったため、今後、事業運営の方法やアピール方法等を再考する必要があります。



がん対策推進室（がん相談支援センター）

田久保 康隆	管理監兼がん相談支援センター長
上田 修吾	副管理監
細川 顕	室長兼がん相談支援センター参事
松田 和子	担当監

がん対策推進室では、湖北保健医療圏域の地域がん診療連携拠点病院としての役割を果たすべく、専門的かつ質の高いがん医療の提供をはじめとし、がん診療に関する様々な事業に取り組んでいます。

◆がん相談支援の充実

がん相談員のスキルアップを図るとともに、診断初期から患者・家族への情報提供や相談対応がスムーズに行えるよう、院内スタッフへの周知や外来待合モニターなどを活用した利用案内を行いました。令和4年度の相談件数は993件で、内初回は359件でした。

◆緩和ケア提供体制の整備

週1回、多職種による緩和ケアチームカンファレンスを開催し、身体的な痛みや精神心理的な不安の軽減を図りました。チーム新規介入件数は44件でした。

◆がん登録実務のスキルアップ及びがん登録の標準化と精度向上の推進

新たに院内がん登録実務中級者認定試験に1名合格し、更新者と合わせて中級者は3名となりました。がん登録件数（2021年症例）は813件でした。また、国立がん研究センターが行っている「QI研究」にも参加しています。

◆がんに関する情報提供・普及啓発

湖北がんフォーラムは、令和3年度と同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため動画配信としました。テーマを「がんとりハビリテーション」とし、講演と講師による座談会の動画を配信しました。期間中の視聴回数は661回でした。

◆がん地域連携クリニカルパスの効率的な運用（5大がん・緩和ケア）

新規のクリニカルパス導入件数は23件で、内訳は、進行期大腸がんが13件、早期大腸がんが8件、早期胃がんが2件でした。なるべく早期の導入が効果的であり、引き続き外来との連携推進に取り組めます。

◆院内のがん関連研修に関する調整

院内看護師対象のがん看護研修（6回）、院内外の医療従事者等を対象にした化学療法研修会「骨転移診療ガイドライン第2版の改訂ポイントについて」、5大がん研修「ガイドラインに沿った胃癌診療」、コミュニケーション研修「悪い知らせを伝えるコミュニケーション」を開放型病床生涯教育研修会を兼ねて開催しました。がんについての基本的な対応や最新のガイドラインなど、関心の高いテーマを選び有意義な研修となりました。

◆その他

がん教育講演会やリレー・フォー・ライフ・ジャパン 2022 への協力や、「滋賀県がんと向き合う週間」（2 月 4 日～ 10 日）に合わせ、院内と長浜図書館に特設コーナーを設け、がんに関する正しい知識の普及・啓発に努めました。

医療安全管理室

医療安全管理室は、院長直属の組織として医師の管理監 2 人（医療安全担当・感染担当）を中心に、医療安全管理者・感染管理者の看護師などを専従配置し、各部署の兼任の職員とともに「医療事故対策」「感染制御」「医療事故紛争」「患者相談」の業務を行っています。

室内協議として、責任者（管理監）を始め、各局長、医療安全管理者と感染管理者、医療機器安全・医薬品安全・医療放射線安全の各管理責任者などのメンバーにより、毎週火曜日にインシデント検討会・コンフリクト調整会を開催し、タイムリーな情報共有と対応についての協議を行っています。

また、院長を始め、副院長、各局長らが委員を務める医療安全管理委員会・感染管理委員会を毎月 1 回開催し、情報共有と病院としての対応について協議したうえで、方針を決定しています。さらに、両管理委員会では医療安全対策委員会・感染対策担当者会議とも連携し、現場の活動を推進しています。

<医療安全活動>

- 1 連携する他施設からの評価を受ける事により、医療安全対策における自施設の課題が明確になり、湖北圏域の医療安全の質向上を図るため、医療安全対策地域連携加算 1 を申請し、長浜赤十字病院、長浜市立湖北病院と連携し、相互チェックを各病院 1 回ずつ実施した。チェック内容は、医療安全相互チェックシートに基づき、「V ケア・プロセスに着目した医療安全体制について 1 指示伝達、2 患者誤認対策について 3 インフォームド・コンセント」について取り組みの共有、評価、指摘事項の改善を図った。
- 2 相対的無輸血に関しての捉え方に差異があるため、院内協議にて再確認し、病院方針の再周知を図った。
- 3 医療安全対策委員会の小集団活動に、医療安全活動の推進と定着支援を行う班を新設し、全部署の活動推進を行った。
- 4 インシデント報告に伴う改善事項
 - (1) 医療事故情報収集等事業にインシデント事象件数を報告。
 - (2) 救急画像診断レポートの見落とし対策として、救急センターで非常勤医師がオーダーした CT、MR の画像診断レポートの既読状況、診断記録、患者説明内容を確認し、オーダー医師、責任部長にメールをする作業を医事課担当者が実施。確認作業後に対応が必要な事象、見落とし発生時の連絡を受けての対応支援。
 - (3) 中心静脈カテーテル自己抜去事象について協議を行い、放射線診断医師作成の動画「中心静脈カテーテルと空気塞栓」により医師、看護師対象に e ラーニング研修実施。
 - (4) 血管造影検査室における急変時応援対応について協議を行い、急変時フローの修正、周知支援。
 - (5) 小児予防接種事象について協議、スケジュール表作成、予約受付方法、運用の変更支援。

- (6) 転倒転落事故防止のため、衝突防止ポスターのイラストを募集し、ポスターを作成、巡視及び職員からの院内の危険箇所の情報を基に危険箇所に掲示。
- (7) 「アナフィラキシーの症状と治療」について研修会開催。
- (8) マニュアル作成・更新について：医療安全管理指針、情報伝達エラー防止マニュアル、患者誤認防止マニュアル、アレルギー情報に関する安全対策、薬剤アレルギー事故防止マニュアル、誤薬防止マニュアル、行動制限（身体拘束・抑制）マニュアル、気管挿管時の安全マニュアル、生体情報モニター（生体情報監視装置）の使用基準、内視鏡下手術時の注意事項
- 5 全職員対象研修会・医療安全情報提供（新型コロナウイルス感染防止のため、参加人数の制限を行い、eラーニング受講を推進）
 - (1) 「医療における KYT ～気づく目、見守る目を養うために～」（動画研修） 講師：医療安全全国共同行動企画委員・看護師・パラマウントベッド(株)顧問 杉山良子 氏
(参加者：48 人 合同視聴会：19 人 eラーニング受講：665 人)
 - (2) 医療安全ハラスメント研修「悪質クレーム対応について」（動画研修） 講師：SOMPO リスクマネジメント(株) 橋本勝 氏
(参加者：48 人 合同視聴会：37 人 eラーニング受講：793 人)
 - (3) 「医療現場でのクレーム・トラブル～訴訟回避のポイント～」（動画研修） 講師：楠井法律事務所弁護士 楠井嘉行 氏
(参加者：46 人 合同視聴会：18 人 eラーニング受講：794 人)
 - (4) 令和3年度医療安全取り組み報告会
(参加者：43 人 合同視聴会：6 人 eラーニング受講：725 人)
 - (5) 医療安全ニュース（院外情報）106 回、リスクめぐる（院内情報）18 回発行

<相談業務>

患者や患者家族から寄せられた相談・苦情に対して面談などを行い、関係部署と連携しつつ、安全・安心で納得していただける医療を提供できるように対応した。令和4年度の相談・苦情件数は35件で、多くは医師・看護師などの職員の対応に関するものであった。

また、“メッセージボックス”の回収を毎週実施し、患者や患者家族への回答と、掲示板・HPへの掲載を行った。このメッセージボックスには、令和4年度94件の意見が寄せられた。

<感染防止活動>

1 職業感染対策

(1) 針刺し損傷対策について

令和4年度の針刺し損傷は、看護師16人、医師4人、看護補助者2人の合計22人、23事例の事象が発生した。同じ職員による針刺し事象が2回発生している。職種としては看護局が増加しているが、診療局は減少している。器材では安全装置付き器材での未作動、作動途中での事象が増加しているため、使用方法の徹底、針廃棄容器の携帯を徹底していく。

(2) 結核について

結核は6件の発生届の提出を行い、うち2件の事例に対し職員の接触者健診を実施した。計58人の職員が接触者健診の対象となったが、二次感染事例は発生しなかった。

(3) インフルエンザについて

インフルエンザでの院内感染はなし。

2 組織的感染対策活動

感染制御チーム（ICT）・抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の活動

ICT 会議は週 1 回開催し、感染対策に関連する情報共有と対策・改善の検討を実施。全部署月 1 回の環境ラウンドを行い、環境チェック、ルミテスターによる汚れの測定を実施した。また、COVID-19 クラスター対応として、ゾーニングや感染対策の実施状況確認のラウンドを行った。サーベイランス協議として、耐性菌発生状況を確認し、データ分析・評価を実施。血液培養結果の確認と評価を行い、菌血症患者の抗菌薬使用について評価した。

AST の活動として、抗菌薬適正使用ラウンドを週 2 回実施し、抗菌薬使用状況の確認、担当薬剤師による主治医への助言を行った。免疫不全患者は、診療科をリウマチ科・血液内科の発熱患者に的を絞り、抗菌薬使用状況などの確認を行った。

3 他病院との合同感染防止対策活動

湖北地域 4 病院（長浜赤十字病院、長浜市立湖北病院、セフィロト病院、当院）によるカンファレンスとラウンドを、合計 6 回実施。うち 2 回のカンファレンスは、長浜保健所の感染担当者を交えて実施し、COVID-19 対応などの情報共有や意見交換を行った。保健所からは COVID-19 クラスター分析などについて情報提供があった。

4 全職員対象研修会

(1) 第 1 回 院内感染防止対策研修会

日 時：令和 4 年 7 月 7 日（木）

演 題：「ルミテスターについて～ ATP ふき取り検査（A3 法）～」

「環境整備（環境清掃）について」

講 師：呉竹 めぐみ 臨床検査技師

藤木 智美 感染管理認定看護師

参加者：787 人（e ラーニング受講者等を含む）

(2) 第 2 回 院内感染防止対策研修会

日 時：令和 4 年 11 月 7 日（月）

演 題：「家庭でも活用できる感染性胃腸炎の感染対策」

講 師：中村 寛子 感染管理認定看護師

参加者：881 人（e ラーニング受講者等を含む）

(3) 第 1 回 抗菌薬適正使用研修会

日 時：令和 4 年 11 月 7 日（月）

演 題：「バンコマイシン TDM の新時代到来～トラフのみからの脱却」

講 師：竹越 靖晃 薬剤師

参加者：881 人（e ラーニング受講者等を含む）

IV－3 著書発表記録

消化器内科

高橋憲一郎、安藤朗

【小腸疾患 - 診断・治療の最新動向 -】炎症性疾患 慢性炎症性疾患 クロウン病（解説）
日本臨床（0047-1852）80 巻増刊 7 小腸疾患 Page403-409（令和 4 年 7 月）

西田淳史、安藤朗

（I 章）消化管（上・下）腸内細菌と消化管疾患（総説）
消化器内科学レビュー（2436-7982）2022-'23 巻 Page101-106（令和 4 年 7 月）

高橋憲一郎、安藤朗

【Evidence & Consensus で押さえる IBD の治療薬 最新版】21 世紀からの IBD 治療薬
の長所・短所 タクロリムス（解説）
薬事（0016-5980）64 巻 12 号 Page2496-2499（令和 4 年 9 月）

西田淳史、安藤朗

【治療の可能性が広がる 抗体医薬 バイスペシフィック抗体、ADC、シングルドメイン抗体、
機械学習…新技術と情報科学が実現した新時代のモダリティ】（第 2 章）疾患別のバイオロジー
抗体医薬の幅広い応用 潰瘍性大腸炎と抗体医薬（解説）
実験医学（0288-5514）40 巻 20 号 Page3377-3381（令和 4 年 12 月）

総合診療内科

一般社団法人 医療安全全国共同行動（小泉俊三議長） 技術支援部会 編
患者安全・医療安全実践ハンドブック
東京 メディカル・サイエンス・インターナショナル 令和 4 年 6 月

外科

Kasai Y, Masui T, Yoshino K, Takaori K, E K. Nakakura.

Pancreatic Resection for Neuroendocrine Neoplasms of the Pancreas.

The IASGO Textbook of Multi-Disciplinary Management of Hepato-Pancreato-Biliary
Diseases Page389-394（令和 4 年 6 月）

Yoshino K, Taura K, Takaori K, Kasai Y, Hatano E.

Surgical Anatomy of the Liver.

The IASGO Textbook of Multi-Disciplinary Management of Hepato-Pancreato-Biliary
Diseases Page1-6（令和 4 年 6 月）

Takaori K, Kasai Y, Yoshino K.

Artery-First Approaches to Distal Pancreatectomy.

The IASGO Textbook of Multi-Disciplinary Management of Hepato-Pancreato-Biliary
Diseases Page347-352（令和 4 年 6 月）

ヘルスケア研究センター

原島伸一

DPP-4 阻害薬と経口 GLP-1 製剤の比較：適性使用を考える

浦和医師会報 740(1):82-83 (令和 4 年)

原島伸一、鳥飼和美、板橋莉佳、原島知恵、西村亜希子

With コロナにおける診療所での糖尿病診療対策

月間糖尿病 14(2)：58-64 (令和 4 年)

西村亜希子、原島伸一

SGLT2 阻害薬

内科 128(5)：1117-1123 (令和 4 年)

西村亜希子、原島伸一

アドボカシー活動について、医療者は何ができる？

糖尿病ケアプラス 19(4)：26-28 (令和 4 年)

西村亜希子、原島伸一

患者さんに合わせた糖尿病治療ができる血糖管理と薬剤選択の大原則：インスリンポンプについて聞かれたら

シリーズ G ノート 羊土社 第 6 章 259-264 (令和 4 年)

看護局

中村寛子

看護雑誌 INFECTION CONTROL 5 月号

特集 1 理解しにくい！清潔・不潔の考え方、伝え方

(株) メディカ出版 (令和 4 年 5 月)

弓削悦子

看護雑誌 看護 2023 年 3 月臨時増刊号

専門性の高い看護師を外来部門に手厚く配置

(株) 日本看護協会出版会 (令和 5 年 3 月)

IV－4 論文発表記録

神経内科

Sawamura M, Ogawa M.

Lomerizine Improved Bath-related Headache Presenting as Reversible Cerebral Vasoconstriction Syndrome.

Intern Med. 2023 Jan 12.

消化器内科

Hirayama H, Morita Y, Imai T, Takahashi K, Yoshida A, Bamba S, Inatomi O, Andoh A. Ustekinumab trough levels predicting laboratory and endoscopic remission in patients with Crohn's disease.

BMC Gastroenterol. 2022 Apr 21;22(1):195.

Nishida A, Nishino K, Ohno M, Sakai K, Owaki Y, Noda Y, Imaeda H.

Update on gut microbiota in gastrointestinal diseases.

World J Clin Cases. 2022 Aug 6;10(22):7653-7664.

Ohno M, Nishida A, Nishino K, Hirayama H, Takahashi K, Morita Y, Kishi Y, Morita Y, Bamba H, Shiomi H, Imaeda H.

Palliative stenting for malignant colorectal stenosis in the elderly.

DEN Open. 2022 Sep 30;3(1):e168.

リウマチ膠原病内科

Dong L, Umehara H, Zhong J Editorial: Rheumatic Diseases and Infection.

Front Med (Lausanne). 2022 Jun 1;9:941678.doi:10.3389/fmed.2022.941678.

oCollection 2022.PMID:35721091 Free PMC article.No abstract available.

Yoshifuji H, Umehara H

Glucocorticoids in the treatment of IgG4-related disease-Prospects for new international treatment guidelines.

Mod Rheumatol. 2023 Mar 2;33(2):252-257.doi:10.1093/mr/roac097.

PMID:35993488 Review.

Tanaka Y, Takeuchi T, Yamanaka H, Nanki T, Umehara H, Yasuda N, Tago F, Kitahara Y, Kawakubo M, Torii K, Hojo S, Kawano T, Imai T

Long-term Safety and Efficacy of E6011, an Anti-fractalkine Monoclonal Antibody, in Patients with Rheumatoid Arthritis Inadequately Responding to Methotrexate.

Mod Rheumatol. 2023 Jan 21:road004.doi:10.1093/mr/road004. Online ahead of print PMID:36680426

Tanaka Y, Takeuchi T, Yamanaka H, Nanki T, Umehara H, Yasuda N, Tago F, Kitahara Y, Kawakubo M, Torii K, Hojo S, Kawano T, Imai T.

Long-term Evaluation of E6011, an Anti-Fractalkine Monoclonal Antibody,

inPatients with Rheumatoid Arthritis Inadequately Responding to Biological Disease-modifying Antirhumatic Drugs.

Mod Rheumatol. 2023 Jan 21:road005.doi:10.1093/mr/road005. Online ahead of print PMID:36680420

Chen Y, Cai S, Dong L, Umehara H.

Update on classification,diagnosis, and management of immunoglobulin G4-related disease.

Chin Med J(Engl).2022 Jan 4;135(4):381-392. doi:10.1097/CM9.0000000000001891.PMID:34985023 Free PMC article

新川雄高、今見考志、伏屋康寛、佐々木克博、大村浩一郎、石濱泰、森信暁雄、岩井一宏

ABIN1 is a signal-induced autophagy receptor that attenuates NF- κ B activation by recognizing linear ubiquitine chains,

FEBS Letters 596(9):1147-1164 May 2022

総合診療内科

小泉俊三

Editorial 激動する世界と Choosing Wisely キャンペーンの意義

Choosing Wisely Japan 総会講演 [新型コロナ禍を経た Choosing Wisely のこれから]

Choosing Wisely Japan Newsletter No. 8 p.1-4 (2022 年 12 月)

小泉俊三

切迫する地球規模の気候変動と Choosing Wisely キャンペーンの役割

ジェネラリスト教育コンソーシアム (カイ書林) 第 17 巻 p93-97 (2022 年 7 月)

外科

Marchegiani G, Barreto SG, Bannone E, Sarr M, Vollmer CM, Connor S, Falconi M, Besselink MG, Salvia R, Wolfgang CL, Zyromski NJ, Yeo CJ, Adham M, Siriwardena AK, Takaori K, Hilal MA, Loos M, Probst P, Hackert T, Strobel O, Busch ORC, Lillemoe KD, Miao Y, Halloran CM, Werner J, Friess H, Izbicki JR, Bockhorn M, Vashist YK, Conlon K, Passas I, Gianotti L, Del Chiaro M, Schulick RD, Montorsi M, Oláh A, Fusai GK, Serrablo A, Zerbi A, Fingerhut A, Andersson R, Padbury R, Dervenis C, Neoptolemos JP, Bassi C, Büchler MW, Shrikhande SV; International Study Group for Pancreatic Surgery.

Postpancreatectomy Acute Pancreatitis (PPAP): Definition and Grading From the International Study Group for Pancreatic Surgery (ISGPS).

Ann Surg. 2022 Apr 1;275(4):663-672.

Junya Kawasoe, Yoichiro Uchida, Hiroshi Kawamoto, Tomoyuki Miyauchi, Takeshi Watanabe, Kenichi Saga, Kosuke Tanaka, Shugo Ueda, Hiroaki Terajima, Kojiro Taura, Etsuro Hatano.

Propionic acid, induced in gut by an inulin diet, suppresses inflammation and

ameliorates liver ischemia and reperfusion injury in mice.

Front Immunol 2022 Apr 22; 13:862503

Hijioka S, Morizane C, Takaori K, Okusaka T.

Study protocol for a multi-institutional prospective surveillance study among kindreds with familial pancreatic cancer and individuals with hereditary pancreatic cancer syndrome: The Diamond Study.

Pancreatology. 2022 May;22(4):534-538. Epub 2022 Apr 15.

Toshihiko Masui, Tetsuhide Ito, Izumi Komoto, Shinsuke Kojima, Yosuke Kasai, Minoru Tanabe, Kazuo Hara, Satoshi Hirano, Takuji Okusaka, Yasushi Ichikawa, Yusuke Kinugasa, Norihiro Kokudo, Atsushi Kudo, Akihiro Sakurai, Kenichi Sugihara, Hiroshi Date, Ken Haruma, Susumu Hijioka, Koichi Hirata, Hiroo Yamano, Motohiro Sakamine, Takashi Kikuchi, Masanori Fukushima, Masayuki Imamura, Shinji Uemoto.

Nationwide registry for patients with neuroendocrine neoplasm of pancreas, gastrointestinal tract, lungs, bronchi, or thymus in Japan.

Int J Clin Oncol. 2022 May;27(5):840-849.

Netta Mäkinen, Meng Zhou, Zhouwei Zhang, Yosuke Kasai, Elizabeth Perez, Grace E Kim, Chrissie Thirlwell, Eric Nakakura, Matthew Meyerson.

Whole genome sequencing reveals the independent clonal origin of multifocal ileal neuroendocrine tumors.

Genome Med. 2022 Aug 3;14(1):82.

Akitada Yogo, Toshihiko Masui, Shigeo Takaishi, Kenji Masuo, Ru Chen, Yosuke Kasai, Kazuyuki Nagai, Takayuki Anazawa, Sadanori Watanabe, Satoko Sakamoto, Akira Watanabe, Ryosaku Inagaki, Masahiro M Nakagawa, Seishi Ogawa, Hiroshi Seno, Shinji Uemoto, Etsuro Hatano.

Inhibition of dopamine receptor D1 signaling promotes human bile duct cancer progression via WNT signaling.

Cancer Sci. 2023 Apr;114(4):1324-1336. Epub 2022 Dec 14.

高折恭一、森實千種、福田晃久、川口喬久、北野雅之、脇岡範、松林宏行、谷内田真一、亀井敬子、竹山宜典

家族性膵癌と登録制度

日本臨床 (0047-1852) 81 巻増刊 2 膵癌・胆道癌 2023 (上) 膵癌編 Page502-508(2023.02)

Kanemitsu E, Masui T, Nagai K, Anazawa T, Kasai Y, Yogo A, Ito T, Mori A, Takaori K, Uemoto S, Hatano E.

Propensity Score Matching Analysis of the Safety of Completion Total Pancreatectomy for Remnant Pancreatic Tumors Versus that of Initial Total

Pancreatectomy for Primary Pancreatic Tumors.
Ann Surg Oncol. 2023 Mar 18. Online ahead of print.

形成外科

Nakano T, et al
Adjustable biodegradability of low-swelling hydrogels prepared from recombinant peptides based on human collagen type 1
Journal of Biomaterials Applications
2022 Nov;37(5):881-890. doi: 10.1177/08853282221123452.

Nakano T, et al
Dried human-cultured epidermis accelerates wound healing in a porcine partial-thickness skin defect model
Regenerative Therapy
2023 Feb 28;22:203-209. doi: 10.1016/j.reth.2023.02.003.

脳神経外科

Kawasaki T, Kikuchi T, Otani K, Mitsuno Y, Yamao Y, Sawamoto N, Takahashi R, Miyamoto S
Intraoperative cone-beam CT with metal artifact reduction for assessment of the electrode position and the intracranial structures during deep brain stimulation procedure
Acta Neurochir (Wien) 164(9):2309-2316, 2022

美馬達哉、小金丸聡子、芝田純也、佐藤岳史
N-of-1 研究をどう行うか
The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine. 59(11): 1111-1117, 2022

心臓血管外科

洞井和彦、長門久雄、高井文恵、吉良浩勝、植山浩二
下肢静脈瘤術後の残存病変に対する硬化療法
静脈学 33: 301-305,2022

洞井和彦、吉良浩勝、高井文恵、植山浩二
僧帽弁逸脱に対して人工腱索を用いた僧帽弁形成術の治療成績
滋賀循環器懇話会会報誌 2022. 1. NO.2

ヘルスケア研究センター

Araki E, Harashima S, Nishida T, Nakamura J.
Efficacy and safety of once-weekly semaglutide in Japanese individuals with type 2 diabetes in the SUSTAIN 1, 2, 5 and 9 trials: Post-hoc analysis.
J Diabetes Investig. 2022;13(2):1971-1980.

リハビリテーション科

江藤謙司、杉本正幸

当院の骨粗鬆症診療の取り組み

中部整災誌 65:551-552,2022

リハビリテーション技術科

西村圭二、南部利明、杉本正幸、後藤公志

前方進入法による人工股関節全置換術施行後患者の歩行側方動揺の有無と運動機能の関係について

The Journal of Clinical Physical Therapy 23:27-35, 2023 (令和 5 年 3 月)

西村圭二

ゴルフスイング動作時の腰背部痛に対するエクササイズ即時効果について

The Journal of Golf Physio Therapy 6:3-9, 2022 (令和 5 年 3 月)

IV－5 学会・研究発表記録

腎臓代謝内科

潮正輝、森田善方、中山秀樹、杉本陽、丹波佑斗、島本綾子、上田久巳、石田均
健常者および2型糖尿病患者におけるFib4-Indexの検討
第65回日本糖尿病学会総会 令和4年5月12日（神戸）

横江遼一、中山秀樹、杉本陽、藤野隆弘、上田綾子、上田久巳、潮正輝、森田善方
糖尿病を合併した腎生検施行例での、当院での糖尿病性腎症の診断率の検討
第65回日本腎臓学会学術総会 令和4年6月10日（神戸）

潮正輝、森田善方、中山秀樹、杉本陽、横江遼一、藤野隆弘、島本綾子、上田久巳、石田均
健常者および2型糖尿病患者におけるFib4-Indexの検討及び肝腎相関の解析
第8回肝臓と糖尿病・代謝研究会 令和4年6月25日（奈良）

杉本陽、中山秀樹、横江遼一、藤野隆弘、島本綾子、上田久巳、潮正輝、森田善方、山科聡、
佐藤岳史
新規吸着型血液浄化器を使用したコレステロール塞栓症の1例
第43回の滋賀腎・透析研究会 令和4年9月11日（大津）

潮正輝、森田善方、中山秀樹、杉本陽、丹波佑斗、島本綾子、上田久巳、天野加奈子、石田均
10年に及ぶ経過における当院通院中の糖尿病症例と一般症例での腎機能の推移 肝機能並び
にFib4-Indexとの相関について
第37回日本糖尿病合併症学会 令和4年10月21日（京都）

森田善方、中山秀樹、杉本陽、丹波佑斗、島本綾子、上田久巳、潮正輝
著明な尿タンパクを認めた起立性尿蛋白の一例
第52回日本腎臓学会西部学術大会 令和4年11月18日（熊本）

森田善方、中山秀樹、杉本陽、丹波佑斗、上田綾子、上田久巳、潮正輝、石田均
慎重なカリウム管理を経て副腎摘出術に至った周期性四肢麻痺を伴う原発性アルドステロン
症の1例
第23回日本内分泌学会近畿支部学術集会 令和4年11月26日（奈良）

潮正輝、中山秀樹、杉本陽、丹波佑斗、上田綾子、上田久巳、森田善方、石田均
当院外来患者における血清浸透圧と、肝機能及びFib4-Index・腎機能の関与を検討
第23回日本内分泌学会近畿支部学術集会 令和4年11月26日（奈良）

消化器内科

酒井奎太郎、大脇悠司、西野恭平、大野将司、野田恵加、今枝広丞、西田淳史
胆管空腸吻合部狭窄に対して経皮的治療と内視鏡的治療を組み合わせ安全に狭窄部拡張を
行った一例
第108回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会 令和4年6月11日（京都）

Sakai K

A case of rupture of pseudoaneurysm into the main pancreatic duct secondary to chronic pancreatitis

JPS 2022 令和4年7月7日－9日（京都）

Owaki Y

A Case of Haemobilia with Cholangitis treated with Biliary Self-Expandable Metallic Stent

JPS 2022 令和4年7月7日－9日（京都）

Nishino K

A case of biliary bleeding due to a pancreatic pseudocyst hemorrhage after placement of a biliary metal stent

JPS 2022 令和4年7月7日－9日（京都）

Imaeda H

A case of pseudoaneurysm rupture after transgastric fistulation for pancreatic pseudocyst with cancer.

JPS 2022 令和4年7月7日－9日（京都）

今枝広丞

当院における高齢者潰瘍性大腸炎治療の現状

滋賀 UC フォーラム 令和4年10月（Web）

大野将司、今枝広丞、西野恭平、森田康大、酒井滋企、馬場弘道、森田幸弘、來住優輝、西田淳史

高齢者の悪性大腸狭窄に対する緩和目的の大腸ステントの有用性と安全性に関する検討

JDDW 2022 令和4年10月27日－30日（福岡）

斉藤聖弘、大脇悠司、酒井奎太郎、平山尚史、大野将司、野田恵加、高橋憲一郎、今枝広丞
急性膵炎を契機に発見された原発不明癌の1例

第238回日本内科学会近畿地方会 令和4年12月10日（Web）

佐々木暁香、酒井奎太郎、斉藤聖弘、大脇悠司、平山尚史、高橋憲一郎、野田恵加、今枝広丞
胃アニサキス症により好酸球性食道炎様の内視鏡所見を呈した1例

第238回日本内科学会近畿地方会 令和4年12月10日（Web）

斉藤聖弘、今枝広丞、酒井奎太郎、大脇悠司、平山尚史、大野将司、野田恵加、高橋憲一郎、西田淳史、安藤朗

膵管門脈瘻に対し内視鏡的経乳頭的嚢胞ドレナージが奏功した1例

第118回日本消化器病学会近畿支部例会 令和5年1月12日（京都）

呼吸器内科

高木順平、伊藤高範、上林憲司、三由僚、中川 雅登、田久保康隆、野口哲男、藤木智美
当院の COVID-19 患者対応における医療スタッフの働き方について
第 62 回日本呼吸器学会学術講演会 令和 4 年 4 月 22 日（京都）

中川雅登、上林憲司、高木順平、三由僚、奥野翔子、田久保康隆、野口哲男
PDL-1 阻害薬承認後の当院における進展型小細胞肺癌の治療成績
第 62 回日本呼吸器学会学術講演会 令和 4 年 4 月 22 日（京都）

野口哲男
COPD 早期発見の工夫とビレーズトリへの期待
これからの慢性閉塞性肺疾患を考える会 令和 4 年 5 月 10 日（Web）

野口哲男
好酸球に注目した重症喘息治療
GSK Severe Asthma Conference 令和 4 年 5 月 12 日（Web）

野口哲男
irAE 対策の 3 つのポイント～ irAE 逆引きマニュアルの活用～
非小細胞肺癌 オプジーボ・ヤーボイ併用療法 WebLive セミナー 令和 4 年 5 月 18 日（Web）

上林憲司
現在の気管支喘息治療と生物学的製剤の役割
開業医の先生方との連携について
滋賀 AIRWAY 講演会 令和 4 年 5 月（Web）

野口哲男
irAE 対策の 3 つのポイント～ irAE 逆引きマニュアルの活用～
明日の臨床に役立つ！
irAE Web Seminar in Oita 令和 4 年 5 月 31 日（Web）

野口哲男
タグリッソ・イミフィンジの副作用マネジメント
Lung Cancer Symposium for Medical Staff 令和 4 年 6 月 6 日（Web）

中川雅登、上林憲司、高木順平、三由僚、奥野翔子、田久保康隆、小坂恭弘、伏木雅人、杉山順哉、
入江桃好、野口哲男
デュルバルマブ承認前後の III 期非小細胞肺癌の治療成績
Online Seminar in 京滋 令和 4 年 6 月 7 日（Web）

中川雅登

パネリスト

Joint Meeting on NSCLC 令和4年6月8日 (Web)

野口哲男

タグリッツ・イミフィンジの副作用マネジメント

Lung Cancer Symposium for Medical Staff 令和4年6月14日 (Web)

上林憲司

治療継続におけるマネジメントについて

ENHERTU Breast Cancer Seminar in Shiga 令和4年6月14日 (Web)

高木順平、伊藤高範、上林憲司、三由僚、中川 雅登、田久保康隆、野口哲男

経過の長い抗 IFN- γ 自己抗体陽性播種性 MAC 症の 1 例

第 97 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会学術講演会 令和4年7月1日 (旭川)

野口哲男

ICI の肺関連有害事象、早期発見のポイント (逆引きマニュアルを用いて)

オブジーボ・ヤーボイ irAE 対策勉強会 in 長浜 令和4年7月5日 (長浜)

野口哲男

irAE 対策の 3 つのポイント～ irAE 逆引きマニュアルの活用

山口 Immuno-Oncology セミナー 令和4年9月28日 (Web)

野口哲男

キイトルーダの irAE 対策 の Key Point ～ irAE 逆引きマニュアルの解説を含めて

ICI 適正使用推進セミナー 令和4年10月13日 (Web)

野口哲男

喘息治療の新展開～ Single Inhaler Triple Therapy をいかにうまく使うか～

琵琶湖 Asthma Web Seminar 令和4年10月14日 (Web)

中川雅登

パネリスト

滋賀県 HFNC エキスパートミーティング 令和4年10月21日 (Web)

高木順平

重症喘息に対するバイオ製剤の選択と治療の実際

近江八幡アレルギーセミナー 令和4年11月2日 (近江八幡)

野口哲男

irAE 対策の 3 つのポイント～ irAE 逆引きマニュアルの活用
守口 irAE 対策セミナー 7 令和 4 年 11 月 10 日 (Web)

上林憲司

好酸球性重症喘息の治療～在宅自己注射のベネフィット～
GSK Severe Asthma Forum 令和 4 年 11 月 22 日 (Web)

野口哲男

肺癌免疫療法のマネジメントのポイント～手術不能Ⅲ期 NSCLC、ED-SCLC 治療を中心に～
肺癌免疫療法マネジメントセミナー 令和 4 年 11 月 22 日 (Web)

中川雅登、上林憲司、高木順平、三由僚、奥野翔子、田久保康隆、小坂恭弘、伏木雅人、杉山順哉、
入江桃好、野口哲男

当院におけるⅢ期非小細胞肺癌の治療内容と有害事象の検討
第 63 回日本肺癌学会学術集会 令和 4 年 12 月 1 日 (福岡)

野口哲男、高木順平、中川雅登、上林憲司、奥野翔子、田久保康隆

肺癌患者における COVID-19 の予後
第 63 回日本肺癌学会学術集会 令和 4 年 12 月 1 日－3 日 (福岡)

高木順平

Nivo + Ipi ± 化学療法の当院における使用経験
湖東・湖北がん免疫療法セミナー 令和 4 年 12 月 5 日 (Web)

野口哲男

あなたは irAE 対応できますか？手軽に使える「irAE 逆引きマニュアル」
irAE セミナー in 北勢 令和 4 年 12 月 15 日 (三重)

野口哲男

あなたは irAE 対応できますか？手軽に使える irAE 逆引きマニュアル
オブジーボ・ヤーボイ irAE 対策勉強会 in 彦根 令和 4 年 12 月 16 日 (Web)

上林憲司

NSCLC 1 次治療の検討～治療方法の共有～ 令和 4 年 12 月 20 日 (Web)

野口哲男

肺癌免疫療法のマネジメントのポイント
Lung Cancer IO Symposium in Yonago 令和 5 年 2 月 14 日 (Web)

野口哲男

免疫介在有害事象の早期発見・早期治療を行う

Lung Cancer Online Symposium in 滋賀 令和 5 年 3 月 2 日 (Web)

野口哲男

患者さんの QOL 改善を目標とした重症喘息治療～真の Clinical Remission を目指して～

令和 5 年 3 月 23 日 (Web)

循環器内科

高島弘行 (コメンテーター)

KCJL2022 Advanced L : Ve 令和 4 年 4 月 15 日 (京都)

高島弘行 (座長)

KCJL2022 Entry Site Manegement for successful EVT (京都)

高島弘行

虚血性心疾患における抗血栓療法の実状

地域で考える抗血栓療法 講演会 令和 4 年 6 月 23 日 (長浜)

高島弘行

心筋梗塞から身を守る

湖北医師会健康講座 令和 4 年 7 月 7 日 (長浜)

高島弘行

急性冠症候群に対するカテーテルインターベンションの実状及び二次予防徹底のための脂質低下療法

湖北薬剤師会 研修会 令和 4 年 12 月 8 日 (長浜)

リウマチ膠原病内科

新川雄高、辻英輝、白柏魅怜、鬼澤秀夫、日和良介、北郡宏次、秋月修治、中嶋蘭、大西輝、吉藤元、田中真生、森信暁雄

当院における ANCA 関連血管炎の寛解導入療法の違いによる寛解死亡リスクの検討

第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会 令和 4 年 4 月 25 日～ 27 日 (横浜)

新川雄高

SLE の感受性遺伝子として知られる ABIN1 は NF-KB 活性化を抑制するオートファジーレセプターである

第 16 回 Young Researchers in Advanced Rheumatology. 令和 5 年 1 月 7 日 (Web)

総合診療内科

小泉俊三

新型コロナ禍を経た Choosing Wisely のこれから

Choosing Wisely Japan 2022 年度 On-line 年次総会 令和 4 年 9 月 25 日 (Web)

小泉俊三 (座長コメント)

医療の質・安全学会設立の時期を振り返り、人新世時代の患者安全を考える

第 17 回医療の質・安全学会学術集会 (パネルディスカッション) 令和 4 年 11 月 26 日 (神戸)

外科

Mäkinen N, Zhou M, Zhang Z, Kasai Y, Perez E, G E Kim, Thirlwell C, Nakakura E, Meyerson M

Independent clonal origins of synchronous primary tumors in multifocal ileal neuroendocrine tumor patients

American Association for Cancer Research Annual Meeting 2022

令和 4 年 4 月 8 日 - 13 日 (New Orleans)

川田純司、山本幸子、紀貴之、原浩紀、川端良平、竹野淳、松山仁、上田修吾、川上尚人、大北仁裕、遠藤俊治、木村豊、柳原一広、奥野達哉、黒川幸典、下川敏雄、佐藤太郎

食道癌 2 次化学療法における DTX と PTX のランダム化比較第 II 相試験 (OGSG1201)

第 122 回日本外科学会定期学術集会 令和 4 年 4 月 14 日 - 16 日 (Web)

市川淳、戸田孝祐、竹島潤、藤田覇留久、岡部あさみ、平井健次郎、大江秀典、橘強、光吉明
後期高齢者の急性胆嚢炎緊急手術後に ADL 低下をもたらすリスク因子の検討

第 122 回日本外科学会定期学術集会 令和 4 年 4 月 14 日 - 16 日 (Web)

中元萌、福光一生、楠本響介、上野信洋、上田修吾、奥知慶久、山本健人、瀬尾美鈴

大腸がんオルガノイド培養系の確立と FGFR3 発現による抗がん剤耐性の解析

第 68 回日本生化学会近畿支部例会 令和 4 年 5 月 28 日 (Web)

Takaori K

JPS Presidential Lecture

第 26 回国際膵臓学会 第 53 回日本膵臓学会大会 令和 4 年 7 月 7 日 - 9 日 (Web)

Ueda S, Takaori K

Induction of ERAS® Implementation Program at Nagahama City Hospital

第 26 回国際膵臓学会 第 53 回日本膵臓学会大会 令和 4 年 7 月 7 日 - 9 日 (Web)

Kasai Y, Masui T, E K. Nakakura, Anazawa T, K Nagai, Takaori K, E K. Bergsland, Hatano E

The optimal indication of tumor enucleation for non-functional pancreatic neuroendocrine neoplasm

第 26 回国際膵臓学会 第 53 回日本膵臓学会大会 令和 4 年 7 月 7 日－9 日 (Web)

Yokoyama D, Fukui Y, Hisamori S, Hoshino N, Hata H, Hosogi H, Nishigori T, Tsunoda S, Kanaya S, Obama K

胃癌術後補助化学療法 S-1/1 年を完遂した pStageII 症例における再発危険因子の探索

Risk factors for recurrence in pStageII gastric cancer patients after the completion of S-1/1 year

第 77 回日本消化器外科学会総会 令和 4 年 7 月 20 日－22 日 (Web)

笠井洋祐、増井俊彦、E K. Nakakura、穴澤貴行、長井和之、高折恭一、E K. Bergsland、波多野悦朗

非機能性膵神経内分泌腫瘍に対するリンパ節転移リスクに基づく腫瘍核出術の至適適応

第 77 回日本消化器外科学会総会 令和 4 年 7 月 20 日－22 日 (Web)

平井健次郎、竹島潤、市川淳、藤田覇留久、岡部あさみ、戸田孝祐、大江秀典、橘強、廣瀬哲朗、山本秀和、光吉明

直腸癌に対するロボット支援下手術導入の短期成績

第 77 回日本消化器外科学会総会 令和 4 年 7 月 20 日－22 日 (Web)

高折恭一

基調講演：ERAS の概念と歴史、今後

日本心臓血管麻酔学会第 27 回学術大会 令和 4 年 9 月 17 日－18 日 (京都)

上田修吾

切除不能進行再発食道癌に対するタキサン系薬剤使用に関する検討

第 76 回日本食道学会学術集会 令和 4 年 9 月 24 日－26 日 (Web)

Takaori K

Mutidisciplinary approaches to the treatment of pancreatic cancer: Up-to-date 2022
The 33rd World Congress of International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (IASGO) 令和 4 年 9 月 28 日－1 日 (Istanbul)

Takaori K

Principles of actual approach to pancreatic cancer

The 4th VERONA EXPERT MEETING – UPDATE IN HPB SURGERY

令和 4 年 10 月 20 日－21 日 (Verona)

Ueda S, Atsuta T, Yamamoto T, Hasegawa M

Case report of a gastric cancer patient with refractory recurrent lymph node metastasis effectively treated with radiotherapy after chemotherapy

第 60 回日本癌治療学会 令和 4 年 10 月 21 日－23 日（神戸）

平井健次郎、竹島潤、市川淳、藤田覇留久、岡部あさみ、戸田孝祐、大江秀典、橘強、光吉明
進行直腸癌に対する術前化学放射線療法の治療成績の検討

第 84 回日本臨床外科学会総会 令和 4 年 11 月 24 日－26 日（福岡）

Takaori K

Multi-Disciplinary Approaches to the Treatment of Pancreatic Cancer

The 1st Meeting of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (IASGO) Chapter in the Gulf Area

令和 4 年 11 月 25 日－27 日（Jeddha）

Takaori K

Enhanced Recovery After Surgery:

How we implemente ERAS® at Nagahama City Hospital

The 1st Meeting of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (IASGO) Chapter in the Gulf Area

令和 4 年 11 月 25 日－27 日（Jeddha）

平井健次郎、竹島潤、市川淳、藤田覇留久、岡部あさみ、戸田孝祐、大江秀典、橘強、光吉明
腹腔鏡下結腸切除術における体腔内吻合導入の短期成績

第 35 回日本内視鏡外科学会総会 令和 4 年 12 月 8 日－10 日（名古屋）

上田修吾

腹膜播種胃癌症例における年齢が生命予後に及ぼす影響

第 95 回日本胃癌学会 令和 5 年 2 月 23 日－25 日（札幌）

形成外科

Nakano T

Development of Dried Allogeneic Human Cultured Epidermis as a Wound Dressing:
Evaluation of Healing Acceleration in Murine and Porcine skin defects

Plastic Surgery Research Council(PSRC) 67th Annual Meeting

令和 4 年 6 月 10 日（Toronto）

仲野孝史

ミニブタ創傷モデルにおける乾燥ヒト培養表皮の創傷治癒促進効果の検討

第 31 回日本形成外科学会基礎学術集会 令和 4 年 10 月 14 日（岡山）

仲野孝史

乾燥ヒト培養表皮の創傷治癒促進効果について：ミニプタ創傷モデル

第 44 回日本バイオマテリアル学会大会 令和 4 年 11 月 22 日（東京）

脳神経外科

堀口聡士

内頸動脈狭窄進行による脳梗塞の 1 例

第 80 回滋賀脳神経外科症例検討会 令和 4 年 6 月 4 日（草津）

堀口聡士

非心原性脳梗塞に対する抗血小板療法

地域で考える抗血栓療法（湖北医師会） 令和 4 年 6 月 23 日（Web）

Satow T, Kinoshita M

Surgical treatment of neocortical non-convulsive status epilepticus

14th European Epilepsy Congress, 令和 4 年 7 月 9 日－13 日（Geneva, Switzerland）

佐藤岳史、光野優人、堀口聡士、小川雅文、木下真幸子、佐藤和明、高田こずえ

サイトメガロウイルス感染の先行が推測された NORSE (New-onset refractory status epilepticus) の一成人例

第 18 回日本てんかん学会近畿地方会 令和 4 年 7 月 24 日（Web）

佐藤岳史

脳神経外科からみた CKD・糖尿病の治療

多科が集う糖尿病・腎治療の会 令和 4 年 9 月 3 日（京都）

佐藤岳史、光野優人、堀口聡士、小室太郎、佐藤和明、高田こずえ、木下真幸子

痙攣重積状態成人症例に対するミダゾラム持続静注療法

第 55 回日本てんかん学会学術集会 令和 4 年 9 月 20 日（仙台）

佐藤岳史、光野優人、堀口聡士、小室太郎、佐藤和明、高田こずえ、木下真幸子

脳腫瘍術後の非けいれん性てんかん重積状態に対する一手術例

第 81 回日本脳神経外科学会学術集会 令和 4 年 9 月 28 日－30 日（横浜）

堀口聡士、佐藤岳史、光野優人

遠位橈骨動脈穿刺による細径ガイディングを使用した腫瘍栄養血管塞栓術

第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 令和 4 年 11 月 10 日（大阪）

堀口聡士、佐藤岳史、光野優人

遠位橈骨動脈穿刺による脳血管撮影と脳血管内治療後の止血時間の検討

第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 令和 4 年 11 月 10 日（大阪）

山田大輔、菊池隆幸、光野優人、下竹昭寛、山尾幸広、吉田和道、宮本享、池田昭夫
てんかん外科手術における術中皮質脳波の有用性の検討
第 52 回日本臨床神経生理学会学術大会 令和 4 年 11 月 24 日（京都）

堀口聡士
虚血性脳卒中の対応
令和 4 年度救急症例検討会 令和 4 年 11 月 25 日（長浜）

佐藤岳史、美馬達哉、麻生俊彦
脳卒中後意欲低下に対する経頭蓋直流電気刺激療法
第 52 回日本臨床神経生理学会学術大会 令和 4 年 11 月 25 日（京都）

河村祐貴、岡田直、山田大輔、光野優人、松橋眞生、高橋良輔、池田昭夫
脳磁図での焦点診断における等価電流源双極子の集簇条件についての検討
第 52 回日本臨床神経生理学会学術大会 令和 4 年 11 月 26 日（京都）

心臓血管外科

高井文恵、植山浩二、吉良浩勝、洞井和彦、長門久雄、中野顕
大動脈二尖弁による大動脈弁狭窄症にバルサルバ洞動脈瘤を合併した 1 手術例
第 1 回滋賀循環器懇話会 令和 4 年 5 月 22 日（栗東）

洞井和彦、長門久雄、吉良浩勝、高井文恵、植山浩二
下肢静脈瘤に対する血管内治療の現況（NTNT 治療も含めて）
第 50 回日本血管外科学会学術総会 令和 4 年 5 月 25 日（小倉）

洞井和彦、長門久雄、吉良浩勝、高井文恵、植山浩二
うつ滞性皮膚炎・皮膚潰瘍に対する当科の治療成績
第 50 回日本血管外科学会学術総会 令和 4 年 5 月 25 日（小倉）

洞井和彦、長門久雄、吉良浩勝、高井文恵、植山浩二
血管内焼灼術に硬化療法併施の必要性の検討
第 42 回日本静脈学会総会 令和 4 年 7 月 8 日（東京）

洞井和彦、長門久雄、吉良浩勝、高井文恵、植山浩二
シアノアクリレートを用いた下肢静脈瘤に対する血管内塞栓術の早期成績
第 42 回日本静脈学会総会 令和 4 年 7 月 8 日（東京）

古根川靖、吉良浩勝、洞井和彦、長門久雄、植山浩二
当院で経験した膝窩動脈瘤症例についての検討
第 2 回比叡山 WEB ワークショップ 令和 4 年 12 月 10 日（京都）

古根川靖、吉良浩勝、洞井和彦、長門久雄、植山浩二

2 弁置換術後に膠原病性肺動脈性肺高血圧症の管理に難渋し、救命し得なかった一例
第 65 回京滋心臓血管外科研究会 令和 5 年 2 月 4 日（京都）

吉良浩勝、古根川靖、洞井和彦、長門久雄、植山浩二

救肢し得た外傷性膝窩動静脈断裂の 1 例

第 36 回日本血管外科学会近畿地方会 令和 5 年 3 月 11 日（大阪）

古根川靖、吉良浩勝、洞井和彦、長門久雄、植山浩二

当院で経験した膝窩動脈瘤症例についての検討

第 36 回日本血管外科学会近畿地方会 令和 5 年 3 月 11 日（大阪）

皮膚科

井階幸一、澤井孝之

肛門周囲に生じた扁平コンジローマ（？）の 2 例

日本皮膚科学会第 96 回沖縄地方会 令和 4 年 8 月 6 日（那覇）

泌尿器科

村井亮介

頻尿の診療について

湖北薬剤師会定例研修会 令和 4 年 9 月 8 日（長浜）

村井亮介

市立長浜病院における mCSPC に対するアパルタミドの使用経験

第 39 回滋賀泌尿器科集談会 令和 4 年 10 月 15 日（草津）

眼科

額田正之

高精細スペクトラルドメイン光干渉断層計における網膜神経線維層欠損の検出能

大阪医科薬科大学オープンカンファレンス・招待講演 令和 4 年 6 月 30 日（大阪）

堤啓志郎

市立長浜病院での日常診療 - 甲状腺眼症に対するバフパルス療法 -

京大関連滋賀県合同勉強会 令和 5 年 1 月 13 日（大津）

麻酔科

柳田豊伸

持続腹直筋鞘ブロックにて管理し良好な術後鎮痛を得た、腹部大動脈瘤人工血管置換術の一症例

日本ペインクリニック学会 第 3 回東海・北陸支部学術集会 令和 5 年 2 月 25 日（Web）

木田英樹

市立長浜病院 ERAS® 実装の取り組み

滋賀医科大学附属病院 周術期管理講演会 令和5年3月17日（大津）

放射線科（治療部門）

小坂恭弘

膵臓がんの放射線療法の最前線

第53回日本膵臓学会大会 市民公開講座 令和4年9月4日（Web）

川上正邦、伊良皆拓、安永敏美、小坂恭弘

長尺ターゲットに対する IMRT と 3DCRT を用いた 2 アイソセンタ照射法に関する検討

第35回日本放射線腫瘍学会 令和4年11月10日（広島）

坂中克行、藤井康太、小久保雅樹、小倉昌和、板坂聡、坂本隆吏、荒木則雄、高木雄久、小坂恭弘、
奥村節子、山内智香子、稲生浩之、阿部寛康、石川秀樹、溝脇尚志

根治不能な食道癌に対する緩和外部照射の症状緩和効果を探索する前向き観察研究

第35回日本放射線腫瘍学会 令和4年11月10日（広島）

小坂恭弘

切除不能非小細胞肺癌に対する化学放射線療法とデュルバルマブ維持療法の初期経験

第35回日本放射線腫瘍学会 令和4年11月12日（広島）

小坂恭弘

胸腺腫瘍に対する IMRT の初期経験

第63回日本肺癌学会学術集会 令和4年12月1日（福岡）

中川雅登、上林憲司、高木順平、三由僚、奥野翔子、田久保康隆、小坂恭弘、伏木雅人、杉山順哉、
入江桃好、野口哲男

当院における III 期非小細胞肺癌の治療内容 と有害事象の検討

第63回日本肺癌学会学術集 令和4年12月1日（福岡）

ヘルスケア研究センター

潮正輝、森田善方、上田久巳、島本綾子、藤野隆弘、横江遼一、杉本陽、中山秀樹、石田均
健常者および2型糖尿病患者における Fib 4-Index の検討

第65回日本糖尿病学会学術集会 令和4年5月12日－14日（神戸）

西村亜希子、原島伸一

診療所の糖尿病専門外来における糖尿病フットケアのニーズ

第65回日本糖尿病学会学術集会 令和4年5月12日－14日（神戸）

原島伸一、西村亜希子

経口 GLP-1 製剤の安全性と有効性の検討

第 65 回日本糖尿病学会学術集会 令和 4 年 5 月 12 日－14 日（神戸）

石田均

日本栄養・食糧学会創設 75 周年記念講演 栄養・食糧学と医学の融合を目指して一日本人の健康寿命を延長するための長浜のチャレンジ

第 76 回日本栄養・食糧学会大会 令和 4 年 6 月 10 日－12 日（神戸）

潮正輝、森田善方、上田久巳、島本綾子、藤野隆弘、横江遼一、杉本陽、中山秀樹、石田均
健常者および 2 型糖尿病患者における Fib 4-Index の検討及び肝腎相関の解析

第 8 回肝臓と糖尿病・代謝研究会 令和 4 年 6 月 25 日（奈良）

石田均

予防と早期発見の大切さ（生活習慣病 がん）

長浜病院医師による出前講座 令和 4 年 7 月 14 日（長浜）

原島伸一

よい糖？悪い糖？糖の種類を知ろう！ 京からはんなり健康長寿：糖尿病予防編

京都市中京区役所主催市民公開講座 令和 4 年 9 月 7 日（京都市中京区）

西村亜希子、河合裕美、原島伸一

診療所における糖尿病フットケア外来の特徴：診療所のフットケア外来立ち上げと 3 年半の実践から考える

第 27 回日本糖尿病教育・看護学会（実践報告） 令和 4 年 9 月 17 日（大阪）

原島伸一

VUCA の時代の糖尿病診療

第 27 回日本糖尿病教育・看護学会（教育講演 4） 令和 4 年 9 月 18 日（大阪）

潮正輝、天野加奈子、森田善方、上田久巳、島本綾子、杉本陽、丹波佑斗、中山秀樹、石田均
10 年に及ぶ経過における当院通院中の糖尿病症例と一般症例での肝腎機能の推移 - 肝機能並びに Fib4-Index との相関について -

第 37 回日本糖尿病合併症学会 令和 4 年 10 月 21 日－22 日（京都）

石田均

病気の早期発見と健康寿命の延伸のために

六荘まちづくりセンター講座 健康講演会 令和 4 年 10 月 29 日（長浜）

東真弓、原島伸一、白石賢太郎、千草義継、勝島倫子、古田真里枝、西村亜希子

妊娠中の明らかな糖尿病の妊娠末期および分娩期の血糖変化：3 症例の比較

第 38 回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会 令和 4 年 11 月 4 日－5 日（東京）

西村亜希子、東真弓、白石賢太郎、古田真里枝、原島伸一

糖代謝異常合併妊娠ケアに対する医療スタッフの準備状態の把握と支援ツールの必要性
第 38 回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会 令和 4 年 11 月 4 日－5 日（東京）

勝島倫子、西村亜希子、原島伸一、古田真里枝

正常耐糖能妊婦の妊娠うつと産後うつの血糖変動：連続血糖モニタリングができた 2 症例
第 38 回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会 令和 4 年 11 月 4 日－5 日（東京）

春日義史、宮越敬、杉山隆、安孫子亜津子、市川雷師、岩間憲之、中西沙由理、原島伸一、
横山真紀

COVID-19 流行期における妊娠糖尿病診断を考える

第 38 回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会（ワーキンググループ報告） 令和 4 年 11 月 4
日－5 日（東京）

原島伸一、西村亜希子、東真弓、千草義継、川村洋介、川村明緒、高井浩志、廣田勇士、
山本あかね、児玉由紀、中山徹男、勅使川原早苗、白石健太郎、勝島倫子、古田真里枝

正常耐糖能妊婦の妊娠各期の血糖変化：非妊婦との比較

第 38 回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会 令和 4 年 11 月 4 日－5 日（東京）

潮正輝、森田善方、上田久巳、島本綾子、杉本陽、丹波佑斗、中山秀樹、石田均

当院外来患者における血清浸透圧と、肝機能及び Fib4-Index・腎機能の検討

第 23 回日本内分泌学会近畿支部学術集会 令和 4 年 11 月 26 日（奈良）

原島伸一

病態に応じた糖尿病薬物療法～新しいアルゴリズムの紹介～

高島市糖尿病連携セミナー 令和 4 年 12 月 10 日（高島）

感染制御部

竹越靖晃、大野暢宏、山科聡、高木順平、野淵孝二、中村寛子、藤木智美、西脇直美
病棟で使用する注射薬カートの環境調査の報告

第 37 回日本環境感染学会総会・学術集会 令和 4 年 6 月 17 日（横浜）

薬剤科

竹越靖晃、大野暢宏、山科聡、高木順平、野淵孝二、中村寛子、藤木智美、西脇直美
病棟で使用する注射薬カートの環境調査の報告

第 37 回日本環境感染学会 令和 4 年 6 月 18 日（横浜）

池田遼太、野淵孝二、小室太郎

当院における高濃度カリウム製剤の運用変更について

滋賀県病院薬剤師会第 42 回学術大会 令和 4 年 8 月 20 日 (Web)

中村明里、西増春佳、中村俊之、大岡千寿子、野淵孝二、小室太郎

当院におけるアナモレリンの使用状況と今後の介入について

第 44 回 日本病院薬剤師会近畿学術大会 令和 5 年 2 月 4 日－5 日 (Web)

栄養科

古株陽子

管理栄養士から見た外来カーボカウント導入のメリット・デメリット ～食の悩み解消を目指して～

第 6 回湖北糖尿病療養指導研究会 Web 研修 令和 4 年 9 月 10 日 (長浜)

中村友佳里

今夜からできるゆるふわ食事療法

健康講演会 令和 4 年 10 月 29 日 (長浜)

放射線技術科

辻村奈々珠、来本央、木村拓美、嶋津美和子、辻雅之、宮川孝史、富田聡、古山忠宏

MRI における緑内障フィルトレーションデバイスに対する金属アーチファクト低減アプリケーションの基礎的検討

令和 4 年度滋賀県診療放射線技師会総会・学術研究発表会 令和 4 年 5 月 29 日 (草津)

前川涼

オープンマスクを組み合わせた頭頸部固定具の紹介

滋賀県診療放射線技師会 治療研究会 令和 4 年 7 月 25 日 (Web)

川上正邦、伊良皆拓、安永敏美、小坂恭弘

長尺ターゲットに対する IMRT と 3DCRT を用いた 2 アイソセンタ照射法に関する検討

日本放射線腫瘍学会第 35 回学術大会 令和 4 年 11 月 10 日 (広島)

前川涼

内視鏡 X 線 TV 室における医療安全の取り組み

滋賀県診療放射線技師会 令和 4 年 1 月 20 日 (Web)

宮川孝史

うちの病院でこんなの出ました flow artifact 編

滋賀県診療放射線技師会 MR 研究会 令和 5 年 1 月 27 日 (Web)

リハビリテーション技術科

谷杏平、佐藤岳史、川瀬智隆、山口卓也

SCU から修正 CI 療法を実施することで食事が自立した一例

第 7 回リハビリテーション医学会秋期学術集会 令和 4 年 11 月 3 日－5 日 (岡山)

田邊信彦、杉江加代子、嘉瀬井和美、中川円香、八木真子、新田明美、小室太郎
高次脳機能障害者に対する自動車運転適性評価が安全運転意識に与える影響の検討
第 46 回日本高次脳機能障害学会学術総会 令和 4 年 12 月 2 日－3 日（山形）

山口卓也、佐藤岳史

髄腔内バクロフェン療法を施行されたレッシュ・ナイハン症候群患者に対する理学療法の経験
第 59 回日本リハビリテーション医学会学術集会 令和 4 年 6 月 23 日－25 日（神奈川）

外村匡康、日向裕子、佐藤岳史

チルトテーブルを用いた立位訓練中に意識レベルが変化した 1 症例
－ JFK Coma Recovery Scale Reveid を用いた意識レベルの評価－
第 7 回リハビリテーション医学会秋期学術集会 令和 4 年 11 月 3 日－5 日（岡山）

中央検査技術科

宮元伸篤

自動染色装置を使用したピクトリア青 -HE 染色について
2022 年度日臨技近畿支部病理細胞診研修会 令和 4 年 12 月 17 日（Web）

看護局

次郎内茂

COVID-19 病棟での人工呼吸器装着患者の腹臥位療法の取り組み
日本医療マネジメント学会第 19 回京滋支部学術集会 令和 4 年 8 月 27 日（Web）

毛利由布子

ゾーニング固定チームナースング看護方式の導入と考察
日本医療マネジメント学会第 19 回京滋支部学術集会 令和 4 年 8 月 27 日（Web）

宮部照美

効果的なリリーフ体制の取り組み
日本医療マネジメント学会第 19 回京滋支部学術集会 令和 4 年 8 月 27 日（Web）

高木陽平

家族に希望を取り入れた退院調整～看護計画への反映～
日本医療マネジメント学会第 19 回京滋支部学術集会 令和 4 年 8 月 27 日（Web）

藤井美保子

他職種と連携した外来看護の実践～患者の希望に寄り添った関わり～
日本医療マネジメント学会第 19 回京滋支部学術集会 令和 4 年 8 月 27 日（Web）

山田みか

クリニカルラダーに対する認識調査～教育委員会活動の課題の明確化～
日本医療マネジメント学会第 19 回京滋支部学術集会 令和 4 年 8 月 27 日（Web）

八尾さおり、小川景子、小杉美樹、丸山奈々、土田昌美
情報収集能力の高い病棟看護師の特徴
第 25 回滋賀県看護学会 令和 4 年 12 月 8 日（大津）

医療安全管理室

池田遼太、井上実由起、川越ゆき、西村正明、北村文代、烏脇富子、近藤昭仁、田久保康隆、
植山浩二
患者さんをアレルギーから守る ―アレルギー情報の的確な聞き取りと入力必要性―
日本医療マネジメント学会第 19 回京滋支部学術集会 令和 4 年 8 月 27 日（Web）

IV－6 講習会／研修会への取り組み

1. 患者さん・市民を対象にしたもの

父親のための両親教室（担当：産前産後ケアステーション にじいろ）

長浜市在住の妊娠中のご夫婦を対象に、妊娠成立から生命の誕生について、妊婦のこころと体の変化と注意点、妊娠中から行う乳房ケア、父親の妊婦疑似体験、出産に向けて父親の役割、産後の母親の心と体の変化、人形を使って育児体験などを助産師が説明します。

日時：第2,3,4土曜日

場所：六荘まちづくりセンター

妊娠前期編：19組 38名、妊娠後期編：37組 74名、育児期編：45組 90名

合計：202名

幼児の性教育（担当：産前産後ケアステーション にじいろ）

性教育は、将来、人間として充実した生活を送る上での重要な教育です。その教育を幼児期から行うことで命を大切に考える考えや、自分や相手を尊重する態度、性に関する正しい知識、多様な価値観を身につけるために大変重要となります。

市内6園の認定こども園、幼稚園

合計：のべ432名

広報ながはま「お元気ですか」

掲載年月	題名	診療科 他	医師名 他
令和4年4月	「新型」コロナウイルスについて	感染制御部	当院 大野 暢宏
令和4年5月	看護師がご自宅へ訪問するサービスをご存じですか	訪問看護ステーション	当院 河野 智一
令和4年6月	産前産後ケアステーション「にじいろ」を開設しました	看護局	当院
令和4年7月	がんのリハビリテーションについて	リハビリテーション科	当院 江藤 謹司
令和4年8月	慢性腎臓病について	泌尿器科	湖北病院 野村 武史
令和4年9月	カウンセリングについてご存じですか	公認心理師	当院 天野 可奈子
令和4年10月	総合血管病外来について	脳神経外科	当院 小室 太郎
令和4年11月	带状疱疹ワクチンについて	内科	湖北病院 西田 早矢
令和4年12月	クラウドファンディング実施中！	事務局	当院
令和5年1月	食事や栄養面での悩みに栄養指導はいかがですか	栄養科	当院 古株 陽子
令和5年2月	体の健康は口の健康から	歯科口腔外科	湖北病院 目方 久隆
令和5年3月	病院の共用設備について	事務局	当院

がん対策推進室

* 湖北がんフォーラム 2022 (YouTube 配信)

配信期間：令和 4 年 8 月 10 日（水）～ 9 月 30 日（金）

視聴回数：661 回

テーマ：「がんとリハビリテーション～自分らしい生活を送るために～」

内容：①開会あいさつ（市立長浜病院院長 高折 恭一）

②講演「がんのリハビリテーションとは？」

講師：滋賀県立リハビリテーションセンター 所長 川上 寿一 先生

③講演「わたし（院長）のがん体験」

講師：長浜赤十字病院 病院長 楠井 隆 先生

④講演「病院や在宅でのリハビリテーション」

講師：長浜病院訪問看護ステーション 理学療法士 瀧上 正太

⑤座談会 座長：市立長浜病院 診療局長 田久保 康隆

出演者：川上 寿一 先生、楠井 隆 先生、瀧上 正太

⑤閉会あいさつ（長浜赤十字病院病院長 楠井 隆 先生）

主催：市立長浜病院 共催：長浜赤十字病院

* がん教育

令和 4 年 10 月 3 日（月） 長浜市立南中学校 2 年生 131 名

講師：ヘルスケア研究センター特任部長・がん対策担当監 伏木 雅人

令和 4 年 12 月 1 日（木） 長浜市立木之本中学校 2 年生 31 名

講師：ヘルスケア研究センター特任部長・がん対策担当監 伏木 雅人

令和 4 年 12 月 15 日（木） 長浜市立余呉小中学校 9 年生 11 名

講師：がん対策推進室管理監 田久保 康隆

令和 5 年 2 月 2 日（木） 長浜市立高月中学校 74 名

講師：ヘルスケア研究センター特任部長・がん対策担当監 伏木 雅人

令和 5 年 3 月 3 日（金） 長浜市立西中学校 132 名

講師：ヘルスケア研究センター特任部長・がん対策担当監 伏木 雅人

* 個別相談会

テーマ	開催回数	参加者
社会保険労務士個別相談会	年 1 回開催	1 名
治療と仕事との両立に関する個別相談会 (主催：滋賀産業保健総合支援センター)	月 1 回開催	—
就職に関する個別相談会 (主催：ハローワーク長浜)	月 1 ～ 2 回開催	9 名

* 滋賀県がんと向き合う週間・展示イベント [滋賀県がんと向き合う週間：2/4 ～ 2/10]

令和 5 年 2 月 3 日（金）～ 2 月 10 日（金）（当院 ホスピタルストリート）

* がんを知ろう展示会（主催：長浜市健康推進課）

令和 5 年 2 月 4 日（土）～ 2 月 26 日（日）（長浜市立長浜図書館）

2. 医療従事者・地域開業医を対象にした研修

がん対策推進室

* 5 大がんに関する研修会（開放型病床生涯教育研修会） Zoom 開催

催日	テーマ・講師	参加者数
令和4年 12月1日	「ガイドラインに沿った胃癌診療」 当院 外科責任部長 上田 修吾	42名

* 化学療法研修会（開放型病床生涯教育研修会） Zoom 開催

催日	テーマ・講師	参加者数
令和4年 11月10日	「骨転移診療ガイドライン第2版の改訂ポイントについて」 秋田大学大学院医学系研究科臨床腫瘍学講座 柴田 浩行 先生	45名

* 院内がん看護研修会

催日	テーマ・講師	参加者数
令和4年 7月12日	「がん患者の全人的理解とケア」 当院 がん放射線療法看護認定看護師 杉山 順哉	9名
令和4年 8月3日	「がん性疼痛マネジメント」 当院 がん性疼痛看護認定看護師 河野 智一	15名
令和4年 9月22日	「痛み以外の症状マネジメント」 当院 緩和ケア認定看護師 宮崎 恵子	14名
令和4年 10月20日	「がん放射線療法看護」 当院 がん放射線療法看護認定看護師 入江 桃好	12名
令和4年 11月2日	「がん薬物療法看護」 当院 がん化学療法看護認定看護師 河野 真弓	9名
令和4年 12月16日	「がん患者の意思決定支援」 当院 緩和ケア認定看護師 宮崎 恵子	2名

* 第6回 滋賀県緩和ケア研修会（集合研修 / 市立長浜病院会場）

令和4年 11月12日（日） 企画責任者：田久保 康隆

修了者：11名

* 滋賀県 ELNEC－J 研修会 市立長浜病院会場（会場集合・オンライン中継）

令和4年 10月29日（土）・11月5日（土）

修了者：4名

「エンド・オブ・ライフ・ケア」

主催：滋賀県がん診療連携協議会 緩和ケア推進部会

講師：滋賀県内の ELNEC-J 指導者（がん分野の認定看護師・専門看護師）

地域医療連携室

* 開放型病床生涯教育研修会・医療従事者研修会

催日	テーマ・講師	参加者数
令和4年 6月2日	「膵癌 早期診断をめざして」 当院 院長・外科主任部長 高折 恭一	62名
令和4年 8月4日	「悪い知らせを伝えるコミュニケーション」 当院 公認心理師 天野可奈子	40名
令和4年 10月6日	「外科医から見た在宅医療、在宅医から見た病院」 渡辺西賀茂診療所 川島 和彦 先生	45名
令和4年 11月10日	「骨転移診療ガイドライン第2版の改訂ポイント」 秋田大学大学院医学系研究科 臨床腫瘍学講座 教授 柴田 浩行 先生	45名
令和4年 12月1日	「ガイドラインガイドラインに沿った胃癌診療」 当院 外科責任部長 上田 修吾	42名
令和5年 1月12日	「ヒト生物学研究における大規模ゲノムの果たす役割」 京都大学大学院医学研究科 附属ゲノム医学センター センター長 松田 文彦 先生	45名
令和5年 2月2日	「臨床研修医による症例報告会」 当院 研修医 井上 遙香 研修医 井原 俊之 研修医 桂 東吾 研修医 マクラケン 佳世	42名
令和5年 3月2日	「臨床研修医による症例報告会」 当院 研修医 市原 豪 研修医 深野 毅雄 研修医 渡邊 重之	29名
令和5年 3月8日	「臨床研修医による症例報告会」 当院 研修医 中田 啓哉 研修医 初村 拓毅 研修医 山崎 一輝 研修医 佐々木 暁香	27名

診療局 CPC

開催日時	演者	参加者数
令和4年 9月29日	臨床研修医 渡邊 重之 「入院中に COVID-19 に罹患し死亡に至った症例」	17名
令和4年 10月13日	臨床研修医 市原 豪 「敗血症性ショックの経過で突然生じた心静止の症例」	18名
令和4年 10月20日	臨床研修医 佐々木 暁香 「肺炎治療経過中に発熱と呼吸不全をきたし死亡した症例」	19名
令和4年 10月27日	臨床研修医 山崎 一輝 「肺非結核性抗酸菌感染症と COPD が背景にあり、肺炎を合併した一例」	19名
令和4年 11月17日	臨床研修医 中田 啓哉 「肺扁平上皮癌治療中にirAE(免疫関連有害事象)肝炎を生じ、死亡に至った1例」	9名
令和4年 11月24日	臨床研修医 深野 毅雄 「自殺に至った抗 SRP 抗体陽性壊死性ミオパチーの一例」	8名
令和4年 12月8日	臨床研修医 初村 拓毅 「前立腺癌経過中で閉塞性肺炎の加療中に発作性心房細動が生じ心不全・呼吸不全により死亡にいたった症例」	11名

IV－7 委員会の状況

院内委員会組織図

令和4年度

病院事業管理部
ヘルスケア研究センター
薬剤科

病院事業運営調整会議
ヘルスケア研究センター運営委員会
薬事委員会
医薬品安全管理委員会
レジメン登録審査委員会（がん対策：化学療法委員会）

高 折 恭 一
石 田 均
小 室 太 郎
野 淵 孝 二
野 口 哲 男

臨床工学技術科

医療機器安全管理委員会
呼吸ケアサポートチーム（RST 委員会）
透析機器安全管理委員会

辻 克 信
中 川 雅 登
森 田 善 方

栄養科

栄養委員会
NST 委員会

森 田 善 方
潮 正 輝

放射線技術科

放射線安全委員会
放射線治療品質保証委員会
医療放射線安全管理委員会

小 坂 恭 弘
小 坂 恭 弘
若 宮 誠

中央検査技術科

臨床検査運営委員会
輸血療法委員会

小 室 太 郎
吉 良 浩 勝

リハビリテーション技術科

嚥下委員会
骨粗鬆症リエゾンサービス委員会

近 藤 定 彦
田 中 淳

歯科・歯科口腔外科

歯科口腔外科医療関連感染防止対策委員会

近 藤 定 彦

看護局

認知症対策委員会
ハートケアチーム委員会
糖尿病療養指導委員会
褥瘡対策委員会

小 川 雅 文
児 玉 浩 志
森 田 善 方
上 田 修 吾

中央手術室

手術室運営委員会

上 田 修 吾

総務課

診療局運営会議
研修医確保等推進会議
職員研修委員会
人権対策推進委員会
合同・臨床研修委員会
プログラム委員会
職員安全衛生委員会
集中治療室運営委員会

高 折 恭 一
高 島 弘 行
高 折 恭 一
高 折 恭 一
高 島 弘 行
高 島 弘 行
小 室 太 郎
木 田 英 樹

経営企画課

病院運営会議
企画運営会議
コメディカル連絡会議
改革プラン推進会議
倫理委員会
IT推進会議
情報セキュリティ専門委員会
治験審査委員会
長浜市病院事業改革プラン評価委員会
医療機器等選定委員会
診療材料委員会
契約審査委員会
大規模災害等事業継続計画策定合同会議
医療ガス安全管理委員会
防火・防災管理委員会
電波利用安全管理委員会

高 折 恭 一
（ 休 止 中 ）
藤 居 敏
高 折 恭 一
小 室 太 郎
高 島 弘 行
尾 田 和 広
高 島 弘 行
（ 外 部 委 員 ）
高 島 弘 行
尾 田 和 広
藤 居 敏
小 室 太 郎
柳 田 豊 伸
廣 瀬 伸 次
小 室 太 郎

医事課

長浜市病院事業未収金対策検討委員会
救急体制検討委員会
救急運営委員会
救急救命士・消防士等病院実習カリキュラム委員会
救急症例検討委員会
医師事務作業補助業務運用調整委員会
保険審査委員会
診療情報・図書室管理運営委員会
DPC 委員会
医療評価委員会
クリニカルバス・IC 専門部会

小 室 太 郎
陌 間 大 輔
-
木 田 英 樹
陌 間 大 輔
高 島 弘 行
神 田 雄 史
小 室 太 郎
小 室 太 郎
小 室 太 郎
糟 谷 恵 邦

医療安全管理室

医療安全管理委員会
医療安全対策委員会
感染管理委員会
感染対策担当者会議
内部事故調査委員会

植 山 浩 二
植 山 浩 二
大 野 暢 宏
山 科 聡
高 折 恭 一

地域医療連携室

病床管理会議
開放型病床運営委員会
回復期リハビリテーション病棟運営委員会
回復期リハビリテーション病棟入院判定委員会
地域医療連携委員会

-
高 折 恭 一
江 藤 謹 司
江 藤 謹 司
高 折 恭 一

がん対策推進室

湖北保健医療圏地域がん予防診療推進協議会
がん対策推進委員会
緩和ケア推進委員会
化学療法委員会（小委員会は薬剤科）
院内がん登録委員会

高 折 恭 一
田 久 保 康 隆
田 久 保 康 隆
野 口 哲 男
上 田 修 吾

院内設置会議

会 議 名	設 置 目 的	事務局
病院事業運営調整会議	長浜市病院事業の適正かつ円滑な推進と運営を図るため	事業管理部
病院運営会議	病院運営の基本方針に係る病院事業管理者及び院長の意思決定に必要な事項の協議を行い、もって各部局間の総合的な調整と病院の円滑な運営を図るため	経企 (企画)
診療局運営会議	病院の経営・運営に関する重要な事項について審議を行うとともに、診療局幹部の経営参画を促すため	総務
企画運営会議	病院の運営に関する重要な課題について審議を行うとともに、病院幹部の意思の疎通を図るため	経企 (企画)
コメディカル連絡会議	院内のコメディカル間の連携を密にし、円滑な運用を図るため	経企 (企画)
改革プラン推進会議	改革プランの着実な実行と進捗管理を行うため会議の開催に必要な事項を定める	経企 (企画)
病床管理会議	市立長浜病院における一般病棟入院患者の療養病棟、地域包括ケア病棟又は回復期病棟への転棟、療養病棟等へのレスパイト等の入院に関して必要事項を定め、療養病棟等及び回復期病棟の活用による病床利用率の向上を図ること	地域医療
研修医確保等推進会議	研修医を確保するための取組を実施するにあたり、院内の連絡調整、並びに若手医師の指導及び教育体制の充実を図るため	総務

院内設置委員会

会 議 名	設 置 目 的	事務局
ヘルスケア研究センター運営委員会	地域住民の一人ひとりが予防医学に積極的にに関わり、自身の健康状態の把握と病気の早期発見のための健康診断の受診および健診結果を踏まえた適切な保健指導、栄養指導等により、住み慣れた地域で、自分らしく安心して暮らせる社会の実現をめざし、健診事業等の適正な執行・管理を行うもの	ヘルスケア
化学療法委員会	化学療法を安全に実施する体制等の整備を図るとともに、化学療法に用いる抗悪性腫瘍剤（化学療法薬、ホルモン剤、分子標的治療剤など）の適正使用に関する評価、院内外での安全な施行を推進するための教育及び啓発活動を行うこと	がん対策
処方登録審査委員会	院内で実施される化学療法の処方（治療内容）の安全性及び妥当性についての評価、承認、削除及び運用に関する事項を審議すること	薬剤
薬事委員会	病院の薬剤に関する基本方針を定め、その方針に従い院内薬剤業務を円滑に遂行するため	薬剤
医薬品安全管理委員会	病院で使用される医薬品に係る安全管理体制の確保を図るため	薬剤
医療機器安全管理委員会	病院で使用される医療機器に係る安全管理体制の確保を図るため	臨床工学
呼吸ケアサポートチーム（RST）委員会	市立長浜病院で使用される人工呼吸器などの呼吸療法に係る安全管理体制の確保を図るため、また、医療の質向上を図るため	臨床工学
透析機器安全管理委員会	病院で使用される透析装置および透析液水質にかかる安全管理体制の確保を図るため	臨床工学
栄養委員会	病院における給食及び栄養業務を合理的かつ効果的に運営するため、必要な事項の審議を行い、もって栄養業務の向上、改善を図ることを目的とする	栄養
N S T 委員会	患者の栄養状態を管理するため、N S T（栄養サポートチーム）を結成し、著しく栄養状態が悪い患者に適切な栄養療法を選択し実施することにより栄養状態の改善を図り、治療効果を高め、感染症、褥瘡等の予防及び在院日数の短縮や医療費の削減等に貢献し、患者の生活の質の向上を図るため	栄養
放射線安全委員会	職員の放射線被爆防止、健康ならびに放射線発生装置に関する諸事項を検討し、これらの事故防止対策にかかる必要な事項を企画審議するため	放射線
放射線治療品質保証委員会	放射線治療における安全の向上、並びに品質管理及び保証また、職員の教育・研修に関する諸事情を検討し、必要な事項を企画審議するため	放射線
医療放射線安全管理委員会	診療用放射線の安全利用にかかる管理のため	放射線
臨床検査運営委員会	臨床検査の適正化、検査機器の精度管理、検査業務の円滑化、効率化を図る	中央検査

会 議 名	設 置 目 的	事務局
輸血療法委員会	輸血療法を安全かつ適正に遂行するため	中央検査
嚥下委員会	患者の摂食嚥下機能と栄養状態の改善を図り、誤嚥を予防し、在院日数の短縮や在宅医療の連携に貢献し、患者の QOL 向上を図ること。看護師による摂食機能療法の算定が適切に実施できるよう支援し、摂食機能療法の算定数増加を目指す	リハビリ
歯科口腔外科医療関連感染防止対策委員会	市立長浜病院歯科口腔外科における医療関連感染の防止等を図るため	歯科
認知症対策委員会	現状システムを振り返り、課題や新たなニーズを整理し、今後を見据えた更なる医療・介護及び地域のネットワークの形成を図り、認知症疾患支援の充実を図る	看護局
ハートケアチーム委員会	病院から外来・在宅・地域も含めたチーム医療の推進と心疾患患者・家族への支援の充実を図るため	看護局
糖尿病療養指導委員会	糖尿病医療の進歩に伴い、継続治療への心理的支持、治療技術の指導が多様化し、指導の評価法についても各職種のもつ範囲が広がり、かつ専門性が深くなった。患者中心の医療のために、そして多様な指導内容と評価の活用により、各医療スタッフが密接な連携を保ち、専門性を生かしたチームアプローチが必要なため	看護局
手術室運営委員会	手術室の適性かつ効率的な運用を図るため	中央手術
職員研修委員会	職員ひとり一人に、公務員や医療人として必要な知識や技術を習得させることによって、人間性豊かで有為な人材を育成し、理念や基本方針に定める病院づくりを推進するため、職員に院内外の幅広い研修機会を計画的に提供するため	総務
人権対策推進委員会	院内の人権対策を総合的に推進し、基本方針に基づき同和問題を始めとする人権問題の解決に積極的に取り組むため	総務
合同・臨床研修委員会	病院群臨床研修病院における研修医の臨床研修を円滑かつ十分に行われること	総務
プログラム委員会	臨床研修に係る専門的事項を審議するため	総務
職員安全衛生委員会	長浜市病院事業職員安全衛生管理規程に基づき、病院職員の職場における安全と健康を確保するとともに、快適な作業環境の形成を図ること	総務
集中治療室運営委員会	集中治療室の管理運営についての協議	総務
医療ガス安全管理委員会	医療ガス（診療の用に供する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医用圧縮空気、窒素等をいう。）設備の安全管理を図り、患者の安全を確保するため	経企（施設）
防火・防災管理委員会	市立長浜病院における防火・防災管理委員会の運営に関し、必要な事項を定めることにより、火災の予防及び火災・大規模地震、その他による人命の安全、被害の軽減、二次的災害発生の防止を目的とする	経企（施設）
大規模災害等事業継続計画策定合同会議	大規模災害発生時に、災害レベルに応じて病院が採るべき災害対策に内容を明確にし、また、その災害対策に応じて個々の職員が果たすべき役割と具体的な行動を定める大規模災害等事業継続計画を策定することを目的とする	経企（施設）
電波利用安全管理委員会	市立長浜病院において電波の利用に関する必要な事項を定め、医療の効率化や高度化に必要な電波の利用を促進するとともに、院内で用いる医療機器や通信機器に対する電磁波による影響を抑制し、安全な医療の提供に資することを目的とする	経企（施設）
倫理委員会	市立長浜病院で行われる人を対象とした医学研究、医療行為が、ヘルシンキ宣言の趣旨に沿った倫理的、社会的配慮のもとに行われるために、医の倫理に関する事項を審議する	経企（企画）
I T 推進会議	情報化施策を総合的かつ体系的に推進するため	経企（企画）
情報セキュリティ専門委員会	情報セキュリティ対策に関する専門的事項を検討するため	経企（企画）
治験審査委員会	治験に関する厚生労働省令等に基づき、院内における治験（臨床研究・臨床試験）の実施の可否および倫理性や科学的妥当性を審査するため	経企（企画）
長浜市病院事業改革プラン評価委員会	改革プランの着実な実行と進捗管理について、評価と点検の客観性を確保するため	経企（企画）
医療機器等選定委員会	市病院事業において使用する医療機器の調達（修繕）および診療材料の購入等について必要な事項を定め、機種選定の適正かつ円滑な運営を図ることを目的とする	経企（用度）

会 議 名	設 置 目 的	事務局
診療材料委員会	診療材料の採用、削除及びその取扱に関する事項について審議し、病院運営の健全化を図ることを目的とする	経企 (用度)
契約審査委員会	長浜市病院事業において発注する建築工事及びこれに関連する調査、測量、設計等の業務委託、物品調達（修繕）等及び委託業務の契約の適正な締結について必要な事項を定め、もって長浜市病院事業の建築工事等、物品調達（修繕）等及び委託業務の適正な執行を図ることを目的とする	経企 (用度)
長浜市病院事業未収金対策検討委員会	市立長浜病院及び長浜市立湖北病院における未収金に関する事務の適正を図り、収入（診療費等）の不納欠損処分並びにこれらに関連する事務の適正な執行を図るため	医事
救急体制検討委員会	救急体制、宿直体制、呼び出し体制、研修医指導体制等、救急に関する諸問題を検討し、救急業務の効率化を図る	医事
医師事務作業補助業務運用調整委員会	医師事務作業補助者の配置に関する取扱規程第6条第1項の規定に基づき、医師および配置診療科のニーズを把握し、医師事務作業補助業務の円滑な運用を図るとともに、医師事務作業補助者D A（ドクターアシスタント）を適正かつ公正に配置することを目的として、医師事務作業補助業務運用調整委員会の組織、運営等に関し、必要な事項を定める	医事 (診情)
保険審査委員会	市立長浜病院における保険診療の適正化と円滑な運営を図り、診療報酬を適正に確保することを目的に設置する。	医事
D P C委員会	D P C請求に関連する事務の適正な執行を図るため	医事 (診情)
診療情報・図書室管理運営委員会	病院における診療録の管理運営および図書の管理運営について、関係部署の連携調整を図るため	医事 (診情)
医療評価委員会	患者さん主役の信頼ある医療を育み、地域完結型の医療を目指して、地域住民がより一層適切で質の高い医療を安心して受けられる病院を確保するため	医事 (診情)
医療安全管理委員会	病院における良質な医療を提供する体制の確立を図るため、医療安全、医療機器安全管理、医薬品安全管理の対策を総合的に企画、実施することを目的に設置する	医療安全
医療安全対策委員会	病院における安全管理のため、医療・医学の諸問題を検討し、基本的な基準について定める	医療安全
感染管理委員会	院内感染防止対策の総合的な企画、立案、評価や、院内感染が発生した場合の病院としての方針を決定するため	医療安全
感染対策担当者会議	院内における院内感染の防止対策や、啓蒙等を推進し、院内感染の防止等を行う	医療安全
内部事故調査委員会	院内で極めて重大な医療事故が発生した場合、医療事故内容を正確に把握し、原因の分析を行い、適切な対応を取るため	医療安全
骨粗鬆症リエゾンサービス委員会	骨折を機に骨粗鬆症に関する治療を開始及び継続し骨折の連鎖をくい止め、治療・管理するだけでなく、他職種による支援を行う	リハビリ
開放型病床運営委員会	開放型病床を効率的にかつ円滑に運営すること	地域医療
回復期リハビリテーション病棟運営委員会	回復期リハビリテーション病棟の運営を効率的かつ円滑に行う	地域医療
回復期リハビリテーション病棟入院判定委員会	回復期リハビリテーション病棟への入院（転入含む）にあたり、入院適応基準に基づく入院の判定を行う	地域医療
地域医療連携委員会	地域の医師、歯科医師等からの要請に適切に対応し、地域における医療の確保に必要な支援を行うため	地域医療
褥瘡対策委員会	院内の褥創対策を検討・立案し、その効率的な推進を図るため	看護局
湖北保健医療圏域地域がん予防診療推進協議会	湖北保健医療圏域におけるがん予防、がん診療に携わる保健医療従事者に対する研修の実施、がん診療情報の収集および提供、関係機関への連携を進め、圏域のがん予防、がん診療の水準の向上に貢献するとともに、圏域住民へのがん予防の啓発事業等に関する協議を行うこと	がん対策
がん対策推進委員会	国の定めるがん対策推進基本計画に基づき、当院がん対策事業の推進を図ること	がん対策
緩和ケア推進委員会	がん対策推進基本計画に基づく緩和ケアの推進および患者・家族の生活の質（QOL）を維持向上させること	がん対策
院内がん登録委員会	病院がん登録の実施に必要な事項を定め、がん登録業務の適正な企画、管理及び運用を図るため	がん対策

ヘルスケア研究センター運営委員会	地域住民の一人ひとりが予防医学に積極的にに関わり、自身の健康状態の把握と病気の早期発見のための健康診断の受診および健診結果を踏まえた適切な保健指導、栄養指導等により、住み慣れた地域で、自分らしく安心して暮らせる社会の実現をめざし、健診事業等の適正な執行・管理を行うもの	
委員長 ヘルスケア研究センター長 石田均	委員名 野口哲男、潮正輝、林嘉彦、杉本正幸、東出俊一、小林映、伏木雅人、上津昌広、若宮誠、古山忠宏、宮元伸篤、中村友佳里、吉川敬子、藤居敏、森靖、三原了導	事務局 ヘルスケア研究センター
活動内容 【委員会の開催】 ○第1回ヘルスケア研究センター運営委員会 日 時：令和4年7月11日（月） 午後4時～ 会議次第：1. 委員長挨拶 2. 委員の任免について 3. ヘルスケア研究センター組織改編について 4. 令和3年度報告について 5. 令和4年度計画について 6. その他 ○第2回ヘルスケア研究センター運営委員会 日 時：令和4年12月12日（月） 午後4時～ 会議次第：1. 委員長挨拶 2. 令和4年度上半期報告について 3. ながはま0次予防コホート事業の運営について 4. 令和5年度健診業務について 5. 人間ドック、オプション検査料金の改定について 6. その他		

薬事委員会	病院の薬剤に関する基本方針を定め、その方針に従い院内薬剤業務を円滑に遂行するため				
委員長 副院長 小室太郎	委員名 高島弘行、森田善方、植山浩二、 大野将司（平山尚史）、宮部照美、西沢政隆、 松井純一（阪東萌）、野淵孝二、中村俊之 ※転勤・人事異動に伴い括弧の委員に変更			事務局 薬剤局	
活動内容					
	新規採用薬剤		中止薬剤	院外→院内	院内→院外
	院内外	院外専用			
第1回(令和4年6月13日)	9	2	1	1	2
第2回(令和4年8月17日)	2	0	1	0	0
第3回(令和4年12月7日)	4	6	2	0	0
第4回(令和5年1月31日)	3	7	0	0	0
第5回(令和5年3月14日)	5	2	1	0	0
緊急採用	14	2	0	0	0

医薬品安全管理委員会	病院で使用される医薬品に関わる安全管理体制の確保を図るため	
委員長 副薬剤長 野洲孝二	委員名 高島弘行、森田善方、植山浩二、 大野将司（平山尚史）、北村文代、宮部照美、 松井純一（坂東萌）、中村俊之 ※転勤・人事異動に伴い括弧の委員に変更	事務局 薬剤局
活動内容 ・院内研修会を2回開催。テーマは以下の通り。 「注射用カリウム製剤について」 「抗凝固薬の中和剤について」 ・令和4年度医薬品安全管理委員会は文書決裁にて対応。内容は手順書・指針の変更に関して。 医薬品安全使用のための業務手順書を改訂 注射用カリウム剤使用指針を改訂		

医療機器安全管理委員会	院内で使用される医療機器に係る安全管理体制の確保を図るため	
委員長 技術長 辻克信	委員名 洞井和彦、中川雅登、西沢政隆、宮部照美、 西野克弥、宮川孝史、草野信悟、辻賢	事務局 臨床工学技術科
活動内容 令和4年 4月 フィリップス社製 V60 ベンチレータに関する市場安全通知についての対応 4月 ニプロ社製透析装置に係る重要なお知らせについての対応 5月 フィリップス社製 SMART パッドカートリッジに係る市場安全通知についての対応 6月 メドトロニック社製埋込み型心臓電気デバイスの不具合事象についての対応 7月 フィリップス社製 CPAP 装置、人工呼吸器に関する安全通知について 8月 アボット社製植込み型心臓ペースメーカーの自主回収についての対応 9月 医療機器安全管理研修会（e ラーニング）の開催 テーマ：マスクフィッティングの方法・マスク換気（V60）の適切使用 10月 GE ヘルスケア社製麻酔器の不具合事象における改修案内についての対応 10月 オリンパス社製ファイバースコープの取扱説明書改定の案内についての対応 11月 GE ヘルスケア社製麻酔システムの安全に関する重要なお知らせについての対応 12月 令和4年度医療機器安全基礎講習会受講 看護局3名 令和5年 2月 フィリップス社製人工呼吸器トリロジーシリーズの是正（回収）措置実施済み器に関する重要なお知らせについての対応		

透析機器安全管理委員会	I, 透析液水質管理加算の算定基準のため ①関連学会水質基準を満たす ②透析液安全管理者の配置 ③透析機器安全管理委員会の設置 II, 透析に係る機器・装置、透析液の安全管理	
委員長 内科部長 森田善方	委員名 新木貴枝、辻克信、塚口昌文、西田泰人	事務局 臨床工学技術科
活動内容 令和4年4月27日 第1回 透析機器安全管理委員会 開催 令和4年度エンドトキシン・生菌数測定結果の報告説明 令和4年8月3日 コロナ陽性患者や透析室の運用についての話し合い 令和4年9月15日 令和4年度エンドトキシン・生菌数測定結果の中間報告説明		

市立長浜病院栄養委員会	当院における給食及び栄養業務を合理的かつ効果的に運営するため、必要な事項の審議を行い、もって栄養業務の向上、改善を図ることを目的とする	
委員長 内科部長 森田善方	委員名 上田修吾、石田均、古山忠宏、草野美樹、伊藤仁文、中川太郎	事務局 栄養科
活動内容 第1回委員会 令和4年6月29日 開催 報告事項 (1) 令和3年度 給食管理業務実績について (2) 令和3年度 栄養指導業務実績について (3) 令和4年度 第1回 嗜好調査結果について (4) 令和4年度の管理栄養士業務をとりまく状況について 第2回委員会 令和4年10月5日 開催 1. 報告事項 (1) 令和4年度第2回 嗜好調査結果について (2) 病院機能評価結果について 2. 協議事項 (1) 栄養指導の予約枠について 第3回委員会 令和5年2月8日 開催 1. 報告事項 (1) 令和4年度第3回 嗜好調査結果について (2) 『アクアファン MD100』(ERAS プロトコル用 経口高炭水化物飲料) について (3) 栄養指導の予約枠について 2. 協議事項 (1) 電子カルテ上の主食の栄養量変更について (2) 減塩系統の一部食種の統合について 書面会議 令和4年11月27日 開催 『アクアファン MD100』の採用について		

市立長浜病院 NST 委員会	当院における患者の栄養状態を管理するため、NST（栄養サポートチーム）を結成し、著しく栄養状態が悪い患者に適切な栄養療法を選択し実施することにより栄養状態の改善を図り、治療効果を高め、感染症、褥瘡等の予防及び在院日数の短縮や医療費の削減等に貢献し、患者の生活の質の向上を図ることを目的とする	
委員長 内科部長 潮正輝	委員名 井階幸一、上田修吾、赤井明美、福山史朗、八田亜希子、山科雄一、安田将樹、河北和馬、吉田名緒、堀田実花、藤田亜沙美、藤田侑子、嘉瀬井和美、中川太郎、赤尾真樹子、桐畑千尋、須戸奏、田中有紀	事務局 栄養科
主な活動内容 1. 委員会の開催 合計 12 回開催（毎月 1 回を目安に第 4 水曜日に開催） ・前年度（令和 3 年度）の実績報告 ・令和 4 年度 NST 委員会の取り組みについて ・早期栄養介入管理加算に係る手順書について ・全職員対象 NST 研修会について ・経腸栄養管理方法の啓発活動の実施について 等 2. NST 病棟回診の実施 週 1 回（毎週水曜日） 回診件数 468 件／年（詳細は各種統計資料参照） 3. NST 全体研修会 日 時 令和 4 年 10 月 7 日（金）17 時 30 分～18 時 場 所 2 階 第 2 会議室 演 題 透析患者への経腸栄養選択および自宅退院に向けて経口摂取へ移行した栄養介入 －気管切開された患者に対し NST 介入が奏功した一例－ 講 師 看護局 山科 雄一 薬剤局 河北 和馬 中央検査技術科 西川 実花 歯科・眼科技術室 藤田 亜沙美 リハビリテーション技術科 嘉瀬井 和美、藤田 侑子 栄養科 桐畑 千尋 4. NST 勉強会 年間 3 回開催 第 1 回 勉強会 日 時 令和 4 年 7 月 25 日（月）16 時 15 分～17 時 場 所 2 階 講義室 演 題 経腸栄養ルート変更後の状況 講 師 看護局 福山 史朗 第 2 回 勉強会 日 時 令和 4 年 11 月 28 日（金）16 時 15 分～17 時 場 所 2 階 講義室 演 題 自助具の選び方と姿勢について / 摂食嚥下訓練について 講 師 リハビリテーション技術科 嘉瀬井 和美、藤田 侑子 第 3 回 勉強会 日 時 令和 4 年 2 月 20 日（月）16 時 15 分～17 時 10 分 場 所 2 階 講義室 内 容① 静脈栄養管理について（講師 薬剤局 安田 将樹） 内 容② 病態別の食事調整、補食の追加について（講師 栄養科 須戸 奏）		

放射線安全委員会	職員の放射線被ばく防止、健康ならびに放射線発生装置に関する諸事項を検討し、これらの事故防止対策にかかる必要な事項を企画審議するため	
委員長 放射線科部長 (治療部門) 小坂恭弘	委員名 若宮誠、富田聡、近藤定彦、森靖、西邑範明、 西沢政隆、大橋正英、草野美樹、古山忠宏、 田邊啓太、辻雅之 (事務局)	事務局 放射線技術科
活動内容 【委員会の開催】 ○第1回 令和4年7月27日(水) 午後5時より5時45分まで 議事内容 ・令和4年度放射線安全教育研修会の開催について 今年度より、6月開催となる。(新人教育のためにもこの時期の開催の方がよい。) ・被ばく線量測定バッジ(ルミネスバッジ)の着用について 4ヶ月以上返却されないバッジについては昨年7～12月の半年間で52個あった。 個人線量限度については、警告通知が3名の医師でできている。(循環器医師2名、放射線科医師1名)ビジョンバッジを導入したので、様子を見る。 ・RI規正法関連の審議事項について 放射線治療で予定外の被ばくや処方線量に大きく影響する事象は発生していない。 放射線治療用線量計の校正は毎年行っているが、令和5年度装置更新のため次回は令和6年度となる放射線治療装置更新時に放射化物の保管・廃棄について予防規程の変更が必要になる。 定期検査・定期確認については令和7年3月5日までに受ける必要がある。 放射線装置更新のスケジュールについても報告した。 ・サーベイメータ校正 リニアック室の漏えい線量測定用の電離箱式サーベイメータ2台については、今年度は滋賀県診療放射線技師会の線量計校正講習で校正することができる。 原子力災害対策用のNaIシンチレーションサーベイメータ1台とGMサーベイメータ2台については、県から支給されたものだが、校正は各施設で費用負担しなければならない。3台を1年に1台ずつで校正していく。 ポケット線量計については、緊急時以外は用途が原子力防災訓練のみのため、校正は未定。 ○第2回 令和5年3月14日(火) 午後4時30分より5時20分まで 議事内容 ・個人被ばく線量計について 2022年度下半期における線量限度の警告通知は2名(循環器医師1名、診療放射線技師1名)で水晶体についての警告であった。 毎月のように返却しない職員がいることについて、事務局から医局秘書に医師への返却ルール周知徹底をお願いした。研修医に対しても総務課の方から周知がされている。返却率は改善している。 当院は被ばくの恐れがある手技に就く可能性がある部署に対して貸与している。個人線量計を着用しない場合は、本当に被ばくの恐れが無いのか所属長の判断になるが、口頭だけでなく、新たに様式を作成して、書面で個人線量計不要理由をはっきりさせて提出してもらう方がよい。さらには電離則の文面等も入れ、着用の義務と当院の貸与ルールもまとめておいた方がよい。 ・放射線治療装置の更新について 放射線治療装置更新に伴う報告がなされた。 放射線治療装置搬入が1ヶ月遅れたため、そのほかの予定も少しずつ遅れている。 診察室増築工事は、再入札となったため、5ヶ月遅れる予定。 ・令和5年度放射線安全研修会について 来年度も、医療安全と合同で行う。日時は既に確定している。令和5年6月15日(木)17:30 内容は、例年通り、新卒職員に放射線の基礎知識と放射線機器・検査の注意点を説明する。看護局からは、ここ数年は造影剤の話をしてもらっているが、来年度はどうするか事務局が協議する。 体験実習については、昨年度は3年ぶりにMRI吸着体験をしてもらった。新卒にとって大変有用なことだが、来年度は放射線治療装置更新もあるので、内覧を兼ねて、高エネルギー発生装置がどのようにして安全を担保しているかを体験してもらう予定をしている。(もちろんMRI吸着については研修会の方で講義する。) ・ゾーフィゴ注射薬の使用について 当院初のアルファ線放出核種を用いた治療薬を令和5年4月から運用を目指している。 去勢抵抗性前立腺癌の骨転移に対する治療薬で年間8例を想定している。 放射線安全研修会で周知をする。 【放射線安全研修会】 令和4年6月14日(火) 17:30～18:45 当院2階講堂、および支援棟、放射線科MRI検査室にて開催 講演 ・放射線の基礎知識と放射線科検査、治療の注意点 木村 拓美 ・放射線療法における有害事象 入江 桃好 ・造影剤の話 山田 和幸 実習 ・MRI検査室にて吸着体験実習 参加者 608人 当日参加者 54人(診療局3人、看護局25人、医療技術局22人、薬剤部0人、事務局4人、その他0人) e-learning 視聴(6/27～8/19) 554人(診療局5人、看護局330人、医療技術局117人、薬剤部6人、事務局81人、その他15人)		

放射線治療 品質保証委員会	放射線治療における安全の向上 並びに品質管理及び保証又、職員の教育・研修に関する諸事項を検討し、必要な事項を企画審議するため	
委員長 放射線科部長 (治療部門) 小坂恭弘	委員名 富田聡、川上正邦、辻雅之、岩崎まゆみ、新川君代、 辰己裕和、杉山順哉、入江桃好、西村正明、 木村拓美、前川涼、伊良皆拓、田辺啓太	事務局 放射線技術科
活動内容 【委員会の開催】 ○第1回 令和4年7月7日(木) ○第2回 令和5年2月16日(木) ○議事内容：各種マニュアル、手順書の確認 安全の向上に関すること 教育、研修に関すること その他 【QA会議の開催】 ○原則毎週火曜日業務終了後に開催し、放射線治療に関する機器の精度管理、安全管理および運用等について検討した。 【研修会の開催】 ○医療事故防止対策委員会、放射線安全委員会との共催 日時 令和4年6月14日(火) 17:30～18:20(2階講堂) 当委員会と関係する内容 ・「放射線の基礎知識と放射線科検査、治療の注意点」 木村 拓美 ・「放射線療法における有害事象」 入江 桃好 参加者 参加者 608人 当日参加者 54人(診療科3人、看護局25人、医療技術局22人、薬剤部0人、事務局4人、その他0人) e-learning視聴(6/27～8/19) 554人(診療科5人、看護局330人、医療技術局117人、薬剤部6人、事務局81人、その他15人)		

医療放射線安全 管理委員会	診療用放射線に係る安全管理体制に関する事項について定め、診療用放射線の安全で有効な利用を確保することを目的とする	
委員長 放射線科部長 (診断部門) 若宮誠	委員名 古山忠宏、富田聡、高島弘行、森田善方、堀口聡士、 廣瀬伸次、今枝広丞、北村文代、草野美樹、 宮川孝史、北川徹	事務局 放射線技術科
活動内容 第1回医療放射線安全管理委員会 令和4年7月28日(木) 17時30分～18時10分 ・CT検査における線量に対する現状報告 ・血管撮影、IVR等における高被ばく線量の現状報告 ・電離放射線障害防止規則の改正報告 医療放射線安全管理研修会開催 令和4年12月13日(火) 17時30分～18時10分 ・テーマ：診療放射線の安全利用について ・ビデオ講習及び講演 講師 若宮先生 第2回医療放射線安全管理委員会 令和5年3月7日(火) 17時30分～18時10分 ・診療放射線の安全利用のための研修会報告 ・CT検査における線量に対する現状報告 ・血管撮影、IVR等における高被ばく線量の現状報告 ・不要被ばく事例報告		

臨床検査運営委員会	臨床検査の適正化、検査機器の精度管理、検査業務の円滑化・効率化を図る	
委員長 副院長 小室太郎	委員名 黒澤学、上田久巳、笠井洋祐（6月まで）、横山大受（7月から）、伏木雅人、草野美樹、森靖、西沢政隆、主馬央統、宮元伸篤、岡本明子	事務局 中央検査技術科
活動内容 令和4年5月27日 協議事項：委員の変更、新規試薬購入の承認 報告事項：令和3年度検査実績、令和3年度外部精度管理報告、新型コロナウイルス検査の運用状況、ISO15189取得の進捗状況、検査機器の更新、その他 以下、書面会議 令和4年6月：新規試薬購入の承認 令和4年10月：新規試薬購入の承認 令和5年1月：「検査案内（一次サンプル採取マニュアル）」の更新		

輸血療法委員会	安全で適正な院内輸血の推進	
委員長 心臓血管外科部長 吉良浩勝	委員名 中村拓路、田久保康隆、高木順平、西増春佳、北村文代、野村耕一郎、赤井明美、笠井晴生、吉田名緒、堀田実花	事務局 中央検査技術科
活動内容 第1回：令和4年7月6日 宗教上の理由等による輸血拒否に対する当院の対応について 病院機能評価受審について 診療情報管理室からの「輸血管理料算定状況の抜き出し量的調査報告」について 血液製剤廃棄状況について 第2回：令和4年10月19日 病院機能評価受審についてなど 第3回：令和5年1月18日 診療情報管理室からの「輸血管理料算定状況の抜き出し量的調査報告」について 第4回：令和5年3月8日 輸血実施記録の正確な記載および、副反応の確認と記録について 輸血機能評価認定（I & A）取得に向けてなど		

嚥下委員会	摂食嚥下障害を有する患者に適正な嚥下機能訓練方法を選択し実施することにより、患者の摂食嚥下機能と栄養状態の改善を図り、誤嚥を予防し、在院日数の短縮や在宅医療との連携に貢献し、患者のQOL向上を図る	
委員長 歯科口腔外科責任部長 近藤定彦	委員名 糟谷憲邦、西口達治、大野暢宏、江藤謹司、田邊信彦、外村匡康、杉江加代子、田附容子、山科雄一、山本花音、福山史郎、藤田和子、安東恵美、長谷川博美、谷地柚香	事務局 リハビリテーション技術科
活動内容 1. 毎月第2・4月曜日に嚥下委員会を開催し、症例検討を実施している。 2. 毎週火・木曜日に嚥下回診を実施し、適切な摂食嚥下リハビリテーション方法の指導、伝達と共に、病棟での摂食機能療法定率の拡大に取り組んでいる。 3. 毎週月・水曜日に嚥下造影検査（VF）と嚥下内視鏡検査（VE）を実施している。 4. 6月に病棟嚥下委員に対して摂食機能療法定に関する勉強会を実施した。		

骨粗鬆症リエゾンサービス委員会	脆弱性骨折患者に対し、骨粗鬆症治療介入および継続支援を積極的に行い、二次性骨折を予防する。院内職員の骨粗鬆症に関する意識を高め、治療体制の充実や骨粗鬆症マネージャーの育成を図る。近隣医療機関と連携し、治療が途切れることなく継続できるネットワークを構築し、促進する。行政と協力し骨粗鬆症検査の推進や、一次骨折予防のための啓発を行う	
委員長 整形外科部長 田中淳	委員名 西村圭二、塚本晃平、大塚洗希、田中武也、 中村友佳里、高木陽平、外村理奈、小野千鶴、 寺山正真、森珠里、富岡葵、周美佐、岩佐由里子、 松田真弓、北村美幸、池田遼太、古山英孝、 山下大輔、杉本正幸	事務局 リハビリテーション技術科
活動内容 1. 委員会の開催 開催頻度：月に1回（第4月曜日 17：30～） 計12回開催 介入患者数：176件（昨年度よりも50件増加） 検討事項：骨粗鬆症の治療状況やDEXA実施の有無、退院後の治療継続の可否、 外来での治療継続状況などについて検討。 必要に応じて主治医への処方依頼や病棟間の情報提供、 外来フォローの継続・開業医への情報提供を実施。 2. 院内学習会の開催 開催日時：令和5年2月13日 17：30～18：15 内容：二次性骨折予防継続管理料算定の方法論について 参加者：22名 3. その他の活動 ① 二次性骨折予防継続管理料の算定開始 令和4年4月より、骨粗鬆症の治療による二次性骨折の予防を推進する観点から、骨粗鬆症を有する大腿骨近位部骨折患者に対して、早期から必要な治療を実施した場合について管理料の算定が可能となった。 当院は、管理料1（急性期）、2（回復期）、3（外来）のすべての算定基準を満たしている。 算定を行うにあたり、マニュアル作成、学習会の開催など、システムの構築を行った。 算定件数は、130件（令和4年4月～令和5年3月） ② 骨粗鬆症マネージャーの育成 認定試験を受験し、看護師1名が合格した。 ③ 骨粗鬆症についての啓発 外来待合スペースだけでなく、ヘルスケア研究センター内でも骨粗鬆症や転倒予防についての動画放映、栄養指導パンフレット配布などを実施。 ④ 近隣医療機関との連携 骨粗鬆症治療の継続支援および多施設、多職種連携のための医療用連携アプリを用いて、近隣医療機関（2施設）との連携を試行的に開始した。		

歯科口腔外科医療関連感染防止対策委員会	歯科口腔外科における特殊器材使用時の医療関連感染防止を図る	
委員長 歯科口腔外科責任部長 近藤定彦	委員名 杉藤雅孝、中村寛子、長谷川博美、藤田亜沙美、 近藤昭仁	事務局 歯科口腔外科、 歯科眼科技術室
活動内容 主な協議事項 令和4年7月1日 ・医療エリアと患者ゾーンについて ・消毒剤の効能と対象物の確認 令和4年9月27日 ・个人防护具の着脱訓練 ・手指衛生5つのタイミングについて 令和5年2月21日 ・手洗い実習 ・今後の委員会活動について		

看護局看護管理者会		中間管理者として病院の運営方針をよく理解して業務の改善向上に努めると共に、看護業務を円滑に進める	
委員長 看護局長 弓削悦子		委員名 係長以上の者	事務局 看護局
月	日	活動内容	
4月	13日	看護局年度所感 【今年度抱負】全員一言発表 各資料説明(1)看護局組織図について(2)会議の持ち方について(3)人事評価について組織図 (4)会議・委員会委員(5)臨床実習年間計画 等)	
4月	27日	マネジメントスキル教育機能評価WEB研修「病院評価を受審して～受審準備から現在の活動まで～」 川崎市立病院 議案2.機能評価受審について説明・・・吉川 ケアプロセスの準備看護局サーベイルウンドについて	
5月	11日	組織管理能力 【議案1】認知症ケア加算1への切り替えについて 説明:山本認知症ケア認定 【議案2】目標管理について説明・・・宮部 【議案3】各部署目標共有、目標管理戦略シート発表・共有	
5月	25日	【議案1】各委員会の目標について・・・宮部 【議案2】看護局協力費について 【議案3】マネジメントラダーについて	
6月	8日	目標管理進捗状況報告&協議 ・重点目標1 倫理シートの活用等 【ナースングスキル視聴】 管理者に求められる倫理的なリーダーシップ 組織における臨床倫理の定着を目指して 講師 石垣靖子先生 【議案1】 看護マネジメントスキル研修 看護管理者として、倫理原則を用いて事例を整理する新様式の倫理シートに沿って事例1について共有 4分割法・倫理原則に沿って事例2について共有 【議案2】 安全管理 2事例から、各部署における安全管理を阻害している問題を分析した結果を、GWで共有、具体的な対策立案	
6月	22日	【議案1】 看護マネジメントスキル研修 意思決定支援について 1.ACP・意思決定支援について 担当:宮崎 緩和ケア認定 【議案2】看護局 看護専門領域教育センターについて ・目的の説明 ・組織:専門領域の強化について ・機能について	
7月	13日	【議案1】① 白菊会予算 事業についての説明 ② 病院概要ラウンドについての説明 【議案2】病院機能評価 環境ラウンド 4Gに分かれ、各担当部署をラウンド	
7月	27日	【議案1】看護マネージメントスキル:看護管理者として、倫理原則を用いた事例を共有 【議案2】COVID-19対応最新情報の説明 感染管理認定中村 病院機能評価模擬ケア:病院概要ラウンド 各担当部署4Gに分かれて実施機能評価 事例シュミレーション	
8月	毎週	機能評価 事例シュミレーション	
9月	毎週	機能評価 事例シュミレーション 病棟巡回	
9月	20 21日	病院機能評価 訪問審査	
10月	12日	令和4年前期取り組み評価と今後のとりくみについて弓削 機能評価受審後の情報共有(気づき、課題)今後の取り組みGW	
10月	26日	【議案1】令和4年 目標管理 中間報告① 7西 重点目標3「早期からの退院調整の実施」赤井 ヘルスセンター 重点目標3「選ばれる健診センター作り」北村美 回復期リハビリ 重点目標3「早推進活動」田附 患者総合支援センター 重点目標3「地域医療から選ばれる病院作り」徳田 推進委員 重点目標1「つながりのある看護の実践」経過宮部 【議案2】病院機能評価受審後の今後の取り組み(GWまとめ)報告 吉川 【議案3】その他 ・びょういんの参観日について	
11月	9日	議案1.令和4年 目標管理 各委員会 検討会他 中間報告発表部署:5西、リスクナース検討会、感染対策リンクナース検討会、記録検討会、新人看護師教育担当者会等	
11月	30日	マネジメントスキル教育 議案1.病院機能評価を受け、今年度中の取り組み 説明と同意(I.C)の精度向上のための研修 講師・河野主任(がん化学療法看護認定看護師) ・宮崎主任(緩和ケア認定看護師)	
12月	14日	議案1管理者施設訪問後の情報提供 議案2安心して働き続けられる環境づくりのために「看護職の夜勤・交代制勤務に関するガイドライン」を活用し、働き方の検討 ・データと課題について ・4グループに分かれて意見交換	
1月	11日	組織管理能力 質管理能力 R4年度目標管理の結果と考察 ・目標管理について 期末アンケート結果報告 ・次年度の課題目標管理最終報告 セクション、委員会会議活動発表	
1月	18日	R5年度 目標管理1 グループワーク ①SWOTシートの確認 ②クロス分析	
1月	25日	目標管理2 グループワーク課題の整理(共通理解)と重点目標の抽出	
2月	8日	・目標管理3 重点目標抽出 BSC戦略シート作成 ・委員会・プロジェクトについて年間報告次年度に向けて	
2月	15日	・目標管理4 重点目標1 2 BCS戦略シート説明 ・委員会・プロジェクトについて	
2月	22日	・病院経営改善Webセミナー:13時15分～16時10分 ・目標管理 推進委員からBSC説明後、意見交換	
3月	8日	・【目標管理】 目標管理推進担当者より、令和5年度の目標管理の説明 【新人受け入れに関して】 令和5年度 新人看護職員受け入れ説明。山田	
3月	22日	議案1:定期人事異動に伴う 令和5年目標達成に向けての体制について説明弓削 議案2:湖北ルールについて説明徳田	
今年度は、病院機能評価を受審するに当たり、課題の改善に向けてのマネジメント研修や、事例検討を重ね、8月9月は毎週事例シミュレーション 巡回を実践し、訪問審査を終えることができた。最終評価の感想の中で、高評価は得られたが、病院がこれから努力が必要と自覚していた点を指摘されたため、引き続き、患者中心の医療では、意思決定支援、倫理課題の取り組みについて会議の中で、協議を重ね、質向上につなげることが出来たと評価する。目標管理や委員会の取り組みは見える化し、院外への発表につなげることも出来た。目標管理は1月11日の成果報告を現状把握と分析につなげることで出来、効果的な目標管理の協議が出来、令和5年度目標管理につなげることが出来た。			

看護局 主任会	1. 看護実践の責任者として資質を高め、現場の問題解決に積極的に取り組み 職場の活性化を図る 2. 医療監査における課題抽出と解決	
委員長 看護主幹 伊吹理子	委員名 沖田小百合、田中梨絵、浅見秀治、中川栄子、 西島好子、坪井和子、東野千佳、高山未佳、 前川幸代、中川由紀、草野和美、高田憲明、 西堀雅樹、野村かおり、岡本弓子、河野真弓、 宮崎恵子、山本理恵	事務局 看護局
活動内容 ①地域包括システムの中の看護職の役割遂行が理解でき、行動できる ②心理的安全性のある職場作りができる。カイゼン活動を1事例以上行い、PDCAサイクルを用いて、評価とカイゼンができる。 ②看護補助者間の連携体制の構築。 ③専門的な看護実践と指導的役割を発揮できる 5月17日 看護補助者研修企画:7月15日(移乗と移動)、10月5日(オムツ交換)、11月24日(感染、環境整備)研修実施、不参加者には事後課題 6月21日 自部署の心理的安全性を考えるグループワーク①、看護管理者会の事例の各部署での取り組みとその進捗状況 7月19日 自部署の心理的安全性の職場づくりについてカイゼン計画をグループ討議②、補助者研修報告 9月20日 突発的事象について自部署の状況確認とグループワークし、部署でスタッフ指導に繋げる 10月18日 個別的な看護の実践と評価、患者の特性、ニーズに応じた看護の実践について討議 心理的安全性の作り方について－③ 実践活動の進捗について (PDCAサイクルを意識して) 11月15日 病床管理を意識した退院調整:事例発表と討議(2題)、補助者教育について説明(看護師の看護補助者との協働推進についてオンデマンド研修受講) 1月17日 心理的安全性の作り方について－④ 職場はどのように変化できたか 師長と共にコンティンジェンシーモデルの理解とSWOT分析実施 2月21日 多職種と連携して看護の質の向上を行った実践について報告と討議(2事例実施) 3月7日主任会固定リーダー会合同発表会開催		

看護局教育委員会	看護の質の向上をめざして、看護職員が専門職業人として生涯にわたる能力開発とキャリア開発形成支援するために教育研修の企画・運営・評価を行う	
委員長 看護科長補佐 新木貴枝	委員名 辻美春、日時みゆき、福原優子、渡良子、中川栄子、次郎内茂、中川友香、杳水景子、井上実由起、前川幸代、堀居祥代、鍋島みゆき、柳澤いづみ、山口美奈、中川紀子、杉山順哉、勝木陽子、尾崎千鶴、大山直子、藤居紋	事務局 看護局
活動内容 1) スタッフが他職種と連携し、個々に応じた看護実践ができるよう、委員会活動を通して教育的支援を行うことができる。 2) 教育委員は、病棟スタッフが各レベルの課題を達成できるよう、計画的な自己・他者評価、面接（他確認方法の活用）によって学びや看護実践への動機づけや進捗状況の確認を行う。 3) 教育委員は、クリニカルラダーに基づいた教育研修（OFF－JT／OJTの連動）の企画・運営・評価の実践により研修転移を促進させることができる。 5月6日【全体会】教育委員会組織体制、病棟教育委員、企画委員の役割の説明、クリニカルラダー修正・変更点の説明 【企画会議】各レベル別、看護研究委員会の企画会議 6月3日【中央委員会】各レベル年間活動共有、研修企画に関する報告および課題用紙修正 看護過程研修のレベル間調整、フィジカルアセスメント研修に関する調整 現場→病棟教育委員による面接（初回）開始 7月1日【全体会】各病棟の活動報告・課題共有GW「面接場面での工夫・成功事例・対応困難時の共有」、6月研修報告 レベル別検討事項報告 【企画会議】研究委員会合同 9月2日【全体会】中間評価に向けての課題共有、各レベル研修事後課題やOJTでの困り事、7月研修報告・OJT依頼 【企画会議】研究委員会合同 10月7日【中央委員会】レベル別OJT実施状況の確認、課題共有、上半期の集合研修の評価/各レベルの活動中間評価、次年度クリニカルラダー・研究修正案 11月4日【全体会】9・10月研修、11、12月予定研修の報告、各レベル研修事後課題やOJTで困っている事、最終評価に向けた課題の共有GW「中間面接後、他者評価者の気づき、研修企画見直し検討、研修内容とラダー整合性の確認」 【企画会議】研究委員会合同 12月2日【中央委員会】各レベル別研修・ラダーについての問題点の共有 ラダー最終評価・ツール認定に関する調整、病棟教育委員による面接（最終） 1月6日【全体会】次年度研修企画に向けてGW「OFF－JT・OJTの連動、現場実践の行動変容状況、他者評価者の役割発揮、今後の課題」 【企画会議】研究委員会合同 2月3日【中央委員会】評価ツール認定会議 3月3日【中央委員会】最終評価、次年度研修・ラダー修正および次年度研修内容の協議、次年度ラダー説明準備		

看護局 新人看護職員 研修委員会	新人看護職員の安全な臨床実践能力の獲得、専門職業人としての成長、生涯にわたり自己研鑽の姿勢を習得できる支援体制と研修評価を協議する	
委員長 看護主査 齋藤敬子	委員名 富田悠、山口麻也、中村初美、村上純子、岩井千尋、 名内あつみ、久保田哲子、木村亜貴江、 高山しず香、齋藤敬子、山口未来人	事務局 看護局
活動内容 4月28日：新人看護職員研修委員会の運営についての説明、新人指導の状況、指導上困っていることについての共有、現場研修での使用物品の説明（ラーニングルームの点検について） 5月20日：今年度の活動計画について説明、委員会における役割のメンバー決定、新人・実施指導者の状況の共有と問題について協議 6月16日：集合研修G：BLS指導案を用いて概要説明、現場研修G：指導方法や新人看護師の心理面についての学習会を開催 7月21日：6月開催したBLS①研修報告・10月研修案を説明、指導上の困難点や課題について現状を共有、3ヶ月評価ツールの共有、メンタルシートの共有 9月 指導上の困難点・課題シート入力による共有、BLS②研修、9月26日指導者研修Gにて研修開催 10月20日：9月BLS②研修報告、実施指導者研修を元に指導者の意識変容の有無を共有 11月 指導上の困難点・課題、新卒指導進捗状況などシート入力にて共有 12月15日：現場研修G：注射ツールの訂正内容について協議、レベルIa評価ツール提出に向けて確認事項の共有「新人指導者教育研修に参加して」参加者より伝達講習実施 1月19日：今年度の体制や取り組みの評価と次年度に向けての研修内容の検討、指導体制において意見の聴取、協議 2月16日：レベルIaツール評価、次年度の教育指導体制の方針や意向の伝達、指導者研修G：次年度の実施指導者研修案について説明、3月17日開催予定の集合研修G：「看護観」発表会について研修案の説明		

看護局 固定リーダー会	チームリーダー業務および役割を通して問題を提起し、解決を図ると共にスタッフの質の向上とリーダーの自己啓発を推進する	
委員長 看護科長補佐 中村春美	委員名 松井亜希子、林美希、高山顕士朗、赤星圭一、 林文子、大森沙穂、高木陽平、山岡朋子、鹿取美紀、 名内由佳、齋藤友恵、鬼塚雅樹、北川翔一、谷良美、 松田真弓、炭田枝美子	事務局 看護局
活動内容 活動方針 1、地域包括ケアを意識した看護実践ができる 2、看護倫理の醸成：看護倫理を意識して看護実践できる 会議開催 ：5月24日 7月26日 9月27日 11月22日 1月24日 活動方針1については、入院時から患者、家族の希望を聞き個別にあわせた計画の立案を行い看護実践に結びつけ地域包括ケア事例につなげられた。機能評価受審もあり、各部署にて特徴を活かして部署間やリソースNS、他職種との連携を行い看護実践にむけることができた。グループワークの中で患者さんを中心に関連部署とのつながりを意識し、情報共有やカンファレンス参加等、自ら工夫して実践することができた。活動方針2については、事例検討の実施は行えており看護倫理について意識が向上した。看護実践事例の共有にて倫理観を深めあうことができ、部署間でのつながりが看護実践に活かせることの理解も深められた。今年度は固定チームナースング全国研究集会、固定チームナースング近畿地方会が開催されたため積極的に参加することができた。 ※3月7日主任会・固定リーダー会合同事例発表会開催。会場参加とZOOMおよび後日ナースングスキルにて配信。ベストサービスカードにて他部署へ意見や感想等伝達。		

看護局 記録検討会	・実践した看護を記録に反映させるために、記録の書式検討や省略化を推進し、記録の有効活用を図る ・基準に沿って監査し、看護記録の向上を図る	
委員長 看護係長 清水満子	委員名 清水喜子、片岡英代、高山顕士朗、秋吉英市、川畑泉、土田真紀、江原千尋、奥村佳苗、荒金崇介、立松恵、松橋由香、小野ひとみ、堀真奈美、筒井寛一、山口晶子、依田百代	事務局 看護局
活動内容 活動方針 1. 看護記録監査用紙を用いて2ヶ月に1回記録監査を行い、記録マニュアル修正部分の周知や新たに作成したテンプレートを使用することで、患者家族の要望が反映された看護展開ができ記録ができる 2. 各部署において記録に関する啓発活動を行い、入院診療計画書に基づいた看護実践の記録ができ、看護の均一化、質の向上につなげられる。 3. 重症度医療看護必要度の評価方法の継続した記録が行え、評価ができる。 会議開催：5月27日 7月29日 9月30日 2月24日 自部署における記録の問題点について改善に向けて、記録検討委員が主体となり各部署における記録啓発活動を実施し、PDCAサイクルを実行した。記録に対するスタッフの意識変化を捉えることができ、記録監査上のB以上評価率は上昇することができた。また、記録の簡略化や充実化を目標に、全病棟統一したテンプレートの作成を行い、患者家族との計画共有記録や皮膚状態の観察記録をテンプレート化した。今後は計画共有記録に関して、テンプレート後の変化を確認として、今後監査記録の中で項目別評価を行っていく必要がある。		

看護局看護師 定着・確保委員会	①職員のモラル効用を目的に、身だしなみや働きやすい職場環境を改善 ②地域住民、職員から愛される病院となるように接遇強化 ③職員の確保を目的に魅力ある病院を発信する。オンラインでの病院見学会	
委員長 看護係長 野村耕一郎	委員名 勝木志穂、金村さおり、片岡英代、大井豊隆、尾木理紗、江菅蒼馬、的場梨紗、葛城綾那、小杉美樹、高木ひとみ、岸上さとみ、菅居佳巳、上野博司、土田昌美、三浦浩之	事務局 看護局
活動方針 1. 目標管理：重点目標2、働きやすい職場作り 2. 選ばれる病院作り：接遇 3. 魅力ある病院を発信する・病院見学会：オンラインにて開催・ホームページに看護現場の魅力を発信する 活動内容 6月9日 令和4年度活動方針・計画の説明・部署での活動計画の説明 8月 接遇チェック（各部署にて実施） 9月8日 部署での接遇改善活動の中間評価発表 後期への課題の抽出 11月 接遇チェック（各部署にて実施） 12月8日 部署での接遇改善活動の進捗状況発表 来年度への課題の抽出 2月9日 各部署取り組み発表 年間を通じて各部署での接遇、環境改善活動を中心に展開し、心理的安全性のある職場づくりを実践を行った。会議では活動内容の共有を行い、よりよい活動になるように計画の修正などを行った。 他の活動 接遇チェック 2回/年 ホームページ更新 2月21日 24日 病院説明会（オンライン） 3月11日 病院説明見学会（来場型）		

看護局 看護基準検討会	提供する看護を一定の水準に保障するために、看護基準・手順の作成や見直しを行う。また、個々の職員が看護基準・手順を活用し実践しているか監査し指導する	
委員長 看護科長補佐 毛利由布子	委員名 寺山正真、中島知夏、林亜希、井上貴人、土田真紀、丸山奈々、森健太、島原沙也加、田中篤司、鹿取祥吾、浅井加奈、高木彩乃、増田謙子、青山美穂子、中川由香里	事務局 看護局
活動内容 1) 各科クリニカルパスの整備を行い、病院全体のパス適応率（現時点 43.52％）を向上し、医療の質の向上に繋がられる 2) 看護基準・看護手順を活用し、看護実践を提供できるように啓発活動を行い、監査を行う 会議開催：6月27日、10月28日、1月27日 【最終評価】 1) 今年度の取り組み課題として、診療科別のクリニカルパスの適応率を提示・共有を図り、自部署でのパス作成活動に取り組んだ。診療科医師と協議を重ね、外科、脳外科、腎臓代謝内科の新規パス作成に着手出来た。年度内に運用を開始した。2月最終段階で、全体の適応率 43.52％→44.75％も若干の上乗せとして向上した。目標値は 50％超えであるため、次年度の活動課題する 2) 啓蒙活動においては、リスク事象に重ねて手順の確認を行うように呼び掛けていった。未だ浸透が不十分な所もあるため、継続的に活動を行っていく必要がある。		

職員研修委員会	職員ひとり一人に、公務員や医療人として必要な知識や技術を習得させることによって、人間性豊かで有為な人材を育成し、病院綱領に定める病院づくりを推進するため、職員に院内・外の幅広い研修機会を計画的に提供するため	
委員長 院長 高折恭一	委員名 古山忠宏、弓削悦子、藤居敏、嶋吉夫、藤本永照	事務局 総務課人事・総務係
活動内容 公務員や医療人として必要な知識や技術を習得させ、人間性豊かで有為な人材の育成を図るため、職員に院内・院外の幅広い研修機会が提供できるように設置。 1. 業務 (1) 人材育成支援計画の策定等 (2) 各所属の年間研修計画および年間研修実績のとりまとめ (3) 研修に対する評価のとりまとめ		

人権対策 推進委員会	院内の人権対策を総合的に推進し、基本方針に基づき同和問題をはじめとする人権問題の解決に積極的に取り組むことを目的とする	
委員長 院長 高折恭一	委員名 小室太郎、高島弘行、古山忠宏、弓削悦子、藤居敏、 吉川敬子、野淵孝二	事務局 総務課人事・総務係
活動内容 1. 内容 ・人権対策推進体制を整備し、院内の人権対策について総合的に推進するための方策を検討する。 ・同和問題をはじめとする人権問題の正しい理解と認識を深めるための職員の研修計画の策定と推進を行う。 ・人権問題解決のため市長部局や市の他の部門との積極的な連携を図る。 2. 研修の実施 令和5年1月27日(金) 17:30～18:45 講師 畠津 俊治氏 「上を向いて歩こう、見方を変えてみませんか」		

合同・臨床研修 委員会	病院群臨床研修病院における研修医の臨床研修が円滑かつ十分に行えるよう、臨床プログラムの管理を行う	
委員長 副院長 高島弘行	副委員長 梅原久範 松岡俊樹 (社会福祉法人青祥会 セフィロト病院院長) 委員名 太田直也、田久保康隆、森田善方、弓削悦子、 藤居敏、中村誠昌、川崎拓、松井善典、雨森正洋、 畑野秀樹、橋本修、布施隆治、花戸貴司、 小泉俊三	事務局 総務課人事・総務係
活動内容 1. 内容 (1) 臨床研修修了認定について (2) 来年度のスケジュール（計画）について (3) その他 ・令和5年度の当院臨床研修医について ・研修医評価方法の変更について 会議後、内科専門医プログラム研修委員会開催。(内科専門医研修プログラムで研修中の専攻医について報告) 2. 開催年月日 令和5年3月23日(木) 16時30分～ 3. プログラム委員会及び研修医確保等推進会議 書面開催		

職員安全衛生委員会	長浜市病院事業職員安全衛生管理規程に基づき、病院職員の職場における安全と健康を確保するとともに、快適な作業環境を図ることを目的とする	
委員長 副院長 小室太郎	委員名 古山忠宏、藤居敏、弓削悦子、安永敏美、野淵孝二、佐藤啓子、長谷川弘樹、大依福太郎、古賀一也、新木憲人、津田拓郎	事務局 総務課人事・総務係
活動内容 1. 内容 (1) 職場における職員の安全と健康の確保 (2) 快適な作業環境の形成、健康管理事業の適正運営の確保 (3) 危険防止のための基本的対策、労働災害の原因、再発防止対策 2. 協議事項 (1) 職場巡視 (2) 時間外勤務について (3) 年次休暇・夏季休暇の取得状況について (4) 感染予防について (5) 健康診断受診状況について (6) ストレスチェックの実施 (7) メンタルヘルス対策 (8) 年間総括 3. 委員会開催年月日 4月26日、5月24日、6月28日、7月26日、8月23日、9月27日、10月25日、11月22日、12月15日、1月24日、2月28日、3月20日		

集中治療室運営委員会	集中治療室の管理運営についての協議	
委員長 ICU・CCU センター長 木田英樹	委員名 田久保康隆、森田善方、今枝広丞、上田修吾、佐藤岳史、國友健生、吉良浩勝、中川雅登、藤居敏、弓削悦子、毛利由布子、吉川敬子、清水満子	事務局 総務課人事・総務係
活動内容 1. 業務 ICUの運営について次のことを審議する。 (1) 令和4年度集中治療室運営実績について (2) 今年度の成果と問題点について (3) 集中治療室運営について (4) ICU日当直医の業務について 2. 委員会の開催 第1回 令和5年3月24日（金）		

倫理委員会	市立長浜病院で行われる人を対象とした医学研究及び医療行為が、ヘルシンキ宣言の趣旨に沿った倫理的かつ社会的配慮のもとに行われるために、医の倫理に関する事項を審議する	
委員長 副院長 小室太郎	委員名 潮正輝、植山浩二、高橋憲一郎、弓削悦子、古山忠宏、野淵孝二、藤居敏、桐山郁雄（院外）、澤崎恭子（院外）	事務局 経営企画課 企画係
活動内容 1. 病院で行われる医学研究及び医療行為に関し、実施責任者から申請された実施計画の内容及びその成果の発表に関する事項を審議する。 2. 病院における医学研究及び医療行為に関する倫理的かつ社会的配慮についての基本的な事項の調査検討を行う。 3. その他委員長が必要と認めた事項を審議する。 開催月日・協議事項など ○第1回倫理委員会（令和4年5月30日（月） 16：30～18：00 本館2階 第2会議室） ・新任委員の紹介 ・審議案件2件、報告案件3件 ○第2回倫理委員会（令和4年12月5日（月） 16：30～17：45 本館2階 第2会議室） ・報告案件11件 ・「子どもの患者さんと家族の権利」新規制定について ・（公財）日本医療機能評価機構による病院機能評価審査結果について ①臨床倫理の課題（倫理的課題を収集し、検討する仕組みの検討） ②倫理・安全面などに配慮しながら新たな診療・治療方法や技術を導入 ○第3回倫理委員会（令和5年2月27日（月） 16：30～17：40 本館2階 第2会議室） ・報告案件7件 ・倫理委員会承認案件実施状況報告 ・人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスについて検討 ・令和4年度第1回臨床倫理専門部会案件報告（令和5年2月1日（水）開催） 審議・対応結果の院内への共有について検討		

IT 推進会議	市立長浜病院の情報化施策を総合的かつ体系的に推進するため IT 推進計画の策定および実施ならびに進行管理 コンピュータシステムの情報セキュリティ その他情報化施策についての重要事項	
委員長 副院長 高島弘行	委員名 森田善方、尾田和広、嶋吉夫、宮部照美、清水満子、 川畑泉、荒金崇介、中村俊之、西村正明、 西野万由美、田邊信彦、古株陽子、新田朋美、 辻克信、三原了導、速水敦志、廣瀬朋子、大橋依子、 依田百代、宮崎恵子、北村文代、平井法恵	事務局 経営企画課 企画係
活動内容 ○ IT 推進会議 IT 推進計画の策定、IT 推進計画の実施及び進行管理、コンピュータシステムの情報セキュリティなどについて協議する。 ○ 情報セキュリティ専門委員会 コンピュータシステムのセキュリティ対策に関する基本ルール及び緊急時の対応に関することについて協議する。 IT 推進会議 ○ 第 1 回 IT 推進会議（令和 4 年 7 月 6 日（水） 16：00～16：40 本館 2 階 講義室） ・ 院内ネットワーク環境更改について ・ 電子カルテシステムレベルアップについて ・ USB メモリの取扱いについて ・ その他 ○ 第 2 回 IT 推進会議（令和 5 年 1 月 11 日（水） 16：30～17：15 本館 1 階 コミュニティルーム） ・ 院内ネットワーク更改の現状報告 ・ 電子カルテレベルアップについて ・ サイバー攻撃への対応について ・ その他 ○ 第 3 回 IT 推進会議（令和 5 年 3 月 30 日（木） 16：30～17：15 本館 2 階 講義室） ・ 電子カルテレベルアップについて ・ 令和 4 年度のシステム及びセキュリティ状況の報告 ・ 院内ネットワーク更改の現状報告（業者決定について） ・ 電子処方せんについて ・ サイバー攻撃への対応について ・ その他		

治験審査委員会	院内で行われる治験等がヘルシンキ宣言に基づく倫理的原則及び新 GCP 省令等関連法規を遵守したうえで実施されるために、倫理的、科学的及び医学的見地からの妥当性を審議し、その可否を決定するため設置するもの	
委員長 副院長 高島弘行	委員名 小川雅文、櫻木淳史、山科聡、弓削悦子、辻克信、 野淵孝二、藤居敏、三原了導	事務局 経営企画課 企画係
活動内容 当院の医薬品・医療機器等にかかる治験や製造販売後調査等の実施について審議し、病院全体の医療の質の向上を図る。 ○ 第 1 回治験審査委員会（令和 4 年 7 月 13 日（水） 16：30～17：30 本館 2 階 第 2 会議室） ・ 副委員長の任命 ・ 審議案件 1 件 ○ 第 2 回治験審査委員会（令和 5 年 3 月 20 日（水） 15：00～15：30 本館 2 階 講義室） ・ 臨床研究コーディネーター（CRC）の配置について審議		

医療機器等選定委員会 (長浜病院関係)	医療機器の調達（修繕）、診療材料の購入等について必要な事項を定め、医療機器等選定の適正かつ円滑な運用を図ることを目的とする	
委員長 副院長 高島弘行	委員名 上田修吾、尾田和広、高橋憲一郎、弓削悦子、古山忠宏、藤居敏	事務局 経営企画課用度係
活動内容 1. 内容 医療機器等購入にかかる機種選定の審査ならびに協議、高額診療材料購入にかかる審議を行った。 2. 開催日（全9回） 令和4年6月6日、令和4年6月27日、令和4年7月27日、令和4年8月22日、令和4年10月6日、令和4年11月14日、令和4年12月12日、令和5年1月16日、令和5年3月2日		

診療材料委員会	医療材料の新規採用について必要性和採算性を考慮し、各部署の意見を徴収し総合的な判断を得る 共同購入事業制度を活用した選定品への切替業務を推進し、コストダウンを図る 診療材料の効果的な運用による経営の健全化を図ることを目的とする	
委員長 整形外科責任部長 尾田和広	委員名 高橋憲一郎、宮部照美、寺村郁子、野村耕一郎、尚永亜希子、赤井明美、岩崎まゆみ、川上正邦、古山英孝、吉田名緒、藤田亜沙美、田中宏明、川越ゆき、馬場貴士	事務局 経営企画課用度係
活動内容 年間購入額100万円以下の新規医療材料採用に関する審査および協議、選定品への切替業務を行った。 2. 開催日（全5回） 令和4年11月16日、令和4年12月22日、令和5年1月26日、令和5年2月16日、令和5年3月23日		

契約審査委員会	発注する建設工事及びこれに関連する調査、測量、設計等の業務委託、物品調達（修繕）等及び委託業務（公共団体及び公共の団体に対する委託業務等は除く。）の契約の適正な締結について必要な事項を定め、もって病院事業の建設工事等、物品調達（修繕）等及び委託業務の適正な執行を図ることを目的とする	
委員長 事務局長 藤居敏	委員名 桐畑善彦、今井健剛、森靖、伊藤仁文、水上憲一、廣西裕介 令和4年8月1日から廣西裕介 → 藤田幸司	事務局 経営企画課用度係
活動内容 1. 内容 医療機器等の購入及び建設工事等における契約方法及び指名競争入札の参加者または随意契約の相手方の選定について、審査を行った。 2. 開催日（全11回） 令和4年4月22日、令和4年5月20日、令和4年6月17日、令和4年7月15日、令和4年8月19日、令和4年10月14日、令和4年11月18日、令和4年12月16日、令和5年1月27日、令和5年2月20日、令和5年3月17日		

未収金対策検討委員会	未収金に関する事務の適正な執行を図るため	
委員長 副院長 小室太郎	委員名 田久保康隆、藤居敏、古山忠宏、弓削悦子、森靖、三原了導、藤本永照、伊藤仁文	事務局 医事課 医事業務係
活動内容 令和4年12月16日 未収金対策検討委員会開催。未収金の推移と回収実績・対策検討、診療費等債権放棄の審査について協議を行いました。		

救急体制検討委員会	院内の救急体制、宿直体制、呼び出し体制、研修医指導体制等、救急に関する諸問題を検討し、救急業務の効率化を図る	
委員長 救急センター長 陌間大輔	委員名 堀口聡士、潮正輝、尾田和広、木田英樹、古山忠宏、野淵孝二、宮元伸篤、弓削悦子、野一色真弓、森靖	事務局 医事課
活動内容 「委員会の開催」 ○第1回救急体制検討委員会（令和4年4月22日（金）17：30～18：30 講義室） ・救急体制検討委員会組織について ・GW連休中の救急診療体制について ・湖北地域MC専門部会委員の推薦について ・形成外科・皮膚科の救急体制について ・救急ミニ講座について ・各科からの救急関係報告事項等について ・出前講座中止中について ・事務員に対する救命講習について（前期については見送り） ○第2回救急体制検討委員会（令和4年7月29日（金）17：30～ 講義室） ・救急・宿日直マニュアルの見直しについて ・コードブルーの検証について ・コードホワイトについて ○第3回救急体制検討委員会（令和4年12月21日（水）17：30～18：30 コミュニティールーム） ・年末年始の救急体制について ・年末年始の救急における点滴患者の対応について ・年末年始のコロナ検査対応について ・救急センター運営内規の変更について ・救急ミニ講座について ・その他連絡事項 「実施事業等」 ○GW連休中の救急における点滴患者の対応について通知（令和4年4月28日） ○年末年始の救急における点滴患者の対応についての通知（令和4年12月28日） ○救急ミニ講座開催：全44回・参加者計585名 ○救急ミニ講座に関するアンケート調査 ○コードブルー・急変対応改変についての協議 ○救急受け入れ専用ホットラインの新設について通知（令和4年8月） ○救急新体制について通知		

保険審査委員会	市立長浜病院における保険診療の適正化と円滑な運営を図り、診療報酬を適正に確保することを目的とする	
委員長 顧問 神田雄史	委員名 杉本正幸、高島弘行、田久保康隆、今枝広丞、大橋依子、中道由起（医事委託職員）、北川いつみ（医事委託職員）、川越美奈（医事委託職員）	事務局 医事課 診療報酬係
活動内容 【委員会の開催】 ○第1回保険審査委員会（令和4年5月27日（金）17：00～ 講義室） ・委員会の運営について ・令和4年3月請求分査定・返戻報告、再審査報告 ○第2回保険審査委員会（令和4年6月27日（月）17：00～ 講堂） ・令和4年4月請求分査定・返戻報告、再審査報告 ○第3回保険審査委員会（令和4年7月28日（木）17：00～ 講義室） ・令和4年5月請求分査定・返戻報告、再審査報告 ○第4回保険審査委員会（令和4年8月31日（水）17：00～ 講義室） ・令和4年6月請求分査定・返戻報告、再審査報告 ○第5回保険審査委員会（令和4年9月29日（水）17：00～ 第2会議室） ・令和4年7月請求分査定・返戻報告、再審査報告 ○第6回保険審査委員会（令和4年10月28日（木）17：00～ 第2会議室） ・令和4年8月請求分査定・返戻報告、再審査報告 ○第7回保険審査委員会（令和4年11月30日（水）17：00～ 講義室） ・令和4年9月請求分査定・返戻報告、再審査報告 ○第8回保険審査委員会（令和5年1月30日（月）17：00～ 講堂） ・令和4年11月請求分査定・返戻報告、再審査報告 ・保険診療に関する講習会の開催について ○第9回保険審査委員会（令和5年3月29日（水）17：00～ 第2会議室） ・令和5年1月請求分査定・返戻報告、再審査報告		

診療情報・図書室 管理運営委員会	当院における診療録の管理および図書室の管理運営について、関係部署の連携調整を図るため	
委員長 副院長 小室太郎	委員名 中川雅登、辻本和之、井上遙香、渡邊重之、中川涼太、宮部照美、清水満子、川瀬智隆、伊藤志保里、山下めぐみ、松井純一（11月～阪東萌）、徳田敏子、大橋依子、安藤美子	事務局 診療情報管理室
活動内容 第1回 令和4年8月10日（木） ○ 協議事項 ①規程について 変更・修正なし ②カルテ監査について 質的・量的監査報告、改善点・課題について ③図書購入関連について アンケート結果報告、次年度購入雑誌について 第2回 令和5年1月18日（水） ○ 協議事項 ①カルテ点検について 質的・量的監査報告、改善点・課題について ③図書購入関連について 次年度購入雑誌について		

DPC 委員会	当院における DPC 請求に関連する事務の適正な執行を図るため	
委員長 副院長 小室太郎	委員名 洞井和彦、上田修吾、高橋憲一郎、岸本尚子、 野淵孝二、中川絵理奈、廣瀬朋子、林佳織	事務局 診療情報管理室
活動内容 第 1 回 令和 4 年 7 月 27 日（水） ○ 協議事項 ①適切なコーディングに関することについて (1) 入院契機病名を「脱水症」とし、7 日以内再入院としなかった例 (2) 入院契機病名を「股関節痛」とし、7 日以内再入院としなかった例 ②部位不明・詳細不明コードについて ③診療科別勉強会、病棟看護師向け勉強会について 第 2 回 令和 4 年 10 月 19 日（水） ○ 協議事項 ①適切なコーディングに関することについて (1) 「腓頭部癌」と「アテローム血栓性脳梗塞」 (2) リハビリ目的入院患者の「COVID-19」での転科転棟例 ②部位不明・詳細不明コードについて 第 3 回 令和 4 年 12 月 14 日（水） ○ 協議事項 ①適切なコーディングに関することについて (1) 「変形性股関節症」で手術した患者で、「MRSA 肺炎」の治療を最資源投入病名とした例 (2) 「腓癌」と「肺炎」 ②部位不明・詳細不明コードについて 第 4 回 令和 5 年 2 月 15 日（水） ○ 協議事項 ①適切なコーディングに関することについて (1) 「ウイルス性髄膜炎」で治療を開始された患者で、一旦退院等ができず、「腹部大動脈瘤」の手術が予定されている例 (2) 「労作性狭心症」と「誤嚥性肺炎」 ②部位不明・詳細不明コードについて ③令和 5 年度の医療機関別係数について		

医療評価委員会	患者主役の信頼ある医療を育み、地域完結型の医療をめざして、地域住民がより一層適切で質の高い医療を安心して受けられる病院とするため	
委員長 副院長 小室太郎	委員名 糟谷憲邦、弓削悦子、吉川敬子、野淵孝二、 宮元伸篤、富田聡、北村淳、中川太郎、辻克信、 森靖、伊藤仁文、徳田敏子、細川顕、大橋正英 部会員名 糟谷憲邦、山科聡、三浦富子、赤尾真樹子、 岡本明子、草野美樹、毛利由布子、野村規久子、 次郎内圭子、中川絵理奈、河野真弓、宮崎圭子、 古山英孝	事務局 診療情報管理室
活動内容 令和4年8月12日（金） ○ 協議事項 ①市立長浜病院医療評価委員会設置要綱について 事務移管による事務局の変更 ②説明と同意（インフォームド・コンセント）に関する院内指針の一部改正について ③当院における、「侵襲の高い処置や治療を行う医療行為」について <クリニカルパス・IC 専門部会> 令和5年1月24日（火） ○ 協議事項 ①「クリニカルパス作成・運用要領」「市立長浜病院電子カルテシステム運用マニュアル」改訂について ②クリニカルパスへの医学管理料設定について		

医師事務作業補助者 運用調整委員会	医師および配置診療科のニーズを把握し、医師事務作業補助業務の円滑な運用を図るとともに、医師事務作業補助者を適正かつ公正に配置することを目的とする	
委員長 副院長 高島弘行	委員名 森田善方、今枝広丞、上田修吾、額田正之、 尾田和広、吉川敬子、岩崎まゆみ、古山忠宏、森靖、 伊藤仁文	事務局 診療情報管理室
活動内容 令和5年2月22日（水） ○ 協議事項 医師事務作業補助者現状報告 ①ニチイ学館 医師事務作業補助業務派遣契約について ②医師事務作業補助体制加算について ③業務実績件数報告 ・診断書等書類作成 ・NCD等症例登録 ④医師事務作業補助者勉強会実施状況報告		

医療安全管理委員会	院内における医療安全対策、医薬品安全管理、医療機器安全管理、放射線安全管理、医療相談業務を総合的に企画実施し、また、事故対策を講じるために必要な事項を審議し、意思決定する	
委員長 心臓血管外科責任部長 兼医療安全管理責任者 植山浩二	委員名 高折恭一、小室太郎、高島弘行、田久保康隆、 藤居敏、弓削悦子、若宮誠、古山忠宏、野淵孝二、 辻克信、大野暢宏、近藤定彦、森靖、宮元伸篤、 野田秀樹、中村寛子、北村文代、大橋正英、 烏脇富子	事務局 医療安全管理室
活動内容 1 内 容 病院全体の医療安全対策の方針について協議決定を行っている。 2 医療安全管理委員会開催 毎月第2木曜日開催 12回 (1) 各委員会等報告と協議 ア 医療機器安全管理に関する事項 関連機関注意喚起事項や当院発生事象についての対策取り組み イ 医薬品安全管理に関する事項 同上 ウ 医療放射線安全管理に関する事項 同上 エ 医療安全管理に関する事項 インシデント報告事象の共有（患者誤認・レベル3b以上の事象） 関連機関注意喚起事項や当院発生事象についての対策取り組み オ 各委員会活動方針の合議 カ 各委員会研修会開催報告 (2) その他 医療安全対策地域連携加算：湖北圏域の3病院が連携し、医療安全相互チェックリストに基づき巡視 巡視結果からの課題への取り組み 医療事故情報収集等事業への報告 (3) 委員会主催による研修会開催（新型コロナウイルス感染防止のため、参加人数の制限を行い、eラーニング受講を推進） ア 令和3年度医療安全取り組み報告会 令和4年5月19日 参加者：43人、合同視聴：6人、eラーニング受講：725人 イ 「医療におけるKYT～気づく目、見守る目を養うために～」(動画研修) 講師：医療安全全国共同行動企画委員 杉山良子 令和4年6月30日 参加者：48人、合同視聴：19人、eラーニング受講：665人 ウ 医療安全ハラスメント研修「悪質クレーム対応について」(動画研修) 講師：SOMPO リスクマネジメント(株) 橋本勝 令和4年10月14日 参加者：48人、合同視聴：37人、eラーニング受講：793人 エ 「医療現場でのクレーム・トラブル～訴訟回避のポイント～」(動画研修) 講師：楠井法律事務所弁護士 楠井嘉行 令和4年11月17日 参加者：46人、合同視聴：18人、eラーニング・youtube受講：831人 オ 令和4年度医療機器安全管理研修会（eラーニング研修） 令和4年7月21日～9月22日 「マスクフィッティングの方法、マスク換気（V60）の適切使用」 eラーニング受講：328人 カ 令和4年度医療放射線安全管理研修会「診療用放射線の安全利用について」 講師：放射線科（診断部門）責任部長 若宮誠 令和4年12月13日 参加者：45人、eラーニング受講：629人 キ 令和4年度放射線安全・医療安全合同研修会「放射線の基礎知識と放射線科検査、治療の注意点等」 令和4年6月14日 参加者：54人、eラーニング受講：554人 ク 医薬品安全研修「注射用カリウム剤使用指針の見直し等」 令和4年6月 3日間、看護師対象、参加者：80人 「抗凝固薬の中和剤について」 令和4年8月 3日間、看護師対象、参加者：70人 ケ チームステップス研修：第6回SBAR事務局編 令和4年6月17日～8月31日 eラーニング受講：637人 コ 「中心静脈カテーテル管理と空気塞栓」 令和4年7月4日～9月30日 医師、看護師対象 eラーニング受講：419人 サ 「アナフィラキシー症状と対応について」 令和4年1月19・26日 参加者：47人、eラーニング・youtube受講：532人 3 報告事項 令和4年度医療事故報告分析結果（全体・部署別） 令和4年度各委員会活動評価 医療相談・苦情についての報告など		

医療安全対策委員会	患者の安全を確保しつつ、適切、良質な医療を提供できるよう、医療安全文化の醸成を図る ①リスクマネージャーの育成を行い、各部署での取り組みが実施出来る ②チームステップスの理解と各手法の実践 ③現場巡視を通して、マニュアルの啓発、業務改善に繋げる ④マニュアルの整備	
委員長 心臓血管外科責任部長 兼医療安全管理責任者 植山浩二	委員名 田久保康隆、木田英樹、佐藤岳史、村井亮介、 中川彩子、笠井晴生、辰巳裕和、吉川賢、澤田園、 押谷裕也、池田遼太、北川真由美、阪東美加、 牧野茜、藤本沙織、椋田悦子、北村美幸、吉田昌裕、 増田実紗希、西野克弥、大橋依子、北村文代、 近藤昭仁、烏脇富子	事務局 医療安全管理室
活動内容 1 医療安全対策委員会の開催：毎月第2木曜日開催 11回 委員会開催毎にコードブルー発令練習実施 リスクマネージャーの育成：各職場内の危険を察知し改善案の提案、改善課題を引き出すためのKYTの実践、 PDCAサイクル活動、事例分析の実施、部署インシデント統計分析、医療安全活動の報告ができるように支援する。 KYT：KYT演習を各部署年間1事例、部署職員全員が必ず参加。 実施結果：看護局、医療技術局、薬剤局、事務局、100%実施 PDCAサイクル活動：昨年度の自部署分析の結果・RCA分析などから、1事例活動 実施結果：看護局、医療技術局、薬剤局、ヘルスケア研究センター、患者総合支援センター、100%実施 RCA分析：重要事例の展開 実施結果：看護局、医療技術局、100%実施 (1) 前期リスクマネージャー会 令和4年5月31日、6月6日開催 内容：医療安全管理体制について、リスクマネージャーの役割、令和3年度インシデント報告結果、令和4年度の課題 (2) 後期リスクマネージャー会 令和4年10月20日開催 内容：①医療安全体制について：リスクマネージャーの任務と役割、令和4年度の課題・中間進捗状況 ②部署取り組み中間報告（リハビリテーション技術科、透析室、臨床工学技術科、7東病棟） ③医療安全対策委員会活動中間報告 2 チームステップスの理解と各手法の実践 チームステップスについて動画配信し、eラーニングの受講推進を図った。 委員会での学習会を開催し、知識や理解を深め、現場への還元、推進者育成を図った。 3 医療安全対策委員会グループ活動報告：現場巡視を通し、マニュアルの啓発や業務改善に繋げる。 (1) 患者誤認防止・・・患者誤認防止グループ 患者誤認防止強化週間を2回実施。1回目は、患者誤認防止マニュアル「共通事項」の読み合わせを実施。2回目は、昨年度の部署取り組み「患者からの名乗り」「ネームバンドでの確認」を継続して取り組み実施。その後、巡視にて評価を行った。活動をする事で、昨年よりインシデント件数はやや減少し、患者誤認の意識向上に繋がった。 (2) 転倒転落防止・・・転倒転落防止グループ 転倒転落防止マニュアルの薬剤科への周知、転倒転落テンプレートの使用状況の検討、衝突注意ポスター掲示活動を実施。転倒転落テンプレートの使用状況については、インシデント報告から、活用状況を確認し分析を行った。衝突注意ポスターの掲示については、院内職員参加型の活動をする事で、院内通行での危険について関心を高めることが出来た。 (3) アレルギー情報管理・・・アレルギー情報管理グループ アナフィラキシー症状と対応についての学習会を全職員向けに実施し、どの職員がアナフィラキシー場面に遭遇しても速やかな初期対応ができるように、ガイドラインに基づいた内容で学習会を実施し、動画研修修め581人が受講。取り組み後、アレルギー情報の入力状況について再調査。入力の間違ひについて数値的な大きな改善は見られなかったものの、入力の方法や内容については改善していることが確認できた。 (4) 医療チームによるコミュニケーションエラー防止・・・コミュニケーション推進グループ 部署別SBAR事例学習会6部署開催、部署業務に沿ったSBAR実践力の習得に繋がった。昨年度、作成したチームステップスのコンテンツの動画を活用し、推進者である医療安全対策委員のチームステップスへの理解を深める学習会を実施。TEAMSTEPPS新聞を2回発行。 (5) 活動推進班 前期のKYTレポート内容によりKYT用紙の検討を行い、次年度に変更予定。毎月、進捗状況の確認を行い、リスクナース検討部会や医療安全対策委員協議、各部署のリスクマネージャーに活動依頼。事務局に対しては巡視を行い、必要に応じて支援実施。事務局全部署のKYTと医療技術局全部署のRCAの報告を達成。 (6) リスクナース検討部会 内服インシデント減少を目標に、1G：処方カレンダーへの実施入力の統一、2G：内服薬自己管理へ移行する際のフローチャートの作成、3G：休薬指示書の定着と休薬指導統一、小集団活動を行い看護職員への周知を図った。 4 マニュアルの整備 医療安全管理指針、情報伝達エラー防止マニュアル、患者誤認防止マニュアル、アレルギー情報に関する安全対策、薬剤アレルギー事故防止マニュアル、誤薬防止マニュアル、行動制限（身体拘束・抑制）マニュアル、気管挿管時の安全マニュアル、生体情報モニター（生体情報監視装置）の使用基準、内視鏡下手術時の注意事項		

感染管理委員会	医療関連感染防止対策の総合的な企画、立案、評価や、医療関連感染が発生した場合の病院としての方針を決定するために設置する	
委員長 感染制御部部長 大野暢宏	委員名 高折恭一、小室太郎、高島弘行、田久保康隆、 古山忠宏、弓削悦子、藤居敏、近藤定彦、野瀬孝二、 辻克信、若宮誠、植山浩二、宮元伸篤、森靖、 野田秀樹、中村寛子、北村文代、大橋正英、 烏脇富子	事務局 医療安全管理室
活動内容 1. 内 容 ・医療関連感染の防止対策や、院内全体の感染対策の方針について協議決定を行っています。 2. 感染管理委員会開催 毎月第2木曜日開催 12回 (1) 各委員会等報告 ・院内感染防止対策取り組み ・耐性菌・インフルエンザの院内発生動向の報告 ・特定抗菌薬の使用状況と届出の提出状況の報告 ・歯科口腔外科院内感染防止対策取り組み ・感染対策向上加算に係るカンファレンス報告（長浜日赤、湖北病院、セフィロト病院、診療所、保健所） ・COVID-19 対応について 滋賀県、院内の COVID-19 発生状況について 院内の感染対策等対応について クラスター対応経過報告 (2) その他 ・結核発症における接触者検診について ・針刺し、粘膜曝露事象について (3) 委員会（ICT/AST）主催による研修会開催 ア 第1回 院内感染防止対策研修会 参加者：787人（eラーニング受講者等を含む） 日 時：令和4年7月7日 演 題：「ルミテスターについて～ATPふき取り検査（A3法）～」 「環境整備（環境清掃）について」 講 師：呉竹 めぐみ 臨床検査技師 藤木 智美 感染管理認定看護師 イ 第2回 院内感染防止対策研修会 参加者：881人（eラーニング受講者等を含む） 日 時：令和4年11月7日 演 題：「家庭でも活用できる感染性胃腸炎の感染対策」 講 師：中村 寛子 感染管理認定看護師 ウ 第1回 抗菌薬適正使用研修会 参加者：881人（eラーニング受講者等を含む） 日 時：令和4年11月7日 演 題：「バンコマイシン TDM の新時代到来～トラフのみからの脱却」 講 師：竹越 靖晃 薬剤師		

感染対策担当者会議	院内における医療関連感染の防止対策を推進し、啓発活動を行う	
委員長 循環器内科部長 山科聡	委員名 大野暢宏、近藤定彦、高木順平、高井文恵、 小坂恭弘、呉竹めぐみ、山口卓也、山田耕士、 田邊幸聖、嶋津美和子、竹越靖晃、岸本尚子、 藤木智美、西脇直美、柏本真奈美、間塚摩美、 伏木雅人、堀江智美、山下めぐみ、松井純一、 中村寛子、大橋正英	事務局 医療安全管理室
活動内容 各感染症に対する専門知識と感染予防策の普及 標準予防策・経路別予防策に基づく院内感染防止対策の推進 ・手指消毒剤個人携帯の推進および、手指衛生のタイミング確認と推進 ・個人防護具（アイシールド、ガウン・エプロン）の着用遵守 COVID-19 対策の推進 職業感染対策の推進 感染防止対策研修会の参加推進 感染対策関連サーベイランスの実施 ○感染対策担当者会議 第3木曜日開催 年4回 感染管理委員会での協議内容を説明 COVID-19 対策の周知 手指消毒剤使用の推進 サーベイランス結果の協議 職業感染対策の推進 個人防護具着脱訓練 ○感染制御チーム検討会（ICT）、抗菌薬適正使用支援加算チーム（AST）：週1回毎週木曜日 環境ラウンド：32回、抗菌薬適正使用ラウンド：84回（カルテラウンド含む） COVID-19 対策について情報共有と協議 抗菌薬適正使用の確認と推進 菌血症患者、血液培養結果の確認と評価 サーベイランス協議：データ分析・評価を実施 ・耐性菌発生状況 職業感染対策の推進 ・針刺し事象の共有と対策 ・結核接触者の共有 感染防止対策加算に係る合同カンファレンス開催 年6回 ・湖北地域4病院（長浜赤十字病院、長浜市立湖北病院、セフィロト病院、市立長浜病院）と 長浜保健所で開催 細菌検出率、抗菌薬使用状況、手指消毒剤使用量の比較検討 流行している疾患など厚生労働省や県・保健所の通知および情報収集と対策の共有 COVID-19 対応や感染対策に関する情報共有		

内部事故調査委員会	院内で極めて重大な医療事故が発生した場合、医療事故内容を正確に把握し、原因の分析を行い、適切な対応をとるために設置する	
委員長 院長 高折恭一	委員名 小室太郎、高島弘行、植山浩二、田久保康隆、 木田英樹、古山忠宏、弓削悦子、藤居敏、 嶋吉夫	事務局 医療安全管理室
活動内容 ○ 開催年月日：令和 5 年 3 月 16 日 ○ 検討症例：心臓カテーテル治療後 3 日目に死亡した事例（令和 5 年 2 月 8 日に PCI を実施） ○ 委員会の結果： 事故原因については圧迫解除後の出血という合併症であり、診断・治療選択や止血処置等における医療過誤は見当たらなかった。また、再発防止策として、圧迫解除を行ったことを、医師と看護師で情報共有すること等を確認した。なお、外部公表と医療事故調査・支援センターへの報告は行わないこととした。		

病床管理会議	1. 一般病棟入院患者の療養型、地域包括ケア又は回復型の転棟について審査・判定する 2. レスパイト入院（開放病床利用を含）予定患者の病棟決定について審査・判定する	
委員長 患者総合支援センター センター長 森田善方	委員名 大野暢宏、江藤謹司、吉川敬子、田附容子、 中村春美、北村淳、三田久容、徳田敏子、伊藤雅子、 城弟光代、吉田昌裕	事務局 患者総合支援センター 地域医療連携室
活動内容 毎週火曜日に実施（48 回）しました。 患者の身体的状況や医事情報などの背景から、効果的な病棟へ調整し、病床の空床状況により適宜病棟師長間での調整も行った		

開放型病床運営委員会	開放型病床を効率的かつ円滑に運営すること	
委員長 院長 高折恭一	委員名 廣田光前、上松貞彦、湯本義一、小林清亮、 華房順子、工藤寛、畑野秀樹、雨森正洋、 塚本隆弘、中村義則、澤渡新太郎、森田善方、 近藤定彦、西川忠男 オブザーバー 堀川佳孝、古山忠男、藤居敏、吉川敬子	事務局 患者総合支援センター 地域医療連携室
活動内容 令和 4 年度の開催なし		

回復期リハビリテーション病棟運営委員会	回復期リハビリテーション病棟の運営を効率的かつ円滑に行う	
[運営委員会] 委員長 リハビリテーション科 部長兼回復期リハビリテーション病棟長 江藤謹司 [運営検討部会] 部会長 リハビリテーション科 部長兼回復期リハビリテーション病棟長 江藤謹司	委員名 橋爪聖子、雨森正洋、福永まき絵、川越良子、夏原さゆり、佐野美咲、武田庄索、雑賀正明、柴垣純子、廣田一哉、榎智龍、永田かおり、藤居敏 オブザーバー 北村淳、三浦富子、田附容子 委員名 西川忠男、堀口聡士、三浦富子、梅本範子、藤居敏、田附容子、河嶋智子、徳田敏子	事務局 患者総合支援センター 地域医療連携室
活動内容 [運営委員会] 令和4年12月19日開催 [運営検討部会] 令和4年度は開催なし		

回復期リハビリテーション病棟入院判定委員会	回復期リハビリテーション病棟への入院（転入含む）にあたり、入院適応基準に基づく入院の判定を行う	
委員長 リハビリテーション科 部長兼回復期リハビリテーション病棟長 江藤謹司	委員名 堀口聡士、小川雅文、西川忠男、吉川敬子、田附容子、三浦富子、音羽幸子、田中裕子、吉田昌裕、城弟光代、大久保陽子、後藤智彦	事務局 患者総合支援センター 地域医療連携室
活動内容 令和4年4月5日に第1回目を開催。その後、毎週火曜日と臨時に（計52回）開催し、院内232人、院外112人、計344人の方を審査・判定した。		

地域医療連携委員会	地域の医師、歯科医師等からの要請に適切に対応し、地域における医療の確保に必要な支援を行う	
委員長 院長 高折恭一	委員名 森上直樹、樋口昌弘、西井伸善、納谷佳男、 嶋村清志、鶴飼康治、松岡一明	事務局 患者総合支援センター 地域医療連携室
活動内容 令和4年12月15日 地域医療連携委員会開催 6名の委員の参加あり（1名欠席） (1) 地域医療支援病院の概要について (2) 当院の実績について (3) 当院の取組について (4) その他		

がん対策推進委員会	国の定めるがん対策推進基本計画に基づき、当院のがん対策推進事業の推進を図ること	
委員長 がん対策推進室管理監 田久保康隆	委員名 野口哲男、上田修吾、小坂恭弘、黒澤学、伏木雅人、 古山忠宏、藤居敏、草野美樹、野洲孝二、徳田敏子、 村上義和、細川顕、宮崎恵子、間塚摩美、橋本祥子、 片桐麻理子、神部百合子	事務局 がん対策推進室
活動内容 【委員会の開催】（3回） 第1回 令和4年6月13日（月） ・PDCAサイクルの実施計画について ・5大がんに関する研修会の開催企画について ・湖北がんフォーラム2022について ・ヘルスケア研究センターがん検診・特定健診の状況について ・がん対策推進検討会の年間活動計画について ・その他 滋賀県がん診療連携協議会の活動について 地域がん診療連携拠点病院の指定状況について 滋賀県がん患者調査事業への協力について 滋賀県緩和ケア研修会について 第2回 令和4年11月21日（月） ・PDCAサイクルの中間評価について ・地域がん診療連携拠点病院の整備指針改定と現況報告書提出について ・湖北がんフォーラム2022の開催結果と次年度計画について ・滋賀県緩和ケア研修会の開催結果について ・がん対策推進検討会の活動中間報告について ・その他 リレー・フォー・ライフ・ジャパン滋賀医科大学2022について 滋賀県がん患者調査事業への協力について 湖北保健医療圏地域がん予防診療推進協議会の開催について 5大がんに関する研修会（生涯教育研修会）の開催について 第3回 令和5年3月6日（月） ・PDCAサイクルの最終評価について ・湖北がんフォーラム2023について ・地域がん診療連携拠点病院の指定更新について ・がん関連研修の開催結果について ・がん対策推進検討会の活動報告について		

緩和ケア推進委員会	がん対策推進基本計画に基づく緩和ケアの推進および患者・家族の生活の質（QOL）を維持向上させること	
委員長 がん対策推進室 管理監 田久保康隆	委員名 上田修吾、木田英樹、野口哲男、江藤謹司、杉藤雅孝、西川忠男、伏木雅人、徳田敏子、久保田理恵、藤井三和子、長谷川博美、天野可奈子、細川顕、宮崎恵子、間塚摩美、片桐麻理子 准委員 森田幸代	事務局 がん対策推進室
活動内容 1. 緩和ケアチーム回診の実施 毎週月曜日：がん性疼痛 医療用麻薬使用対象者回診（入院：カルテ） 毎週火曜日：緩和ケア看護師回診・緩和ケアチーム回診 / カンファレンス 毎週木曜日：緩和ケアチーム回診 毎週金曜日：緩和ケア看護師回診（看護師・心理師） ・年間新規依頼件数 44 件 ・対応延べ件数 488 件 2. 委員会の開催（1 回 / 年） 令和 4 年 7 月 6 日（水） 3. 滋賀県緩和ケア研修会 令和 4 年 11 月 13 日（日）集合研修 参加：11 名（医師 2 名＋研修医 9 名） 受講率：82.3% 4. がんリハビリテーション：延べ単位 7,321 単位		

化学療法委員会	化学療法を安全に実施する体制等の整備を図るとともに、化学療法に用いる抗悪性腫瘍剤（化学療法薬、ホルモン剤、分子標的治療薬など）の適正使用に関する評価、院内外での安全な施行を推進するための教育及び啓発活動を行うこと	
委員長 呼吸器内科責任部長 野口哲男	委員名 野田恵加、上田修吾、村井亮介、杉藤雅孝、中村俊之、久保田理恵、宮部照美、赤井明美、中川紀子、河野真弓、赤尾真樹子、片桐麻理子	事務局 がん対策推進室
活動内容 1. 委員会の開催（1 回） 令和 4 年 8 月 30 日（火） 2. 化学療法研修会（Zoom 研修）の開催 令和 4 年 11 月 10 日（木） テーマ：「骨転移診療ガイドライン第 2 版の改訂ポイントについて」 講 師：秋田大学大学院医学系研究科臨床腫瘍学講座 教授 柴田浩行 先生 参加者：45 名（院外 10 名、院内 35 名） 3. レジメン登録審査委員会が審査したレジメンの確認		

レジメン登録 審査委員会	院内で実施される化学療法のレジメン（治療内容）の安全性及び妥当性についての評価、承認、削除及び運用に関する事項を審議すること	
委員長 呼吸器内科責任部長 野口哲男	委員名 野田恵加、小室太郎、上田修吾、糟谷憲邦、 村井亮介、杉藤雅孝、中村拓路、中村俊之、 久保田理恵、中川紀子、赤尾真樹子	事務局 薬剤局
活動内容 1. 小委員会設置（化学療法委員会設置要綱第7条） 2. レジメン登録数 令和4年度 33件 4月：4件 5月：3件 6月：0件 7月：0件 8月：5件 9月：0件 10月：1件 11月：2件 12月：0件 1月：5件 2月：6件 3月：7件 うち、添付文書通りの登録 29件 患者限定 1件 倫理委員会へ申請後登録 4件		

院内がん登録 委員会	院内がん登録の実施に必要な事項を定め、院内がん登録業務の適正な企画、管理及び運用を図るため	
委員長 外科責任部長 上田修吾	委員名 黒澤学、若宮誠、村井亮介、中川雅登、細川顕、 宮崎恵子、神部百合子	事務局 がん対策推進室
活動内容 【委員会の開催】（1回） 令和5年1月25日（水） ・院内がん登録全国集計2021年症例提出データについて ・ホームページ更新について ・PDCA評価について ・院内がん登録実務者育成について ・その他 データ活用について 新任医師オリエンテーション配布資料について		

V 経営状況

1. 令和4年度決算状況

(1) 経営収支比較

区 分		令和4年度	令和3年度	増 減	増減率
		千円	千円	千円	%
収 入	1 入 院 収 益	8,089,489	7,555,842	533,647	107.1
	入院診療収入	7,901,970	7,388,726	513,244	106.9
	給食料収入	187,519	167,116	20,403	112.2
	2 外 来 収 益	4,262,751	4,166,325	96,426	102.3
	3 そ の 他 医 業 収 益	229,144	213,999	15,145	107.1
	4 受 取 利 息 配 当 金	5,636	5,596	40	100.7
	5 補 助 金	1,936,536	2,802,407	△ 865,871	69.1
	6 一 般 会 計 負 担 金	667,964	671,393	△ 3,429	99.5
	7 院 内 保 育 所 収 益	6,671	3,886	2,785	171.7
	8 訪問看護ステーション収益	87,539	96,778	△ 9,239	90.5
	9 長 期 前 受 金 戻 入	50,395	45,147	5,248	111.6
	10 そ の 他 医 業 外 収 益	135,683	279,499	△ 143,816	48.5
	11 消 費 税 及 び 地方消費税還付金	2,400	0	2,400	皆増
	12 特 別 収 益	7,000	0	7,000	皆増
	収 入 合 計	15,481,208	15,840,872	△ 359,664	97.7
支 出	13 給 与 費	7,484,014	7,166,060	317,954	104.4
	給 料	3,518,037	3,420,982	97,055	102.8
	諸 手 当	2,157,017	2,177,632	△ 20,615	99.1
	そ の 他	1,808,960	1,567,446	241,514	115.4
	14 材 料 費	3,738,994	3,652,367	86,627	102.4
	薬 品 費	1,924,479	1,870,297	54,182	102.9
	診 療 材 料 費	1,683,865	1,665,908	17,957	101.1
	給 食 材 料 費	101,487	93,590	7,897	108.4
	医療消耗備品費	29,163	22,572	6,591	129.2
	15 経 費	1,670,831	1,603,399	67,432	104.2
	16 支払利息及び企業債取扱諸費	125,681	150,029	△ 24,348	83.8
	17 長期前払消費税償却	11,453	19,183	△ 7,730	59.7
	18 院 内 保 育 所 費	44,661	48,797	△ 4,136	91.5
	19 訪問看護ステーション費	104,698	100,880	3,818	103.8
	20 そ の 他 の 支 出	1,548,015	1,622,220	△ 74,205	95.4
	21 特 別 損 失	20,690	0	20,690	皆増
	支 出 合 計	14,749,037	14,362,935	386,102	102.7

(2) 貸借対照表

借 方			貸 方	
科 目	金 額		科 目	金 額
固 定 資 産		円 13,910,465,220	固 定 負 債	円 10,689,455,870
有形固定資産		13,701,007,876	企 業 債	7,996,044,284
土 地		2,964,249,675	引 当 金	2,693,411,586
建 物	21,155,927,186		退 職 給 付 金 引 当 金	2,576,167,054
建 物 減価償却累計額	△ 12,085,449,376	9,070,477,810	修 繕 引 当 金	117,244,532
構 築 物	669,081,006		流 動 負 債	2,692,520,386
構 築 物 減価償却累計額	△ 440,102,117	228,978,889	企 業 債	1,376,076,034
器械及び備品	6,558,490,761		未 払 金	771,383,934
器械及び備品 減価償却累計額	△ 5,134,085,333	1,424,405,428	引 当 金	473,391,475
車 両	30,694,955		その他流動負債	71,668,943
車 両 減価償却累計額	△ 22,798,881	7,896,074	繰 延 収 益	543,134,004
建 設 仮 勘 定		5,000,000		0
投 資		209,457,344	長 期 前 受 金	1,410,337,265
長 期 貸 付 金		20,595,010	収 益 化 累 計 額	△ 867,203,261
長期前払消費税		168,595,334	資 本 金	11,012,980,390
そ の 他 投 資		20,267,000	剰 余 金	△ 3,261,364,635
流 動 資 産		7,766,260,795	資 本 剰 余 金	69,334,152
現 金 預 金		3,918,640,699	欠 損 金	△ 3,330,698,787
未 収 金		3,107,859,502	減 債 積 立 金	168,300,000
貸 倒 引 当 金		△ 5,079,003	建 設 改 良 積 立 金	1,313,000,000
有 価 証 券		700,000,000	当 年 度 未 処 理 欠 損 金	4,811,998,787
貯 蔵 品		44,839,597		
合 計		21,676,726,015	合 計	21,676,726,015

(3) 経営状況①

(単位：千円)

決 算 状 況	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
総 収 益	15,481,208	15,840,872	14,100,898	13,255,952	13,035,337	12,598,221
経 常 収 益	15,474,208	15,840,872	13,985,825	13,255,952	13,035,337	12,598,221
医 業 収 益	12,581,384	11,936,166	11,608,521	12,232,538	11,948,730	11,480,357
料 金 収 入	12,352,240	11,722,167	11,416,792	12,033,739	11,761,499	11,299,561
他会計繰入金	667,964	671,393	709,899	762,220	787,108	827,356
特 別 利 益	7,000	0	115,073	0	0	0
総 費 用	14,749,037	14,362,935	14,445,408	13,638,598	13,754,354	13,651,837
経 常 費 用	14,728,347	14,362,935	14,330,335	13,638,598	13,754,354	13,651,837
医 業 費 用	13,870,542	13,435,662	13,272,074	12,810,276	12,881,372	12,865,366
職員給与費	7,484,014	7,166,060	7,166,511	6,864,146	7,032,799	7,001,285
材 料 費	3,738,994	3,652,367	3,490,735	3,478,552	3,368,310	3,287,139
減価償却費	946,634	983,870	918,358	910,623	799,563	1,027,568
支 払 利 息	125,681	150,029	171,010	192,404	213,629	236,433
特 別 損 失	20,690	0	115,073	0	0	0
純 損 益	732,171	1,477,937	△ 344,510	△ 382,646	△ 719,017	△ 1,053,616
累 積 欠 損 金	4,811,998	5,544,169	7,022,106	6,677,596	6,294,950	5,575,933

経営状況②

経 営 指 標	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
総収支比率%	104.96	110.29	97.62	97.19	94.77	92.28
経常収支比率%	105.06	110.29	97.60	97.19	94.77	92.28
医業収支比率%	90.71	88.84	87.47	95.49	92.76	89.23
他会計繰入金対医業収益比率%	5.31	5.62	6.12	6.23	6.59	7.21
職員給与費対医業収益比率%	59.48	60.04	61.73	56.11	58.86	60.98
材料費対医業収益比率%	29.72	30.60	30.07	28.44	28.19	28.63
病 床 数 (年度末現在)	一 般	565	565	587	600	600
	結核精神伝染	0	0	0	0	0
	計	565	565	587	600	600
病 床 利 用 率 %	60.2	56.6	54.0	63.7	62.7	61.5
入院患者数 (人)	年延数	124,315	116,559	115,651	139,885	137,118
	1日平均	340	319	316	383	376
外来患者数 (人)	年延数	214,664	209,110	199,552	219,061	225,436
	1日平均	883	864	821	909	924
外 来 入 院 比 率 %	172.68	179.40	172.55	156.60	164.41	177.41
職 員 1 人 1日当たり 患者数(人)	医 師	入院	3.2	3.1	3.2	3.9
		外来	8.3	8.5	8.3	9.3
	看 護 師	入院	0.7	0.6	0.6	0.8
		外来	1.7	1.7	1.6	1.8
患 者 1 人 1 日 当たり診療収入 (円)	入 院	65,073	64,824	64,518	57,139	58,687
	外 来	19,858	19,924	19,821	18,446	16,477
100床当たり 職 員 数 (人)	医 師	18.9	18.1	16.9	16.3	14.8
	看護部門	92.0	89.9	85.9	83.0	85.0
	全職員	184.1	184.6	172.2	165.5	167.5
診療収入 (千円)	入 院	8,089,489	7,555,842	7,461,520	7,992,889	8,047,043
	外 来	4,262,751	4,166,325	3,955,272	4,040,850	3,714,456

(4) 資本的収入及び支出

収 入

区 分	予 算 額					
	当初予算額	補正予算額	小 計	地方公営企業法第26条の規定による繰越額に係る財源充当額	継続費通次繰越額に係る財源充当額	合 計
長浜病院	円	円	円	円	円	円
第1款 資本的収入	940,314,000	47,908,000	988,222,000	0	0	988,222,000
第1項 企業債	350,800,000	16,000,000	366,800,000	0	0	366,800,000
第2項 出資金	575,414,000	1,363,000	576,777,000	0	0	576,777,000
第3項 固定資産売却代金	0	0	0	0	0	0
第4項 補助金	2,000,000	30,545,000	32,545,000	0	0	32,545,000
第5項 寄附金	10,100,000	0	10,100,000	0	0	10,100,000
第6項 投資返戻金	2,000,000	0	2,000,000	0	0	2,000,000

決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	備 考
円 877,661,400	円 △ 110,560,600	
256,100,000	△ 110,700,000	
576,777,000	0	
2,468,400	2,468,400	(224,400)
32,380,000	△ 165,000	
8,592,000	△ 1,508,000	翌年度繰越額にか かる財源充当額 8,592,000 円
1,344,000	△ 656,000	

() は、仮払消費税

支 出

区 分	予 算 額					
	当初予算額	補正予算額	流 用 額 増 減 額	小 計	地方公営企業法第26条の規定による繰越額	継続費通次繰越額
長浜病院	円	円	円	円	円	円
第1款 資本的支出	1,735,455,000	47,000,000	0	1,782,455,000	0	0
第1項 建設改良費	371,263,000	47,000,000	0	418,263,000	0	0
第2項 企業債償還金	1,352,182,000	0	37,945	1,352,219,945	0	0
第3項 投資	12,000,000	0	△ 37,945	11,962,055	0	0
第4項 補助金消費税返還金	10,000	0	0	10,000	0	0

資本的収入額が資本的支出額に不足する額 792,287,104 円は、損益勘定留保資金で補てんした。

決 算 額	翌 年 度 繰 越 額			不 用 額	備 考
	地方公営企業法第26条の規定による繰越額	継続費通次繰越額	合 計		
円 1,661,356,504	円 94,930,000	円 0	円 94,930,000	円 26,168,496	円
306,823,009	94,930,000	0	94,930,000	16,509,991	(27,892,998)
1,352,219,945	0	0	0	0	
2,313,550	0	0	0	9,648,505	
0	0	0	0	10,000	

() は、仮払消費税

VI 各種統計資料

1. 患者状況

(1) 一般病棟科別入院患者数

診療科名	令和4年度初 人	入院 人	転科増減 人	退院 人	令和4年度末 人	延患者数 人	一日平均 人	比率 %	在院日数 日
内科	0	2	-1	1	0	38	0.1	0.0	25.3
血液内科	9	93	13	109	6	2,311	6.3	2.5	22.9
腎臓代謝内科	21	634	-31	590	34	6,702	18.4	7.2	11.0
神経内科	6	101	-12	90	5	1,923	5.3	2.1	20.1
呼吸器内科	24	828	-41	785	26	11,121	30.5	11.9	13.8
消化器内科	31	1,360	-62	1,301	28	14,835	40.6	15.9	11.1
循環器内科	34	1,287	-34	1,260	27	11,588	31.8	12.4	9.1
小児科	0	6	0	6	0	24	0.1	0.0	4.0
外科	14	571	22	591	16	7,023	19.2	7.5	12.1
呼吸器外科	12	356	4	363	9	3,687	10.1	3.9	10.3
整形外科	29	760	-78	666	45	15,334	42.0	16.4	21.5
脳神経外科	29	448	-66	377	34	10,018	27.5	10.7	24.3
心臓血管外科	7	228	-5	224	6	2,738	7.5	2.9	12.1
泌尿器科	3	251	-1	245	8	2,075	5.7	2.2	8.4
産婦人科	0	53	0	53	0	53	0.2	0.1	1.0
眼科	8	604	0	612	0	935	2.6	1.0	1.5
耳鼻咽喉科	4	122	-10	113	3	977	2.7	1.0	8.3
リウマチ膠原病内科	5	64	1	65	5	1,830	5.0	2.0	28.4
歯科・歯科口腔外科	2	188	0	187	3	394	1.1	0.4	2.1
合計	238	7,956	-301	7,638	255	93,606	256.5	100	12.0

1日平均患者数は、診療日数365日で除しています。

表には、人間ドックは含んでいません。

在院日数は、延患者数 / (入院 + 退院) × 2 で算定しています。

療養病棟は、含んでいません ((2) で掲載)。

(2) 療養病棟科別入院患者数

診療科名	令和4年度初 人	入院 人	転入 人	転出 人	退院 人	令和4年度末 人	延患者数 人	一日平均 人	比率 %	在院日数 日
内科	8	45	5	3	48	6	2,860	7.8	12.6	56.6
血液内科	1	0	0	0	1	0	25	0.1	0.1	50.0
腎臓代謝内科	1	1	8	0	11	0	471	1.3	2.1	47.1
神経内科	2	0	17	1	15	3	904	2.5	4.0	54.8
呼吸器内科	2	0	33	0	31	4	1,101	3.0	4.9	34.4
消化器内科	1	0	34	2	27	6	1,939	5.3	8.6	61.6
循環器内科	6	0	26	2	24	7	1,219	3.3	5.4	46.9
外科	3	0	4	0	6	1	114	0.3	0.5	22.8
呼吸器外科	1	0	6	0	6	1	413	1.1	1.8	68.8
整形外科	21	22	98	7	115	19	6,065	16.6	26.8	50.1
脳神経外科	15	44	74	9	106	18	6,739	18.5	29.7	57.8
心臓血管外科	0	0	12	1	9	1	365	1.0	1.6	33.2
泌尿器科	1	0	3	0	4	0	103	0.3	0.5	29.4
耳鼻咽喉科	0	0	1	0	1	0	36	0.1	0.2	36.0
リウマチ膠原病内科	1	0	5	0	4	2	315	0.9	1.4	70.0
計	63	112	326	25	408	68	22,669	62.1	100	52.1

1日平均患者数は、診療日数365日で除しています。

在院日数は、延患者数 / (入院 + 転入 + 退院 + 転出) × 2 で算定しています。

(3) 科別外来患者数

診療科名	新来患者数 人	一日平均 人	再来患者数 人	一日平均 人	延患者数 人	一日平均 人	比率 %
内科	2,012	8.3	4,558	18.8	6,570	27.0	3.1
血液内科	186	0.8	2,530	10.4	2,716	11.2	1.3
腎臓代謝内科	813	3.3	36,108	148.6	36,921	151.9	17.2
神経内科	657	2.7	4,155	17.1	4,812	19.8	2.2
呼吸器内科	1,031	4.2	10,350	42.6	11,381	46.8	5.3
消化器内科	1,834	7.5	15,763	64.9	17,597	72.4	8.2
循環器内科	813	3.3	22,835	94.0	23,648	97.3	11.0
小児科	74	0.3	1,242	5.1	1,316	5.4	0.6
外科	1,027	4.2	10,494	43.2	11,521	47.4	5.4
呼吸器外科	279	1.1	3,277	13.5	3,556	14.6	1.7
整形外科	1,192	4.9	28,105	115.7	29,297	120.6	13.6
形成外科	292	1.2	1,066	4.4	1,358	5.6	0.6
脳神経外科	746	3.1	3,909	16.1	4,655	19.2	2.2
心臓血管外科	245	2.5	3,474	35.1	3,719	37.6	1.7
皮膚科	350	1.4	1,485	6.1	1,835	7.6	0.9
泌尿器科	480	2.0	5,201	21.4	5,681	23.4	2.6
産婦人科	290	1.2	5,323	21.9	5,613	23.1	2.6
眼科	645	2.7	9,408	38.7	10,053	41.4	4.7
耳鼻咽喉科	821	3.4	9,757	40.2	10,578	43.5	4.9
放射線科(診断)	1,157	4.8	1,088	4.5	2,245	9.2	1.0
麻酔科	50	1.1	12	0.3	62	1.3	0.0
リウマチ膠原病内科	309	1.3	7,534	31.0	7,843	32.3	3.7
放射線科(治療)	130	0.5	3,232	13.3	3,362	13.8	1.6
歯科・歯科口腔外科	1,333	5.5	6,992	28.8	8,325	34.3	3.9
救急科	492	2.0	—	—	—	—	—
合計	17,258	71.3	197,898	814.4	214,664	883.4	100

ただし、心臓血管外科は、火曜日、金曜日の外来診療日数 99 日で除しています。

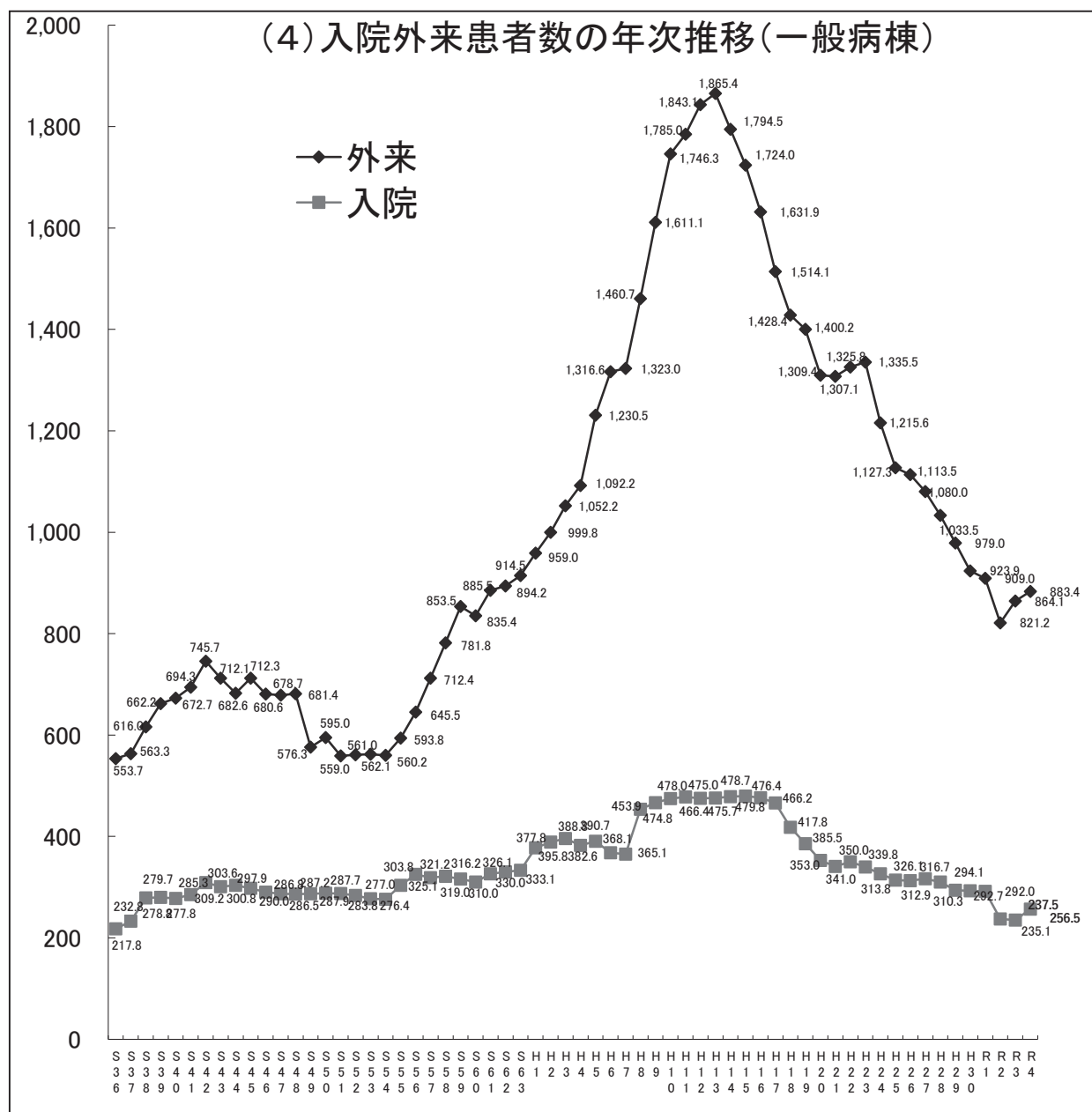
麻酔科は、月曜日の外来診療日 46 日で除しています。

救急科は、診療日 365 日で除しています。

一日平均患者数は、診療日数 243 日で除しています。

新来患者数は、当該診療科を初めて受診した患者数で示しています。

(4) 入院外来患者数の年次推移（一般病棟）



(5) - 1 入院地域別患者数統計表 (565 床)

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
市街地中心部	457	378	404	605	475	473	358	485	340	397	404	401	5,177
六 庄 地 区	667	755	722	743	708	650	734	931	855	1,086	1,057	1,040	9,948
南郷里地区	435	493	496	609	569	536	457	393	420	390	390	493	5,681
神 照 地 区	723	609	717	823	890	889	890	811	728	990	787	849	9,706
北郷里地区	266	219	257	280	247	212	350	210	229	293	268	247	3,078
西黒田地区	191	255	162	203	90	93	60	91	148	119	214	208	1,834
神 田 地 区	109	154	130	162	158	97	159	164	172	209	194	146	1,854
旧 浅 井 町	598	701	661	603	547	562	693	567	664	639	578	603	7,416
旧 虎 姫 町	260	243	220	260	165	177	176	300	328	412	441	346	3,328
旧 湖 北 町	374	379	478	494	539	340	539	554	508	446	449	437	5,537
旧 び わ 町	301	401	287	297	327	270	255	302	457	397	303	272	3,869
旧 高 月 町	506	324	347	446	580	530	505	336	504	624	664	553	5,919
旧木之本町	500	434	545	549	495	418	308	440	453	426	327	411	5,306
旧 余 呉 町	152	187	184	181	139	185	179	168	218	195	215	218	2,221
旧西浅井町	34	121	188	275	167	195	174	115	165	248	278	378	2,338
計 長浜市	5,573	5,653	5,798	6,530	6,096	5,627	5,837	5,867	6,189	6,871	6,569	6,602	73,212
(%)	62.8	61.7	62.4	62.8	60.0	61.9	62.1	61.9	63.3	66.7	65.8	63.7	63.0
旧 山 東 町	780	806	888	949	740	730	772	781	825	813	699	819	9,602
旧 伊 吹 町	248	249	385	448	448	242	256	291	139	261	300	282	3,549
旧 米 原 町	763	823	766	1,032	1,175	1,038	975	939	909	849	912	1,002	11,183
旧 近 江 町	552	639	574	365	582	581	528	544	554	673	741	816	7,149
計 米原市	2,343	2,517	2,613	2,794	2,945	2,591	2,531	2,555	2,427	2,596	2,652	2,919	31,483
(%)	26.4	27.5	28.1	26.9	29.0	28.5	26.9	27.0	24.8	25.2	26.5	28.2	27.1
彦 根 市	642	714	649	788	749	649	723	650	709	536	560	638	8,007
(%)	7.2	7.8	7.0	7.6	7.4	7.1	7.7	6.9	7.3	5.2	5.6	6.2	6.9
そ の 他	292	221	183	206	309	176	247	300	355	183	120	106	2,698
(%)	3.3	2.4	2.0	2.0	3.0	1.9	2.6	3.2	3.6	1.8	1.2	1.0	2.3
県内合計	8,850	9,105	9,243	10,318	10,099	9,043	9,338	9,372	9,680	10,186	9,901	10,265	115,400
(%)	99.7	99.3	99.5	99.3	99.5	99.5	99.3	98.9	99.0	98.9	99.1	99.0	99.2
県外合計	31	60	42	77	54	49	67	100	96	111	89	99	875
(%)	0.3	0.7	0.5	0.7	0.5	0.5	0.7	1.1	1.0	1.1	0.9	1.0	0.8
総 合 計	8,881	9,165	9,285	10,395	10,153	9,092	9,405	9,472	9,776	10,297	9,990	10,364	116,275
(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
前年度2021年度	9,099	9,087	9,405	9,028	9,366	8,801	8,785	8,890	8,689	9,394	8,892	9,290	108,726

*療養は含まれています。

*ドックは含まれていません。

(5) - 2 入院地域別患者数統計表 (461 床)

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
市街地中心部	381	279	321	474	339	371	269	346	218	343	336	316	3,993
六 荘 地 区	499	601	561	584	532	494	604	814	712	938	826	789	7,954
南郷里地区	320	344	364	522	487	429	351	316	327	304	330	401	4,495
神 照 地 区	612	468	608	650	735	681	678	629	551	720	624	627	7,583
北郷里地区	214	180	172	262	231	198	298	164	165	241	221	191	2,537
西黒田地区	161	231	123	133	90	93	60	91	148	92	163	155	1,540
神 田 地 区	109	154	97	131	127	94	159	164	161	191	122	130	1,639
旧 浅 井 町	448	592	589	560	518	492	596	439	457	494	491	517	6,193
旧 虎 姫 町	230	211	181	208	95	131	145	243	207	325	348	297	2,621
旧 湖 北 町	340	258	339	309	364	233	478	473	396	337	324	301	4,152
旧 び わ 町	234	335	193	222	295	235	189	203	316	226	186	216	2,850
旧 高 月 町	408	233	333	446	547	446	321	199	386	499	516	404	4,738
旧木之本町	401	330	459	391	270	263	231	410	391	309	208	327	3,990
旧 余 呉 町	141	165	110	138	92	146	141	129	135	125	159	157	1,638
旧西浅井町	34	121	188	275	131	150	136	97	139	217	206	247	1,941
計 長浜市	4,532	4,502	4,638	5,305	4,853	4,456	4,656	4,717	4,709	5,361	5,060	5,075	57,864
(%)	63.1	61.5	61.5	62.9	59.4	60.8	61.4	61.1	61.0	64.6	63.2	61.3	61.8
旧 山 東 町	664	626	724	693	566	695	693	649	675	681	523	680	7,869
旧 伊 吹 町	218	229	361	399	328	161	241	276	122	226	272	268	3,101
旧 米 原 町	558	685	650	854	963	833	809	761	768	748	821	882	9,332
旧 近 江 町	473	506	455	245	441	407	359	441	440	574	632	641	5,614
計 米原市	1,913	2,046	2,190	2,191	2,298	2,096	2,102	2,127	2,005	2,229	2,248	2,471	25,916
(%)	26.6	27.9	29.0	26.0	28.1	28.6	27.7	27.5	26.0	26.9	28.1	29.8	27.7
彦 根 市	522	585	525	655	662	565	546	540	616	490	526	542	6,774
(%)	7.3	8.0	7.0	7.8	8.1	7.7	7.2	7.0	8.0	5.9	6.6	6.5	7.2
そ の 他	217	158	148	206	309	164	212	241	297	123	111	106	2,292
(%)	3.0	2.2	2.0	2.4	3.8	2.2	2.8	3.1	3.8	1.5	1.4	1.3	2.4
県内合計	7,184	7,291	7,501	8,357	8,122	7,281	7,516	7,625	7,627	8,203	7,945	8,194	92,846
(%)	100.0	99.6	99.4	99.1	99.3	99.3	99.1	98.7	98.8	98.8	99.2	99.0	99.2
県外合計	1	30	42	77	54	49	67	100	96	98	61	85	760
(%)	0.0	0.4	0.6	0.9	0.7	0.7	0.9	1.3	1.2	1.2	0.8	1.0	0.8
総 合 計	7,185	7,321	7,543	8,434	8,176	7,330	7,583	7,725	7,723	8,301	8,006	8,279	93,606
(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
前年度2021年度	7,222	7,263	7,432	7,095	7,565	7,116	7,029	6,849	6,556	7,358	7,038	7,299	85,822

* ドックは含まれていません。

(5) - 3 入院地域別患者数統計表 (療養 104 床)

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
市街地中心部	76	99	83	131	136	102	89	139	122	54	68	85	1,184
六 荘 地 区	168	154	161	159	176	156	130	117	143	148	231	251	1,994
南郷里地区	115	149	132	87	82	107	106	77	93	86	60	92	1,186
神 照 地 区	111	141	109	173	155	208	212	182	177	270	163	222	2,123
北郷里地区	52	39	85	18	16	14	52	46	64	52	47	56	541
西黒田地区	30	24	39	70	0	0	0	0	0	27	51	53	294
神 田 地 区	0	0	33	31	31	3	0	0	11	18	72	16	215
旧 浅 井 町	150	109	72	43	29	70	97	128	207	145	87	86	1,223
旧 虎 姫 町	30	32	39	52	70	46	31	57	121	87	93	49	707
旧 湖 北 町	34	121	139	185	175	107	61	81	112	109	125	136	1,385
旧 び わ 町	67	66	94	75	32	35	66	99	141	171	117	56	1,019
旧 高 月 町	98	91	14	0	33	84	184	137	118	125	148	149	1,181
旧木之本町	99	104	86	158	225	155	77	30	62	117	119	84	1,316
旧 余 呉 町	11	22	74	43	47	39	38	39	83	70	56	61	583
旧西浅井町	0	0	0	0	36	45	38	18	26	31	72	131	397
計 長浜市	1,041	1,151	1,160	1,225	1,243	1,171	1,181	1,150	1,480	1,510	1,509	1,527	15,348
(%)	61.4	62.4	66.6	62.5	62.9	66.5	64.8	65.8	72.1	75.7	76.1	73.2	67.7
旧 山 東 町	116	180	164	256	174	35	79	132	150	132	176	139	1,733
旧 伊 吹 町	30	20	24	49	120	81	15	15	17	35	28	14	448
旧 米 原 町	205	138	116	178	212	205	166	178	141	101	91	120	1,851
旧 近 江 町	79	133	119	120	141	174	169	103	114	99	109	175	1,535
計 米原市	430	471	423	603	647	495	429	428	422	367	404	448	5,567
(%)	25.4	25.5	24.3	30.7	32.7	28.1	23.5	24.5	20.6	18.4	20.4	21.5	24.6
彦 根 市	120	129	124	133	87	84	177	110	93	46	34	96	1,233
(%)	7.1	7.0	7.1	6.8	4.4	4.8	9.7	6.3	4.5	2.3	1.7	4.6	5.4
そ の 他	75	63	35	0	0	12	35	59	58	60	9	0	406
(%)	4.4	3.4	2.0	0	0	0.7	1.9	3.4	2.8	3.0	0.5	0	1.8
県内合計	1,666	1,814	1,742	1,961	1,977	1,762	1,822	1,747	2,053	1,983	1,956	2,071	22,554
(%)	98.2	98.4	100	100	100	100	100	100	100	99.3	98.6	99.3	99.5
県外合計	30	30	0	0	0	0	0	0	0	13	28	14	115
(%)	1.8	1.6	0	0	0	0	0	0	0	0.7	1.4	0.7	0.5
総 合 計	1,696	1,844	1,742	1,961	1,977	1,762	1,822	1,747	2,053	1,996	1,984	2,085	22,669
(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

*ドックは含まれていません。

(5) - 4 入院地域別患者数統計表 (医療 52 床)

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
市街地中心部	6	6	6	10	20	30	37	49	56	44	33	37	334
六 荘 地 区	99	105	105	99	105	107	102	73	70	89	151	219	1,324
南 郷 里 地 区	58	31	37	37	59	60	91	77	93	86	46	35	710
神 照 地 区	41	31	33	62	39	30	45	60	74	97	59	31	602
北 郷 里 地 区	30	31	30	6	16	14	25	30	22	0	1	40	245
西黒田地区	0	0	9	31	0	0	0	0	0	0	0	0	40
神 田 地 区	0	0	0	0	0	0	0	0	11	17	22	0	50
旧 浅 井 町	45	67	72	43	26	40	58	60	62	62	56	62	653
旧 虎 姫 町	0	1	9	51	70	27	0	0	19	51	56	33	317
旧 湖 北 町	23	40	43	26	44	47	41	75	112	76	69	75	671
旧 び わ 町	0	0	0	0	7	30	31	32	42	42	26	31	241
旧 高 月 町	38	34	0	0	22	35	88	79	62	63	91	92	604
旧 木 之 本 町	60	74	78	83	62	60	62	30	31	31	28	18	617
旧 余 呉 町	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	30	36
旧 西 浅 井 町	0	0	0	0	29	15	3	0	0	0	22	7	76
計 長 浜 市	400	420	422	454	499	495	583	565	654	658	660	710	6,520
(%)	60.0	57.5	57.9	54.7	62.4	67.1	73.5	73.1	75.3	79.4	77.6	80.9	68.7
旧 山 東 町	36	98	111	113	61	30	31	50	59	43	92	30	754
旧 伊 吹 町	30	20	0	18	58	42	3	15	0	0	0	0	186
旧 米 原 町	90	80	102	121	89	66	104	104	110	70	57	47	1,040
旧 近 江 町	35	73	50	78	62	60	48	30	31	31	28	55	581
計 米 原 市	191	271	263	330	270	198	186	199	200	144	177	132	2,561
(%)	28.6	37.1	36.1	39.8	33.8	26.8	23.5	25.7	23.0	17.4	20.8	15.0	27.0
彦 根 市	31	31	44	46	31	36	24	9	15	15	14	36	332
(%)	4.6	4.2	6.0	5.5	3.9	4.9	3.0	1.2	1.7	1.8	1.6	4.1	3.5
そ の 他	45	8	0	0	0	9	0	0	0	12	0	0	74
(%)	6.7	1.1	0	0	0	1.2	0	0	0	1.4	0	0	0.8
県 内 合 計	667	730	729	830	800	738	793	773	869	829	851	878	9,487
(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
県 外 合 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総 合 計	667	730	729	830	800	738	793	773	869	829	851	878	9,487
(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

(5) - 5 入院地域別患者数統計表 (回復期リハビリ 52 床)

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
市街地中心部	70	93	77	121	116	72	52	90	66	10	35	48	850
六 荘 地 区	69	49	56	60	71	49	28	44	73	59	80	32	670
南 郷 里 地 区	57	118	95	50	23	47	15	0	0	0	14	57	476
神 照 地 区	70	110	76	111	116	178	167	122	103	173	104	191	1,521
北 郷 里 地 区	22	8	55	12	0	0	27	16	42	52	46	16	296
西黒田地区	30	24	30	39	0	0	0	0	0	27	51	53	254
神 田 地 区	0	0	33	31	31	3	0	0	0	1	50	16	165
旧 浅 井 町	105	42	0	0	3	30	39	68	145	83	31	24	570
旧 虎 姫 町	30	31	30	1	0	19	31	57	102	36	37	16	390
旧 湖 北 町	11	81	96	159	131	60	20	6	0	33	56	61	714
旧 び わ 町	67	66	94	75	25	5	35	67	99	129	91	25	778
旧 高 月 町	60	57	14	0	11	49	96	58	56	62	57	57	577
旧 木 之 本 町	39	30	8	75	163	95	15	0	31	86	91	66	699
旧 余 呉 町	11	22	74	37	47	39	38	39	83	70	56	31	547
旧 西 浅 井 町	0	0	0	0	7	30	35	18	26	31	50	124	321
計 長 浜 市	641	731	738	771	744	676	598	585	826	852	849	817	8,828
(%)	62.3	65.6	72.9	68.2	63.2	66.0	58.1	60.1	69.8	73.0	74.9	67.7	67.0
旧 山 東 町	80	82	53	143	113	5	48	82	91	89	84	109	979
旧 伊 吹 町	0	0	24	31	62	39	12	0	17	35	28	14	262
旧 米 原 町	115	58	14	57	123	139	62	74	31	31	34	73	811
旧 近 江 町	44	60	69	42	79	114	121	73	83	68	81	120	954
計 米 原 市	239	200	160	273	377	297	243	229	222	223	227	316	3,006
(%)	23.2	18.0	15.8	24.1	32.0	29.0	23.6	23.5	18.8	19.1	20.0	26.2	22.8
彦 根 市	89	98	80	87	56	48	153	101	78	31	20	60	901
(%)	8.6	8.8	7.9	7.7	4.8	4.7	14.9	10.4	6.6	2.7	1.8	5.0	6.8
そ の 他	30	55	35	0	0	3	35	59	58	48	9	0	332
(%)	2.9	4.9	3.5	0	0	0.3	3.4	6.1	4.9	4.1	0.8	0	2.5
県 内 合 計	999	1,084	1,013	1,131	1,177	1,024	1,029	974	1,184	1,154	1,105	1,193	13,067
(%)	97.1	97.3	100	100	100	100	100	100	100	98.9	97.5	98.8	99.1
県 外 合 計	30	30	0	0	0	0	0	0	0	13	28	14	115
(%)	2.9	2.7	0	0	0	0	0	0	0	1.1	2.5	1.2	0.9
総 合 計	1,029	1,114	1,013	1,131	1,177	1,024	1,029	974	1,184	1,167	1,133	1,207	13,182
(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

* ドックは含まれていません。

(6) - 1 入院年代別患者数統計表 (565 床)

(単位：人)

年 代	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
0 歳	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	6
(%)	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0
1 歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 歳～ 5 歳	0	0	0	0	6	0	0	2	8	0	0	0	16
(%)	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0
6 歳～ 9 歳	6	1	0	0	12	0	0	2	0	0	2	2	25
(%)	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0
10 歳～ 14 歳	0	6	0	8	7	0	0	0	5	7	0	4	37
(%)	0	0.1	0	0.1	0.1	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0
15 歳～ 19 歳	6	22	8	17	47	23	19	33	22	13	6	33	249
(%)	0.1	0.2	0.1	0.2	0.5	0.3	0.2	0.3	0.2	0.1	0.1	0.3	0.2
20 歳～ 29 歳	76	78	45	89	98	72	75	68	103	69	28	75	876
(%)	0.9	0.9	0.5	0.9	1.0	0.8	0.8	0.7	1.1	0.7	0.3	0.7	0.8
30 歳～ 39 歳	52	97	145	126	62	90	89	145	143	96	51	174	1,270
(%)	0.6	1.1	1.6	1.2	0.6	1.0	0.9	1.5	1.5	0.9	0.5	1.7	1.1
40 歳～ 49 歳	173	247	298	332	319	336	267	185	199	178	129	217	2,880
(%)	1.9	2.7	3.2	3.2	3.1	3.7	2.8	2.0	2.0	1.7	1.3	2.1	2.5
50 歳～ 59 歳	582	588	661	722	587	748	644	691	585	711	717	683	7,919
(%)	6.6	6.4	7.1	6.9	5.8	8.2	6.8	7.3	6.0	6.9	7.2	6.6	6.8
60 歳～ 64 歳	341	539	588	651	473	299	410	325	359	423	527	529	5,464
(%)	3.8	5.9	6.3	6.3	4.7	3.3	4.4	3.4	3.7	4.1	5.3	5.1	4.7
65 歳～ 69 歳	614	630	804	818	768	696	779	680	670	610	692	784	8,545
(%)	6.9	6.9	8.7	7.9	7.6	7.7	8.3	7.2	6.9	5.9	6.9	7.6	7.3
70 歳～ 79 歳	3,119	2,961	2,932	3,578	3,583	2,919	2,978	2,611	2,748	3,010	2,891	2,598	35,928
(%)	35.1	32.3	31.6	34.4	35.3	32.1	31.7	27.6	28.1	29.2	28.9	25.1	30.9
80 歳～	3,912	3,996	3,804	4,054	4,185	3,909	4,144	4,730	4,934	5,180	4,947	5,265	53,060
(%)	44.0	43.6	41.0	39.0	41.2	43.0	44.1	49.9	50.5	50.3	49.5	50.8	45.6
合 計	8,881	9,165	9,285	10,395	10,153	9,092	9,405	9,472	9,776	10,297	9,990	10,364	116,275
(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
2021 年度	9,099	9,087	9,405	9,028	9,366	8,801	8,785	8,890	8,689	9,394	8,892	9,290	108,726

*療養は含まれています。

*ドックは含まれていません。

(6) - 2 入院年代別患者数統計表 (461 床)

(単位：人)

年 代	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
0 歳	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	6
(%)	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0
1 歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 歳～ 5 歳	0	0	0	0	6	0	0	2	8	0	0	0	16
(%)	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0
6 歳～ 9 歳	6	1	0	0	12	0	0	2	0	0	2	2	25
(%)	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0
10 歳～ 14 歳	0	6	0	8	7	0	0	0	5	7	0	4	37
(%)	0	0.1	0	0.1	0.1	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0
15 歳～ 19 歳	6	22	8	17	47	23	19	31	22	13	6	33	247
(%)	0.1	0.3	0.1	0.2	0.6	0.3	0.3	0.4	0.3	0.2	0.1	0.4	0.3
20 歳～ 29 歳	46	48	45	89	98	72	75	68	103	69	28	75	816
(%)	0.6	0.7	0.6	1.1	1.2	1.0	1.0	0.9	1.3	0.8	0.3	0.9	0.9
30 歳～ 39 歳	52	97	145	126	62	90	71	115	112	65	41	174	1,150
(%)	0.7	1.3	1.9	1.5	0.8	1.2	0.9	1.5	1.5	0.8	0.5	2.1	1.2
40 歳～ 49 歳	167	213	198	283	282	276	204	169	162	115	81	166	2,316
(%)	2.3	2.9	2.6	3.4	3.4	3.8	2.7	2.2	2.1	1.4	1.0	2.0	2.5
50 歳～ 59 歳	523	477	558	562	425	550	450	502	430	559	556	531	6,123
(%)	7.3	6.5	7.4	6.7	5.2	7.5	5.9	6.5	5.6	6.7	6.9	6.4	6.5
60 歳～ 64 歳	265	447	529	611	425	243	352	275	297	361	450	430	4,685
(%)	3.7	6.1	7.0	7.2	5.2	3.3	4.6	3.6	3.8	4.3	5.6	5.2	5.0
65 歳～ 69 歳	523	542	711	662	598	567	642	621	602	520	575	674	7,237
(%)	7.3	7.4	9.4	7.8	7.3	7.7	8.5	8.0	7.8	6.3	7.2	8.1	7.7
70 歳～ 79 歳	2,558	2,397	2,331	2,997	2,902	2,353	2,413	2,084	2,204	2,392	2,365	2,073	29,069
(%)	35.6	32.7	30.9	35.5	35.5	32.1	31.8	27.0	28.5	28.8	29.5	25.0	31.1
80 歳～	3,039	3,071	3,018	3,079	3,306	3,156	3,357	3,856	3,778	4,200	3,902	4,117	41,879
(%)	42.3	41.9	40.0	36.5	40.4	43.1	44.3	49.9	48.9	50.6	48.7	49.7	44.7
合 計	7,185	7,321	7,543	8,434	8,176	7,330	7,583	7,725	7,723	8,301	8,006	8,279	93,606
(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
2021 年度	7,222	7,263	7,432	7,095	7,565	7,116	7,029	6,849	6,556	7,358	7,038	7,299	85,822

* ドックは含まれていません。

(6) - 3 入院年代別患者数統計表 (療養 104 床)

(単位：人)

年 代	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
15歳～19歳	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
(%)	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0
20歳～29歳	30	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60
(%)	1.8	1.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3
30歳～39歳	0	0	0	0	0	0	18	30	31	31	10	0	120
(%)	0	0	0	0	0	0	1.0	1.7	1.5	1.6	0.5	0	0.5
40歳～49歳	6	34	100	49	37	60	63	16	37	63	48	51	564
(%)	0.4	1.8	5.7	2.5	1.9	3.4	3.5	0.9	1.8	3.2	2.4	2.4	2.5
50歳～59歳	59	111	103	160	162	198	194	189	155	152	161	152	1,796
(%)	3.5	6.0	5.9	8.2	8.2	11.2	10.6	10.8	7.5	7.6	8.1	7.3	7.9
60歳～64歳	76	92	59	40	48	56	58	50	62	62	77	99	779
(%)	4.5	5.0	3.4	2.0	2.4	3.2	3.2	2.9	3.0	3.1	3.9	4.7	3.4
65歳～69歳	91	88	93	156	170	129	137	59	68	90	117	110	1,308
(%)	5.4	4.8	5.3	8.0	8.6	7.3	7.5	3.4	3.3	4.5	5.9	5.3	5.8
70歳～79歳	561	564	601	581	681	566	565	527	544	618	526	525	6,859
(%)	33.1	30.6	34.5	29.6	34.4	32.1	31.0	30.2	26.5	31.0	26.5	25.2	30.3
80歳～	873	925	786	975	879	753	787	874	1,156	980	1,045	1,148	11,181
(%)	51.5	50.2	45.1	49.7	44.5	42.7	43.2	50.0	56.3	49.1	52.7	55.1	49.3
合 計	1,696	1,844	1,742	1,961	1,977	1,762	1,822	1,747	2,053	1,996	1,984	2,085	22,669
(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

* ドックは含まれていません。

(6) - 4 入院年代別患者数統計表 (医療 52 床)

(単位：人)

年 代	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
15歳～19歳	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
(%)	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0	0	0
20歳～29歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30歳～39歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40歳～49歳	6	6	6	6	6	10	6	6	6	6	6	6	76
(%)	0.9	0.8	0.8	0.7	0.8	1.4	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	0.8
50歳～59歳	0	0	0	0	2	30	37	60	62	62	56	62	371
(%)	0	0	0	0	0.3	4.1	4.7	7.8	7.1	7.5	6.6	7.1	3.9
60歳～64歳	0	0	9	35	3	0	27	30	31	31	28	31	225
(%)	0	0	1.2	4.2	0.4	0	3.4	3.9	3.6	3.7	3.3	3.5	2.4
65歳～69歳	50	22	12	58	30	5	0	2	42	62	47	63	393
(%)	7.5	3.0	1.6	7.0	3.8	0.7	0	0.3	4.8	7.5	5.5	7.2	4.1
70歳～79歳	215	225	266	302	306	239	268	180	170	203	186	207	2,767
(%)	32.2	30.8	36.5	36.4	38.3	32.4	33.8	23.3	19.6	24.5	21.9	23.6	29.2
80歳～	396	477	436	429	453	454	455	493	558	465	528	509	5,653
(%)	59.4	65.3	59.8	51.7	56.6	61.5	57.4	63.8	64.2	56.1	62.0	58.0	59.6
合 計	667	730	729	830	800	738	793	773	869	829	851	878	9,487
(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

(6) - 5 入院年代別患者数統計表 (回復期リハビリ 52 床)

(単位：人)

年 代	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
20歳～29歳	30	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60
(%)	2.9	2.7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.5
30歳～39歳	0	0	0	0	0	0	18	30	31	31	10	0	120
(%)	0	0	0	0	0	0	1.7	3.1	2.6	2.7	0.9	0	0.9
40歳～49歳	0	28	94	43	31	50	57	10	31	57	42	45	488
(%)	0	2.5	9.3	3.8	2.6	4.9	5.5	1.0	2.6	4.9	3.7	3.7	3.7
50歳～59歳	59	111	103	160	160	168	157	129	93	90	105	90	1,425
(%)	5.7	10.0	10.2	14.1	13.6	16.4	15.3	13.2	7.9	7.7	9.3	7.5	10.8
60歳～64歳	76	92	50	5	45	56	31	20	31	31	49	68	554
(%)	7.4	8.3	4.9	0.4	3.8	5.5	3.0	2.1	2.6	2.7	4.3	5.6	4.2
65歳～69歳	41	66	81	98	140	124	137	57	26	28	70	47	915
(%)	4.0	5.9	8.0	8.7	11.9	12.1	13.3	5.9	2.2	2.4	6.2	3.9	6.9
70歳～79歳	346	339	335	279	375	327	297	347	374	415	340	318	4,092
(%)	33.6	30.4	33.1	24.7	31.9	31.9	28.9	35.6	31.6	35.6	30.0	26.3	31.0
80歳～	477	448	350	546	426	299	332	381	598	515	517	639	5,528
(%)	46.4	40.2	34.6	48.3	36.2	29.2	32.3	39.1	50.5	44.1	45.6	52.9	41.9
合 計	1,029	1,114	1,013	1,131	1,177	1,024	1,029	974	1,184	1,167	1,133	1,207	13,182
(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

* ドックは含まれていません。

(7) 外来地域別患者数統計表

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
市街地中心部	770	751	784	849	885	821	813	789	782	714	713	828	9,499
六 庄 地 区	1,654	1,587	1,715	1,727	1,803	1,706	1,653	1,663	1,701	1,469	1,553	1,736	19,967
南郷里地区	1,088	1,056	1,214	1,115	1,156	1,121	1,120	1,173	1,144	1,070	997	1,182	13,436
神 照 地 区	1,676	1,657	1,796	1,782	1,906	1,912	1,732	1,724	1,733	1,653	1,455	1,758	20,784
北郷里地区	587	581	593	609	655	707	649	606	625	554	492	593	7,251
西黒田地区	320	339	325	369	399	335	319	353	338	305	314	393	4,109
神 田 地 区	187	152	198	178	169	195	151	180	175	166	148	178	2,077
旧 浅 井 町	1,163	1,165	1,223	1,154	1,209	1,142	1,181	1,205	1,149	1,041	1,079	1,256	13,967
旧 虎 姫 町	535	530	523	495	532	514	487	539	547	507	485	536	6,230
旧 湖 北 町	735	724	804	771	855	783	738	782	785	732	666	803	9,178
旧 び わ 町	567	488	572	567	634	530	570	621	589	533	488	579	6,738
旧 高 月 町	873	858	928	832	881	917	883	907	891	768	751	903	10,392
旧木之本町	559	533	677	540	627	597	606	538	549	453	508	574	6,761
旧 余 呉 町	239	207	239	259	261	227	235	216	214	182	209	203	2,691
旧西浅井町	272	290	298	300	338	278	283	301	281	253	241	292	3,427
計 長浜市	11,225	10,918	11,889	11,547	12,310	11,785	11,420	11,597	11,503	10,400	10,099	11,814	136,507
(%)	63.7	63.2	63.2	63.7	64.2	63.4	63.5	64.1	63.9	64.0	63.7	62.6	63.6
旧 山 東 町	1,302	1,263	1,402	1,358	1,405	1,513	1,350	1,317	1,266	1,166	1,190	1,417	15,949
旧 伊 吹 町	490	534	592	535	589	581	546	596	534	501	477	607	6,582
旧 米 原 町	1,504	1,539	1,588	1,548	1,593	1,505	1,496	1,429	1,422	1,357	1,299	1,607	17,887
旧 近 江 町	1,029	1,019	1,092	1,018	1,109	1,011	1,066	1,092	1,101	981	950	1,108	12,576
計 米原市	4,325	4,355	4,674	4,459	4,696	4,610	4,458	4,434	4,323	4,005	3,916	4,739	52,994
(%)	24.5	25.2	24.8	24.6	24.5	24.8	24.8	24.5	24.0	24.6	24.7	25.1	24.7
彦 根 市	1,517	1,444	1,647	1,567	1,575	1,649	1,574	1,545	1,614	1,382	1,387	1,741	18,642
(%)	8.6	8.4	8.8	8.6	8.2	8.9	8.7	8.5	9.0	8.5	8.7	9.2	8.7
そ の 他	427	413	468	399	472	432	405	407	445	341	353	421	4,983
(%)	2.4	2.4	2.5	2.2	2.5	2.3	2.3	2.2	2.5	2.1	2.2	2.2	2.3
県内合計	17,494	17,130	18,678	17,972	19,053	18,476	17,857	17,983	17,885	16,128	15,755	18,715	213,126
(%)	99.3	99.2	99.3	99.2	99.3	99.4	99.2	99.3	99.3	99.3	99.3	99.2	99.3
県外合計	127	135	135	146	135	116	135	121	118	120	105	145	1,538
(%)	0.7	0.8	0.7	0.8	0.7	0.6	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	0.8	0.7
総 合 計	17,621	17,265	18,813	18,118	19,188	18,592	17,992	18,104	18,003	16,248	15,860	18,860	214,664
(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
前年度2021年度	17,553	15,510	18,159	17,758	17,805	18,066	17,919	17,517	18,071	16,494	15,300	18,958	209,110

* ドックは含まれていません。

(8) 外来年代別患者数統計表

(単位：人)

年 代	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
0 歳	8	5	9	8	8	8	1	4	3	3	8	5	70
(%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0
1 歳	7	9	14	18	16	14	10	12	18	8	10	4	140
(%)	0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0	0.1	0	0.1
2 歳～ 5 歳	31	43	23	57	63	33	25	38	28	29	29	42	441
(%)	0.2	0.2	0.1	0.3	0.3	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
6 歳～ 9 歳	52	46	52	46	79	43	43	39	51	47	41	52	591
(%)	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
10 歳～ 14 歳	82	77	113	113	136	81	88	70	93	85	79	100	1,117
(%)	0.5	0.4	0.6	0.6	0.7	0.4	0.5	0.4	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
15 歳～ 19 歳	150	136	115	136	244	130	124	130	112	110	122	166	1,675
(%)	0.9	0.8	0.6	0.8	1.3	0.7	0.7	0.7	0.6	0.7	0.8	0.9	0.8
20 歳～ 29 歳	379	389	407	428	494	387	356	360	379	335	372	406	4,692
(%)	2.2	2.3	2.2	2.4	2.6	2.1	2.0	2.0	2.1	2.1	2.3	2.2	2.2
30 歳～ 39 歳	569	575	634	608	756	649	581	572	522	559	494	543	7,062
(%)	3.2	3.3	3.4	3.4	3.9	3.5	3.2	3.2	2.9	3.4	3.1	2.9	3.3
40 歳～ 49 歳	1,260	1,220	1,370	1,302	1,459	1,363	1,266	1,330	1,303	1,122	1,060	1,258	15,313
(%)	7.2	7.1	7.3	7.2	7.6	7.3	7.0	7.3	7.2	6.9	6.7	6.7	7.1
50 歳～ 59 歳	2,169	2,218	2,456	2,317	2,438	2,348	2,301	2,223	2,353	2,066	1,973	2,310	27,172
(%)	12.3	12.8	13.1	12.8	12.7	12.6	12.8	12.3	13.1	12.7	12.4	12.2	12.7
60 歳～ 64 歳	1,306	1,248	1,457	1,457	1,511	1,494	1,514	1,448	1,385	1,305	1,295	1,506	16,926
(%)	7.4	7.2	7.7	8.0	7.9	8.0	8.4	8.0	7.7	8.0	8.2	8.0	7.9
65 歳～ 69 歳	1,823	1,772	1,930	1,888	1,875	1,961	1,845	1,841	1,873	1,609	1,559	1,903	21,879
(%)	10.3	10.3	10.3	10.4	9.8	10.5	10.3	10.2	10.4	9.9	9.8	10.1	10.2
70 歳～ 79 歳	5,489	5,427	5,912	5,463	5,752	5,634	5,585	5,667	5,488	4,947	5,033	5,903	66,300
(%)	31.2	31.4	31.4	30.2	30.0	30.3	31.0	31.3	30.5	30.4	31.7	31.3	30.9
80 歳～	4,296	4,100	4,321	4,277	4,357	4,447	4,253	4,370	4,395	4,023	3,785	4,662	51,286
(%)	24.4	23.7	23.0	23.6	22.7	23.9	23.6	24.1	24.4	24.8	23.9	24.7	23.9
合 計	17,621	17,265	18,813	18,118	19,188	18,592	17,992	18,104	18,003	16,248	15,860	18,860	214,664
(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
2021 年度	17,553	15,510	18,159	17,758	17,805	18,066	17,919	17,517	18,071	16,494	15,300	18,958	209,110

* ドックは含まれていません。

(9) 科別月別入院退院患者数

科別	4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		10 月	
	入院	退院	入院	退院	入院	退院	入院	退院	入院	退院	入院	退院	入院	退院
内 科	58	59	62	65	70	60	68	69	45	48	59	56	68	63
血 液 内 科	7	10	6	11	11	7	6	11	5	4	2	4	9	9
腎 臓 代 謝 内 科	51	49	56	54	58	52	62	58	40	44	57	52	59	54
神 経 内 科	11	10	8	8	11	8	5	7	15	8	8	11	7	7
呼 吸 器 内 科	58	62	79	63	72	69	92	85	88	89	66	66	52	53
消 化 器 内 科	116	110	105	91	121	105	116	118	98	87	97	95	127	128
循 環 器 内 科	118	131	100	91	126	112	110	122	111	100	89	96	113	108
小 児 科	0	0	1	0	0	1	0	0	3	3	0	0	0	0
外 科	54	50	53	48	53	53	57	66	55	53	50	55	55	59
呼 吸 器 外 科	29	33	24	25	31	29	37	32	44	45	25	25	22	24
整 形 外 科	51	40	55	51	56	49	66	51	65	63	54	56	76	56
脳 神 経 外 科	34	35	30	28	44	37	45	27	28	34	30	26	44	34
心 臓 血 管 外 科	20	18	30	21	21	27	16	18	22	24	23	24	27	26
泌 尿 器 科	12	14	21	19	26	18	24	29	25	24	22	17	23	24
産 婦 人 科	0	0	2	2	1	1	4	3	2	3	2	2	8	7
眼 科	35	43	53	45	55	58	56	60	34	33	49	49	59	58
耳 鼻 咽 喉 科	12	14	11	8	6	4	14	12	10	8	8	9	14	11
リウマチ膠原病内科	8	3	5	8	4	3	4	7	2	4	3	2	2	3
歯 科 口 腔 外 科	19	21	13	12	10	10	17	18	20	20	15	14	15	15
合 計	635	643	652	585	707	644	731	724	667	646	600	603	712	676
医 療 R 2	2	16	2	13	2	18	3	13	4	17	5	11	3	11
回 リ ハ	2	20	4	21	7	23	8	16	5	17	6	22	9	24
合 計	4	36	6	34	9	41	11	29	9	34	11	33	12	35
総 合 計	639	679	658	619	716	685	742	753	676	680	611	636	724	711

科別	11 月		12 月		1 月		2 月		3 月		合計	
	入院	退院	入院	退院	入院	退院	入院	退院	入院	退院	入院	退院
内 科	55	58	53	50	51	49	59	47	81	76	729	700
血 液 内 科	5	10	8	6	16	12	9	12	9	13	93	109
腎 臓 代 謝 内 科	49	48	45	44	35	37	50	35	72	63	634	590
神 経 内 科	8	6	9	10	7	7	4	4	8	4	101	90
呼 吸 器 内 科	68	46	66	79	81	64	52	59	54	50	828	785
消 化 器 内 科	128	110	124	130	118	94	95	108	115	125	1,360	1,301
循 環 器 内 科	123	113	108	127	115	79	78	87	96	94	1,287	1,260
小 児 科	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	6	6
外 科	41	45	31	39	41	40	41	45	40	38	571	591
呼 吸 器 外 科	24	28	31	33	33	30	34	30	22	29	356	363
整 形 外 科	74	73	54	59	73	49	72	53	64	66	760	666
脳 神 経 外 科	39	32	42	32	33	24	30	32	49	36	448	377
心 臓 血 管 外 科	20	22	11	9	12	9	14	14	12	12	228	224
泌 尿 器 科	24	25	17	23	16	10	23	21	18	21	251	245
産 婦 人 科	6	7	5	5	6	6	11	10	6	7	53	53
眼 科	51	51	43	46	63	57	59	55	47	57	604	612
耳 鼻 咽 喉 科	10	11	6	9	14	8	6	7	11	12	122	113
リウマチ膠原病内科	8	7	3	7	10	0	6	11	9	10	64	65
歯 科 口 腔 外 科	13	14	14	13	12	12	11	11	29	27	188	187
合 計	692	648	618	672	686	539	595	594	661	664	7,956	7,638
医 療 R 2	5	16	4	12	3	11	4	15	4	15	41	168
回 リ ハ	3	18	9	19	5	20	6	20	7	20	71	240
合 計	8	34	13	31	8	31	10	35	11	35	112	408
総 合 計	700	682	631	703	694	570	605	629	672	699	8,068	8,046

(10) 各科別月別 入院患者数

月	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		
診療日数	30		31		30		31		31		30		31		
	人数	1日平均	人数	1日平均	人数	1日平均	人数	1日平均	人数	1日平均	人数	1日平均	人数	1日平均	
内科	841	28.0	863	27.8	689	23.0	835	26.9	656	21.2	531	17.7	769	24.8	
血液内科	213	7.1	148	4.8	165	5.5	154	5.0	147	4.7	111	3.7	277	8.9	
腎臓代謝内科	628	20.9	715	23.1	521	17.4	681	22.0	509	16.4	417	13.9	492	15.9	
神経内科	181	6.0	141	4.5	197	6.6	145	4.7	110	3.5	201	6.7	168	5.4	
呼吸器内科	770	25.7	947	30.5	923	30.8	1,043	33.6	1,145	36.9	1,104	36.8	760	24.5	
消化器内科	1,021	34.0	1,123	36.2	1,181	39.4	1,162	37.5	1,343	43.3	1,228	40.9	1,345	43.4	
循環器内科	940	31.3	812	26.2	988	32.9	893	28.8	868	28.0	892	29.7	816	26.3	
小児科	0	0	1	0	0	0	0	0	16	0.5	0	0	0	0	
外科	612	20.4	589	19.0	668	22.3	801	25.8	613	19.8	663	22.1	599	19.3	
呼吸器外科	366	12.2	300	9.7	216	7.2	376	12.1	436	14.1	258	8.6	285	9.2	
整形外科	1,009	33.6	1,048	33.8	1,183	39.4	1,385	44.7	1,374	44.3	1,230	41.0	1,356	43.7	
脳神経外科	715	23.8	690	22.3	674	22.5	806	26.0	987	31.8	634	21.1	707	22.8	
心臓血管外科	238	7.9	331	10.7	375	12.5	309	10.0	221	7.1	180	6.0	254	8.2	
泌尿器科	93	3.1	134	4.3	168	5.6	224	7.2	165	5.3	141	4.7	228	7.4	
産婦人科	0	0	4	0.1	0	0	11	0.4	3	0.1	2	0.1	6	0.2	
眼科	39	1.3	96	3.1	79	2.6	90	2.9	47	1.5	89	3.0	83	2.7	
耳鼻咽喉科	94	3.1	92	3.0	61	2.0	90	2.9	73	2.4	53	1.8	101	3.3	
リウマチ膠原病内科	224	7.5	128	4.1	117	3.9	205	6.6	77	2.5	86	2.9	87	2.8	
歯科口腔外科	42	1.4	22	0.7	24	0.8	59	1.9	42	1.4	38	1.3	19	0.6	
合計	7,185	239.5	7,321	236.2	7,543	251.4	8,434	272.1	8,176	263.7	7,330	244.3	7,583	244.6	
医療R	2	667	22.2	730	23.5	729	24.3	830	26.8	800	25.8	738	24.6	793	25.6
回りハR	3	1,029	34.3	1,114	35.9	1,013	33.8	1,131	36.5	1,177	38.0	1,024	34.1	1,029	33.2
合計	1,696	56.5	1,844	59.5	1,742	58.1	1,961	63.3	1,977	63.8	1,762	58.7	1,822	58.8	
総合計	8,881	296.0	9,165	295.6	9,285	309.5	10,395	335.3	10,153	327.5	9,092	303.1	9,405	303.4	

月	11月		12月		1月		2月		3月		4-3月合計		直近3ヶ月	
診療日数	30		31		31		28		31		365		90	
	人数	1日平均	人数	1日平均	人数	1日平均	人数	1日平均	人数	1日平均	人数	1日平均	人数	1日平均
内科	649	21.6	575	18.5	738	23.8	875	31.3	1,030	33.2	9,051	24.8	2,643	29.4
血液内科	187	6.2	177	5.7	265	8.5	241	8.6	226	7.3	2,311	6.3	732	8.1
腎臓代謝内科	455	15.2	398	12.8	458	14.8	624	22.3	804	25.9	6,702	18.4	1,886	21.0
神経内科	128	4.3	196	6.3	155	5.0	156	5.6	145	4.7	1,923	5.3	456	5.1
呼吸器内科	889	29.6	891	28.7	1,065	34.4	795	28.4	789	25.5	11,121	30.5	2,649	29.4
消化器内科	1,318	43.9	1,358	43.8	1,278	41.2	1,217	43.5	1,261	40.7	14,835	40.6	3,756	41.7
循環器内科	977	32.6	1,066	34.4	1,277	41.2	1,023	36.5	1,036	33.4	11,588	31.7	3,336	37.1
小児科	0	0	4	0.1	3	0.1	0	0	0	0	24	0.1	3	0
外科	500	16.7	541	17.5	465	15.0	480	17.1	492	15.9	7,023	19.2	1,437	16.0
呼吸器外科	183	6.1	344	11.1	360	11.6	318	11.4	245	7.9	3,687	10.1	923	10.3
整形外科	1,429	47.6	1,191	38.4	1,369	44.2	1,374	49.1	1,386	44.7	15,334	42.0	4,129	45.9
脳神経外科	846	28.2	1,002	32.3	992	32.0	892	31.9	1,073	34.6	10,018	27.4	2,957	32.9
心臓血管外科	165	5.5	128	4.1	150	4.8	186	6.6	201	6.5	2,738	7.5	537	6.0
泌尿器科	218	7.3	139	4.5	124	4.0	238	8.5	203	6.5	2,075	5.7	565	6.3
産婦人科	8	0.3	4	0.1	5	0.2	6	0.2	4	0.1	53	0.1	15	0.2
眼科	86	2.9	64	2.1	87	2.8	111	4.0	64	2.1	935	2.6	262	2.9
耳鼻咽喉科	126	4.2	82	2.6	94	3.0	45	1.6	66	2.1	977	2.7	205	2.3
リウマチ膠原病内科	171	5.7	116	3.7	118	3.8	267	9.5	234	7.5	1,830	5.0	619	6.9
歯科口腔外科	32	1.1	22	0.7	21	0.7	23	0.8	50	1.6	394	1.1	94	1.0
合計	7,725	257.5	7,723	249.1	8,301	267.8	8,006	285.9	8,279	267.1	93,606	256.5	24,586	273.2
医療R2	773	25.8	869	28.0	829	26.7	851	30.4	878	28.3	9,487	26.0	2,558	28.4
回リハR3	974	32.5	1,184	38.2	1,167	37.6	1,133	40.5	1,207	38.9	13,182	36.1	3,507	39.0
合計	1,747	58.2	2,053	66.2	1,996	64.4	1,984	70.9	2,085	67.3	22,669	62.1	6,065	67.4
総合計	9,472	315.7	9,776	315.4	10,297	332.2	9,990	356.8	10,364	334.3	116,275	318.6	30,651	340.6

(11) 各科別月別 外来患者数

診療日数	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月	
	20		19		22		20		22		20		20	
	人数	1日平均	人数	1日平均	人数	1日平均	人数	1日平均	人数	1日平均	人数	1日平均	人数	1日平均
内科	3,722	186.1	3,814	200.7	3,769	171.3	3,933	196.7	4,407	200.3	4,025	201.3	3,794	189.7
血液内科	216	10.8	214	11.3	218	9.9	256	12.8	226	10.3	237	11.9	212	10.6
腎臓代謝内科	1,519	76.0	1,530	80.5	1,639	74.5	1,530	76.5	1,579	71.8	1,606	80.3	1,597	79.9
透析内科	1,441	72.1	1,473	77.5	1,458	66.3	1,445	72.3	1,574	71.5	1,571	78.6	1,558	77.9
心療内科	32	1.6	25	1.3	26	1.2	36	1.8	29	1.3	42	2.1	23	1.2
神経内科	400	20.0	370	19.5	434	19.7	396	19.8	456	20.7	410	20.5	369	18.5
呼吸器内科	922	46.1	944	49.7	1,004	45.6	990	49.5	979	44.5	1,014	50.7	937	46.9
消化器内科	1,365	68.3	1,367	71.9	1,501	68.2	1,405	70.3	1,461	66.4	1,474	73.7	1,490	74.5
循環器内科	2,040	102.0	1,881	99.0	2,079	94.5	1,877	93.9	2,069	94.0	1,953	97.7	1,978	98.9
小児科	105	5.3	98	5.2	118	5.4	138	6.9	149	6.8	111	5.6	101	5.1
外科	917	45.9	924	48.6	967	44.0	963	48.2	1,096	49.8	991	49.6	879	44.0
呼吸器外科	302	15.1	283	14.9	368	16.7	279	14.0	307	14.0	322	16.1	298	14.9
整形外科	2,348	117.4	2,333	122.8	2,618	119.0	2,536	126.8	2,453	111.5	2,566	128.3	2,529	126.5
形成外科	76	3.8	87	4.6	109	5.0	100	5.0	148	6.7	158	7.9	153	7.7
脳神経外科	418	20.9	387	20.4	395	18.0	404	20.2	398	18.1	400	20.0	414	20.7
心臓血管外科	359	44.9	315	39.4	316	39.5	330	36.7	307	34.1	339	42.4	341	42.6
皮膚科	166	8.3	189	9.9	184	8.4	174	8.7	229	10.4	177	8.9	128	6.4
泌尿器科	410	20.5	434	22.8	481	21.9	464	23.2	547	24.9	498	24.9	466	23.3
産婦人科	483	24.2	452	23.8	535	24.3	448	22.4	459	20.9	516	25.8	505	25.3
眼	816	40.8	730	38.4	864	39.3	854	42.7	779	35.4	828	41.4	840	42.0
耳鼻咽喉科	842	42.1	840	44.2	936	42.5	843	42.2	947	43.0	899	45.0	907	45.4
放射線診断科	180	9.0	192	10.1	232	10.5	203	10.2	147	6.7	176	8.8	206	10.3
麻酔・ペイン	2	0.5	2	0.4	3	0.8	2	0.7	3	0.6	2	0.7	4	1.0
リウマチ・膠原病内科	653	32.7	566	29.8	716	32.5	614	30.7	672	30.5	695	34.8	646	32.3
放射線治療科	386	19.3	383	20.2	441	20.0	444	22.2	447	20.3	391	19.6	369	18.5
歯科口腔外科	709	35.5	674	35.5	743	33.8	721	36.1	728	33.1	647	32.4	638	31.9
合計	17,621	881.1	17,265	908.7	18,813	855.1	18,118	905.9	19,188	872.2	18,592	929.6	17,992	899.6
ヘルスケア研究センター	282	14.1	338	17.8	575	26.1	608	30.4	532	24.2	566	28.3	534	26.7
総合計	17,903	895.2	17,603	926.5	19,388	881.3	18,726	936.3	19,720	896.4	19,158	957.9	18,526	926.3

診療日数	11月		12月		1月		2月		3月		4-3月合計		直近3ヶ月	
	20		20		19		19		22		243		60	
	人数	1日平均	人数	1日平均	人数	1日平均	人数	1日平均	人数	1日平均	人数	1日平均	人数	1日平均
内科	3,725	186.3	4,031	201.6	3,669	193.1	3,370	177.4	3,948	179.5	46,207	190.2	10,987	183.1
血液内科	220	11.0	225	11.3	210	11.1	210	11.1	272	12.4	2,716	11.2	692	11.5
腎臓代謝内科	1,485	74.3	1,703	85.2	1,431	75.3	1,383	72.8	1,684	76.5	18,686	76.9	4,498	75.0
透析内科	1,569	78.5	1,588	79.4	1,547	81.4	1,423	74.9	1,588	72.2	18,235	75.0	4,558	76.0
心療内科	24	1.2	25	1.3	31	1.6	29	1.5	54	2.5	376	1.5	114	1.9
神経内科	386	19.3	420	21.0	387	20.4	355	18.7	429	19.5	4,812	19.8	1,171	19.5
呼吸器内科	973	48.7	963	48.2	874	46.0	801	42.2	980	44.5	11,381	46.8	2,655	44.3
消化器内科	1,613	80.7	1,508	75.4	1,353	71.2	1,410	74.2	1,650	75.0	17,597	72.4	4,413	73.6
循環器内科	1,985	99.3	2,075	103.8	1,796	94.5	1,727	90.9	2,188	99.5	23,648	97.3	5,711	95.2
小児科	95	4.8	104	5.2	85	4.5	108	5.7	104	4.7	1,316	5.4	297	5.0
外科	1,050	52.5	961	48.1	874	46.0	896	47.2	1,003	45.6	11,521	47.4	2,773	46.2
呼吸器外科	277	13.9	319	16.0	221	11.6	252	13.3	328	14.9	3,556	14.6	801	13.4
整形外科	2,482	124.1	2,410	120.5	2,169	114.2	2,198	115.7	2,655	120.7	29,297	120.6	7,022	117.0
形成外科	112	5.6	115	5.8	93	4.9	79	4.2	128	5.8	1,358	5.6	300	5.0
脳神経外科	369	18.5	415	20.8	384	20.2	346	18.2	325	14.8	4,655	19.2	1,055	17.6
心臓血管外科	341	37.9	297	37.1	243	30.4	236	29.5	295	36.9	3,719	37.6	774	32.3
皮膚科	160	8.0	133	6.7	86	4.5	91	4.8	118	5.4	1,835	7.6	295	4.9
泌尿器科	492	24.6	496	24.8	460	24.2	436	22.9	497	22.6	5,681	23.4	1,393	23.2
産婦人科	485	24.3	477	23.9	400	21.1	377	19.8	476	21.6	5,613	23.1	1,253	20.9
眼	850	42.5	834	41.7	837	44.1	832	43.8	989	45.0	10,053	41.4	2,658	44.3
耳鼻咽喉科	890	44.5	928	46.4	811	42.7	826	43.5	909	41.3	10,578	43.5	2,546	42.4
放射線診断科	187	9.4	164	8.2	168	8.8	182	9.6	208	9.5	2,245	9.2	558	9.3
麻酔・ペイン	6	1.5	2	0.5	0	0	12	3.0	24	6.0	62	1.3	36	3.3
リウマチ・膠原病内科	661	33.1	721	36.1	566	29.8	574	30.2	759	34.5	7,843	32.3	1,899	31.7
放射線治療科	253	12.7	34	1.7	71	3.7	78	4.1	65	3.0	3,362	13.8	214	3.6
歯科口腔外科	712	35.6	596	29.8	701	36.9	674	35.5	782	35.5	8,325	34.3	2,157	36.0
合計	18,104	905.2	18,003	900.2	16,248	855.2	15,860	834.7	18,860	857.3	214,664	883.4	50,968	849.5
ヘルスケア研究センター	489	24.5	380	19.0	328	17.3	435	22.9	350	15.9	5,417	22.3	1,113	18.6
総合計	18,593	929.7	18,383	919.2	16,576	872.4	16,295	857.6	19,210	873.2	220,081	905.7	52,081	868.0

(12) 救急患者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
救急外来 受診者数	時間内	297	365	275	319	410	252	224	244	213	236	200	220	3255
	時間外	534	590	481	682	662	569	533	538	637	619	479	460	6784
	総数	831	955	756	1,001	1,072	821	757	782	850	855	679	680	10,039
救急車 搬入数	時間内	81	96	106	117	91	74	89	93	89	96	88	96	1,116
	時間外	143	129	129	159	181	159	159	170	183	208	116	144	1,880
	総数	224	225	235	276	272	233	248	263	272	304	204	240	2,996
救急室 から 入院数	時間内	102	96	91	117	102	83	75	76	91	86	80	93	1,092
	時間外	124	120	106	127	127	116	136	132	129	149	108	113	1,487
	総数	226	216	197	244	229	199	211	208	220	235	188	206	2,579
(内 救急車 入院数)	時間内	46	22	55	63	53	33	44	41	53	50	50	53	563
	時間外	73	29	56	67	69	63	71	73	78	95	57	69	800
	総数	119	51	111	130	122	96	115	114	131	145	107	122	1,363

(13) 救急車利用状況（病院救急車による患者搬送件数）

搬送月	件数	搬送エリア			診 療 科																			時間外搬送件数		患者費用負担件数
		長浜市内	滋賀県内	滋賀県外	外科	脳外	整形	呼吸内	神内	消化内	泌尿器	眼科	心外	内科	腎内	循環内	血内	リウマチ	小児科(NICU)	産婦	耳鼻	救急	精神	時外	休日	
4月	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
5月	4	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	
6月	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
7月	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
9月	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
10月	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2月	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
3月	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
	14	4	8	2	0	1	0	0	0	1	0	0	4	0	1	3	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0

(搬送先医療機関)

長浜市内・・・長浜市立湖北病院・長浜赤十字病院

滋賀県内・・・滋賀医科大学医学部附属病院・済生会滋賀県病院・彦根市立病院・彦根中央病院・東近江総合医療センター・大津赤十字病院

滋賀県外・・・岐阜市民病院

2. ICU・CCU 業務状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度総数
延 稼 働 床		220	196	219	201	166	138	141	173	201	176	198	213	2242
入 院		24	14	15	11	13	8	17	15	12	18	14	10	171
転 入		36	37	35	44	37	42	26	38	39	35	30	34	433
退 院		3	7	1	2	2	2	0	2	2	3	4	2	30
転 出		56	44	49	57	47	48	42	46	51	50	38	46	574
平 均 患 者 数		7.3	6.3	7.3	6.5	5.4	4.6	4.5	5.8	6.5	5.7	7.1	6.9	6.2
在 室 日 数		4.4	4.1	4.8	4.9	3.8	5.4	3.4	3.4	4.7	3.5	4.7	4.6	4.3
占 床 率		91.3	79.0	91.3	81.3	67.5	57.5	56.9	72.1	81.0	71.3	88.4	86.3	77.0
稼 働 率		750.0	600.0	625.0	687.0	625.0	625.0	537.5	650.0	637.5	662.5	550.0	550.0	625.0
科 名	入 院 内 訳													
心 臓 血 管 外 科	入室患者数	10	11	15	9	6	9	7	5	6	4	11	6	99
	延 患 者 数	68	98	71	86	46	32	56	27	43	22	54	54	657
循 環 器 内 科	入室患者数	24	16	11	12	15	18	18	21	18	24	11	12	200
	延 患 者 数	75	36	75	34	57	51	47	74	35	80	57	52	673
脳 神 経 外 科	入室患者数	5	3	6	7	9	5	6	5	6	4	4	8	68
	延 患 者 数	16	12	30	18	36	10	13	22	51	9	23	53	293
呼 吸 器 外 科	入室患者数	2	1	5	7	7	1	3	3	1	3	3	5	41
	延 患 者 数	9	1	5	6	6	1	7	3	1	3	15	9	66
呼 吸 器 内 科	入室患者数	2	1	0	1	1	0	0	1	1	2	1	0	10
	延 患 者 数	16	6	0	6	4	5	0	6	2	26	0	0	71
腎 臓 代 謝 内 科	入室患者数	2	0	1	5	0	1	0	4	4	5	1	2	25
	延 患 者 数	3	0	8	27	0	1	0	20	4	16	3	2	84
整 形 外 科	入室患者数	1	4	5	3	2	1	1	2	0	1	2	3	25
	延 患 者 数	0	4	10	3	2	0	1	2	0	1	3	29	55
外 科	入室患者数	14	12	5	7	10	15	8	13	15	8	9	7	123
	延 患 者 数	32	36	18	14	12	30	13	19	65	9	17	13	278
消 化 器 内 科	入室患者数	1	2	0	3	2	0	1	0	0	0	2	1	12
	延 患 者 数	1	4	0	6	3	0	3	0	0	0	3	0	20
泌 尿 器 科	入室患者数	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	2	6
	延 患 者 数	0	0	1	1	0	0	0	0	0	3	0	2	7
神 経 内 科	入室患者数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	延 患 者 数	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	8
リウマチ内科	入室患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	延 患 者 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	23	0	30
予 定 術 後		21	31	27	36	32	39	23	31	27	25	23	24	339
緊 急 手 術		13	4	3	1	3	3	3	3	10	3	8	5	59
入 院		24	14	15	11	13	8	17	15	12	18	14	10	171
転 入		36	37	35	44	37	42	26	38	39	35	30	34	433
緊 急 入 室		11	6	8	8	3	3	3	7	12	10	7	10	88
心 カ テ 総 数		19	14	7	11	10	16	17	18	19	16	9	10	166
緊 急 カ テ 数		9	3	2	4	2	3	7	7	6	4	4	4	55
予 定 カ テ 数		10	11	5	7	8	13	10	12	13	12	5	6	112
必要度（Ⅰ→Ⅱ）の割合：9月～Ⅱ		90.4%	82.8%	89.5%	73.0%	71.7%	62.5%	78.0%	72.8%	85.6%	83.0%	89.5%	84.6%	80.3%
加 算 対 象 者 数	総 数	208	172	178	159	127	134	136	151	157	152	144	132	1850
	7 日 以 内	144	131	143	127	106	116	107	122	101	123	111	0	1331
	8 ～ 14 日	64	41	39	33	22	18	29	29	56	29	33	0	393
早期リハビリ算定者数		50	37	38	47	45	0	0	0	0	0	0	0	217
早期リハビリ算定者延数		159	140	141	132	98	113	93	137	141	132	130	0	1416
重症受け入れ困難	日 数	2	2	0	0	0	0	2	0	3	0	7	1	17
	総 時 間	31	47	0	0	0	0	21	0	44	0	71	4	218

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度総数
予 定 術 後 入 室	23	31	27	36	32	39	23	31	27	25	23	24	341
心 外 科	4	4	9	8	4	8	2	3	5	4	7	4	62
脳 外 科	2	4	4	5	5	4	3	1	1	2	0	1	32
循 環 器 内 科	8	9	3	6	7	12	9	12	11	9	5	6	97
呼 吸 器 外 科	2	1	4	7	6	1	2	3	1	3	2	4	36
整 形 外 科	1	3	1	3	2	1	0	2	0	1	2	2	18
外 科	6	10	6	6	8	13	7	10	9	4	7	5	91
泌 尿 科	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	2	5
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緊 急 入 室	10	6	7	8	3	4	3	7	12	10	7	10	87
心 外 科	1	0	2	1	0	1	0	0	1	0	1	3	10
脳 外 科	0	0	0	0	1	0	0	2	3	0	2	1	9
循 環 器 内 科	3	3	3	2	1	1	2	2	2	5	2	2	28
腎 臓 代 謝 内 科	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3
外 科	5	1	0	0	1	1	0	2	4	3	1	0	18
呼 吸 器 内 科	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	4
そ の 他	1	2	1	3	0	1	1	0	0	1	1	4	15
入 院	24	14	15	11	13	8	18	15	12	18	14	10	172
心 外 科	5	7	3	0	1	0	3	2	1	0	3	0	25
脳 外 科	3	1	2	2	4	1	2	2	2	2	2	5	28
循 環 器 内 科	11	3	6	4	6	5	9	6	5	10	4	4	73
腎 臓 代 謝 内 科	1	0	0	4	0	1	0	4	3	4	1	1	19
呼 吸 器 内 科	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	5
外 科	2	1	0	1	1	1	2	1	1	1	1	0	12
そ の 他	0	1	4	0	1	0	2	0	0	0	2	0	10
緊 急 手 術 件 数	13	4	4	2	4	4	5	2	10	3	8	5	64
心 外 科	4	2	2	0	0	1	3	0	2	0	4	2	20
脳 外 科	3	1	1	0	2	0	0	0	2	0	2	3	14
外 科	5	1	0	2	2	2	2	2	5	3	2	0	26
整 形 外 科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
そ の 他	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3
特 殊 治 療													
C H D F	9	2	5	4	1	0	1	2	5	7	1	3	40
CHDF 延 日 数	45	19	38	34	10	4	3	8	27	43	53	8	292
I H D F	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	4
IHDF 延 日 数	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	4
H D	13	0	10	17	9	3	0	6	9	10	5	3	85
H D 延 日 数	13	0	10	17	9	3	0	6	10	10	5	3	86
血 漿 交 換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	6
血漿交換延日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	6
P M X	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	3
PMX 延 日 数	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	2	0	6
I A B P	1	0	2	1	2	1	3	3	1	4	1	1	20
IABP 延 日 数	3	0	3	3	8	1	8	4	4	15	6	4	59
P C P S	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	3
PCPS 延 日 数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	6	0	4	11
体外式ペースメーカ	3	1	6	6	1	1	3	2	2	4	2	5	36
体外式ペースメーカ延日数	9	2	12	33	4	2	3	9	8	17	3	7	109
低 体 温 療 法	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
低体温療法延日数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
人 工 呼 吸 器	9	6	11	6	8	4	8	6	8	4	14	11	95
人工呼吸器延日数	20	29	69	33	64	13	27	32	40	15	64	100	506
N P P V	9	5	5	9	10	11	10	13	13	18	8	7	118
NPPV 延 日 数	50	24	17	30	9	13	11	20	44	35	11	6	270
N H F	10	0	7	2	2	2	4	4	3	1	3	6	44
NHF 延 日 数	48	21	13	17	1	4	7	15	14	4	7	15	166
N O 療 法	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	5
NO療法延日数	5	0	2	23	10	4	6	0	0	0	5	0	55

* 8月、10月と COVID 陽性患者受け入れ計 13 日間

* 1月は 12 日間、COVID 病棟応援のため 6 床運用あり

3. 手術室業務状況

(1) 各科別手術実施件数（中央手術室実施分）

（単位：上段 件）
下段 %）

		外科		眼科		形成外科		呼吸器外科		産婦人科		歯科口腔外科		耳鼻咽喉科		心臓血管外科		整形外科		脳神経外科		泌尿器科		総数	
		2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022
4月	件数	36	43	67	71	6	4	8	9	0	0	26	22	10	10	31	26	76	64	7	8	3	7	270	264
	前年比	119%		106%		67%		113%		0%		85%		100%		84%		84%		114%		233%		98%	
5月	件数	32	36	64	98	6	3	8	5	0	0	21	18	5	8	16	18	61	68	9	7	4	14	226	275
	前年比	113%		153%		50%		63%		0%		86%		160%		113%		111%		78%		350%		122%	
6月	件数	38	42	90	110	2	7	9	11	0	1	17	26	13	7	25	25	62	76	11	15	8	14	275	334
	前年比	111%		122%		350%		122%		0%		153%		54%		100%		123%		136%		175%		121%	
7月	件数	35	41	80	122	1	6	12	12	0	0	23	26	14	10	22	16	66	74	10	8	1	14	264	329
	前年比	117%		112%		144%		100%		0%		103%		130%		148%		95%		80%		121%		107%	
8月	件数	39	42	96	74	1	8	10	11	0	0	28	23	13	8	21	20	68	74	11	10	11	18	298	288
	前年比	108%		77%		800%		110%		0%		82%		62%		95%		109%		91%		164%		97%	
9月	件数	41	38	82	116	3	9	12	8	0	0	24	25	8	11	19	25	68	82	8	6	12	13	277	333
	前年比	93%		141%		300%		67%		0%		104%		138%		132%		121%		75%		108%		120%	
10月	件数	35	42	94	106	5	8	11	12	0	0	26	24	6	10	23	23	86	91	9	4	7	13	302	333
	前年比	120%		113%		160%		109%		0%		92%		167%		100%		106%		44%		186%		110%	
11月	件数	39	35	83	104	5	11	13	11	0	0	20	19	10	5	20	19	92	95	13	7	14	15	309	321
	前年比	90%		125%		220%		85%		0%		95%		50%		95%		103%		54%		107%		104%	
12月	件数	31	34	77	105	3	6	12	6	0	0	22	19	7	10	19	14	81	69	12	10	11	12	275	285
	前年比	110%		136%		200%		50%		0%		86%		143%		74%		85%		83%		109%		104%	
1月	件数	35	38	111	131	3	4	11	12	0	0	21	16	15	11	14	13	86	85	12	6	9	10	317	326
	前年比	109%		118%		133%		109%		0%		76%		73%		93%		99%		50%		111%		103%	
2月	件数	37	39	62	117	3	5	7	11	0	0	19	16	12	8	24	19	76	83	8	8	6	16	254	322
	前年比	105%		189%		167%		157%		0%		84%		67%		79%		109%		100%		267%		127%	
3月	件数	32	32	104	112	2	12	12	10	0	1	23	30	12	8	24	14	73	82	12	13	10	17	304	331
	前年比	100%		108%		600%		83%		0%		130%		67%		58%		112%		108%		170%		109%	
合計	件数	430	462	1,010	1,266	40	83	125	118	0	2	270	264	125	106	258	232	895	943	122	102	96	163	3,371	3,741
	前年比	107%		125%		208%		94%		0%		98%		85%		90%		105%		84%		170%		111%	

(2) 外来手術件数（入院中外来は含まない）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外科	11	10	15	16	17	9	11	14	9	13	12	13	150
整形外科	25	25	30	21	20	38	24	31	25	31	19	29	318
産婦人科	5	2	2	4	4	3	4	2	1	3	5	2	37
耳鼻咽喉科	6	8	7	4	8	7	6	3	8	4	5	2	68
泌尿器科	4	8	6	6	5	3	6	7	5	6	4	1	61
眼科	14	22	19	15	30	21	16	18	18	15	20	25	233
脳神経外科	9	8	6	12	4	12	8	12	14	13	10	14	122
歯科口腔外科	69	58	96	68	71	66	67	60	55	84	77	65	836
呼吸器外科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
形成外科	9	12	14	10	16	19	27	16	15	9	13	20	180
心臓血管外科	0	0	1	0	3	1	3	1	0	0	0	5	14
皮膚科	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	48	62	54	45	50	53	71	50	52	34	51	56	626
計	200	216	250	201	228	232	243	215	202	212	216	232	2,647

(3) その他内訳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
神経内科	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	4
循環器内科	1	1	0	0	2	1	2	1	1	0	0	1	10
消化器内科	47	60	53	45	48	52	69	49	50	33	50	55	611
計	48	62	54	45	50	53	71	50	52	34	51	56	626

4. ヘルスケア研究センター利用状況

1. 稼動日数 半日コース（健診・日帰りドック） 242 日
 宿泊ドック 188 日

2. 受診者数

(1) 月別（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般健診（協会）	118	163	228	216	199	223	186	146	96	102	84	45	1,806
一般健診	4	18	15	28	11	42	25	41	38	17	11	5	255
子宮がん健診（協会）	4	6	9	4	2	4	0	0	0	0	1	1	31
日帰りドック	76	70	127	149	169	139	136	144	135	129	148	132	1,554
1泊ドック	0	1	3	0	3	0	2	3	4	1	0	1	18
脳ドック	0	0	2	1	0	1	4	2	0	0	1	1	12
1泊＋脳ドック	1	1	3	5	4	6	4	4	1	1	6	3	39
石綿・じん肺	11	0	10	0	8	3	9	1	10	0	8	0	60
航空身体検査	0	0	0	0	2	0	1	0	0	1	2	1	7
企業健診	28	37	26	53	39	51	51	15	24	34	56	73	487
市町健診	子宮がん検診	10	12	22	27	19	23	25	29	6	13	14	206
	乳がん検診	29	26	51	58	33	27	49	55	25	13	16	405
	骨粗しょう症検診			23	33	24	9	11	5	5			110
	胃がん検診			41	26	15	20	18	12	16	7	11	167
	肺がん検診	2	0	18	14	9	8	8	7	9	2	9	88
	大腸がん検診	6	2	37	34	11	20	26	22	19	8	19	217
	肝炎ウイルス検診	0	0	5	16	3	5	10	10	11	3	7	82
	生活習慣病健診			2	5	0	4	6	1	1	1	2	22
	特定健診			33	26	19	26	17	28	21	11	31	212
	後期高齢者健診			2	4	1	3	3	8	2	0	2	25
	治療中患者			7	2	2	4	2	2	1	1	0	21
特定保健指導	5	5	4	4	4	10	5	9	3	6	4	9	68
0次健診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51	38	89
その他の健診	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
合計	294	341	668	705	577	628	599	544	427	350	483	366	5,982

3. 二次検査受診状況（当院での二次検査）

(1) ドック・一般健診の二次健診対象者 2,373 人／受診者 3,782 人

(2) 受診科別人数

受診科		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5.1月	2月	3月	合計
外 科	二次健診対象者数	1	1	12	9	8	4	9	5	6	0	0	4	59
	内 受診者数	1	1	6	7	3	3	4	4	4	0	0	3	36
	受診率	100%	100%	50%	78%	38%	75%	44%	80%	67%	0%	0%	75%	61%
耳 鼻 咽 喉 科	二次健診対象者数	21	11	44	42	35	35	53	43	30	30	29	26	399
	内 受診者数	1	1	4	2	3	1	1	3	0	4	1	0	21
	受診率	5%	9%	9%	5%	9%	3%	2%	7%	0%	13%	3%	0%	5%
産 婦 人 科	二次健診対象者数	2	4	5	9	3	9	9	3	6	2	2	3	57
	内 受診者数	2	3	3	4	0	4	4	1	2	1	0	1	25
	受診率	100%	75%	60%	44%	0%	44%	44%	33%	33%	50%	0%	33%	44%
眼 科	二次健診対象者数	31	79	114	89	80	87	86	59	60	57	48	56	846
	内 受診者数	1	2	3	2	5	4	2	0	3	0	2	1	25
	受診率	3%	3%	3%	2%	6%	5%	2%	0%	5%	0%	4%	2%	3%
泌 尿 器 科	二次健診対象者数	28	27	27	30	39	42	19	29	25	25	20	13	324
	内 受診者数	3	3	2	4	5	1	2	2	2	1	0	0	25
	受診率	11%	11%	7%	13%	13%	2%	11%	7%	8%	4%	0%	0%	8%
脳 神 経 外 科	二次健診対象者数	1	1	1	5	1	4	1	1	0	2	0	0	17
	内 受診者数	1	0	0	3	0	2	1	0	0	1	0	0	8
	受診率	100%	0%	0%	60%	0%	50%	100%	0%	0%	50%	0%	0%	47%
呼 吸 器 科	二次健診対象者数	8	4	13	16	15	16	20	17	26	31	21	21	208
	内 受診者数	2	1	6	6	1	3	1	4	9	5	1	5	44
	受診率	25%	25%	46%	38%	7%	19%	5%	24%	35%	16%	5%	24%	21%
循 環 器 科	二次健診対象者数	14	14	31	25	27	32	34	32	24	17	21	17	288
	内 受診者数	1	4	6	3	4	5	3	6	2	1	3	4	42
	受診率	7%	29%	19%	12%	15%	16%	9%	19%	8%	6%	14%	24%	15%
消 化 器 科	胃	二次健診対象者数	10	29	37	19	18	29	33	38	31	32	24	337
		内 受診者数	2	10	7	6	12	8	3	8	7	4	2	77
		受診率	20%	34%	19%	32%	67%	28%	9%	21%	23%	13%	8%	23%
	大 腸	二次健診対象者数	13	15	17	1	4	21	20	14	26	14	13	166
		内 受診者数	7	4	4	1	3	4	5	4	6	4	2	46
		受診率	54%	27%	24%	100%	75%	19%	25%	29%	23%	29%	15%	28%
	そ の 他	二次健診対象者数	20	27	36	57	74	45	58	48	40	28	41	508
		内 受診者数	1	6	11	13	4	7	2	4	5	3	1	63
		受診率	5%	22%	31%	23%	5%	16%	3%	8%	13%	11%	2%	12%
腎 臓 内 科	二次健診対象者数	1	5	3	0	5	3	3	0	3	0	0	1	24
	内 受診者数	0	2	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	6
	受診率	0%	40%	33%	0%	0%	33%	0%	0%	33%	0%	0%	100%	25%
代 謝 内 科	二次健診対象者数	20	25	31	36	21	36	36	34	21	31	28	30	349
	内 受診者数	0	1	3	0	0	3	0	0	1	0	0	1	9
	受診率	0%	4%	10%	0%	0%	8%	0%	0%	5%	0%	0%	3%	3%
血 液 内 科	二次健診対象者数	8	20	24	35	23	20	32	24	16	20	12	15	249
	内 受診者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	受診率	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
整 形 外 科	二次健診対象者数	1	2	1	7	9	8	5	6	6	2	5	0	52
	内 受診者数	0	0	0	2	1	1	0	0	1	0	0	0	5
	受診率	0%	0%	0%	29%	11%	13%	0%	0%	17%	0%	0%	0%	10%
リウマチ科	二次健診対象者数	1	0	1	3	1	0	3	0	0	0	0	0	9
	内 受診者数	1	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	5
	受診率	100%	0%	100%	33%	100%	0%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	56%

4. 市町村健診（検診）受診者数

乳がん検診

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5.1月	2月	3月	合計
受診者数	29	26	51	58	33	27	49	55	25	13	16	23	405
結果	異常なし	28	23	44	49	27	27	46	52	22	13	17	361
	要精密検査	1	3	7	9	6	0	3	3	3	0	6	44
要精検率	3.4%	11.5%	13.7%	15.5%	18.2%	0%	6.1%	5.5%	12.0%	0%	18.8%	26.1%	10.9%
精密検査受診者率	1	3	7	8	6	0	3	3	3	0	2	4	40
受診率	100%	100%	100%	89%	100%	0%	100%	100%	100%	0%	67%	67%	91%

子宮頸がん検診

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5.1月	2月	3月	合計
受診者数	10	12	22	27	19	23	25	29	6	13	14	6	206
結果	異常なし	10	12	22	19	22	25	28	6	13	14	6	203
	要精密検査	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	3
要精検率	0%	0%	0%	3.7%	0%	4.3%	0%	3.4%	0%	0%	0%	0%	1.5%
精密検査受診者率	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	3
受診率	0%	0%	0%	100%	0%	100%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%

大腸がん検診

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5.1月	2月	3月	合計
受診者数	6	2	37	34	11	20	26	22	19	8	19	13	217
結果	異常なし	6	2	35	33	8	20	26	21	8	18	13	209
	要精密検査	0	0	2	1	3	0	0	2	0	1	0	9
要精検率	0%	0%	5.4%	2.9%	27.3%	0%	0%	9.1%	0%	0%	5.3%	0%	4.1%
精密検査受診者率	0	0	2	1	2	0	0	2	0	0	0	0	7
受診率	0%	0%	100%	100%	67%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	78%

肺がん検診

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5.1月	2月	3月	合計
受診者数	2	0	18	14	9	8	8	7	9	2	9	2	88
結果	異常なし	2	0	18	14	9	8	8	7	1	9	2	87
	要精密検査	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
要精検率	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	50.0%	0%	0%	1.1%
精密検査受診者率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
受診率	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	100%

胃がん検診

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5.1月	2月	3月	合計
受診者数	0	0	41	26	15	20	18	12	16	7	11	1	167
結果	異常なし	0	0	28	20	15	18	9	16	7	10	0	140
	要精密検査	0	0	13	6	0	2	1	3	0	1	1	27
要精検率	0%	0%	31.7%	23.1%	0%	10.0%	5.6%	25.0%	0%	0%	9.1%	100.0%	16.2%
精密検査受診者率	0	0	9	6	0	2	1	3	0	0	1	1	23
受診率	0%	0%	69%	100%	0%	100%	100%	100%	0%	0%	100%	100%	85%

5. 中央材料室業務状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
滅菌回数	蒸気滅菌（回）	167	162	195	182	178	159	174	180	153	159	159	183	2,051
	手術器械（台）	113	102	126	115	108	103	118	119	91	107	107	116	1,325
	カート（台）	40	40	45	41	46	40	43	40	38	40	37	45	495
	プリオン対策（台）	16	20	24	26	23	16	13	21	23	12	15	22	231
	ガス滅菌（回）	28	30	32	23	22	23	23	25	21	22	22	35	306
	中央手術室（回）	15.5	12.7	15.6	13.9	17.6	18.3	18.5	19.1	14.9	17.4	17.2	21.6	202.3
	中央材料室（回）	12.5	17.3	16.4	9.1	4.4	4.8	4.5	5.9	6.7	4.6	4.8	4.4	95.4
	プラズマ滅菌（回）	33	30	42	53	56	57	55	74	49	47	65	65	626
	減圧沸騰式洗浄器（回）	34	27	33	28	24	23	35	26	27	23	23	35	338
滅菌物	手術関係													
	手術器械セット（組）	804	800	898	950	867	817	961	905	722	868	948	1,006	10,546
	単品器材（組）	2,438	2,578	2,853	2,967	2,604	2,884	3,074	3,087	2,891	2,819	3,146	3,218	34,559
	ガス滅菌物（組）	339	308	527	427	363	454	352	418	360	422	383	512	4,865
	プラズマ滅菌物（組）	224	209	324	298	287	260	321	286	229	260	285	329	3,312
	外来													
	ガス滅菌物（個）	103	160	165	124	87	101	130	108	143	116	111	122	1,470
	減圧沸騰式洗浄器（個）	1,843	1,687	1,964	2,140	1,999	1,932	1,867	1,832	1,819	1,724	1,791	2,013	22,611
	病棟													
	ガス滅菌物（個）	4	8	6	6	3	2	12	16	5	5	2	10	79
	減圧沸騰式洗浄器（個）	283	181	251	226	193	170	250	181	197	146	222	193	2,493
	合計													
	ガス滅菌物（個）	107	168	171	130	90	103	142	124	148	121	113	132	1,549
	減圧沸騰式洗浄器（個）	2,126	1,868	2,215	2,366	2,192	2,102	2,117	2,013	2,016	1,870	2,013	2,206	25,104
手術	予定・緊急手術													
	外科（件）	41	36	41	41	42	38	42	35	33	37	38	32	456
	整形外科（件）	66	68	76	74	74	82	91	93	61	86	83	81	935
	脳神経外科（件）	8	7	15	8	9	6	4	7	10	5	7	12	98
	呼吸器外科（件）	9	5	11	12	11	7	12	11	5	11	11	10	115
	心臓血管外科（件）	26	17	26	16	21	25	22	19	13	12	19	13	229
	産婦人科（件）	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	泌尿器科（件）	7	14	14	14	18	13	13	15	12	10	16	16	162
	眼科（件）	72	98	110	122	75	114	107	106	105	132	117	112	1,270
	耳鼻咽喉科（件）	10	8	7	10	8	10	10	5	10	10	8	8	104
	歯科口腔外科（件）	22	18	26	26	23	25	24	17	19	16	16	30	262
	形成外科（件）	4	3	7	6	8	9	8	11	6	4	5	11	82
	麻酔科（件）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	手術件数	265	274	334	329	289	329	333	319	274	323	320	326	3,715
	眼科手術を除く件数	193	176	224	207	214	215	226	213	169	191	203	214	2,445
	口外手術を除く件数	243	256	308	303	266	304	309	302	255	307	304	296	3,453
	手術変更（件）	38	34	38	33	38	38	50	38	39	47	39	39	471
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
カートセット台数（台）		40	41	45	41	44	40	42	40	38	40	40	45	496
洗浄業務	手術器械洗浄（件）	263	256	315	301	269	302	297	299	245	290	306	309	3,452
	病棟カート回収器材洗浄数（個）	943	980	1,023	989	864	1,098	867	1,056	868	917	1,281	1,254	12,140
	外来カート回収器材洗浄数（個）	6,839	7,324	8,225	7,741	8,238	7,722	7,460	7,929	6,734	7,017	6,752	7,547	89,528
	手術器械（回）	177.5	152	184	170.5	160.5	139	175	170.5	138.5	158	164	176.5	1,965
	病棟カート回収器材（回）	9.5	6.5	7.5	8.5	7	7	7.5	9.5	7	7.5	7	11	95.5
	外来カート回収器材（回）	29.5	28.5	34	29	31.5	28.5	28	28	25.5	29	26	29	346.5
	超音波洗浄（回）	179	166	224	206	161	151	188	168	136	165	179	192	2,115
	減圧沸騰式洗浄器	34	27	33	28	24	23	35	26	27	23	23	35	338
	手術室洗浄器・回数（回）	14	11	12	22	15	15	17	10	11	13	13	15	168

6. 薬剤科業務状況

(1) 薬剤管理指導料

診療科	管理指導 1 (380 点)		管理指導 2 (325 点)		合計 (指導 1+2)		退院時 (90 点)		麻薬加算 (50 点)		総合計 点数
	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	
内 科	0	0	8	2,600	8	2,600	0	0	0	0	2,600
小 児 科	0	0	1	325	1	325	0	0	0	0	325
外 科	111	42,180	659	214,175	770	256,355	192	17,280	20	1,000	274,635
耳 鼻 咽 喉 科	35	13,300	145	47,125	180	60,425	54	4,860	2	100	65,385
産 婦 人 科	0	0	2	650	2	650	1	90	0	0	740
眼 科	3	1,140	594	193,050	597	194,190	470	42,300	0	0	236,490
整 形 外 科	133	50,540	1,697	551,525	1,830	602,065	429	38,610	65	3,250	643,925
泌 尿 器 科	38	14,440	194	63,050	232	77,490	83	7,470	4	200	85,160
皮 膚 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳 神 経 外 科	214	81,320	308	100,100	522	181,420	106	9,540	1	50	191,010
歯 科 口 腔 外 科	2	760	184	59,800	186	60,560	16	1,440	0	0	62,000
神 経 内 科	80	30,400	90	29,250	170	59,650	29	2,610	0	0	62,260
心 臓 血 管 外 科	74	28,120	230	74,750	304	102,870	129	11,610	1	50	114,530
形 成 外 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
循 環 器 内 科	672	255,360	807	262,275	1,479	517,635	485	43,650	0	0	561,285
消 化 器 内 科	191	72,580	1,197	389,025	1,388	461,605	343	30,870	78	3,900	496,375
呼 吸 器 内 科	277	105,260	386	125,450	663	230,710	146	13,140	43	2,150	246,000
呼 吸 器 外 科	101	38,380	250	81,250	351	119,630	105	9,450	9	450	129,530
腎 臓 代 謝 内 科	224	85,120	276	89,700	500	174,820	159	14,310	3	150	189,280
血 液 内 科	117	44,460	117	38,025	234	82,485	60	5,400	19	950	88,835
膠原病・リウマチ	116	44,080	49	15,925	165	60,005	38	3,420	3	150	63,575
合 計	2,388	907,440	7,194	2,338,050	9,582	3,245,490	2,845	256,050	248	12,400	3,513,940

算定内容（算定点数）	件数	点数
がん患者指導管理料ハ（200 点）	46	9,200

7. 栄養科業務状況

(1) 給食業務状況（本館と別館）

分類	食種名 / 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間食数
一般食	普 通 食	5,636	4,900	4,834	6,452	6,645	5,376	5,451	5,162	5,053	5,919	6,694	6,529	68,651
	産 後 食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	軟 菜 食	2,960	3,091	3,079	3,552	3,631	2,201	3,401	3,482	3,424	3,171	2,434	2,683	37,109
	極 軟 菜 食	1,109	1,121	1,159	1,167	1,565	1,119	1,306	1,207	1,302	1,663	1,361	1,197	15,276
	五 分 食	365	287	193	323	229	193	421	298	399	314	312	283	3,617
	三分食・流動食	169	112	157	133	105	89	72	121	114	84	67	16	1,239
	離 乳 食	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	14
	嚥 下 食	2,615	3,406	2,641	3,263	4,191	3,803	3,695	3,872	3,275	4,738	4,566	4,482	44,547
	食不振対応食 (ハーフ食・口内炎食)	1,080	1,064	1,295	1,761	1,981	1,297	1,213	1,334	1,253	1,262	1,269	1,307	16,116
	つ わ り 食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	遅 延 食	3	0	1	0	1	0	0	0	0	5	2	2	14
	濃厚流動食	939	1,261	1,375	1,215	1,083	1,336	1,405	1,610	2,373	2,066	1,748	1,910	18,321
	小 計（一般食）	14,876	15,242	14,734	17,866	19,445	15,414	16,964	17,086	17,193	19,222	18,453	18,409	204,904
特別治療食	非加算食													
	高 血 圧 食	464	694	930	594	624	834	413	253	347	323	354	313	6,143
	肥 満 食	0	43	5	148	39	20	0	45	4	0	0	100	404
	そ の 他	95	104	65	207	14	32	30	34	7	125	55	58	826
	小 計（非加算食）	559	841	1,000	949	677	886	443	332	358	448	409	471	7,373
	加算食													
	腎 臓 食	1,316	1,654	2,006	1,741	1,198	1,195	965	1,376	1,257	772	847	1,145	15,472
	心 臓 食	2,866	2,576	2,740	3,038	2,197	2,225	2,096	2,341	2,548	2,958	2,459	2,491	30,535
	嚥下食（塩制・En 制）	802	1,139	621	640	485	744	601	783	751	1,024	1,003	1,412	10,005
	ハーフ食（塩制・En 制）	298	275	596	707	389	658	734	618	835	663	706	727	7,206
	糖 尿 食	1,133	1,232	1,550	1,467	1,607	1,646	1,715	1,238	1,054	1,069	1,362	1,490	16,563
	高 脂 血 症 食	18	66	11	0	0	26	0	0	47	93	84	2	347
	肥 満 食	90	93	109	136	34	2	60	0	0	0	0	0	524
	妊 娠 高 血 圧 食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	肝 臓 食	224	52	159	133	179	123	89	148	303	93	76	163	1,742
	脾 臓 食	364	554	416	419	218	341	385	267	433	511	256	222	4,386
	潰 瘍 食	112	147	213	276	279	640	501	472	646	229	359	599	4,473
	マ ー ゲ ン 食	53	73	125	158	235	99	111	122	84	78	179	50	1,367
	潰瘍性大腸炎・クローン食	0	2	18	35	13	59	11	0	0	0	0	8	146
	貧 血 食	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46	52
	塩分制限遅延食	13	5	14	32	11	9	6	19	11	40	26	19	205
	小 計（加算食）	7,295	7,868	8,578	8,782	6,845	7,767	7,274	7,384	7,969	7,530	7,357	8,374	93,023
患 者 給 食 数 計		22,730	23,951	24,312	27,597	26,967	24,067	24,681	24,802	25,520	27,200	26,219	27,254	305,300
特別治療食（加算）割合		32.1%	32.9%	35.3%	31.8%	25.4%	32.3%	29.5%	29.8%	31.2%	27.7%	28.1%	30.7%	30.5%
患者外給食（産後ケア食）計		0	12	0	18	7	8	20	26	14	17	24	23	169

(2) 栄養指導件数 ※令和4年度はコロナ禍で集団指導実施せず

指導内容			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
集団指導	算定可	糖尿病教室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		体験型集団教室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	小	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
個人指導	算定可	腎臓病	塩分6 g未満	15	25	16	24	27	13	19	16	23	16	21	17	232
		心臓疾患	塩分6 g未満	25	14	26	33	50	56	74	64	68	54	48	56	568
		高血圧	塩分6 g未満	5	5	6	5	2	8	10	5	2	4	6	3	61
		妊娠高血圧症候群	塩分7～8 g未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		肝臓病		0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3
		糖尿病		38	34	31	31	19	22	16	14	19	11	22	27	284
		肥満症	BMI 30以上 or 肥満度 40以上	2	3	3	2	2	4	3	3	2	4	2	3	33
		脂質異常症	LDL140mg/dl以上 or TG150mg/dl以上 or HDL40mg/dl未満	1	1	6	1	2	1	1	1	2	2	1	1	20
		胃潰瘍・十二指腸潰瘍		4	11	12	11	7	7	5	8	7	5	8	6	91
		鉄欠乏性貧血	Hb10g/dl以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		脾臓疾患		0	1	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	4
		高尿酸血症		0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0	4
		潰瘍性大腸炎・クローン氏病		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		小児アレルギー・先天性代謝異常症		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		嚥下困難		0	3	2	1	2	3	0	4	0	1	2	1	19
		癌		25	30	33	28	30	39	35	26	34	33	33	34	380
		低栄養	Alb3.0mg/dl以下 or 医師から栄養改善が必要であると認められた者	1	0	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	5
	小	計	116	128	137	139	143	153	164	142	160	130	145	148	1,705	
	不算定	病名不適合	4	3	4	3	6	7	1	5	7	4	2	1	47	
		他条件不適合	対象外病棟、時間不足など	5	9	13	11	10	15	7	9	14	20	8	9	130
	小	計	9	12	17	14	16	22	8	14	21	24	10	10	177	
総合計			125	140	154	153	159	175	172	156	181	154	155	158	1,882	

入院患者への栄養介入件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
特別な栄養管理の必要性：有の患者介入件数	392	364	481	491	521	460	472	612	700	614	635	793	6,535
上記以外の病棟訪問件数	33	18	20	19	23	15	18	20	13	14	19	28	240
合 計	425	382	501	510	544	475	490	632	713	628	654	821	6,775

糖尿病透析予防指導件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
糖尿病透析予防指導件数	4	8	9	8	8	12	9	7	12	7	5	11	100

特定保健指導件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
積極的支援・動機づけ支援・情報提供件数	23	24	39	38	37	39	44	27	24	22	32	21	370

(3) NST 病棟回診件数（延べ数）

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	%	月平均
リウマチ膠原病科	0	0	2	4	5	3	1	0	0	0	0	0	15	3.2	1.3
腎臓代謝内科	16	10	15	11	7	10	7	7	7	12	15	11	128	27.4	10.7
呼吸器内科	3	0	0	1	1	0	0	0	0	2	0	2	9	1.9	0.8
呼吸器外科	1	0	1	0	0	3	2	0	0	0	3	1	11	2.4	0.9
消化器内科	7	7	16	10	12	1	2	9	6	12	12	9	103	22.0	8.6
循環器内科	10	3	10	3	5	5	6	7	0	0	3	5	57	12.2	4.8
外科	1	0	4	1	0	0	0	0	1	1	0	2	10	2.1	0.8
整形外科	2	0	0	0	0	2	5	4	1	0	2	3	19	4.1	1.6
脳神経外科	8	6	10	1	5	5	5	0	6	7	8	10	71	15.2	5.9
神経内科	0	0	0	0	0	0	5	4	3	2	0	0	14	3.0	1.2
心臓血管外科	1	2	5	6	6	0	0	0	0	2	3	5	30	6.4	2.5
泌尿器科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.2	0.1
回診件数	49	28	64	37	41	29	33	31	24	38	46	48	468		

8. 放射線技術科業務状況

(1) 検査別利用状況

(単位：人)

一般撮影	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
頭部	12	14	20	10	13	11	13	13	9	9	10	15	149
頸部	1	0	1	1	1	1	0	0	0	2	0	0	7
胸部	2,012	2,019	2,139	2,076	2,119	1,940	2,010	2,017	2,024	1,974	1,826	2,129	24,285
腹部	215	204	224	232	209	207	222	210	162	205	186	167	2,443
胸郭・肩	97	118	83	96	102	108	104	98	79	91	96	103	1,175
骨盤	365	362	361	379	338	374	393	420	340	341	333	491	4,497
脊椎	480	435	481	444	429	415	440	418	421	378	378	474	5,193
上肢	188	204	222	229	191	208	195	163	163	145	191	210	2,309
下肢	442	453	549	563	467	550	552	507	454	435	456	553	5,981
乳房	77	66	88	74	113	73	89	100	93	56	58	68	955
パノラマ	78	70	100	75	90	80	74	59	60	91	107	114	998
合計	3,967	3,945	4,268	4,179	4,072	3,967	4,092	4,005	3,805	3,727	3,641	4,324	47,992
1日平均	198.4	207.6	194.0	209.0	203.6	198.4	204.6	200.3	190.3	196.2	191.6	196.5	196.7

病棟ポータブル	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
頭部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胸部	450	383	443	415	418	315	333	358	554	481	471	451	5,072
腹部	110	75	97	66	68	62	52	69	142	110	88	69	1,008
胸郭・肩	1	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	5
骨盤	1	0	4	0	1	0	0	2	3	4	3	2	20
脊椎	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
上肢	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
下肢	0	0	0	0	0	0	2	0	4	1	0	0	7
合計	562	458	548	481	489	378	387	429	703	597	562	522	6,116

OP室ポータブル	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
胸部	52	41	54	53	51	47	54	46	44	47	51	52	592
腹部	39	31	41	37	40	36	40	33	38	36	34	36	441
胸郭・肩	0	3	1	1	1	2	1	1	0	0	3	4	17
骨盤	23	13	20	25	20	20	28	25	19	23	23	22	261
脊椎・頭	8	12	11	13	13	10	12	9	13	7	10	13	131
上肢	6	7	4	9	7	7	7	16	8	17	14	9	111
下肢	16	26	19	26	18	18	31	24	15	22	24	24	263
合計	144	133	150	164	150	140	173	154	137	152	159	160	1,816

ポータブル合計	706	591	698	645	639	518	560	583	840	749	721	682	7,932
1日平均	35.3	31.1	31.7	32.3	32.0	25.9	28.0	29.2	42.0	39.4	37.9	31.0	32.5

造影撮影	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
泌尿器・婦人科系	10	11	11	6	7	5	10	9	6	8	8	6	97
その他造影撮影	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	10	11	11	6	7	5	10	9	6	8	8	6	97
1日平均	0.5	0.6	0.5	0.3	0.4	0.3	0.5	0.5	0.3	0.4	0.4	0.3	0.4

T V 室 検 査	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
食 道・ 胃	14	12	14	11	18	7	13	11	12	17	11	13	153
注 腸	3	2	0	2	5	0	2	5	0	0	1	1	21
気管支ファイバー	6	8	12	5	2	7	8	7	4	10	4	3	76
大腸ファイバー	2	1	0	2	0	1	2	0	1	2	0	0	11
その他透視・造影	59	43	53	41	40	40	42	39	46	27	32	39	501
合 計	84	66	79	61	65	55	67	62	63	56	48	56	762
1 日 平 均	4.2	3.5	3.6	3.1	3.3	2.8	3.4	3.1	3.2	2.9	2.5	2.5	3.1

内 視 鏡 T V	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
上 部	43	31	29	46	29	34	46	45	38	31	39	40	451
下 部	13	5	21	14	11	15	12	19	15	9	15	8	157
そ の 他	3	2	6	4	2	0	2	1	7	4	5	5	41
合 計	59	38	56	64	42	49	60	65	60	44	59	53	649
1 日 平 均	3.0	1.9	2.5	3.2	1.9	2.5	2.9	3.3	3.0	2.3	3.1	2.5	2.7
TV 合 計	143	104	135	125	107	104	127	127	123	100	107	109	1,411
1 日 平 均	7.2	5.5	6.1	6.3	5.4	5.2	6.4	6.4	6.2	5.3	5.6	5.0	5.8

血 管 造 影	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
心 カ テ	123	99	122	96	94	98	106	176	119	162	118	97	1,410
そ の 他	55	55	70	60	45	37	57	44	73	40	40	51	627
合 計	178	154	192	156	139	135	163	220	192	202	158	148	2,037
1 日 平 均	8.9	8.1	8.7	7.8	7.0	6.8	8.2	11.0	9.6	10.6	8.3	6.7	8.3

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
C T	1,767	1,797	1,918	1,922	1,782	1,761	1,759	1,757	1,930	1,748	1,685	1,956	21,782
1 日 平 均	88.4	94.6	87.2	96.1	89.1	88.1	88.0	87.9	96.5	92.0	88.7	88.9	89.3
M R	594	569	657	608	600	556	575	607	646	609	566	661	7,248
1 日 平 均	29.7	29.9	29.9	30.4	28.6	27.8	28.8	30.4	32.3	32.1	29.8	30.0	29.7
R I	43	51	50	52	45	48	34	46	44	58	55	42	568
1 日 平 均	2.2	2.7	2.3	2.6	2.3	2.4	1.7	2.3	2.2	3.1	2.9	1.9	2.3
D E X A	194	200	222	248	215	267	250	232	227	207	219	261	2,742
1 日 平 均	9.7	10.5	10.1	12.4	10.8	13.4	12.5	11.6	11.4	10.9	11.5	11.9	11.2
E S W L	0	1	1	1	2	0	1	2	0	0	0	0	8
1 日 平 均	0	0.1	0	0.1	0.1	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0.0
放射線治療	357	348	389	395	375	313	376	223	0	0	0	0	2,776
1 日 平 均	17.9	18.3	17.7	19.8	18.8	15.7	18.8	11.2	0	0	0	0	11.4

健 診	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
頭 部	1	1	5	6	4	7	8	6	1	1	7	4	51
頸 椎	1	1	5	6	4	7	8	6	1	1	7	4	51
胸 部	236	279	425	459	436	453	405	360	313	283	295	232	4,176
腹 部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
パ ノ ラ マ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
乳 房	60	83	138	136	130	141	136	125	91	61	54	42	1,197
胃 透 視	73	110	154	156	139	161	139	130	86	96	81	52	1,377
注 腸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨 塩 定 量	4	5	28	50	41	25	19	14	19	6	9	3	223
M R	16	20	29	42	57	21	36	36	30	20	23	11	341
C T	6	7	10	20	25	10	10	13	16	7	17	4	145
合 計	397	506	794	875	836	825	761	690	557	475	493	352	7,561

(2) 検査別前年比

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
単純撮影													
令和3年度	4,020	3,632	4,073	4,137	4,084	4,001	4,142	4,109	3,978	3,870	3,552	4,343	47,941
令和4年度	3,967	3,945	4,268	4,179	4,072	3,967	4,092	4,005	3,805	3,727	3,641	4,324	47,992
前年比 (%)	98.7	108.6	104.8	101.0	99.7	99.2	98.8	97.5	95.7	96.3	102.5	99.6	100.1
血管造影													
令和3年度	172	145	198	151	143	153	184	176	195	153	122	148	1,940
令和4年度	178	154	192	156	139	135	163	220	192	202	158	148	2,037
前年比 (%)	103.5	106.2	97.0	103.3	97.2	88.2	88.6	125.0	98.5	132.0	129.5	100.0	105.0
C T													
令和3年度	1,714	1,596	1,768	1,651	1,720	1,703	1,781	1,668	1,749	1,728	1,509	1,872	20,459
令和4年度	1,767	1,797	1,918	1,922	1,782	1,761	1,759	1,757	1,930	1,748	1,685	1,956	21,782
前年比 (%)	103.1	112.6	108.5	116.4	103.6	103.4	98.8	105.3	110.3	101.2	111.7	104.5	106.5
M R													
令和3年度	555	487	603	583	606	560	616	587	556	501	471	624	6,749
令和4年度	594	569	657	608	600	556	575	607	646	609	566	661	7,248
前年比 (%)	107.0	116.8	109.0	104.3	99.0	99.3	93.3	103.4	116.2	121.6	120.2	105.9	107.4
R I													
令和3年度	48	47	66	62	56	52	46	54	35	34	39	55	594
令和4年度	43	51	50	52	45	48	34	46	44	58	55	42	568
前年比 (%)	89.6	108.5	75.8	83.9	80.4	92.3	73.9	85.2	125.7	170.6	141.0	76.4	95.6
DEXA(骨塩定量)													
令和3年度	190	175	164	202	174	200	225	242	193	189	174	240	2,368
令和4年度	194	200	222	248	215	267	250	232	227	207	219	261	2,742
前年比 (%)	102.1	114.3	135.4	122.8	123.6	133.5	111.1	95.9	117.6	109.5	125.9	108.8	115.8
ESWL(体外衝撃波結石破碎)													
令和3年度	0	0	2	2	1	0	2	2	5	4	3	4	25
令和4年度	0	1	1	1	2	0	1	2	0	0	0	0	8
前年比 (%)	0	0	50.0	50.0	200.0	0	50.0	100.0	0	0	0	0	32.0
放射線治療													
令和3年度	325	251	384	466	424	242	397	361	246	304	349	397	4,146
令和4年度	357	348	389	395	375	313	376	223	0	0	0	0	2,776
前年比 (%)	109.8	138.6	101.3	84.8	88.4	129.3	94.7	61.8	0	0	0	0	67.0
ポータブル撮影													
令和3年度	619	541	624	501	665	624	499	523	586	697	646	656	7,181
令和4年度	706	591	698	645	639	518	560	583	840	749	721	682	7,932
前年比 (%)	114.1	109.2	111.9	128.7	96.1	83.0	112.2	111.5	143.3	107.5	111.6	104.0	110.5
外来患者数													
令和3年度	5,473	4,893	5,946	5,960	5,804	5,653	5,974	5,755	5,550	5,251	4,836	6,078	67,173
令和4年度	5,614	5,590	6,215	6,127	5,912	5,900	5,775	5,657	5,418	4,930	4,852	5,762	67,752
前年比 (%)	102.6	114.2	104.5	102.8	101.9	104.4	96.7	98.3	97.6	93.9	100.3	94.8	100.9
入院患者数													
令和3年度	1,671	1,575	1,717	1,564	1,760	1,684	1,566	1,619	1,575	1,796	1,700	1,741	19,968
令和4年度	1,663	1,609	1,759	1,797	1,665	1,375	1,647	1,637	1,753	1,779	1,720	1,706	20,110
前年比 (%)	99.5	102.2	102.4	114.9	94.6	81.7	105.2	101.1	111.3	99.1	101.2	98.0	100.7
外来入院合計患者数													
令和3年度	7,144	6,468	7,663	7,524	7,564	7,337	7,540	7,374	7,125	7,047	6,536	7,819	87,141
令和4年度	7,277	7,199	7,974	7,924	7,577	7,275	7,422	7,294	7,171	6,709	6,572	7,468	87,862
前年比 (%)	101.9	111.3	104.1	105.3	100.2	99.2	98.4	98.9	100.6	95.2	100.6	95.5	100.8
フィルム使用枚数													
令和3年度	53	43	27	47	42	28	73	48	47	50	31	47	536
令和4年度	31	34	43	53	50	48	28	41	29	44	24	48	473
前年比 (%)	58.5	79.1	159.3	112.8	119.0	171.4	38.4	85.4	61.7	88.0	77.4	102.1	88.2

(3) 各科別利用件数（外来）

（単位：件）

外 来	単 純 撮 影	造 影 撮 影	T V	内 視 鏡 T V	泌 尿 器・婦 人科系	E S W L	D E X A	C T	M R	血 管 造 影	R I	放 射 線 治 療	健 診 セ ン タ ー	病 棟 ポ ー タ ブル	O P 室 ポ ー タ ブル	合 計
内 科	1,395	0	1	21	0	0	0	3,031	316	8	0	0	0	10	0	4,782
小 児	42	0	1	0	0	0	0	2	13	0	0	0	0	0	0	58
外 科	2,459	0	29	0	0	0	297	1,603	213	13	48	0	405	0	14	5,081
耳 鼻	262	0	10	0	0	0	0	353	136	0	15	0	0	0	0	776
産 婦	2	0	0	0	1	0	14	86	79	0	0	0	0	0	0	182
眼 科	353	0	0	0	0	0	1	58	32	0	0	0	0	0	0	444
整 形	16,068	0	239	0	0	0	1,697	1,175	1,282	0	0	0	110	0	76	20,647
泌 尿	714	0	0	0	58	7	3	604	140	0	67	0	0	0	0	1,593
皮 膚	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5
脳 外	377	0	0	0	0	0	0	1,095	1,139	1	4	0	0	0	0	2,616
歯 科	898	0	2	0	0	0	0	234	15	0	0	0	0	0	0	1,149
神 内	85	0	0	0	0	0	4	491	474	0	91	0	0	0	0	1,145
心 外	1,050	0	1	0	0	0	0	1,075	59	0	0	0	0	0	0	2,185
形 成	60	0	0	0	0	0	0	32	18	0	2	0	0	0	0	112
呼 内	6,071	0	0	0	0	0	18	2,481	137	0	48	0	1	1	0	8,757
呼 外	1,991	0	0	0	0	0	1	824	164	0	52	0	0	0	0	3,032
循 内	5,422	0	10	0	0	0	2	1,067	104	16	100	0	0	2	0	6,723
消 内	617	0	19	100	0	0	9	2,036	685	0	15	0	0	0	0	3,481
麻 酔	7	0	8	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	18
健 診	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6,994	0	0	6,995
放 診	207	0	4	0	0	0	0	1,002	1,153	0	48	0	0	0	0	2,414
腎 内	594	0	0	0	0	0	119	556	294	3	14	0	0	2	0	1,582
血 内	60	0	0	0	0	0	0	225	9	0	0	0	0	0	0	294
リウマチ	891	0	0	0	0	0	126	230	43	0	1	0	0	0	0	1,291
放 治	64	0	0	0	0	0	0	227	47	0	2	2,225	0	0	0	2,565
救 急	57	0	1	0	0	0	0	30	1	0	0	0	0	0	0	89
透 内	216	0	0	0	0	0	209	129	13	2	0	0	0	1	0	570
合 計	39,966	0	325	122	59	7	2,500	18,649	6,567	43	507	2,225	7,510	16	90	78,586

(4) 各科別利用件数（入院）

（単位：件）

入 院	単 純 撮 影	造 影 撮 影	T V	内 視 鏡 T V	泌 尿 器・婦 人科系	E S W L	D E X A	C T	M R	血 管 造 影	R I	放 射 線 治 療	健 診 セ ン タ ー	病 棟 ポ ー タ ブル	O P 室 ポ ー タ ブル	合 計
内 科	40	0	2	15	1	0	0	22	5	32	0	0	0	41	2	160
小 児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外 科	1,143	0	53	14	1	0	1	244	13	15	1	0	0	955	726	3,166
耳 鼻	20	0	64	0	0	0	2	21	9	0	0	0	0	15	2	133
産 婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼 科	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
整 形	2,502	0	18	3	0	0	154	246	46	6	0	0	0	117	754	3,846
泌 尿	114	0	4	0	34	1	0	44	7	3	0	0	0	17	77	301
皮 膚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳 外	226	0	11	1	0	0	2	929	248	89	14	0	0	510	11	2,041
歯 科	116	0	10	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	132
神 内	28	0	3	0	0	0	3	25	36	2	1	0	0	28	0	126
心 外	346	0	3	0	0	0	0	184	12	32	0	0	0	834	100	1,511
形 成	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
呼 内	908	0	73	1	0	0	0	209	31	6	7	0	0	1,242	8	2,485
呼 外	847	0	12	0	0	0	0	77	4	1	0	0	0	499	109	1,549
循 内	728	0	2	1	0	0	1	189	33	1,662	27	0	0	1,192	2	3,837
消 内	442	0	155	490	2	0	3	638	159	64	11	0	0	377	19	2,360
麻 酔	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	8	10
放 診	0	0	11	0	0	0	0	6	0	11	0	0	0	0	0	28
腎 内	344	0	9	0	0	0	54	117	52	28	0	0	0	193	16	813
血 内	17	0	4	2	0	0	5	52	1	4	0	0	0	9	0	94
リウマチ	84	0	3	0	0	0	17	88	20	0	0	0	0	41	0	253
放 治	3	0	0	0	0	0	0	26	2	0	0	551	0	0	0	582
救 急	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
透 内	108	0	1	0	0	0	0	11	2	38	0	0	0	26	0	186
合 計	8,023	0	438	527	38	1	242	3,133	681	1,994	61	551	0	6,098	1,834	23,621

(5) 月別利用患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来患者数（人）	5,614	5,590	6,215	6,127	5,912	5,900	5,775	5,657	5,418	4,930	4,852	5,762	67,752
入院患者数（人）	1,663	1,609	1,759	1,797	1,665	1,375	1,647	1,637	1,753	1,779	1,720	1,706	20,110
合 計（人）	7,277	7,199	7,974	7,924	7,577	7,275	7,422	7,294	7,171	6,709	6,572	7,468	87,862
1 日 平 均（人）	363.9	378.9	362.5	396.2	378.9	363.8	371.1	364.7	358.6	353.1	345.9	339.5	360.1

フィルム使用枚数(枚)	31	34	43	53	50	48	28	41	29	44	24	48	473
1 日 平 均（枚）	1.6	1.8	2.0	2.7	2.5	2.4	1.4	2.1	1.5	2.3	1.3	2.2	1.9

9. 中央検査技術科業務状況

(1) 院内部門別件数

	一 般	血 液	化 学	免 疫	輸 血	細 菌	生 理	聴 力	病 理	令和4年度合計	対前年度比	令和3年度合計
4月	33,005	51,865	150,289	8,610	582	1,807	3,464	118	884	250,624	100.4%	249,505
5月	32,827	49,992	145,614	8,678	535	1,747	3,385	151	879	243,808	105.5%	231,176
6月	38,008	55,778	159,885	9,543	698	1,732	4,102	158	1,141	271,045	100.6%	269,302
7月	37,855	54,672	158,065	9,424	642	1,825	3,797	126	986	267,392	103.6%	257,979
8月	37,933	55,791	161,850	9,802	591	1,823	3,910	162	959	272,821	105.1%	259,467
9月	38,726	53,777	155,586	9,315	573	1,789	3,839	150	991	264,746	104.2%	254,107
10月	37,020	52,439	152,593	8,817	666	1,771	3,796	144	1,056	258,302	99.5%	259,473
11月	36,125	52,565	153,338	9,225	606	1,686	3,785	130	1,112	258,572	102.4%	252,570
12月	35,746	56,299	161,443	9,099	578	1,936	3,524	139	996	269,760	105.1%	256,661
1月	34,443	51,361	147,590	8,652	598	1,766	3,349	120	840	248,719	99.2%	250,608
2月	33,730	50,425	145,924	8,425	505	1,655	3,371	158	869	245,062	106.1%	230,927
3月	37,111	57,179	164,445	9,567	600	1,811	3,796	144	961	275,614	102.8%	268,183
合計	432,529	642,143	1,856,622	109,157	7,174	21,348	44,118	1,700	11,674	3,126,465	102.8%	3,039,958

(2) 委託先別件数

	A 社			B 社			C 社		
	令和3年度	令和4年度	対前年度比	令和3年度	令和4年度	対前年度比	令和3年度	令和4年度	対前年度比
4月	2,388 件	2,310 件	96.7%	708 件	578 件	81.6%	25 件	22 件	88.0%
5月	2,110 件	2,365 件	112.1%	659 件	589 件	89.4%	22 件	20 件	90.9%
6月	2,587 件	2,598 件	100.4%	645 件	619 件	96.0%	21 件	18 件	85.7%
7月	2,557 件	2,438 件	95.3%	650 件	585 件	90.0%	20 件	16 件	80.0%
8月	2,392 件	2,488 件	104.0%	563 件	618 件	109.8%	14 件	24 件	171.4%
9月	2,365 件	2,459 件	104.0%	531 件	612 件	115.3%	18 件	12 件	66.7%
10月	2,695 件	2,389 件	88.6%	634 件	580 件	91.5%	18 件	14 件	77.8%
11月	2,234 件	2,490 件	111.5%	571 件	570 件	99.8%	18 件	26 件	144.4%
12月	2,422 件	2,402 件	99.2%	639 件	586 件	91.7%	22 件	16 件	72.7%
1月	2,205 件	2,104 件	95.4%	468 件	485 件	103.6%	13 件	16 件	123.1%
2月	1,964 件	2,594 件	132.1%	501 件	606 件	121.0%	20 件	12 件	60.0%
3月	2,458 件	2,768 件	112.6%	591 件	699 件	118.3%	21 件	24 件	114.3%
合計	28,377 件	29,405 件	103.6%	7,160 件	7,127 件	99.5%	232 件	220 件	94.8%

	令和3年度				令和4年度				対前年度比
	A 社	B 社	C 社	小計	A 社	B 社	C 社	小計	
4月	2,388 件	708 件	25 件	3,121 件	2,310 件	578 件	22 件	2,910 件	93.2%
5月	2,110 件	659 件	22 件	2,791 件	2,365 件	589 件	20 件	2,974 件	106.6%
6月	2,587 件	645 件	21 件	3,253 件	2,598 件	619 件	18 件	3,235 件	99.4%
7月	2,557 件	650 件	20 件	3,227 件	2,438 件	585 件	16 件	3,039 件	94.2%
8月	2,392 件	563 件	14 件	2,969 件	2,488 件	618 件	24 件	3,130 件	105.4%
9月	2,365 件	531 件	18 件	2,914 件	2,459 件	612 件	12 件	3,083 件	105.8%
10月	2,695 件	634 件	18 件	3,347 件	2,389 件	580 件	14 件	2,983 件	89.1%
11月	2,234 件	571 件	18 件	2,823 件	2,490 件	570 件	26 件	3,086 件	109.3%
12月	2,422 件	639 件	22 件	3,083 件	2,402 件	586 件	16 件	3,004 件	97.4%
1月	2,205 件	468 件	13 件	2,686 件	2,104 件	485 件	16 件	2,605 件	97.0%
2月	1,964 件	501 件	20 件	2,485 件	2,594 件	606 件	12 件	3,212 件	129.3%
3月	2,458 件	591 件	21 件	3,070 件	2,768 件	699 件	24 件	3,491 件	113.7%
合計	28,377 件	7,160 件	232 件	35,769 件	29,405 件	7,127 件	220 件	36,752 件	102.7%

(3) 生理検査種別年度比

	心電図			ホルター心電図			トレッドミル			脳波		
	R3	R4	対前年度比	R3	R4	対前年度比	R3	R4	対前年度比	R3	R4	対前年度比
外来合計	19,022	19,833	104.3%	348	299	85.9%	12	9	75.0%	113	94	83.2%
入院合計	2,375	2,451	103.2%	49	31	63.3%	1	0	0%	174	117	67.2%
総合計	21,397	22,284	104.1%	397	330	83.1%	13	9	69.2%	287	211	73.5%
	U C G			頸動脈エコー			腹部エコー			肺機能		
	R3	R4	対前年度比	R3	R4	対前年度比	R3	R4	対前年度比	R3	R4	対前年度比
外来合計	4,143	4,176	100.8%	728	678	93.1%	2,732	2,945	107.8%	2,642	2,696	102.0%
入院合計	1,150	1,142	99.3%	264	270	102.3%	84	78	92.9%	36	30	83.3%
総合計	5,293	5,318	100.5%	992	948	95.6%	2,816	3,023	107.4%	2,678	2,726	101.8%
	A B R			A B I			筋電図			下肢静脈エコー		
	R3	R4	対前年度比	R3	R4	対前年度比	R3	R4	対前年度比	R3	R4	対前年度比
外来合計	9	9	100.0%	3,491	3,328	95.3%	210	204	97.1%	914	932	102.0%
入院合計	1	4	400.0%	386	333	86.3%	32	34	106.3%	303	311	102.6%
総合計	10	13	130.0%	3,877	3,661	94.4%	242	238	98.3%	1,217	1,243	102.1%
	腎動脈超音波検査			CPX			呼気一酸化炭素ガス分析			イベント心電図		
	R3	R4	対前年度比	R3	R4	対前年度比	R3	R4	対前年度比	R3	R4	対前年度比
外来合計	285	159	55.8%	54	43	79.6%	469	473	100.9%	1	24	2400.0%
入院合計	57	35	61.4%	5	4	80.0%	1	3	300.0%	0	0	0%
総合計	342	194	56.7%	59	47	79.7%	470	476	101.3%	1	24	2400.0%

総計			
	R3	R4	対前年度比
外来合計	35,173	35,902	102.1%
入院合計	4,918	4,843	98.5%
総合計	40,091	40,745	101.6%

(4) コロナ検査件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
院内	SARS-CoV-2 (抗原検査)	487	533	716	845	868	516	402	384	515	493	320	373	6,452
	SARS-CoV-2 (院内TRC・鼻腔)	18	22	3	3	25	17	11	12	5	5	6	12	139
	SARS-CoV-3 (院内TRC・唾液)	276	271	42	74	298	264	282	301	242	263	245	260	2,818
	SARS-CoV-3 (妊婦分娩前検査)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外注	SARS-CoV-2 (外注・鼻腔ぬぐい液)	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	3

10. リハビリテーション科／リハビリテーション技術科業務状況

(1) 理学療法患者数

(単位：件) (%)

	外来	入院	合計	増減	前年比
令和4年4月	300	3,734	4,034	-339	92
5月	285	3,805	4,090	285	107
6月	328	4,266	4,594	-44	99
7月	345	4,104	4,449	227	105
8月	355	4,430	4,785	596	114
9月	308	3,903	4,211	286	107
10月	295	3,970	4,265	172	104
11月	313	4,051	4,364	84	102
12月	307	4,165	4,472	340	108
令和5年1月	304	4,299	4,603	532	113
2月	333	4,427	4,760	933	124
3月	366	4,821	5,187	659	115
計	3,839	49,975	53,814	3,731	107

(2) 作業療法患者数

(単位：件) (%)

	外来	入院	合計	増減	前年比
令和4年4月	36	1,821	1,857	-39	98
5月	44	1,768	1,812	166	110
6月	58	1,948	2,006	-104	95
7月	47	1,856	1,903	45	102
8月	62	1,981	2,043	154	108
9月	59	1,806	1,865	142	108
10月	60	1,889	1,949	108	106
11月	42	1,834	1,876	-29	98
12月	42	2,125	2,167	295	116
令和5年1月	28	2,112	2,140	269	114
2月	25	2,178	2,203	411	123
3月	34	2,426	2,460	546	129
計	537	23,744	24,281	1,964	109

(3) 言語聴覚療法患者数

(単位：件) (%)

	外来	入院	合計	増減	前年比
令和4年4月	19	1,020	1,039	85	109
5月	19	951	970	136	116
6月	20	1,061	1,081	-51	95
7月	17	1,073	1,090	34	103
8月	21	1,164	1,185	128	112
9月	23	925	948	-48	95
10月	19	992	1,011	90	110
11月	21	1,142	1,163	176	118
12月	23	997	1,020	66	107
令和5年1月	20	1,028	1,048	53	105
2月	21	1,047	1,068	194	122
3月	22	1,218	1,240	156	114
計	245	12,618	12,863	1,019	109

11. 訪問看護ステーション業務状況

◆訪問回数

延べ訪問回数	介護保険	6,761	73.43%
	医療保険	2,446	26.57%
計		9,207	

◆利用者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規受入	6	2	4	6	10	5	7	11	5	2	5	3	66
新規受入（院内）	3	1	2	5	8	2	1	3	4	1	4	2	36
新規受入（院外）	3	1	2	1	2	3	6	8	1	1	1	1	30
利用者実数計	141	132	130	129	136	138	135	141	137	135	135	134	1,623

◆終了状況

死 亡 内 訳	在 宅	在 宅 外 (病院・施設)	そ の 他 (転居・転院・中止)	
総 数	20	25	13	* 在宅看取り 44.0%
がん	10	13		
心 疾 患	1	4		
脳 血 管 障 害	0	0		
呼 吸 器	2	3		
神 経 難 病	1	0		
腎 疾 患	1	2		
老 衰	5	3		

◆疾患別患者数

疾 病 名	利用者数
循 環 器 系 疾 患	28
癌	42
神 経 系 疾 患	15
脳 血 管 系 疾 患	23
内 分 泌 系 疾 患	9
精 神 疾 患	5
筋 骨 格 系 疾 患	11
呼 吸 器 系 疾 患	22
血液・免疫機能系疾患	6
腎 泌 尿 器 系 疾 患	12
消 化 器 系 疾 患	6
先 天 性 奇 形	2
皮膚及び皮下組織系疾患	9
計	190

◆年齢別患者数

年齢層	人数
0 ～ 10	0
11 ～ 20	1
21 ～ 30	1
31 ～ 40	3
41 ～ 50	4
51 ～ 60	5
61 ～ 70	25
71 ～ 80	46
81 ～ 90	79
91 ～ 100	25
101 以上	1

◆介護区分別患者数

介護度	人数
要支援1	2
要支援2	7
要介護1	28
要介護2	43
要介護3	32
要介護4	21
要介護5	19

男女人数	人数
男性	110
女性	80

◆緊急対応（夜間・休日）

電話のみ	159 件
出 動	324 件

12. 疾病分類別・転帰別 退院患者数（転科含む）

国際疾病分類	性別	転 帰								総計
		1. 治癒	2. 軽快	3. 寛解 (白血病など)	4. 不変	5. 増悪	6. 死亡	7. 外死亡 (注病名以外の死因)	9. 転科	
感染症及び寄生虫症	男	0	30	0	3	0	5	5	10	53
	女	4	31	0	7	0	6	2	1	51
	合計	4	61	0	10	0	11	7	11	104
新生物	男	35	418	2	427	0	85	4	31	1,002
	女	19	312	2	176	0	54	1	21	585
	合計	54	730	4	603	0	139	5	52	1,587
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	男	0	24	0	5	0	3	0	5	37
	女	0	11	0	1	0	1	0	1	14
	合計	0	35	0	6	0	4	0	6	51
内分泌、栄養及び代謝疾患	男	2	83	0	6	0	1	3	6	101
	女	4	45	0	15	0	1	5	13	83
	合計	6	128	0	21	0	2	8	19	184
精神及び行動の障害	男	0	4	0	0	0	0	0	0	4
	女	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	合計	0	4	0	1	0	0	0	0	5
神経系の疾患	男	0	61	0	23	0	4	1	5	94
	女	1	38	0	24	1	1	1	3	69
	合計	1	99	0	47	1	5	2	8	163
眼及び付属器の疾患	男	2	281	0	1	0	0	0	0	284
	女	0	317	0	0	0	0	0	1	318
	合計	2	598	0	1	0	0	0	1	602
耳及び乳様突起の疾患	男	0	14	0	0	0	0	0	0	14
	女	0	22	0	0	0	0	0	1	23
	合計	0	36	0	0	0	0	0	1	37
循環器系の疾患	男	10	970	2	95	3	23	7	34	1,144
	女	6	547	3	67	2	14	11	31	681
	合計	16	1,517	5	162	5	37	18	65	1,825
呼吸器系の疾患	男	23	273	0	23	0	51	11	32	413
	女	18	152	1	6	0	24	4	7	212
	合計	41	425	1	29	0	75	15	39	625
消化器系の疾患	男	77	510	1	21	0	5	7	38	659
	女	35	375	1	11	1	3	3	25	454
	合計	112	885	2	32	1	8	10	63	1,113
皮膚及び皮下組織の疾患	男	3	17	0	0	0	0	0	1	21
	女	1	11	0	0	0	1	0	1	14
	合計	4	28	0	0	0	1	0	2	35
筋骨格系及び結合組織の疾患	男	1	167	2	6	0	5	1	9	191
	女	1	293	12	5	0	1	3	12	327
	合計	2	460	14	11	0	6	4	21	518
腎尿路生殖器系の疾患	男	12	171	1	70	0	9	4	11	278
	女	10	140	0	76	0	10	4	17	257
	合計	22	311	1	146	0	19	8	28	535
妊娠、分娩及び産じょく<褥>	女	0	1	0	2	0	0	0	0	3
	合計	0	1	0	2	0	0	0	0	3
周産期に発生した病態	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
先天奇形、変形及び染色体異常	男	1	4	0	2	0	0	0	0	7
	女	1	5	0	1	0	1	0	2	10
	合計	2	9	0	3	0	1	0	2	17
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	男	0	21	0	5	0	4	1	6	37
	女	0	23	0	6	0	5	4	1	39
	合計	0	44	0	11	0	9	5	7	76
損傷、中毒及びその他の外因の影響	男	5	203	10	15	2	7	1	10	253
	女	8	290	24	5	0	1	4	12	344
	合計	13	493	34	20	2	8	5	22	597
健康状態に影響をおよぼす要因及び保健サービスの利用	男	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	女	4	52	1	3	0	0	0	0	60
	合計	4	52	1	3	0	0	0	1	61
特殊目的用コード	男	33	75	0	1	0	5	2	14	130
	女	38	81	0	2	0	4	6	12	143
	合計	71	156	0	3	0	9	8	26	273
総 計	男	204	3,326	18	703	5	207	47	213	4,723
	女	150	2,746	44	408	4	127	48	161	3,688
	合計	354	6,072	62	1,111	9	334	95	374	8,411

13. 書類取扱件数

令和4年度 書類取扱件数	小 児 科	外 科	耳 鼻 咽 喉 科	産 婦 人 科	眼 科	整 形 外 科	泌 尿 器 科	皮 膚 科	脳 神 経 外 科	歯 科 口 腔 外 科	神 経 内 科	心 臓 血 管 外 科	形 成 外 科
保険会社診断書	2	318	61	10	81	472	95	0	135	46	8	99	5
傷病手当金請求書	0	78	21	1	11	213	11	0	69	3	19	30	0
当院書式診断書	0	36	11	2	11	63	3	0	18	2	9	4	3
臨床個人調査票 肝炎(核酸アナログ・インターフェロン)	5	0	1	0	11	49	0	0	13	0	125	1	0
身体障害診断書 更生医療	0	10	9	0	14	528	3	0	25	0	14	49	0
年金診断書 受診状況等証明書	1	0	1	0	4	31	0	0	18	0	14	5	0
診療情報提供書	0	15	4	3	15	35	5	1	16	0	36	7	1
ケアプラン マッサージ同意書	0	3	2	1	1	41	4	0	21	0	50	2	0
訪問看護指示書	0	18	4	5	0	36	8	0	32	0	51	4	0
その他 おむつ使用証明書 就労可否証明書 通院証明書 管理指導票 生活保護関連 等	16	52	17	5	20	173	18	0	47	10	33	16	1
自賠責	1	45	9	1	2	392	13	0	47	4	0	0	11
介護主治医意見書 障害支援医師意見書	0	42	1	1	2	228	13	0	145	0	84	15	0
労災	0	1	4	0	8	110	0	0	8	0	0	0	4
照会文書	1	1	3	2	2	17	2	0	6	0	2	4	0
合計	26	619	148	31	182	2,388	175	1	600	65	445	236	25

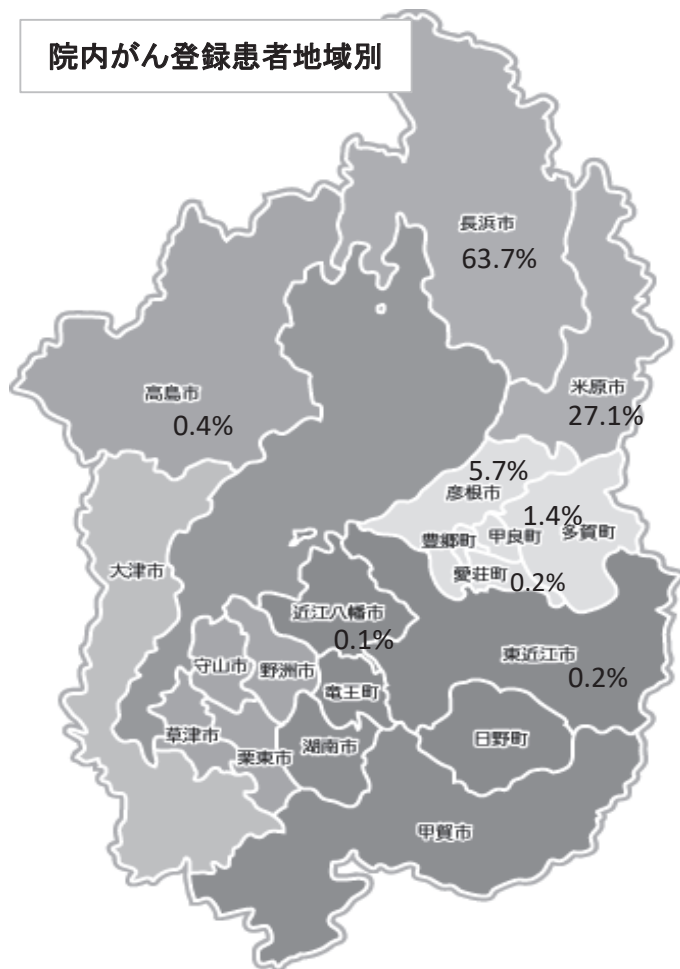
令和4年度 書類取扱件数	呼 吸 器 内 科	呼 吸 器 外 科	循 環 器 内 科	消 化 器 内 科	腎 臓 代 謝 内 科	血 液 内 科	リ ウ マ チ 科	心 療 内 科	放 射 線 科	内 科	そ の 他	合 計
保険会社診断書	129	153	295	349	88	32	30	0	27	1	0	2,436
傷病手当金請求書	48	22	53	56	38	22	34	3	3	1	0	736
当院書式診断書	22	25	30	35	25	7	29	0	5	0	0	340
臨床個人調査票 肝炎(核酸アナログ・インターフェロン)	26	2	12	78	145	28	314	0	0	0	0	810
身体障害診断書 更生医療	9	2	122	1	200	1	11	0	0	0	0	998
年金診断書 受診状況等証明書	3	0	15	0	12	3	5	3	0	0	0	115
診療情報提供書	35	5	115	21	73	11	55	1	0	0	0	454
ケアプラン マッサージ同意書	24	3	53	2	21	4	12	0	0	0	0	244
訪問看護指示書	62	6	63	17	57	11	22	2	0	0	0	398
その他 おむつ使用証明書 就労可否証明書 通院証明書 管理指導票 生活保護関連 等	66	14	136	54	104	7	36	9	8	5	1	848
自賠責	1	13	0	4	0	1	5	0	0	0	22	571
介護主治医意見書 障害支援医師意見書	62	9	160	76	67	7	37	1	0	0	0	950
労災	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	138
照会文書	2	2	10	5	4	0	2	0	0	0	0	65
合計	490	256	1,064	699	835	134	592	19	43	7	23	9,103

14. 院内がん登録 2022 年症例

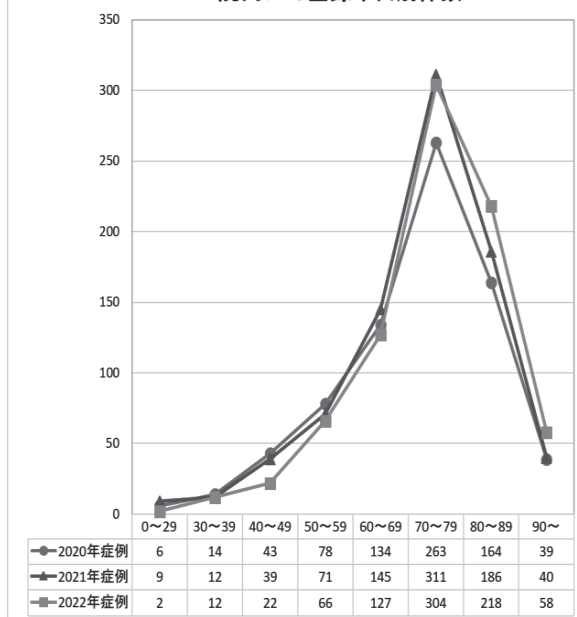
算出条件

- ・重複がんを含む
- ・2022年症例(2022年1月1日～12月31日院内がん登録の起算日ルールに基づく) n=809
- ・2021年症例(2021年1月1日～12月31日院内がん登録の起算日ルールに基づく) n=813
- ・2020年症例(2020年1月1日～12月31日院内がん登録の起算日ルールに基づく) n=741

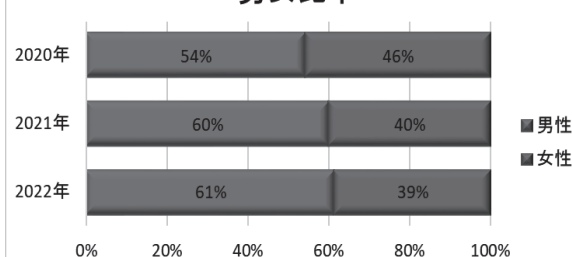
院内がん登録患者地域別



院内がん登録年代別件数



男女比率



県外	湖北		湖東			東近江		湖西
	長浜市	米原市	彦根市	犬上郡	愛荘町	東近江市	近江八幡市	高島市
1.2%	63.7%	27.1%	5.7%	1.4%	0.2%	0.2%	0.1%	0.4%

2020年～2022年症例 自施設診断・初回治療開始状況

	2020	2021	2022
自施設診断	80.7%	80.6%	86.7%
初回治療開始	81.9%	78.5%	81.2%

自施設診断・初回治療開始状況から、約80%のがん患者さんが、当院で治療を開始されている状況がわかります。当院は地域に根ざした医療を目指しています。

15. 医療機器等購入状況

部 署	品 名	取 得 年 月
脳神経外科	手術顕微鏡	令和4年5月
泌尿器科	尿道切開刀	
臨床工学技術科	体外式ペースメーカー	
臨床工学技術科	O2 エアミキサー	
循環器内科	血液凝固計	
薬剤局	ローテーションカート	令和4年6月
中央検査技術科	薬用冷蔵ショーケース	令和4年7月
中央材料室	滅菌トレイ	
6 東病棟	ハイローストレッチャー	
7 西病棟	ストレッチャー	
ヘルスケア研究センター	睡眠評価装置	
整形外科	電動ドリル	令和4年8月
耳鼻咽喉科	睡眠評価装置	
6 東病棟	車イス体重計	
整形外科	システム8 ハンドピース	
心臓血管外科	スキャラン持針器ラウンドハンドル	
放射線技術科	穿刺用超音波診断装置	令和4年9月
人工透析センター	超音波診断装置	
麻酔科	超音波診断装置	
臨床工学技術科	人工呼吸器肺モニタリング	
臨床工学技術科	個人用透析装置	
内視鏡センター	生体情報モニター	
I C U	I C U ベッド	令和4年10月
7 西病棟	冷蔵ショーケース	
療養病棟	冷蔵ショーケース	
中央検査技術科	バイオメディカルフルーザー	
外科	開創器	
臨床工学技術科	睡眠検査システム	令和4年11月
循環器内科	超音波診断装置	
3 南・7 西病棟	リフト式体重計	
I C U	血行動態モニタリングシステム	
整形外科	システム8	
7 東病棟	ストレッチャー	
放射線技術科	キュリーメータ	令和4年12月
眼科	手術用椅子	令和5年1月
整形外科	硬性鏡セット	令和5年2月
内視鏡センター	モニタリングシステム	
外科	乳房組織生検システム	
6 東病棟	ベッドパンウォッシャー	
中央検査技術科	検査台	
中央手術室	無影灯	令和5年3月
薬剤局	一包化錠剤仕分け装置	
呼吸器内科	ポケットエコー	

16. 死亡者数

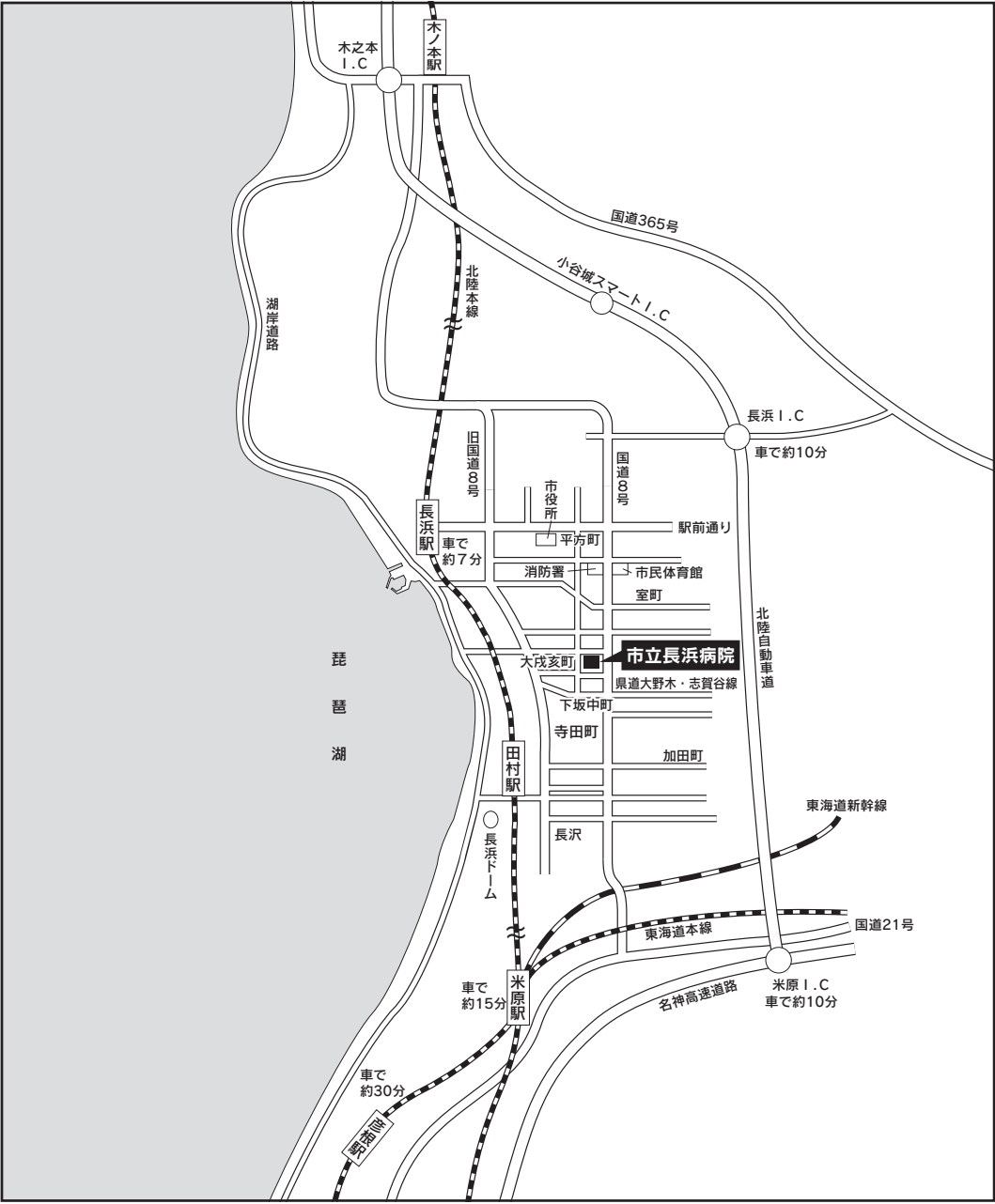
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内 科	7	10	3	14	7	9	11	11	11	7	9	15	114
小 児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外 科	2	3	1	2	2	2	1	2	1	2	0	0	18
耳 鼻	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
産 婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整 形	0	0	0	1	0	0	1	1	0	2	0	2	7
泌 尿 器	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	4
皮 膚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳 外	4	2	2	1	3	1	2	2	1	0	2	6	26
歯 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神 内	0	1	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	5
心 外	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	5
形 成	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼 吸 器	15	13	14	6	15	13	10	10	15	26	12	9	158
循 環 器	8	4	3	6	3	3	0	9	7	6	3	3	55
消 化 器	5	7	7	8	6	8	6	4	11	10	5	8	85
死 産	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	43	41	32	40	36	37	31	41	47	53	34	45	480

17. 剖検症例

剖検番号	年齢	性別	臨床診断	出所	検索部位	病理診断
A00651	70	M	MRSA 敗血症	腎内	胸腹部	褥瘡に伴う敗血症
A00652	35	F	抗 SRP 抗体陽性筋炎	神経内	胸腹部	壊死性ミオパチー治療後状態
A00653	85	M	肺癌・誤嚥性肺炎・ARDS	呼吸器内	胸腹部	肺腺癌・びまん性肺胞障害

18. 院内保育所「あすなろ園」利用状況

月	性別	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	一時保育児	合計
4月	男	1	5	4	6	2	18
	女	0	7	4	1	1	13
	計	1	12	8	7	3	31
5月	男	2	5	4	6	0	17
	女	1	9	4	1	0	15
	計	3	14	8	7	0	33
6月	男	2	5	4	6	0	17
	女	1	9	4	1	2	17
	計	3	14	8	7	2	34
7月	男	2	5	5	6	0	18
	女	2	9	4	1	0	16
	計	4	14	9	7	0	34
8月	男	3	6	5	6	0	20
	女	2	10	4	1	0	17
	計	5	16	9	7	0	37
9月	男	4	5	5	6	0	20
	女	2	10	5	1	0	18
	計	6	15	10	7	0	38
10月	男	4	5	5	6	0	20
	女	3	10	5	1	0	19
	計	7	15	10	7	0	39
11月	男	4	5	5	6	0	20
	女	4	10	5	1	0	20
	計	8	15	10	7	0	40
12月	男	4	5	5	6	0	20
	女	4	10	5	1	0	20
	計	8	15	10	7	0	40
1月	男	5	5	5	6	0	21
	女	4	11	5	1	0	21
	計	9	16	10	7	0	42
2月	男	5	5	5	6	0	21
	女	5	11	4	1	0	21
	計	10	16	9	7	0	42
3月	男	8	7	4	6	0	25
	女	7	11	4	1	0	23
	計	15	18	8	7	0	48
年間合計	男	44	63	56	72	2	157
	女	35	117	53	12	3	220
	計	79	180	109	84	5	457
月平均	男	3.7	5.3	4.7	6.0	0.2	13.1
	女	2.9	9.8	4.4	1.0	0.3	18.3
	計	6.6	15.0	9.1	7.0	0.4	38.1





令和5年11月発行

令和4年度 市立長浜病院年報

編集・発行 市立長浜病院

院長 高 折 恭 一

滋賀県長浜市大^{おおいぬい}戌亥町313番地

TEL 0749－68－2300

FAX 0749－65－1259